

元総社蒼海遺跡群（38）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2012.3

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群（38）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



3 b 区H—9号住居跡出土の丸鉗 (S=1/2)

2 0 1 2 . 3

前橋市教育委員会



15区 祭祀跡遺物出土状態（東から）

図解 2



1区 調査区遠景（北から）



3区 調査区遠景（東から）



5区 調査区全景（北から）



8区 調査区遠景（東から）



15区 祭祀跡遺物集合①



15区 祭祀跡遺物集合②

はじめに

前橋市は、関東平野の北西最奥部に位置する群馬県の中央、上毛三山のひとつ名峰赤城を背にし、利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境にも恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所に人々の息吹を感じられる歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王庵寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の大生産地であったことから、横浜に至る街道は「日本のシルクロード」とも呼ばれ、横浜港からは前橋シルクの名で海外に輸出され、近代日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元總社蒼海遺跡群（38）は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定区域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めています。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出・確認はかないませんでしたが、古墳時代から平安時代にいたる多くの堅穴住居跡を検出しました。今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。残念ながら、現状のままでの保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められることができました。また、記録的な猛暑そして寒風の中、発掘調査担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成24年3月

前橋市教育委員会

教育長 佐藤博之

例 言

- 1 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（38）発掘調査報告書である。
- 2 調査主体は、前橋市教育委員会管理部文化財保護課である。
- 3 発掘調査の要項は次のとおりである。

調 査 場 所	群馬県前橋市元総社町1816番地1 ほか
発 掘 調 査 期 間	平成23年5月9日～平成23年12月21日
整理・報告書作成期間	平成23年12月22日～平成24年3月19日
発 掘・整 理 担 当 者	藤坂和延・細野泰宏・瀧澤重雄・並木勝洋・阿久澤智和（発掘調査係員）
- 4 本書の原稿執筆・編集は藤坂・細野・瀧澤・並木・阿久澤が行った。
- 5 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

青木あづ子・青木麻耶・阿部シゲ子・石倉稔夫・大木伸二・神山早苗・小畠憲治・齋藤範詳・佐藤 修・品川祐二・下田真弓・下平勇樹・関根その子・高澤京子・高野 繁・瀧上政信・武井洋子・多田啓子・田辺 昇・角田節子・角田昌幸・渡木秋子・中澤光江・仲野正人・中林美智子・奈良啓子・庭山皓正・橋本ちづる・平林しのぶ・星野和子・堀込とよ江・町田妙子・町田敏彦・真庭武志・峰岸あや子・矢島忠・山田哲也・湯浅道子
- 6 発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡 例

- 1 挿図中に使用した北は、座標北である。
- 2 插図に国土交通省国土地理院発行の1：200,000地形図（宇都宮、長野）、1：25,000地形図（前橋）、1：6,000前橋市現形図を使用した。
- 3 遺跡の略称は、23A130-38である。
- 4 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳・奈良・平安時代の堅穴住居跡	T…堅穴状遺構	W…溝跡	A…道路状遺構	D…土坑
DB…土壤墓	P…ピット	貯蔵穴（住居内P ₄ を貯蔵穴とした）	X…性格不明遺構	O…風倒木跡
- 5 遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

遺構 全体図…1/200 住居跡・堅穴状遺構・溝跡・土坑・ピット…1/60	竈・炉断面図…1/30
遺物 土器・鉄製品…1/3、1/4	石器・石製品・土製品…2/3、1/3
鉄器・鉄製品…1/2	瓦…1/6
- 6 計測値については、（ ）は現存値、〔 〕は復元値を表す。
- 7 セクション注記と遺物観察表の色調については、新版標準土色帳（小山・竹原 1967）を基準とした。
- 8 遺構平面図の-----は推定線を表す。
- 9 スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図 焼 土…	粘 土…	
遺構断面図 構築面…		
遺物実測図 須恵器断面…	灰釉陶器断面…	灰釉陶器表面…
綠釉陶器断面…	内 黒…	粘土、たたき…
いぶし焼成…	煤、炭化物付着…	
- 10 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B （浅間B軽石：供給火山・浅間山、1108年）	Hr-FP （榛名二ヶ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、6世紀中葉）
Hr-FA （榛名二ヶ岳渡川テフラ：供給火山・榛名山、6世紀初頭）	
As-C （浅間C軽石：供給火山・浅間山、4世紀前半）	

目 次

目 次

口 絵 写 真

は じ め に

例 言・凡 例

目 次・図 版 目 次・挿 図 目 次・表 目 次

I 調査に至る経緯 1

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地 1
2 歴史的環境 1

III 調査方針と経過

1 調査方針 7
2 調査経過及び概要 7

IV 各区の遺構と遺物

1区	11	9区	112
2区	24	10区	121
3区	28	11区	128
4区	64	13区	132
5区	71	14区	135
6区	73	15区	137
7区	81	16区	155
8区	101		

V ま と め

1 前方後方形周溝墓について 159
2 古墳時代後期の祭祀跡について 160

写 真 図 版

抄 录

奥 付

図 版

口論1 15区、祭祀跡遺物出土状態

- 2 1区 調査区遠景
- 3 3区 調査区遠景
- 4 5区 調査区全景

P.L.1 1区調査区全景、H-1号住居跡

P.L.2 1区H-2～4号住居跡

P.L.3 1区H-5～8号住居跡、W-1号溝跡全景

P.L.4 2区調査区全景、W-1号溝跡、I-1号井戸跡、3a区
H-1号住居跡

P.L.5 3a区H-2～8号住居跡、W-1号溝跡

P.L.6 3a区H-9・10・14～17・23号住居跡

P.L.7 3a区H-8・18～23号住居跡

P.L.8 3a区住居跡の重複状態(H-16～20・22・23住居跡)、
B-1号掘立柱建物跡、D-2号土坑

P.L.9 3b区H-1～3・8・9・12号住居跡

P.L.10 3b区H-6・8・9号住居跡、4c区調査区全景

P.L.11 4a区調査区全景、W-1号溝跡、4b区調査区全景、H
-1～4号住居跡、5号H-1住居跡

P.L.12 5区調査区全景、W-3号溝跡、H-1号住居跡、6区W
-1号溝跡、6区H-1・3号住居跡、D-1号土坑

P.L.13 6区調査区全景、H-2・3号住居跡、D-1号土坑

P.L.14 7a区調査区全景、W-1・2号溝跡

P.L.15 7b区調査区全景、H-1号住居跡

P.L.16 7b区H-2～6号住居跡、W-3号溝跡

P.L.17 7c区調査区全景、H-7～10号住居跡

P.L.18 7c区H-10～15号住居跡、O-1号落ち込み

P.L.19 7d区調査区全景、A-1号道路状遺構、H-16号住居跡

P.L.20 7e区調査区全景、H-17・19・20号住居跡

P.L.21 8区調査区全景、H-1・2号住居跡、D-3号土坑

P.L.22 D-3号土坑、T-1・2・3号鐵製枠採掘坑、I-1
号井戸跡、W-1号溝跡

P.L.23 8区W-1～4号溝跡

口論5 8区 調査区遠景

- 6 15区 祭祀跡遺物集合①
- 7 15区 祭祀跡遺物集合②

P.L.24 9区調査区全景、H-1～3号住居跡

P.L.25 9区H-3・4号住居跡、W-1～3号溝跡、T-1号堅
穴状遺構、D-2号土坑

P.L.26 10区調査区遠景、H-1～4号住居跡、P.2号ピット、W
-1・2号溝跡

P.L.27 11区調査区遠景、H-1～2号住居跡、D-2号土坑、I
-1号井戸跡

P.L.28 13区調査区全景、H-1号住居跡、W-1号溝跡、14区調
査区全景

P.L.29 15区H-1～4号住居跡

P.L.30 15区調査区全景

P.L.31 15区H-4～7号住居跡

P.L.32 15区H-8～11号住居跡

P.L.33 15区H-12・14号住居跡、T-1号堅穴状遺構、B-1号
掘立柱跡、W-1～3号溝跡

P.L.34 16区調査区全景、H-1号住居跡、水田跡

P.L.35 16区H-1号住居跡、作業風景

P.L.36 1～3a区出土遺物

P.L.37 3a・3b区出土遺物

P.L.38 3b区～4b区出土遺物

P.L.39 6区・7区出土遺物

P.L.40 7～9区出土遺物

P.L.41 9・10区出土遺物

P.L.42 10・15区出土遺物

P.L.43 15・16区出土遺物

P.L.44 3b区鐵製枠集合、8区石製品集合

P.L.45 15区出土白玉・管玉集合、3a・3b区石製品、3b区出
土瓦集合

挿 図

Fig.1 元絶社蒼海道跡群位置図	2	出土遺物	23
Fig.2 周辺道跡図	4	Fig.13 2区基本層序	24
Fig.3 グリッド設定図・調査区位置図	8	Fig.14 2区全体図	24
Fig.4 1区全体図	11	Fig.15 2区W-1号溝跡、I-1号井戸跡	25
Fig.5 1区基本層序	11	Fig.16 2区I-1号井戸跡出土遺物	25
Fig.6 1区H-1・3・4号住居跡	17	Fig.17 3区全体図(1)	26
Fig.7 1区H-2・6・7号住居跡	18	Fig.18 3区全体図(2)	27
Fig.8 1区H-5号住居跡、B-1号掘立柱跡	19	Fig.19 3区基本層序	28
Fig.9 1区H-8号住居跡、P-1～7号ピット	20	Fig.20 3a区H-1・3号住居跡	41
Fig.10 1区W-1号溝跡、I-1号井戸跡、O-1・2号 落ち込み、P-8～13号ピット	21	Fig.21 3a区H-2・4～6号住居跡	42
Fig.11 1区H-1・2号住居跡出土遺物	22	Fig.22 3a区H-7・8号住居跡	43
Fig.12 1区H-3～5・7・8号住居跡、W-1号溝跡		Fig.23 3a区H-9・10・15号住居跡	44
		Fig.24 3a区H-11～14号住居跡	45

Fig.25	3 a 区H-16・17号住居跡、D-1・2号土坑	47	W-1・4号溝跡出土遺物	111	
Fig.26	3 a 区H-18～20号住居跡	48	Fig.74	9区全体図	112
Fig.27	3 a 区H-21・22号住居跡	49	Fig.75	9区基本層序	112
Fig.28	3 a 区H-23号住居跡、B-1号掘立柱建物跡、X-1号遺構	50	Fig.76	9区H-1・2号住居跡、T-1号窓穴状遺構	116
Fig.29	3 a 区W-1号溝跡、3 b 区H-1・2号住居跡	51	Fig.77	9区H-3・4号住居跡、D-2号土坑、P-1～9号ビット	117
Fig.30	3 b 区H-3～7号住居跡	52	Fig.78	9区W-1～3号溝跡、O-1号落ち込み	118
Fig.31	3 b 区H-8～13号住居跡	54	Fig.79	9区H-1～3号住居跡出土遺物	119
Fig.32	3 a 区H-1～4号住居跡出土遺物	56	Fig.80	9区H-3号住居跡、D-2号土坑出土遺物	120
Fig.33	3 a 区H-5・7～9号住居跡出土遺物	57	Fig.81	10区全体図	121
Fig.34	3 a 区H-10～12、14～16・18号住居跡出土遺物	58	Fig.82	10区H-1～3号住居跡、W-1・2号溝跡	124
Fig.35	3 a 区H-18～20・21・23号住居跡、X-1号遺構、3 b 区H-1・2号住居跡出土遺物	59	Fig.83	10区H-4号住居跡、D-1号土坑、P-1号ビット	125
Fig.36	3 b 区H-2・3・5・6号住居跡出土遺物	60	Fig.84	10区H-1・2号住居跡出土遺物	126
Fig.37	3 b 区H-6～9・12号住居跡出土遺物	61	Fig.85	10区H-2～5号住居跡、D-1号土坑出土遺物	127
Fig.38	3 b 区H-6号住居跡出土瓦(1)	62	Fig.86	11区全体図	128
Fig.39	3 b 区H-6号住居跡出土瓦(2)	63	Fig.87	11区基本層序	128
Fig.40	3 b 区出土鉄製品	63	Fig.88	11区H-1・2号住居跡	130
Fig.41	4区全体図	66	Fig.89	11区I-1号井戸跡、D-1・2号土坑、P-1・3～6号ビットH-1・2号住居跡、I-1号井戸跡出土遺物	131
Fig.42	4 a 区W-1号溝跡、4 b 区H-2号住居跡	68	Fig.90	13区全体図	132
Fig.43	4 b 区H-1・2号住居跡	69	Fig.91	13区H-1号住居跡、W-1・2号溝跡	133
Fig.44	4 b 区H-1・2号住居跡、W-1号溝跡出土遺物	70	Fig.92	14区全体図	135
Fig.45	5区基本層序	71	Fig.93	14区基本層序	135
Fig.46	5区全体図	72	Fig.94	14区W-1～3号溝跡	136
Fig.47	5区H-1号住居跡、W-1号溝跡	73	Fig.95	14区W-1～3号溝跡出土遺物	136
Fig.48	6区基本層序	73	Fig.96	15区基本層序	137
Fig.49	6区全体図	75	Fig.97	15区全体図	137
Fig.50	6区H-1・3号住居跡	77	Fig.98	15区H-1・2・12号住居跡、壙跡	144
Fig.51	6区H-2号住居跡、W-1号溝跡、D-1号土坑	78	Fig.99	15区H-3・4号住居跡	145
Fig.52	6区H-1～3号住居跡、D-1号土坑出土遺物	79	Fig.100	15区H-5号住居跡	146
Fig.53	7区全体図	80	Fig.101	15区H-6・7・9・13号住居跡	147
Fig.54	7区基本層序	81	Fig.102	15区H-8号住居跡	148
Fig.55	7区H-1・2・4号住居跡	90	Fig.103	15区H-10・11・14号住居跡、T-1号窓穴状遺構	149
Fig.56	7区H-3・5～7号住居跡	91	Fig.104	15区W-3号溝跡、D-8・11号土坑	150
Fig.57	7区H-8・9号住居跡	92	Fig.105	15区W-1・2号溝跡、B-1号掘立柱跡、D-1～4・10号土坑	151
Fig.58	7区H-10～12号住居跡	93	Fig.106	15区D-5～7・9・12・13号土坑、H-1・3・7号住居跡出土遺物	152
Fig.59	7区H-13～16号住居跡	94	Fig.107	15区H-4～6・8号住居跡出土遺物	153
Fig.60	7区H-17・18号住居跡	95	Fig.108	15区H-9・10・13号住居跡、W-3号溝跡出土遺物	154
Fig.61	7区H-19・20号住居跡、D-1～3号土坑、P-1号ビット、W-1号溝跡	96	Fig.109	16区基本層序	155
Fig.62	7区W-1～3号溝跡、A-1号道路状遺構	97	Fig.110	16区全体図	155
Fig.63	7区I-1・5～7号井戸、O-1～5号落ち込み	98	Fig.111	16区H-1号住居跡、Hr FA下水田跡	156
Fig.64	7区H-1～14号住居跡出土遺物	99	Fig.112	16区H-1号住居跡、Hr FA下水田跡出土遺物	156
Fig.65	7区H-17～20号住居跡出土遺物	100	Fig.113	前方後方周溝基盤模式図	159
Fig.66	8区基本層序	101	Fig.114	祭祀跡遺物出土状態	160
Fig.67	8区全体図	101	Fig.115	器種別出土状態	160
Fig.68	8区H-2号住居跡、D-1～10号土坑	106	Fig.116	祭祀跡と住居跡	160
Fig.69	8区W-1～4号溝跡	107	Fig.117	祭祀跡出土遺物(1)	164
Fig.70	8区W-1号溝跡、T-1～3号窓穴状遺構、I-1号井戸跡、D-11号土坑	108	Fig.118	祭祀跡出土遺物(2)	165
Fig.71	8区H-1号住居跡、D-3号土坑出土遺物	109	Fig.119	祭祀跡出土遺物(3)	166
Fig.72	8区D-3号土坑、W-1号溝跡出土遺物	110			
Fig.73	8区D-3号土坑、T-2・3号窓穴状遺構				

表

Tab. 1 元経社舊海道跡群周辺遺跡概要一覧表	5	Tab.37 8区 古墳・奈良・平安時代出土土器觀察表	104
Tab. 2 1区 住居跡一覧表	14	Tab.38 8区 石器・石製品觀察表	105
Tab. 3 1区 溝跡計測表	14	Tab.39 8区 鉄製品觀察表	105
Tab. 4 1区 土坑・ピット・井戸跡計測表	14	Tab.40 8区 土製品觀察表	105
Tab. 5 1区 古墳・奈良・平安時代出土土器觀察表	15	Tab.41 8区 瓦觀察表	105
Tab. 6 1区 石器・石製品觀察表	16	Tab.42 9区 住居跡等一覧表	114
Tab. 7 1区 剥離品觀察表	16	Tab.43 9区 溝跡計測表	114
Tab. 8 1区 土製品觀察表	16	Tab.44 9区 土坑・ピット計測表	114
Tab. 9 1区 瓦觀察表	16	Tab.45 9区 古墳・奈良・平安時代出土土器觀察表	114
Tab.10 2区 古墳・奈良・平安時代出土土器觀察表	24	Tab.46 9区 瓦觀察表	115
Tab.11 3区 住居跡一覧表	34	Tab.47 10区 住居跡一覧表	122
Tab.12 3区 溝跡計測表	35	Tab.48 10区 溝跡計測表	122
Tab.13 3区 土坑・井戸跡計測表	36	Tab.49 10区 土坑・ピット計測表	123
Tab.14 3区 古墳・奈良・平安時代出土土器觀察表	36	Tab.50 10区 古墳・奈良・平安時代出土土器觀察表	123
Tab.15 3区 石器・石製品觀察表	39	Tab.51 11区 住居跡一覧表	129
Tab.16 3区 土製品觀察表	39	Tab.52 11区 土坑・ピット・井戸跡計測表	129
Tab.17 3区 鉄器・鉄製品觀察表	39	Tab.53 11区 古墳・奈良・平安時代出土土器觀察表	129
Tab.18 3区 瓦觀察表	40	Tab.54 11区 石器・石製品觀察表	129
Tab.19 4区 住居跡等一覧表	65	Tab.55 11区 土製品觀察表	130
Tab.20 4区 溝跡計測表	65	Tab.56 13区 住居跡一覧表	134
Tab.21 4区 古墳・奈良・平安時代出土土器觀察表	67	Tab.57 13区 溝跡計測表	134
Tab.22 5区 住居跡一覧表	72	Tab.58 14区 溝跡計測表	136
Tab.23 5区 溝跡・その他計測表	72	Tab.59 14区 出土遺物觀察表	136
Tab.24 5区 土坑跡計測表	72	Tab.60 15区 住居跡等一覧表	141
Tab.25 6区 住居跡一覧表	75	Tab.61 15区 溝跡計測表	141
Tab.26 6区 溝跡計測表	75	Tab.62 15区 土坑・ピット計測表	141
Tab.27 6区 土坑・井戸跡計測表	75	Tab.63 15区 古墳・奈良・平安時代出土土器觀察表	142
Tab.28 6区 古墳・奈良・平安時代出土土器觀察表	76	Tab.64 15区 石器・石製品觀察表	143
Tab.29 6区 鉄器・鉄製品觀察表	76	Tab.65 15区 土製品觀察表	144
Tab.30 7区 住居跡一覧表	87	Tab.66 16区 住居跡一覧表	157
Tab.31 7区 土坑・ピット・井戸・落ち込み一覧表	88	Tab.67 16区 古墳・奈良・平安時代出土土器觀察表	157
Tab.32 7区 溝跡・道路状遺構一覧表	88	Tab.68 前橋市内の主な前方後方周溝墓の規模	159
Tab.33 7区 出土物觀察表	88	Tab.69 祭祀跡出土遺物の内訳と比率	161
Tab.34 8区 住居跡等一覧表	103	Tab.70 坪の分類	161
Tab.35 8区 溝跡計測表	104	Tab.71 各遺跡の祭祀跡出土遺物	161
Tab.36 8区 土坑・井戸跡計測表	104	Tab.72 祭祀跡出土遺物觀察表	163

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海上地区画整理事業に伴い実施され、12年目にある。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成23年4月22日付けで、前橋市長 高木政夫（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海上地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、5月10日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（38）」（遺跡コード：23A130-38）の「元総社蒼海」は区画整理事業名を採用し、数字の「（38）」は過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m～5mを測り、段丘崖上は桑畑を主とした畠地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約1kmの所に上野国総社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号線、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畠が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2 歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王庵寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割を利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稻作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡の北東に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するも



Fig. 1 元總社薺海道路群位置図

のには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式両袖型の石室が築造された前方後円墳の總社二子山古墳、両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内古墳最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群といえる。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王庵寺跡（放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鶴尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地城を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。なお、平成18年度から5カ年計画で「山王庵寺範囲内容確認調査」が実施され、平成18年度では「講堂」の版築基壇や「回廊」の北東根石、平成19年度では「金堂」の版築基壇や「回廊」の西側根石が、平成20年度では「塔」の基壇とその周辺部が確認された。さらに平成21年度では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が、平成22年度は北西隅の回廊と接するように「基壇建物跡」と「北方建物郡」が確認された。

奈良・平安時代になると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈てくる。律令期における国司の政治活動拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元總社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元總社小学校校庭遺跡や「國厨」「曹司」「國」「邑厨」等と書かれた墨書き器や人形が出土した元總社寺田遺跡などがある。また、国府域の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉橋遺跡や元總社蒼海遺跡群（7）（9）（10）と南北方向の溝跡が検出された元總社明神遺跡の調査成果により、国府域の東北外郭線が想定されるに至った。さらに、周辺遺跡からは、官人が用いたと考えられる円面鏡、巡方（腰帯具）、綠釉陶器も出土し、国府について考えうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、礎等が確認されている。さらに、国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査團で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と南西隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺、国分尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地城では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、群馬町（現高崎市）の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点にN-64°-E方向の東山道（国府ルート）があることが推定されている。推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年（1429）、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って造られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた總社・元總社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元總社地区は注目される地域の一つである。元總社蒼海土地地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。これにより、手付かず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

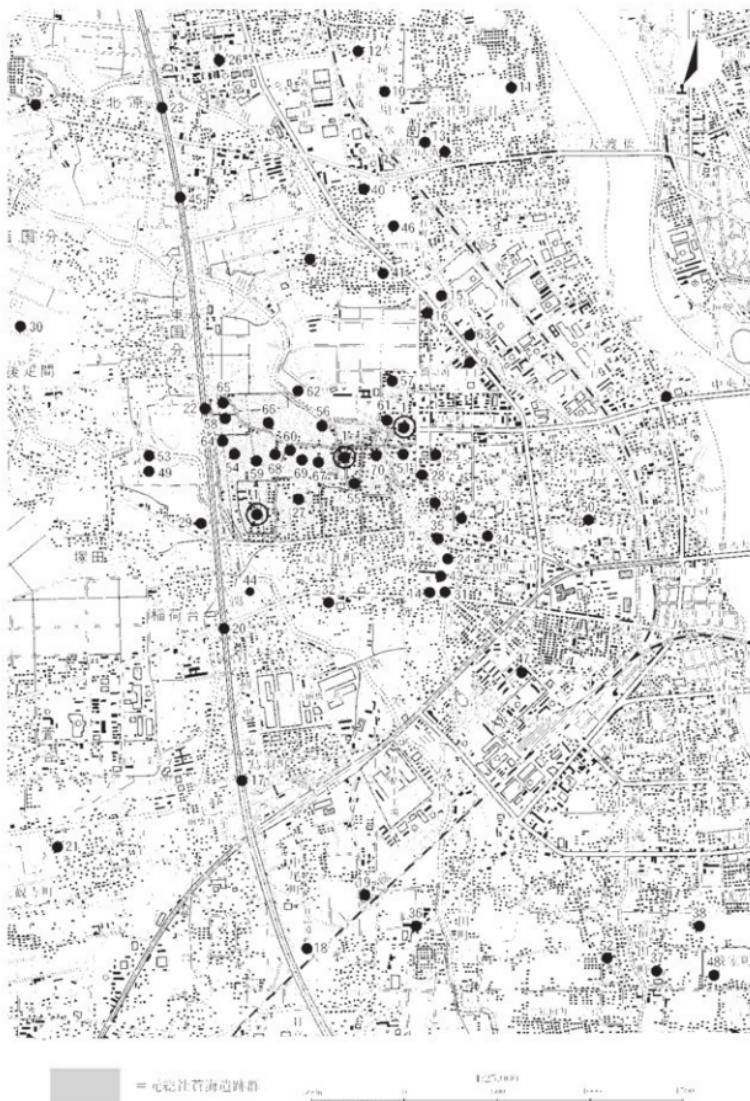


Fig. 2 周辺遺跡図

Tab. 1 元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元総社蒼海遺跡群（38）	2011	本遺跡
2	上野国分寺跡	1980～1988	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良：西南隅・東南隅基壇
4	山王院寺跡	(1974)	奈良：塔心礎・根巻石・金堂基壇・講堂版榮・回廊礎石
5	東山道（推定）	—	—
6	日高道（推定）	—	—
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（6 c 中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（8 c 初）
9	鶴荷山古墳	1988	古墳：円墳（6 c 後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（7 c 初）
11	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（5 c 後半）
12	總社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（6 c 末～7 c 初）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（7 c 末）
14	元総社小学校校庭道路	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周溝跡
15	産業道路北東道路	1966	調文：住居跡
16	産業道路西東道路	1969	調文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良：平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝基・住居跡・木製農具・平安：柔里制水田跡
19	日高遺跡（高崎市）	(1978)	弥生：水田跡
20	鳥羽遺跡（事業団）	1978～1983	古墳：住居跡・鍛冶場跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
21	正觀寺跡 I～IV（高崎市）	1979～1981	弥生：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
22	上野国分寺跡・尼寺跡	1980～1983	調文：住居跡・配石遺構・弥生：住居跡・方形周溝基・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
23	北原遺跡（群馬町）	1982	調文：土器・黒石造形・古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
24	元総社光明神道跡 I～X III	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・堀跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：住居跡・溝跡
25	閑泉湖遺跡	1983	奈良・平安：溝跡
26	柳木道跡・II道跡	1983, 1988	奈良・平安：住居跡・溝跡
27	草作遺跡	1984	古墳：住居跡・平安：住居跡・中世：戸戸跡
28	閑泉湖遺跡	1985	古墳：住居跡・奈良・平安：溝跡
29	桜田村道路（群馬町）	1985	平安：住居跡
30	後芝間遺跡 I～III（群馬町）	1985～1987	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：道路状遺構
31	寺田遺跡	1986	平安：溝跡
32	天神道跡・II道跡	1986, 1988	奈良・平安：住居跡
33	星敷道跡・II道跡	1986, 1995	古墳：住居跡・平安：住居跡・中世：堀跡・石敷道跡
34	堀越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
35	大友原跡 II・III道跡	1987	古墳：住居跡・平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
36	勝呂遺跡	1987	平安：水田跡
37	村前通跡	1987	平安：溝状遺構・水田跡
38	五反田古跡	1987	平安：水田跡
39	熊野谷古跡	1988	調文：住居跡・平安：住居跡・溝跡
40	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・中世：堀跡
41	昌楽寺跡向道跡・II道跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	堀越丘遺跡	1988	平安：住居跡
43	元総社引田道跡 I～III（事業団）	1988～1991	古墳：水田跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
44	熊野谷古跡 I・II道跡	1989	平安：住居跡
45	弥勒遺跡・II道跡	1989, 1995	古墳：住居跡・平安：住居跡
46	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
47	国分境遺跡	1991	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
48	国分境田道跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：土壤基
49	大屋敷跡 I～VI	1992～2000	調文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
50	元総社梨葉道跡	1993	調文：土坑・平安：住居跡・瓦塔
51	五反田古跡	1995	平安：水田跡
52	上野国分寺跡道跡	1996	古墳：住居跡・平安：住居跡
53	大友石造遺跡	1998	平安：水田跡
54	總社閑泉光明神北道跡	1999	古墳：島跡・水田跡・溝跡・中世：溝跡
55	総社閑泉光明神北道跡	1999	古墳：溝状遺構・平安：水田跡
56	総社田西通跡	1999	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・溝跡
57	元総社鷲田道跡（事業団）	2000	調文：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝・道路状遺構
58	元総社小見足道跡	2000	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝・近世住居跡
59	元総社宅壇遺跡 I～23トレンチ	2000	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝・道路状遺構・中世：溝跡・近世住居跡
60	元総社小見足道跡	2001	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝・中世：掘立柱建物跡・溝
61	元総社印賀原大通西道跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：島跡・近世：溝跡
62	元総社甲賀原大道西日道跡	2001	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・近世：溝跡
63	元総社閑泉光明神北日道跡	2001	古墳：住居跡・溝跡・平安：住居跡・溝跡

番号	道跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
58	元總社小見II道跡	2002	調文：住居跡、古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡、孤立柱建物跡、中世；溝跡、道路状遺構
59	元總社小見III道跡	2002	調文：住居跡、古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡、溝跡、道路状遺構
59	元總社草谷IV道跡	2002	古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡、中世；溝跡
60	元總社小見IV道跡	2002	奈良・平安；住居跡、孤立柱建物跡、溝跡、中世；土壤基
61	總社印積荷塚大道西III道跡	2002	吉墳；住居跡、奈良・平安；住居跡、溝跡、溝跡
61	總社印積荷塚北III道跡	2002	調文：住居跡、古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡
62	元總社北川道跡（事業団）	2002～2004	古墳；木造跡、溝跡、奈良・平安；住居跡、溝跡、中世；孤立柱建物跡、木田跡、火葬墓
63	橋岡保原東道跡（事業団）	2003	古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡、溝跡、竈築材採掘痕、井戸跡
64	元總社小見IV道跡	2003	調文：住居跡、古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡、中世；溝跡
65	元總社小見V道跡	2003	調文：住居跡、古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡、中世；孤立柱建物跡
61	總社印積荷塚大道西IV道跡	2003	古墳；溝跡、中世；溝跡
60	元總社小見VI道跡	2003	奈良・平安；住居跡、溝跡、中世；井戸跡
66	元總社小見VI道跡	2003	調文：住居跡、奈良・平安；住居跡、孤立柱建物跡、中世；溝跡、溝跡
67	元總社小見I道跡	2003	奈良・平安；住居跡、溝跡、中世；堅穴状遺構
64	元總社小見VI道跡	2004	調文；住居跡、古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡
68	元總社小見IX道跡	2004	奈良・平安；住居跡、中世；溝跡
68	元總社小見IX道跡	2004	奈良・平安；住居跡、中世；溝跡
69	元總社小見X道跡	2004	古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡、工房跡、粘土探掘坑、中世；溝跡、土壤基
70	總社印積荷塚北V道跡	2004	古墳；木造跡、奈良・平安；住居跡
元總社蒼海道跡群（1）	2005	奈良・平安；住居跡、溝跡、中世；土壤基	
元總社蒼海道跡群（2）	2005	奈良・平安；住居跡、溝跡、中世；溝跡、土壤基	
元總社蒼海道跡群（3）・元總社小見Ⅲ道跡	2005	調文；住居跡、古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡	
元總社蒼海道跡群（4）	2005	調文；住居跡、古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡	
元總社蒼海道跡群（5）	2005	古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡、溝跡、中世；周溝状遺構、土壤基	
元總社蒼海道跡群（6）	2005	奈良・平安；住居跡、溝跡、中世；溝跡、土壤基	
元總社蒼海道跡群（7）	2005	奈良・平安；住居跡、溝跡	
元總社蒼海道跡群（8）	2006	奈良・平安；住居跡	
元總社蒼海道跡群（9）・（10）	2006	調文；堅穴住居跡、古墳；堅穴住居跡、奈良・平安；堅穴住居跡、孤立柱建物跡、溝跡、土坑、中世；溝跡	
元總社蒼海道跡群（11）	2006	古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡、中世；溝跡	
元總社蒼海道跡群（12）	2006	古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡、中世；井戸跡	
元總社蒼海道跡群（13）	2008	調文；住居跡、古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡、工房跡、溝跡、中世；溝跡、土壤基	
元總社蒼海道跡群（14）	2008	古墳；住居跡、水田跡、奈良・平安；住居跡、孤立柱建物跡、中世；溝跡、堅穴状遺構、井戸跡	
元總社蒼海道跡群（15）	2008	奈良・平安；住居跡、溝跡、中世；溝跡	
元總社蒼海道跡群（16）	2008	奈良・平安；住居跡、溝跡、中世；溝跡	
元總社蒼海道跡群（17）	2008	古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡；堅穴状遺構、中世以降；土壤基、井戸跡、不明；住居跡、溝跡	
元總社蒼海道跡群（18）	2008	平安；住居跡	
元總社蒼海道跡群（19）	2008	古墳；下取画水田跡、中世；井戸跡	
元總社蒼海道跡群（20）	2008	古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡；堅穴状遺構、溝跡、中世；土壤基、溝跡	
元總社蒼海道跡群（21）	2009	中世；蒼海城の堀跡、埴土状遺構	
元總社蒼海道跡群（22）	2009	古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡	
元總社蒼海道跡群（23）	2009	古墳；住居跡、平安；土坑、中世；蒼海城の堀跡	
元總社蒼海道跡群（24）	2009	調文；住居跡、古墳；住居跡、奈良・平安；住居跡；堅穴状遺構、中世方形 堅穴、井戸跡	
元總社蒼海道跡群（25）	2009	古墳；住居跡、平安；住居跡、中世；南宋～元時代の青白磁瓶2個体	
元總社蒼海道跡群（27）	2009	奈良・平安；住居跡、中世；蒼海城の堀跡	
元總社蒼海道跡群（28）	2009	古墳；住居跡、平安；住居跡	
元總社蒼海道跡群（29）	2009	古墳；住居跡、平安；住居跡、中世；蒼海城の堀跡	
元總社蒼海道跡群（30）	2009	古墳；住居跡、平安；住居跡、中世；堀跡、土壤基	
元總社蒼海道跡群（31）	2010	古墳；住居跡、中世；蒼海城の堀跡	
元總社蒼海道跡群（34）	2010	奈良・平安；住居跡、中世；溝跡、土壤基、土坑	
元總社蒼海道跡群（35）	2010	調文；住居跡、奈良・平安；住居跡、中世；蒼海城の堀跡	
元總社蒼海道跡群（36）	2010	古墳；溝跡、平安；住居跡、水田跡、中世；土坑、蒼海城の堀跡	

III 調査方針と経過

1 調査方針

委託された調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴う道路建設予定地が主たる調査地であるため、幅6mの極めて狭長なトレンチ状の調査区が中心となっている。総調査面積は約3,000m²である。現地での調査では、遺構の付番等における混乱をさけるため、調査区全体を1~16区に区分した。遺構番号は、各区ごとに個別に付番することとし、1区H-1号住居跡、2区H-1号住居跡のように遺構前に必ず地区名を付すこととした。

グリッド座標については国家座標（日本測地系）X=+44000・Y=-72200を基点（X 0・Y 0）とする4mピッチのものを使用し、2区においては、西から東へX51、52、53…、北から南へY84、85、86…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のX52・Y85の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系	X = +43,660.000	Y = -71,992.000
緯度	36°23'27".3193	経度 139°01'53".5311
子午線収差角	28°32".6	増大率 0.999964

なお、平成11年3月11日の東日本大震災に伴い、地形が歪んだため誤差が生じた。座標補正プログラムが発表になったのは、すべての調査区への方眼杭の設置が終了したあとであったため、今回の調査区において、X座標が0.0618~-0.619m、Y座標が-0.4638~-0.4650mの誤差が生じている。

調査方法については、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真での行うこととした。このうちの遺構確認については、基本的にAs-C・Hr-FP軽石とAs-B軽石が混入する土層を手がかりにした。

図面作成は、平板・簡易造り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2 調査経過及び概要

現地調査は平成23年5月10日から12月21日まで行った。

元総社蒼海遺跡群（38）の調査地は15ヶ所に分かれており、それぞれ1~11・13~16区と呼称した（12区は欠番）。なお、3区については、公園と現況での土地利用の違いから未調査区が存在したため、新たに調査を実施する箇所を3b区とし、3区を3a区と呼称した。また、調査時期等により4区は4a・4b・4cの3区に分かれ、7区は7a・7b・7c・7d・7eの5区に分かれる。

調査班は2班で構成し、1班は3a・3b・4a・4b・4c・5・6・10・13・16区の10調査区を調査。2班は1・2・7a・7b・7c・7d・7e・8・9・11の10区を調査した。

1・2・14・15・16区は蒼海遺跡群の北東部あたり、古墳時代の住居跡が多数検出された。牛池川沿いの16区からはHr-FA下の水田跡が確認できた。また、多くの土器が集中して出土した祭祀跡が15区から検出された。

3・4・5・6区は推定上野国府跡の北部にあたる地域であるが、4c・5・6区を南北に走行する蒼海城の堀と考えられる溝跡が検出された。3a・3b区では古墳時代から平安時代の住居跡が多数検出された。特筆される遺物としては3b区のH-9号住居跡から出土している。



Fig. 3 グリッド設定図・調査区位置図



7区は推定上野国府域ないであったため、国府に関連する施設（掘立柱跡等）の検出を期待したが、東在方向に走行する蒼海城の堀跡や古墳時代の住居跡、10世紀代の住居跡が確認され、国府に関連する遺構、遺物等の検出・出土はなかった。

8・9・10・11区は蒼海遺跡群の南西部にあたる。蒼海城の堀と考えられる溝跡が検出した。また、電構築材として利用されている砂質凝灰岩の採掘跡が8区から検出した。9区からは竈の構築材に複数の瓦が使用されている住居跡があり、その中の2枚の瓦から「正」及び「廿」文字が刻書されていた。

13区は推定国分尼寺の南側にあたる。調査区が道路の拡張に伴う箇所であるため幅2m、長さ35mと非常に細長く、検出できた遺構も堅穴住居跡1軒及び溝2条と極めて少ない。

それぞれの、調査区において、遺構精査後、記録図面の作成・記録写真の撮影を実施し、調査区の埋め戻しを行い調査を終了した。

12月21日に現場事務所・機材等の撤収作業を実施。翌日より文化財保護課庁舎に戻り、出土遺物・図面・写真等の整理作業及び報告書作成にあたり、本報告書の発行をもってすべての作業を終了した。

IV 各区の遺構と遺物

1区

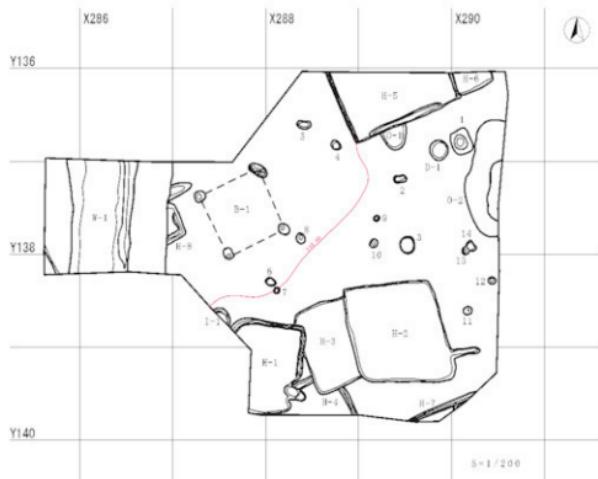


Fig. 4 1区全体図



Fig. 5 1区基本層序

調査区の概要

平成22年度に発掘調査を行った元総社蒼海遺跡群(35)3区に隣接する調査区。竪穴住居跡8軒、土坑1基、溝1条が検出された。古墳時代の住居跡が多く、煙道が長く伸びた竈を持つ特徴的な住居跡があった。覆土から銅鏡が出土した住居跡は竈が石組みであり、羽釜片やカワラケが検出されたことから他の住居跡と較べると新しい時代と考えられる。

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig. 6, PL. 1)

位置 X287・288、Y138・139グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 東西(3.22)m、南北(4.08)m、

壁現高28.0cm。面積(8.92)m²床面平坦な貼り床。竈東壁南角に施設。主軸方向N-111°-E、全長113.0cm、最大幅73.0cm、焚口部幅27.0cm。袖部から煙道部にかけて多くの石で構築されていた。焚口部は凹み、煙道部は急激に立ち上がる。煙道は東壁より65cm程張り出す。貯蔵穴等北西部の柱穴のみ検出。22×20cmの円形で深さは38cm。周溝東壁と北壁で確認。幅20cm前後、深さ4cm程度であり、断面は逆台形。重複H-3・4と重なり、新旧関係はH-4→H-3→本遺構。出土遺物土師器40点、須恵器97点、瓦11点、銅製品1点、石製品1点、灰釉陶器1点。そのうち須恵器高台碗2点、須恵器羽釜2点、土釜2点、カワラケ2点、丸瓦2点、平瓦3点、銅鈴1点を図示。時期覆土や出土遺物から11世紀前半と考えられる。

H-2号住居跡(Fig. 7、PL. 2)

位置 X288~290、Y138・139グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 東西4.68m、南北4.38m、壁現高29.0cm。面積17.32m²床面平坦な床面。竈東壁南寄りに敷設。主軸方向N-80°-E、全長206.0cm、最大幅73.0cm、焚口部幅[37.0]cm。焚口部は若干凹み、煙道部は極めて緩やかに立ち上がる。煙道は東壁より120cm程張り出し、煙道部先端には煙突代わりの土器が据えられていた。貯蔵穴等検出されず。周溝精査を行ったが確認されなかった。重複H-3と重なり、新旧関係はH-3→本遺構。出土遺物土師器132点、須恵器12点、石製品10点。そのうち土師器5点、土師器小甕1点、土師器甕1点を図示。時期覆土や出土遺物から7世紀前半と考えられる。

H-3号住居跡(Fig. 6、PL. 2)

位置 X288・289、Y138・139グリッド 主軸方向 N-69°-E 形状等 東西(2.51)m、南北(3.78)m、壁現高20.0cm。面積(7.76)m²床面平坦な床面。竈東壁に敷設されたと考えられるが、重複関係により確認できず。貯蔵穴等検出されず。周溝精査を行ったが確認されなかった。重複H-1・2・4と重なり、新旧関係はH-4→本遺構→H-2→H-1。出土遺物土師器12点、須恵器2点、石製品7点。そのうち軽石1点を図示。時期覆土や重複関係から6世紀代と考えられる。

H-4号住居跡(Fig. 6、PL. 2)

位置 X287~289、Y139グリッド 主軸方向 N-60°-E 形状等 東西(4.04)m、南北(2.62)m、壁現高44.0cm。面積(5.41)m²床面平坦な貼り床。竈東壁に敷設されたと考えられるが、重複関係により確認できず。貯蔵穴等北東部の柱穴のみ検出。37×30cmの楕円形で深さは60cm。周溝調査区の範囲で全周する。幅18cm前後、深さ5cm程度であり、断面は逆台形。重複H-1・3と重なり、新旧関係は本遺構→H-3→H-1。出土遺物土師器12点、須恵器27点、縄文土器1点、土製品1点。そのうち須恵器高杯1点、紡錘車1点を図示。時期覆土や出土遺物から5世紀後半から6世紀前半と考えられる。

H-5号住居跡(Fig. 8、PL. 3)

位置 X288~290、Y136グリッド 主軸方向 N-67°-E 形状等 東西(4.07)m、南北(3.44)m、壁現高33.0cm。面積(11.52)m²床面平坦な貼り床。竈東壁に敷設されたと考えられるが、調査区外のため確認できず。貯蔵穴等南西部柱穴は32×31cmの円形で深さ35cm。南東部柱穴は44×42cmの円形で深さ69cm。南東隅の貯蔵穴は78×73cmの楕円形で深さ62.5cm。周溝調査区の範囲で全周する。幅7~15cm、深さ5cm程度であり、断面は逆台形。重複H-6と重なり、新旧関係はH-6→本遺構。出土遺物土師器101点、須恵器6点、石製品2点、中世1点。そのうち土師器5点、須恵器甕1点を図示。時期覆土

や出土遺物から6世紀前半と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig. 7、PL. 3)

位置 X290、Y136グリッド 主軸方向 N-67°-E 形状等 東西(1.57)m、南北(0.53)m、壁現高25.0cm。面積 (1.29)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁に敷設されたと考えられるが、調査区外のため確認できず。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行ったが確認されなかった。重複 H-5と重なり、新旧関係は本遺構→H-5 時期 覆土や重複関係から6世紀前半と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig. 7、PL. 3)

位置 X289・290、Y139グリッド 主軸方向 N-67°-E 形状等 東西(3.30)m、壁現高42.5cm。面積 (1.15)m² 床面 平坦な貼り床。竈 住居跡のほとんどが調査区外のため確認できず。貯蔵穴等 検出されず。周溝 調査区の範囲で全周する。幅10cm前後、深さ3cm程度であり、断面は逆台形。出土遺物 土師器15点。そのうち土師器高杯1点を図示。時期 覆土や出土遺物から6世紀前半と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig. 9、PL. 3)

位置 X285～287、Y136～138グリッド 主軸方向 N-65.5°-E 形状等 東西(5.96)m、南北(3.50)m、壁現高36.0cm。面積 [12.51]m² 床面 重複によりわずかしか残っていないが、平坦な床面と考えられる。竈 東壁中央に敷設。主軸方向N-68°-E、全長143.0cm、最大幅114.0cm、焚口部幅32.0cm。煙道部は緩やかに立ち上がる。煙道は東壁より110cm程張り出す。貯蔵穴等 北西部柱穴は43×42cmの円形で深さ67cm。南西部柱穴は42×40cmの円形で深さ57cm。南東部柱穴は36×25cmの円形で深さ69cm。南東隅の貯蔵穴は70×60cmの楕円形で深さ66.5cm。底部から石と土器片が出土。重複 W-1と重なり、新旧関係は本遺構→W-1。出土遺物 土師器34点、須恵器1点。そのうち土師器2点、土師器高杯1点、土師器甕2点、須恵器甕1点を図示。時期 覆土や出土遺物から6世紀後半から7世紀代と考えられる。

(2) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.10、PL. 3)

位置 X285・286、Y136～138グリッド 主軸方向 N-2°-E 形状等 逆台形。長さ4.84m、深さ79.5cm、最大上幅556.0cm、最大下幅156.0cm。重複 H-8と重なり、新旧関係はH-8→本遺構。出土遺物 土師器57点、須恵器11点、瓦4点、石製品1点、綠釉陶器5点、中世1点。そのうち平瓦1点を図示。時期 覆土や出土遺物から中世と考えられる。

(3) 土坑、ピット、井戸跡、落ち込み (Fig. 9・10)

土坑、ピットについては、Tab. 4 土坑・ピット・井戸等計測表を参照のこと。

(4) グリッド等出土遺物

土師器9点、鉄製品1点を出土。

Tab. 2 1区 住居跡一覧表

遺構名	位置	規模 (m)			面積 (m ²)	主軸方向	調査		周辺	主な出土遺物 土師器・須恵器・その他
		東西	南北	壁厚 (cm)			位置	構築材		
H-1	X287・288 Y138・139	(3.22)	(4.08)	28.0	(8.92)	N-95°-E	東壁南角	石、粘土	—	高台傾斜
H-2	X288・290 Y138・139	4.68	4.38	29.0	17.32	N-87°-E	東壁南寄り	粘土	—	坪、裏
H-3	X288・289 Y138・139	(2.51)	(3.78)	20.0	(7.76)	N-69°-E	—	—	—	—
H-4	X287・289 Y139	(4.04)	(2.62)	44.0	(5.41)	N-60°-E	—	—	—	高杯
H-5	X288・290 Y136	(4.07)	(3.44)	33.0	(11.52)	N-67°-E	—	有	坪	裏
H-6	X290 Y136	(1.57)	(0.53)	25.0	(1.29)	N-67°-E	—	—	—	—
H-7	X289・290 Y139	(3.30)	—	42.5	(1.15)	N-67°-E	—	有	—	高杯
H-8	X285・287 Y136～138	(5.96)	(3.56)	36.0	(12.51)	N-65°-E	東壁中央	粘土	—	坪、裏

Tab. 3 1区 溝跡計測表

遺構名	位置	長さ (m)	深さ (cm)		上幅 (cm)		下幅 (cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X285・286 Y136～138	4.84	79.5	67.0	556.0	528.0	156.0	14.0	N-2°-E	逆台形	中世

Tab. 4 1区 土坑・ピット・井戸等計測表

遺構名	位 置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	出土 遺物		備 考
						最大	最小	
D-1	X289 Y136	87.0	80.0	11.0	円 形	土 1	—	—
P-1	X289・290 Y136	104.0	84.0	32.5	楕丸方形	土 2	—	—
P-2	X289 Y137	56.0	28.0	27.5	長椭円形	土 1	—	—
P-3	X289 Y137	74.0	54.0	11.0	椭 圆 形	—	—	—
P-4	X288 Y136	48.0	34.0	28.0	椭 圆 形	—	—	—
P-5	X288 Y136	60.0	34.0	41.0	長椭円形	—	—	—
P-6	X287・288 Y138	48.0	35.0	17.5	椭 圆 形	—	—	—
P-7	X288 Y138	30.0	26.0	25.0	円 形	—	—	—
P-8	X288 Y137	48.0	36.0	24.5	椭 圆 形	—	—	—
P-9	X289 Y137	28.0	24.0	12.0	円 形	—	—	—
P-10	X289 Y137	49.0	34.0	23.5	円 形	—	—	—
P-11	X290 Y138	40.0	34.0	38.0	円 形	—	—	—
P-12	X290 Y138	36.0	30.0	25.0	円 形	—	—	—
P-13	X290 Y137・138	31.0	30.0	31.0	円 形	—	—	—
P-14	X290 Y137	45.0	[36.0]	36.5	楕丸方形	—	—	—
O-1	X289 Y136	100.0	117.0	22.0	長椭円形	—	—	—
O-2	X290 Y136・137	502.0	151.0	—	長椭円形	—	—	—
I-1	X287 Y138	100.0	35.0	90.0	椭 圆 形	土 3	—	—

Tab.5 1区 古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

番号	出土遺物 名	器種名	①口沿 ②底面 ③縁高 ④底厚 ⑤成型 ⑥分厚	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考	
1-1	H-1 床直	須恵器 环	①14.2 ②4.2 ③6.2 ④—	①縁高 ②直井 ③縁 ④成形	縦椭圆形。口縁部：大きく外反する。内外面輪廓など、底部：尖り。 縦椭圆形。口縁部から底部：内外面輪廓など、底部：尖り上昇底。回転舟切り。	5	酸化焰
1-2	H-1 床直	須恵器 高台碗	①15.1 ②8.4 ③11.9 ④—	①縁高 ②直井 ③縁 ④3/4	縦椭圆形。口縁部から底部：内外面輪廓など、底部：尖り。 縦椭圆形。口縁部から底部：内外面輪廓など、底部：尖り上昇底。回転舟切り。	12	酸化焰
1-3	H-1 床直	須恵器 羽皿	①(22.8) ②(19.8) ③—	①縁高 ②直井 ③縁 ④成形 ⑤縁片	縦椭圆形。口縁部：大きく外反する。内外面輪廓など、ほぼ立ち上る。腰削：ほぼ水平に盛り出す。側面部：内外面輪廓など、底部：尖り上昇底。回転舟切り。	22	酸化焰
1-4	H-1 床直	須恵器 羽皿	①(17.8) ②(9.5) ③—	①縁高 ②直井 ③明高井 ④成形 ⑤縁片	縦椭圆形。口縁部：水平や下方に張り出す。側面部：内外面輪廓など、底部：尖り上昇底。回転舟切り。	13	酸化焰
1-5	H-1 床直	土師器 土器	①(24.6) ②(11.5) ③—	①縁高 ②直井 ③縁 ④成形 ⑤縁片	縦椭圆形。口縁部：大きく外反する。内外面輪廓など、側面部：内外面輪廓など、底部：尖り上昇底。回転舟切り。	7	酸化焰
1-6	H-1 床直	土師器 土器	①(25.8) ②(12.8) ③—	①縁高 ②直井 ③縁 ④成形 ⑤縁片	縦椭圆形。口縁部：大きく外反する。口縁から側面部：内外面輪廓など、底部：尖り上昇底。回転舟切り。	2	酸化焰
1-7	H-1 かわらけ 土器	①(9.8 ②9.3 ③5.1 ④—)	①縁高 ②直井 ③浅井 ④成形 ⑤縁片	縦椭圆形。小形の器形。口縁部：やや外反する。底部：内外面輪廓など、底部：尖り上昇底。回転舟切り。	33	酸化焰	
1-8	H-1 かわらけ	①(8.8 ②9.0 ③5.6 ④—)	①縁高 ②直井 ③縁 ④成形 ⑤縁片	縦椭圆形。小形の器形。口縁部：やや外反する。底部：内外面輪廓など、底部：尖り上昇底。回転舟切り。	1	酸化焰	
1-9	H-2 床直	土師器 环	①(11.8 ②2.3 ③—	①縁高 ②直井 ③縁 ④成形 ⑤縁片	口縁部：矧立する。内外面輪廓など、底部から底部：内外面など。外表面輪廓の盛り出し、底部：丸底。	9	
1-10	H-2 床直	土師器 环	①(11.0 ②3.5 ③—	①縁高 ②直井 ③縁 ④成形 ⑤縁片	口縁部：矧立する。内外面輪廓など、底部から底部：内外面など。外表面輪廓の盛り出し、底部：丸底。	16	
1-11	H-2 床直	土師器 环	①(10.4 ②3.2 ③—	①縁高 ②直井 ③縁 ④成形 ⑤縁片	口縁部：矧立する。内外面輪廓など、底部から底部：内外面など。外表面輪廓の盛り出し、底部：丸底。	16	
1-12	H-2 土器 环	①(10.8 ②4.0 ③—	①縁高 ②直井 ③縁 ④成形 ⑤縁片	口縁部：矧立する。内外面輪廓など、底部から底部：内外面など。外表面輪廓の盛り出し、底部：丸底。	17		
1-13	H-2 床直	①(10.9 ②3.4 ③—	①縁高 ②直井 ③縁 ④成形 ⑤縁片	口縁部：直立したりやや内傾する。内外面輪廓など、底部から底部：内外面など。外表面輪廓の盛り出し、底部：丸底。	11		
1-14	H-2 土器 小便	①(12.6) ②(5.5) ③—	①縁高 ②直井 ③縁 ④成形 ⑤縁片	口縁部：矧立する。内外面輪廓など、底部：内外面など。外表面輪廓の盛り出し、底部から底部：丸底。	14		
1-15	H-2 土器 小便	①(14.6 ②18.3 ③7.6 ④—)	①縁高 ②直井 ③縁 ④成形 ⑤縁片	口縁部：大きく外傾する。内外面輪廓など、底部：内外面など。外表面輪廓の盛り出し、底部から底部：丸底。	16		
1-16	H-4 土器 环	須恵器 环	①(7.6 ②12.2 ③11.6 ④—)	①縁高 ②直井 ③成形 ④成形 ⑤縁片	縦椭圆形。口縁部：やや内傾する。内外面輪廓など、底部から底部：内外面など。外表面輪廓の盛り出し、底部：丸底。	7	
1-17	H-5 土器 环	①(11.8 ②4.7 ③—	①縁高 ②直井 ③明高井 ④成形 ⑤縁片	口縁部：内斜口横。内外面輪廓など、底部から底部：内外面で、腰状凹みがを施す。外表面輪廓と斜位の割削りの後、見みがき。	7		
1-18	H-5 土器 环	①(13.4) ②(5.6) ③—	①縁高 ②直井 ③明高井 ④成形 ⑤縁片	口縁部：やや内傾する。内外面輪廓など、底部：内外面など。放射状凹みがを施す。外表面輪廓の割削りの後、見みがき。	4		
1-19	H-5 土器 环	①(13.2) ②(4.7) ③—	①縁高 ②直井 ③明高井 ④成形 ⑤縁片	口縁部：内斜口横。内外面輪廓など、底部から底部：内外面など。放射状凹みがを施す。外表面輪廓の割削りの後、見みがき。	1		
1-20	H-5 土器 环	①(13.6) ②(4.2) ③—	①縁高 ②直井 ③縁 ④成形 ⑤縁片	口縁部：内斜口横。内外面輪廓など、底部：内外面など。放射状凹みがを施す。外表面輪廓と斜位の割削り。底部：欠損しているが丸底と思われる。	5		
1-21	H-5 土器 环	①(12.0) ②(4.0) ③—	①縁高 ②直井 ③縁 ④成形 ⑤縁片	口縁部：矧立している。内外面輪廓など、底部から底部：内外面など。外表面輪廓の盛り出し、底部：丸底。	11		
1-22	H-5 須恵器 環	①— ②— ③—	①縁高 ②直井 ③成形 ④成形 ⑤縁片	縦椭圆形。底部：直立してある。内外面輪廓など、底部：内外面など。外表面輪廓の盛り出し、底部：欠損と思われる。	13	誤文	
1-23	H-7 土器 环	①(17.0) ②(3.3) ③—	①縁高 ②直井 ③縁 ④摺合部のあ り	口縁部：大斜。脚部：大きく外傾して開く。内外面など。摺合部：			
1-24	H-8 土器 环	①(13.4) ②(4.9) ③—	①縁高 ②直井 ③縁 ④成形 ⑤縁片	口縁部：腰やや内傾し口縁部で盛り立てる。内外面輪廓など、底部から底部：内外面など。外表面輪廓と斜位の割削り。底部：丸底。	3		
1-25	H-8 土器 环	①(11.4) ②(4.9) ③—	①縁高 ②直井 ③縁 ④成形 ⑤縁片	口縁部：やや内傾する。内外面輪廓など、底部から底部：内外面など。外表面輪廓の盛り出し、底部：丸底。	1		
1-26	H-8 土器 环	①— ②(5.0) ③—	①縁高 ②直井 ③縁 ④成形 ⑤縁片	口縁部：わずかに内折する。内外面輪廓など、底部から底部：内外面など。外表面輪廓の盛り出し、底部：粘土充満。脚部：欠損。	5		
1-27	H-8 土器 环	①(16.8) ②(8.9) ③—	①縁高 ②直井 ③縁 ④成形 ⑤縁片	口縁部：腰やや内折する。内外面輪廓など、底部：内外面など。外表面輪廓の盛り出し、斜位の割削り。底部：丸底。	10		
1-28	H-8 土器 环	①— ②(5.2) ③—	①縁高 ②直井 ③明高井 ④成形 ⑤縁片	口縁部：大斜。脚部：欠損。斜位：内外面など。外表面輪廓の盛り出し、斜位の割削り。底部：丸底。	9		
1-29	H-8 土器 环	①— ②— ③—	①縁高 ②直井 ③縁 ④成形 ⑤縁片	縦椭圆形。口縁部：大斜。斜位：内外面など。内面は当て具の背説文。外縁に叩き板の縫合が残る。底部：丸底。	7		

Tab. 6 1区 石器・石製品観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備考
1-石1	H-1 床底	棒	10.70	5.90	2.00	135	綠泥片岩	剥離片	2	
1-石2	H-2 床底	亂刷石	11.60	6.40	3.20	330	安山岩	完形	S 1	
1-石3	H-2 床底	亂刷石	14.80	8.00	4.87	880	安山岩	完形	S 2	
1-石4	H-2 床底	亂刷石	13.95	5.15	4.00	380	安山岩	完形	S 3	
1-石5	H-2 床底	亂刷石	14.20	5.35	3.60	430	安山岩	完形	S 4	
1-石6	H-2 床底	亂刷石	12.00	5.30	3.67	320	安山岩	完形	S 5	
1-石7	H-2 床底	亂刷石	13.25	5.10	4.40	360	凝灰岩	完形	S 6	
1-石8	H-2 床底	亂刷石	12.75	5.90	4.30	420	安山岩	完形	S 7	
1-石9	H-2 床底	亂刷石	11.05	4.70	3.75	280	安山岩	完形	S 8	
1-石10	H-2 床底	亂刷石	10.85	5.05	2.70	250	安山岩	完形	S 9	
1-石11	H-2 床底	亂刷石	14.90	6.25	4.43	640	安山岩	完形	S 10	
1-石12	H-3 床底	研石	7.50	6.20	2.60	98	角閃石安山岩	ほぼ完形	1	
1-石13	H-3 床底	研石	14.40	6.72	5.65	800	凝灰岩	完形	18	
1-石14	H-3 床底	亂刷石	14.35	6.75	5.00	700	安山岩	完形	S 1	
1-石15	H-3 床底	亂刷石	14.25	7.25	4.70	730	安山岩	完形	S 2	
1-石16	H-3 床底	亂刷石	14.30	7.00	5.24	750	安山岩	完形	S 3	
1-石17	H-3 床底	亂刷石	15.85	6.25	5.00	740	安山岩	完形	S 4	
1-石18	H-3 床底	亂刷石	14.00	6.85	5.00	750	砂岩	完形	S 5	

Tab. 7 1区 銅製品観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備考
1-銅1	H-1 壁土	剝鉛	2.60	2.60	2.30	9.10	ほぼ完形		

Tab. 8 1区 土製品観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	遺存度	登録番号	備考
1-土1	H-4 床底	彷彿窓	6.60	6.40	1.40	完形	4	土層底部利用

Tab. 9 1区 瓦観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	①長さ ②厚さ	③色調 ④遺存度	種類の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1-瓦1	H-1 床底	丸瓦	①13.5 ②1.4	③褐色 ④(1)/3	四面：布目あり。内面：黒など。側面：面取り1回。	19	
1-瓦2	H-1 床底	丸瓦	①11.5 ②1.3	③褐色 ④(2)/3	四面：布目あり。内面：黒など。側面：面取り2回。	17	
1-瓦3	H-1 平瓦	平瓦	①13.5 ②1.0	③褐色 ④(2)/3	一枚作り。四面：布目あり。内面：縫合と横位の織目文瓦底あり。側面：面取り2回。	28	
1-瓦4	H-1 床底	平瓦	①11.0 ②1.0	③褐色 ④(2)/3	一枚作り。四面：布目あり。内面：縫合と横位の織目文瓦底あり。側面：欠損。	36	
1-瓦5	H-1 床底	平瓦	①17.9 ②1.1	③褐色 ④(2)/3	一枚作り。四面：布目あり。内面：黒など。側面：面取り2回。		
1-瓦6	W-1 覆土	平瓦	①17.5 ②1.7	③褐色 ④(4)/3	一枚作り。四面：布目あり。内面：黒など。		

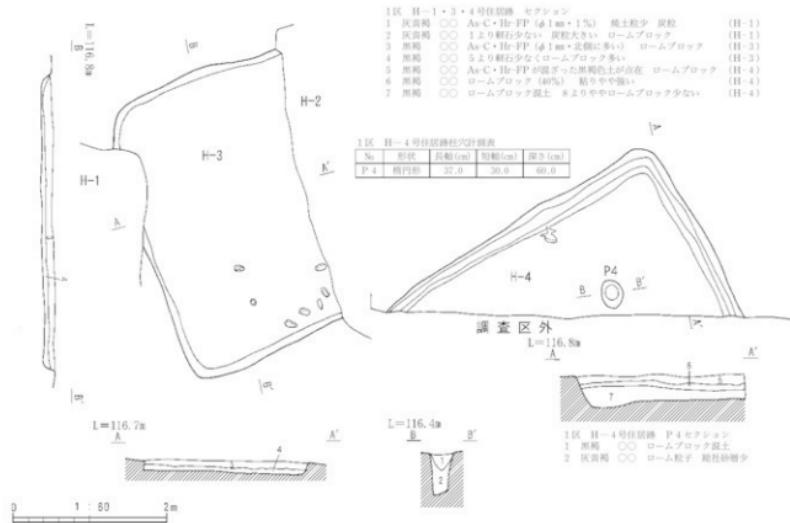
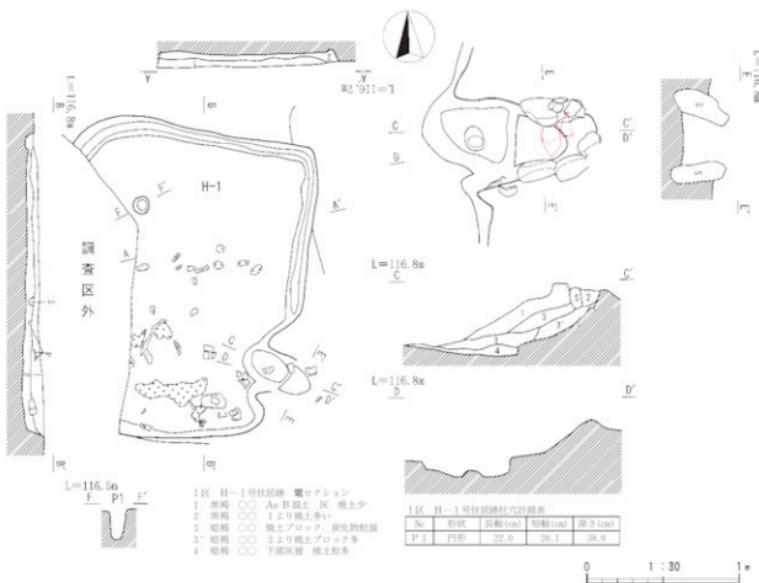


Fig. 6 1区H-1・3・4号住居跡

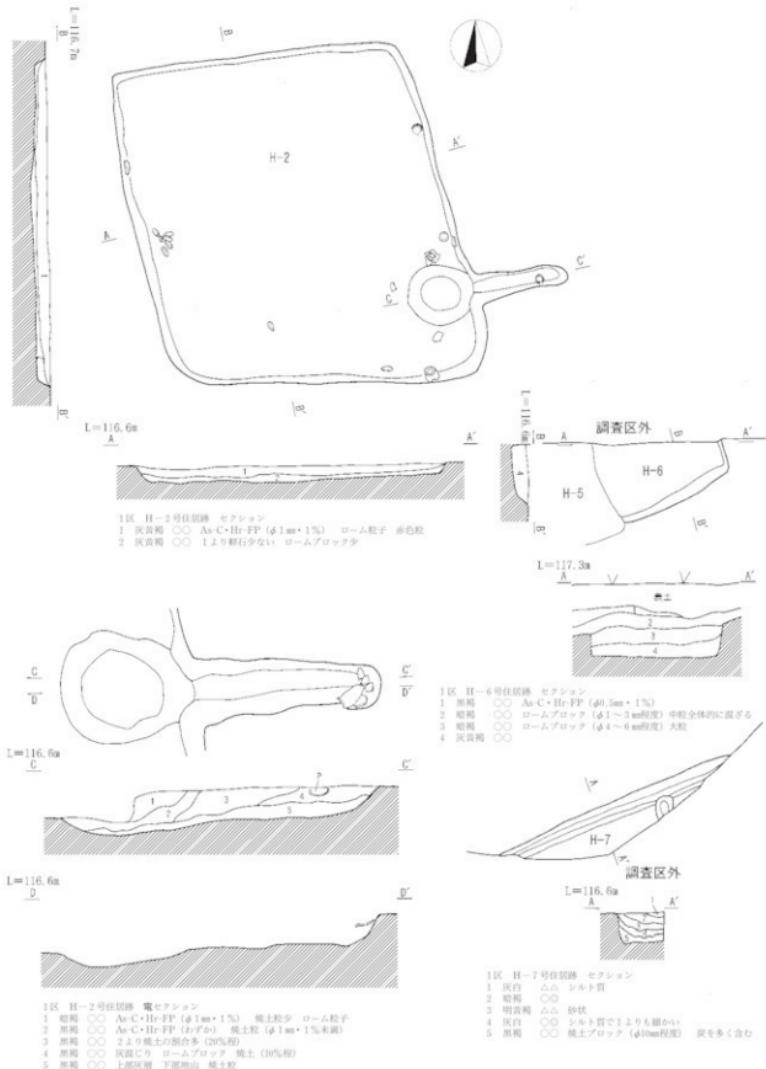
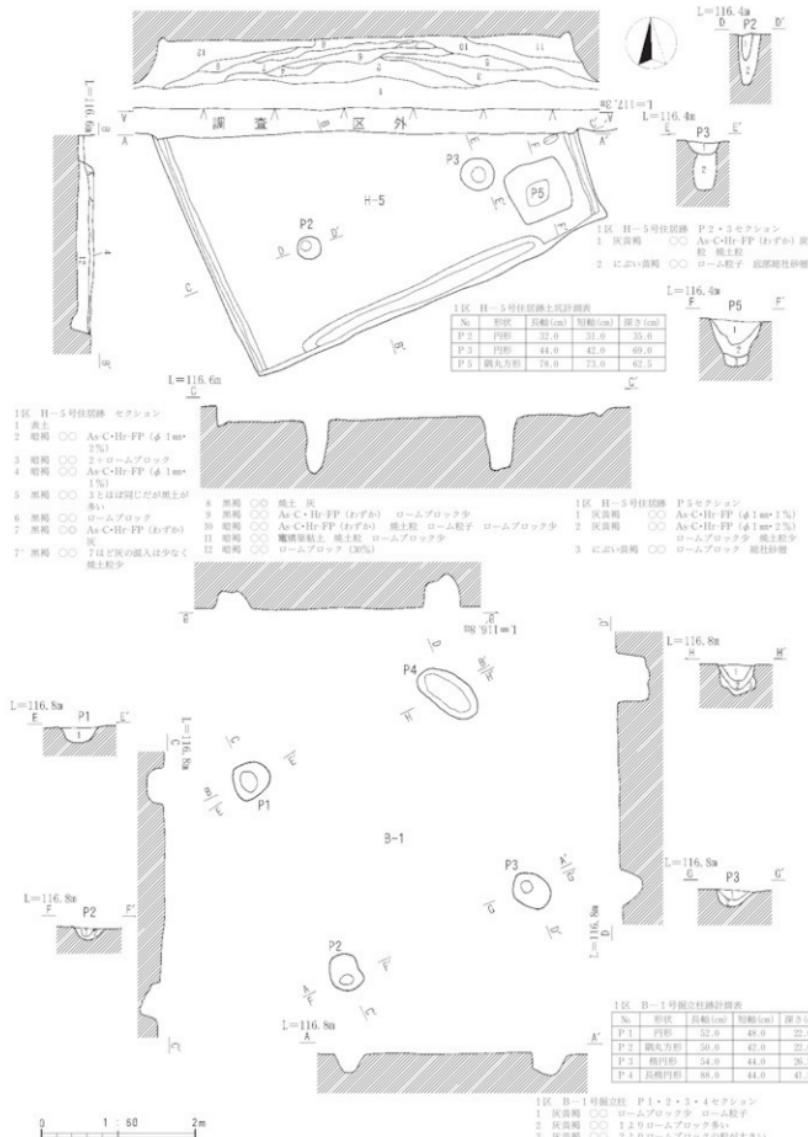


Fig. 7 1区H-2・6・7号住居跡



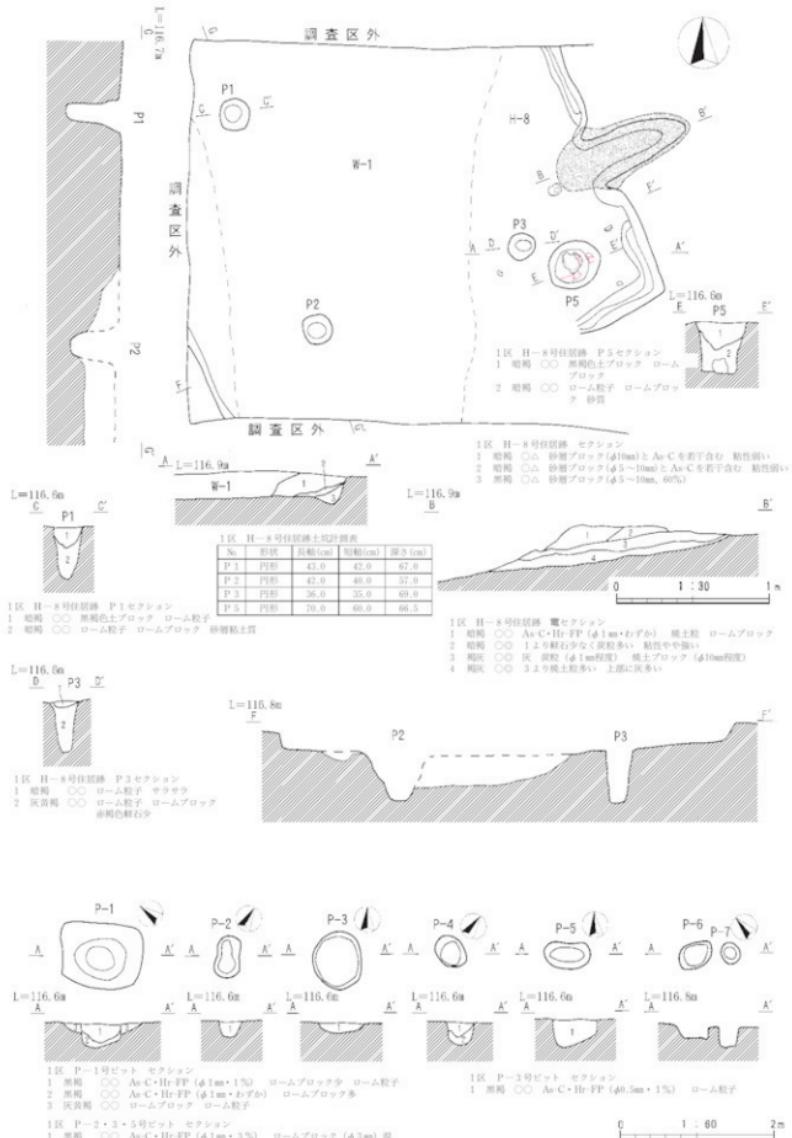


Fig. 9 1区H-8号住居跡、P-1～7号ビット

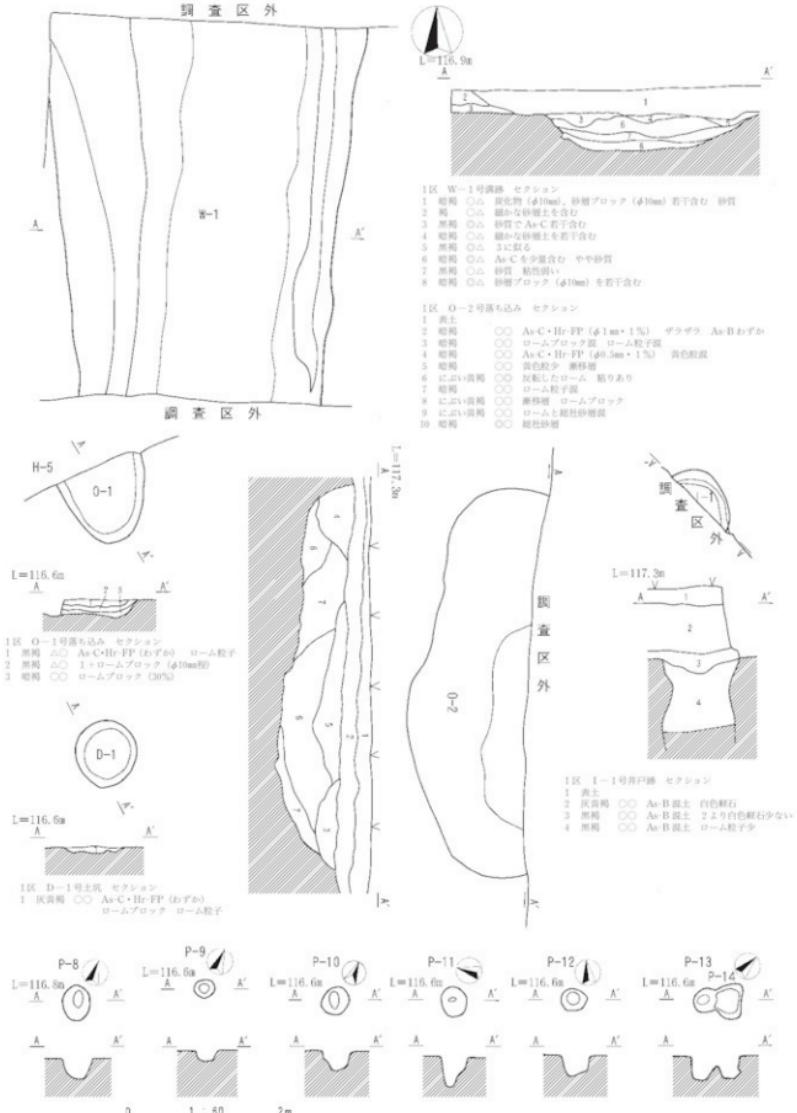


Fig.10 1区W-1号溝跡、I-1号井戸跡、O-1・2号落ち込み、P-8~13号ピット

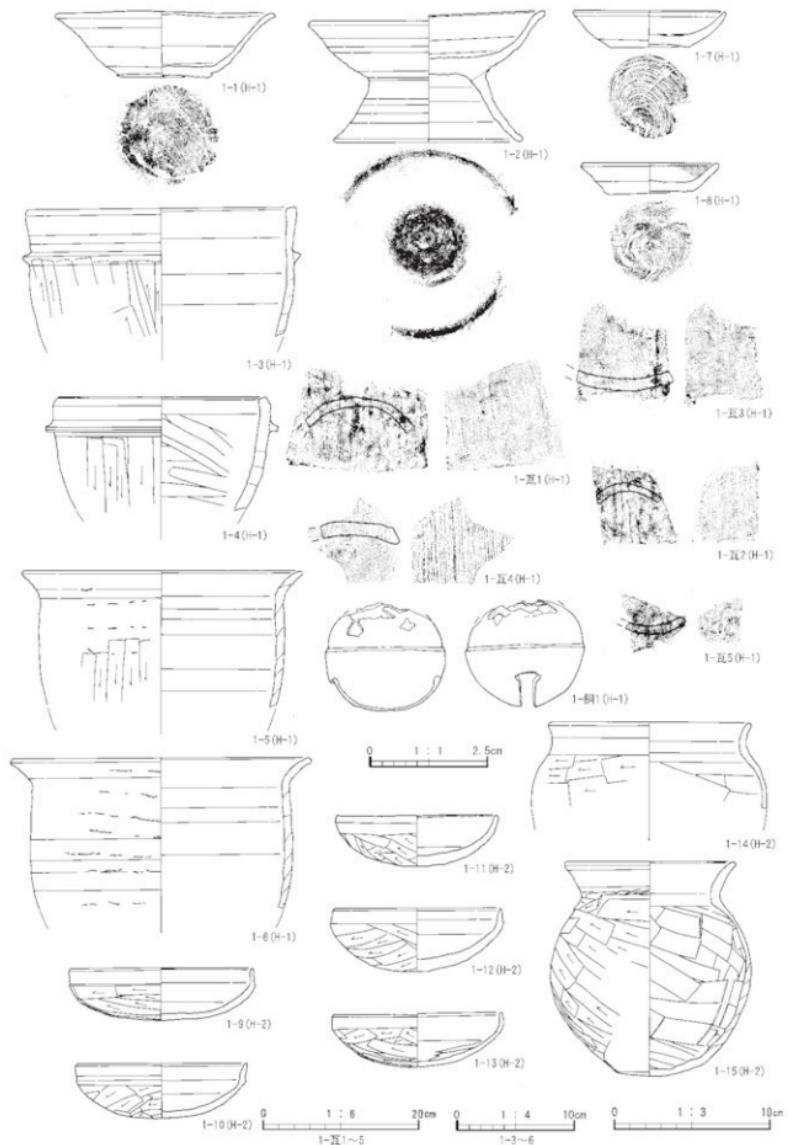


Fig.11 1区 H-1・2号住居跡出土遺物

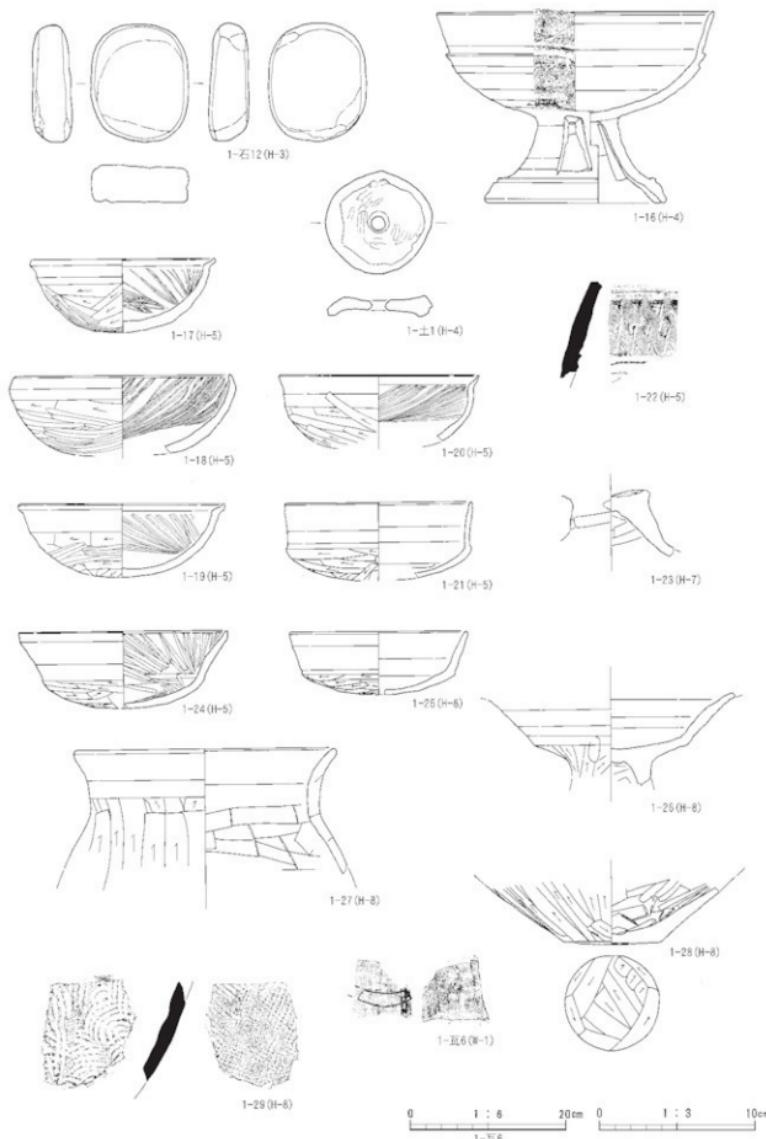


Fig.12 1区H-3～5・7・8号住居跡、W-1号溝跡出土遺物

2区

調査区の概要

本調査区は元総社中学校の南東に位置し、南北幅4m、東西幅6.5mの調査区である。標高は119mほどである。

検出された遺構は、時期不明の溝跡1条、埴輪成形の高台椀等を出土した井戸1基である。

2区 基本層序

- I層 現耕作土。班耕がよく発達し、II層との境界にかけて特に凝集する。
- II層 黒褐色土 Hr-FPを少量不均質に混入する。
- III層 黒褐色土 砂質でにほん黒褐色土のブロックを不均質に混入する。部分的に存在。
- IV層 黒褐色土 As-Cを均質に混入する。
- V層 褐灰色土 総社砂層起因のシルト質土を混入。下層にかけて漸移的に混入量は増加する。
- *W-1号溝はII層から掘り込まれる。I-1号井戸はV層を掘り込んで構築される。

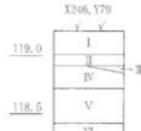


Fig.13 2区基本層序

(1) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.15, PL. 4)

位置 X243~245、Y78~79グリッド 主軸方向 N-38°E 形状等 断面形状はやや丸みを帯びた「V」字状を呈する。長さ4.40m、最大上幅4.90m、最大下幅0.8m、深さ2.50m 出土遺物 瓦片数点 時期 不明 備考 覆土上層は総社砂層起因のシルト質土ブロックと黒褐色土により人為的に埋め土された状況がうかがえる。時間的にも短期間での作業であったようである。

(2) 井戸跡 (Fig.15, PL. 4)

I-1号井戸跡

位置 X245~246、Y79グリッド 形状等 最大上幅1.6m、最大下幅(0.68)m、深さ(1.2)m 出土遺物 須恵器・高台椀 (ほぼ完形) 1点及び破片数点、石 時期 10世紀

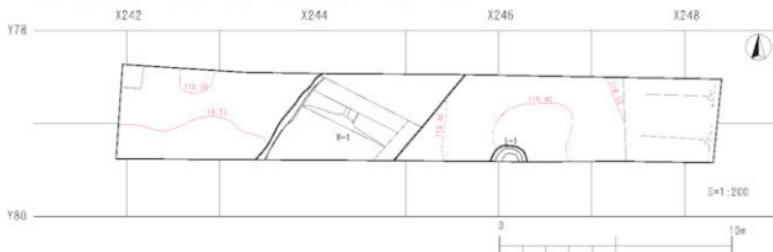


Fig.14 2区全体図

Table 10 2区 古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

番号	出土遺物 目録 番号	器種名	①口径 ②高さ	③底土 ④地質 ⑤土通存度	器種の特徴・形態・調整技術	登録番号	備考
2-1	I-1	須恵器	①14.6 ②5.5 ③SY77/1明視灰 ④S1/2完形	①粗粒 ②良好 ③砂質	前輪整形。口縁・底部に口縁一部欠損、外側から口縁部外延。内外面輪離隙。外蓋上部に僅く焼け崩れた痕跡。底盤：内面離隙で、外蓋系切り付け高台、無で調節。	I	焼成灰
2-2	I-1	灰陶	①— ②(1.7) ③7.0	①細粒 ②良好 ③2.5Y1/1 ④—	口縁部：外反。内外面離隙。底盤：底盤から外反して立ち上がり、内面離隙で、外蓋系切り付け高台、無で調節。底盤：内面離隙で、外蓋系切り付け高台、無で調整。輪つけが付く。		
2-3	I-1	陶	①10.4 ②3.5 ③—	①粗粒 ②良好 ③10YR8/3浅黄褐 ④S1/4	輪離隙形。口縁部：やや外反、内外面離隙。底盤：内面離隙で、外蓋系切り付け離し後無調節。		焼成灰

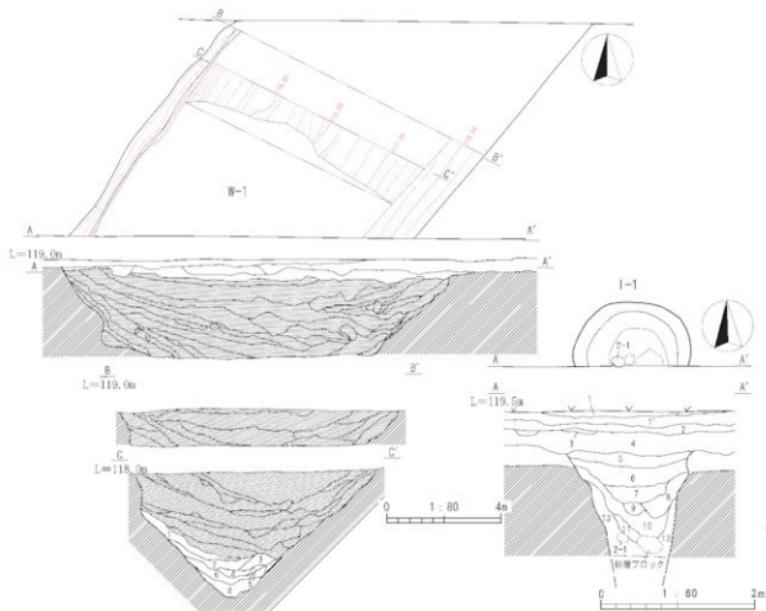


Fig.15 2区W-1号溝跡、I-1号井戸跡

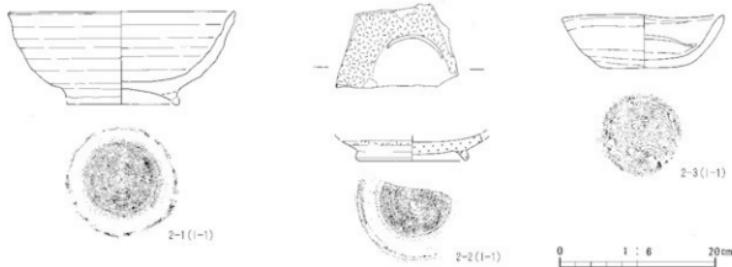


Fig.16 2区I-1号井戸跡出土遺物



Fig.17 3区全体図 (1)

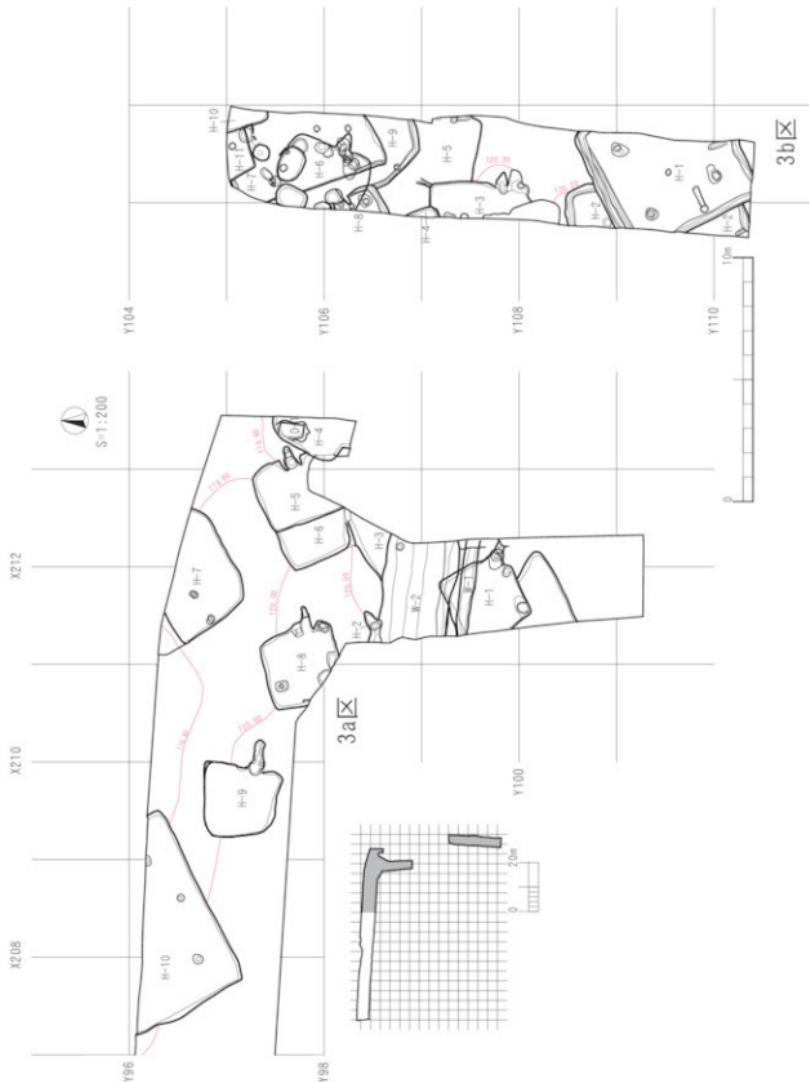


Fig.18 3区全体図 (2)

3区

調査区の概要

本調査区は2つの調査区からなる。3a区と呼称する調査区は国分尼寺方面から東流する牛池川が大きく南へ流路を変更する手前の右岸に位置する。東西に長い調査区の北側は、牛池川を挟んで総社北小学校・総社中学校が所在する。標高は121m前後であり、牛池川河川敷との比高差は約4mを図る。また、3b区と呼称した調査区は、3a区の南東20m程で隣接する。検出された遺構は、古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡が3a区では25軒、3b区では13軒の計38軒を数える。ほかに中世と思われる溝跡1条、土坑などが検出された。

特筆される出土遺物としては、3b区のH-9号住居跡から出土した丸剣が挙げられよう。

3区基本層序	
I層	黒褐色土 現耕作土。砂質土。
II層	黒褐色土 砂質土。As-C-Hr-FPをともに少量不均質に混入する。
III層	極暗褐色土 II層より漸移的に変化する。混入するAs-C-Hr-FPは少くなり、総社砂崩起因の砂質土のブロックが混入し始める。
IV層	黒褐色土 混入物の少ない程度が微細な均質土。V層へは漸移的に変化する。
V層	極暗褐色土 水成堆積のローム質土。総社砂崩。
※	B-1号掘立柱建物・溝はII層を掘り込む。竪穴住居跡はIII層もしくはIV層を掘り込んで構築される。

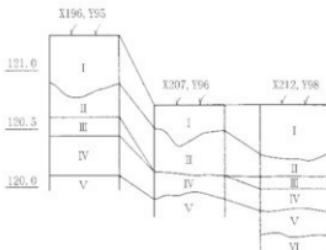


Fig.19 3区基本層序

3a区

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.20、PL. 4)

位置 X211・212、Y99・100グリッド 主軸方向 東西(3.15)m、南北3.20m、壁現高10cm 面積 8.65m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。竪 主軸方向N-115°E、全長50cm、最大幅60cm、焚口部幅38cm 貯蔵穴 P_s 長軸48cm、短軸26cm、深さ33.5cm ピット P_s 長軸48cm、短軸46cm、深さ16.5cm 重複 W-1、2と重複し、本住居跡が古い。また、南に不定形の掘り込みが存在、断面観察からはその掘り込みの覆土を切って構築される。出土遺物 土師器・壺、石 時期 6世紀第3四半期

H-2号住居跡 (Fig.21、PL. 5)

位置 X211、Y98グリッド 主軸方向 計測不能 竪 主軸方向N-57°E、全長87cm、最大幅52cm、焚口部幅36cm 重複 W-2と重複し、本住居跡が古い。出土遺物 土師器・壺 時期 6世紀後半 備考 竪のみ検出

H-3号住居跡 (Fig.20)

位置 X211・212、Y98グリッド 主軸方向 N-57°E 形状等 東西(3.78)m、南北(1.54)m、壁現高32.5cm 面積 3.12m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。竪 未検出。ピット P_s 長軸32cm、短軸31cm、深さ54.5cm 重複 W-2と重複し、本住居跡が古い。出土遺物 土師器破片 時

期 6世紀後半

H-4 a号住居跡 (Fig.21、PL. 5)

位置 X213、Y98グリッド 主軸方向 N-90°-E 形状等 東西(1.26)m、南北(0.96)m、壁現高35cm
面積 0.96m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 窓 未検出。 重複 H-4 bと
重複し、本住居跡が新しい。 出土遺物 土師器片 時期 不明

H-4 b号住居跡 (Fig.21、PL. 5)

位置 X213、Y97・98グリッド 主軸方向 N-27°-E 形状等 東西(2.18)m、南北(3.08)m、壁現高
28.5cm 面積 [4.04]m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 D-1 長軸101cm、短
軸61cm、深さ26.5cm 窓 未検出。 重複 H-5、H-4 a、D-1と重複し、本住居跡が古い。 出土
遺物 土師器 時期 不明

H-5号住居跡 (Fig.21、PL. 5)

位置 X212・213、Y97・98グリッド 主軸方向 N-73°-E 形状等 東西2.84m、南北(3.08)m、壁現
高39cm 面積 6.94m² 床面 窓前面はややくぼむ。 窓 主軸方向N-66°-E、全長95cm、最大幅115cm、
焚口部幅38cm 重複 H-4 b、H-6と重複し、本住居跡が新しい。 出土遺物 土師器・环、高环 時
期 6世紀第3四半期

H-6号住居跡 (Fig.21、PL. 5)

位置 X211・212、Y97・98グリッド 主軸方向 N-73°-E 形状等 東西(1.66)m、南北(2.87)m、壁
現高40cm 面積 [4.80]m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 窓 未検出。 重複
H-5と重複し、本住居跡が古い。 出土遺物 土師器破片 時期 不明

H-7号住居跡 (Fig.22、PL. 5)

位置 X211・212、Y96・97グリッド 主軸方向 N-59°-E 形状等 東西(4.64)m、南北(3.68)m、壁
現高17.5cm 面積 12.13m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 窓 未検出。 ピッ
ト P。 長軸31cm、短軸28cm、深さ35cm P。 長軸36cm、短軸25cm、深さ41.5cm 出土遺物 土師器、石 時
期 6世紀第2四半期

H-8号住居跡 (Fig.22、PL. 5・7)

位置 X210・211、Y97・98グリッド 主軸方向 N-76°-E 形状等 東西3.24m、南北3.12m、壁現高
44cm 面積 9.20m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 窓 主軸方向N-75°-E、
全長113cm、最大幅50cm、焚口部幅36cm 貯藏穴 長軸50cm、短軸38cm、深さ35.5cm ピット P。 長軸52cm、
短軸41cm、深さ11.5cm 出土遺物 土師器、須恵器、石 時期 6世紀第2四半期

H-9号住居跡 (Fig.23、PL. 6)

位置 X208・209、Y96・97グリッド 主軸方向 N-99°-E 形状等 東西3.00m、南北3.12m、壁現高
25cm 面積 8.51m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 窓 主軸方向N-100°-E、
全長132cm、最大幅70cm、焚口部幅36cm 出土遺物 土師器、須恵器 時期 9世紀第4四半期

H-10号住居跡 (Fig.23、PL. 6)

位置 X207~209、Y96・97グリッド 主軸方向 N-65°-E 形状等 東西(8.00)m、南北(5.24)m、壁現高44cm 面積 22.75m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 龜 未検出。 出土遺物 土師器、須恵器、石 時期 6世紀第2四半期

H-11号住居跡 (Fig.24)

位置 X205・206、Y96・97グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 東西(3.84)m、南北(3.10)m、壁現高42.5cm 面積 10.92m² 柱穴 P₁ 長軸40cm、短軸34cm、深さ54.5cm 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 龜 主軸方向N-89°-E、全長137cm、最大幅(112)cm、焚口部幅(64)cm、壁周溝○ ピット P₂ 長軸40cm、短軸35cm、深さ54.5cm 重複 H-12、H-13、H-14と重複。H-14より新しく、H-12・H-13より古い。 出土遺物 土師器 須恵器 石 時期 6世紀第4四半期

H-12号住居跡 (Fig.24)

位置 X205、Y96グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 東西(2.40)m、南北(2.94)m、壁現高21.5cm 面積 5.78m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 龜 主軸方向N-83°-E、全長72cm、最大幅100cm、焚口部幅25cm 重複 H-11、H-13と重複し、いずれの住居跡より新しい。 出土遺物 土師器、石 時期 7世紀

H-13号住居跡 (Fig.24)

位置 X205、Y96・97グリッド 重複 H-11、H-12、H-14と重複し、H-11、H-14より新しく、H-12より古い。 時期 不明

H-14号住居跡 (Fig.24、PL. 6)

位置 X203~205、Y96・97グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 東西6.16m、南北(5.32)m、壁現高69cm 面積 31.05m² 柱穴 P₁ 長軸30cm、短軸27cm、深さ34.5cm P₂ 長軸36cm、短軸28cm、深さ38.5cm P₃ 長軸40cm、短軸31cm、深さ34cm 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。炉、中央北寄り。 壁周溝○ 重複 H-11、H-13、H-15と重複し、本住居跡がいずれよりも古い。 出土遺物 土師器壺 時期 5世紀第3四半期

H-15号住居跡 (Fig.23、PL. 6)

位置 X203・204、Y96グリッド 主軸方向 N-96°-E 形状等 東西2.62m、南北3.06m、壁現高24.5cm 面積 7.56m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 龜 主軸方向N-96°-E、全長78cm、最大幅65cm、焚口部幅38cm 重複 H-14の覆土を切って構築。 出土遺物 羽釜、高台皿 時期 10世紀

H-16号住居跡 (Fig.24、PL. 6・8)

位置 X202・203、Y96グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 東西3.50m、南北(3.30)m、壁現高42cm 面積 11.50m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 龜 主軸方向N-89°-E、全長76cm、最大幅87cm、焚口部幅56cm 壁周溝○ 重複 I-1、W-3、H-17、H-23と重複。H-17・23よりも新しく、I-1、W-1より古い。 出土遺物 高台椀 時期 9世紀

H-17号住居跡 (Fig.25、PL. 6・8)

位置 X202・203、Y96・97グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 東西3.28m、南北不明、壁現高46cm 面積 3.11m² 窓 主軸方向N-84°-E、全長58cm、最大幅(52)cm、焚口部幅(36)cm 重複 I-1、W-3、H-16、H-23と重複し、H-23より新しく、H-16、I-1、W-3より古い。 出土遺物 土師器 時期 不明

H-18号住居跡 (Fig.26、PL. 7・8)

位置 X200・201、Y96グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 東西2.96m、南北3.56m、壁現高20.5cm 面積 9.20m² 床面 ほぼ平坦であるが硬化面は確認できなかった。 窓 主軸方向N-106°-E、全長68cm、最大幅50cm、焚口部幅21cm 重複 H-19・22と重複し、H-19より古く、H-22より新しい。 出土遺物 高台椀 石 時期 9世紀

H-19号住居跡 (Fig.26、PL. 7・8)

位置 X200・201、Y95・96グリッド 主軸方向 N-99°-E 形状等 東西2.68m、南北(1.62)m、壁現高16.5cm 面積 4.28m² 床面 ほぼ平坦であるが硬化面は確認できなかった。 窓 主軸方向N-107°-E、全長86cm、最大幅61cm、焚口部幅31cm 重複 H-18、H-20と重複し、いずれよりも新しい。 時期 不明

H-20号住居跡 (Fig.26、PL. 7・8)

位置 X199・200、Y96・97グリッド 主軸方向 N-86°-E 形状等 東西3.06m、南北3.86m、壁現高9cm 面積 10.80m² 床面 ほぼ平坦であるが硬化面は確認できなかった。 窓 主軸方向N-98°-E、全長76cm、最大幅62cm、焚口部幅32cm 重複 H-19と重複し、本住居跡が新しい。 出土遺物 糜穂整形皿 時期 11世紀

H-21号住居跡 (Fig.27、PL. 7)

位置 X196、Y96グリッド 主軸方向 N-98°-E 形状等 東西3.20m、南北3.13m、壁現高14.5cm 面積 8.60m² 床面 ほぼ平坦であるが硬化面は確認できなかった。東壁の調査区境に存在するが、形状規模等は不詳。 壁周溝 ○ 重複 B-1と重複し、本住居跡が古い。 出土遺物 高台椀 時期 9世紀後半

H-22号住居跡 (Fig.27、PL. 7・8)

位置 X201・202、Y95～97グリッド 主軸方向 N-70°-E 形状等 東西3.68m、南北3.92m、壁現高36.0cm 面積 13.94m² 柱穴 P₁ 長軸37cm、短軸34cm、深さ38.5cm P₂ 長軸40cm、短軸36cm、深さ48.5cm P₃ 長軸29cm、短軸21cm、深さ27cm P₄ 長軸41cm、短軸39cm、深さ46cm 床面 ほぼ平坦で中央部に硬化面あり。 炉 中央北寄り。 壁周溝 ○ 重複 H-18、H-19、H-23と重複し、H-23より新しく、H-18・H-19より古い。 時期 5世紀

H-23号住居跡 (Fig.28、PL. 7・8)

位置 X201・202、Y96・97グリッド 主軸方向 N-62°-E 形状等 東西4.34m、南北3.94m、壁現高38.5cm 面積 15.18m² 床面 ほぼ平坦であるが硬化面は確認できなかった。 炉 未検出 重複 W

— 3、H—16、H—17、H—22、I—1と重複し、いずれよりも古い。 出土遺物 須恵器 時期 5世紀

(2) 溝跡

W—1号溝跡 (Fig.29、PL.5)

位置 X211・212、Y99グリッド 主軸方向 N—98°—E 形状等 長さ3.88m、深さ29.5cm、最大上幅60cm、最大下幅40cm。底部に狭い平坦面をもつV字状を呈する。 時期 不明

W—2号溝跡 (Fig.29、PL.5)

位置 X211.212、Y98.99グリッド 主軸方向 N—97°—E 形状等 長さ4.10m、深さ113.0cm、最大上幅310cm、最大下幅60cm。断面U字状。 時期 不明

W—3号溝跡 (Fig.25)

位置 X202、Y97グリッド 主軸方向 N—86°—E 形状等 長さ4.20m、深さ17.5cm、最大上幅70cm、最大下幅64cm。断面台形。 時期 不明

(3) 土坑、掘立柱建物

D—1号土坑 (Fig.25)

位置 X213、Y97グリッド 形状等 深さ25.0cm、長軸102.0cm、短軸62.0cm

D—2号土坑 (Fig.25)

位置 X213、97グリッド 形状等 深さ25.0cm、長軸102.0cm、短軸62.0cm

B—1号掘立柱建物跡 (Fig.28、PL.8)

位置 X195～197、Y95・96グリッド

P—1 長軸76cm、短軸53cm、深さ57.5cm

P—2 長軸102cm、短軸92cm、深さ47cm

P—3 長軸96cm、短軸90cm、深さ54cm

P—4 長軸71cm、短軸69cm、深さ49cm

P—1～P—2の距離1.75m、P—2～P—3の距離1.76m、P—3～P—4の距離1.82m

(4) 正確不明遺構

X—1 (Fig.28)

位置 X213、Y97グリッド 形状等 深さ25.0cm、長軸102.0cm、短軸62.0cm

3 b 区

(1) 壇穴住居跡

H—1号住居跡 (Fig.29、PL.9)

位置 X213・214、Y108～110グリッド 主軸方向 N—64°—E 形状等 東西(5.70)m、南北6.18m、壁現高43.5cm 面積 23.15m² 柱穴 P₁ 長軸52cm、短軸48cm、深さ30cm P₂ 長軸78cm、短軸52cm、深さ57.5cm P₃ 長軸70cm、短軸52cm、深さ54.5cm P₄ 長軸34cm、短軸28cm、深さ67cm P₅ 長軸28cm、短

軸20cm、深さ16cm 床面 中央部に硬化面あり。 窟 未検出。 壁周溝 ○ 重複 H-2と重複し、本住居跡が新しい。 出土遺物 須恵器台、土師器高坏、刀子・釘 時期 6世紀第2後半

H-2号住居跡 (Fig.29、PL.9)

位置 X213・214、Y108～110グリッド 主軸方向 N-74°～E 形状等 東西(4.00)m、南北7.24m、壁現高38.5cm 面積 16.57m² 柱穴 P₄ 長軸40cm、短軸35cm、深さ63cm 床面 ほぼ平坦であるが硬化面は確認できなかった。 壁周溝 ○ 窟 未検出。 重複 H-1と重複し、本住居跡が古い。 出土遺物 須恵器、釘 時期 不明 備考 本住居跡出土として記載した高台榦、灰釉陶器は覆土中に掘り込まれた擾乱より出土。

H-3号住居跡 (Fig.30、PL.9)

位置 X213・214、Y107、108グリッド 主軸方向 N-90°～E 形状等 東西(1.70)m、南北(4.18)m、壁現高13.5cm 面積 6.33m² 床面 ほぼ平坦であるが硬化面は確認できなかった。 窟 主軸方向N-101°～E、全長73cm、最大幅54cm、焚口部幅28cm 重複 H-4、H-5と重複し、H-5より新しく、H-4より古い。 出土遺物 須恵器・大甕・壺、土師器・坏 時期 6世紀第4四半期

H-4号住居跡 (Fig.30)

位置 X213、Y106・107グリッド 主軸方向 N-70°～E 形状等 東西(5.8)m、南北(13.2)m、壁現高35cm 面積 (0.38m²) 床面 ほぼ平坦で中央部に硬化面あり。 窟 未検出。 重複 H-3と重複し、H-3より新しい。 時期 重複関係からは7世紀以降

H-5号住居跡 (Fig.30)

位置 X214、Y106・107グリッド 主軸方向 N-100°～E 形状等 東西(3.48)m、南北(2.46)m、壁現高3.5cm 面積 7.29m² 床面 中央部に硬化面あり 窟 未検出。 重複 H-3、H-9と重複し、いずれよりも新しい。 出土遺物 高台榦 時期 10世紀前半

H-6号住居跡 (Fig.30、PL.10)

位置 X214、Y105・106グリッド 主軸方向 N-112°～E 形状等 東西(3.20)m、南北3.90m 面積 10.36m² 床面 ほぼ平坦で硬化面あり。 窟 主軸方向N-113°～E、全長89cm、最大幅78cm、焚口部幅26cm 貯蔵穴 P₅ 長軸48cm、短軸42cm、深さ27cm 重複 H-7～9と重複し、いずれよりも新しい。 出土遺物 灰釉陶器、瓦、羽釜、土師器、鉄製品、須恵器、石 時期 10世紀前半

H-7号住居跡 (Fig.30)

位置 X214、Y105グリッド 形状等 不明 床面 窟前面に硬化面あり。 窟 主軸方向N-110°～E、全長72cm、最大幅114cm、焚口部幅60cm 貯蔵穴 P₆ 長軸72cm、短軸66cm、深さ18cm 重複 H-6、H-9、H-11と重複し、いずれよりも新しい。 出土遺物 高台榦 時期 10世紀後半

H-8号住居跡 (Fig.31、PL.9・10)

位置 X213・214、Y105・106グリッド 主軸方向 N-62°～E 形状等 東西(1.58)m、南北(2.18)m、壁現高27cm 面積 1.76m² 床面 ほぼ平坦。 窟 主軸方向N-60°～E、全長(67)cm、最大幅99cm、焚口

部幅48cm 壁周溝 ○ 貯蔵穴 P₅ 長軸57cm、短軸47cm、深さ47cm 重複 H-6、H-9と重複し、いずれよりも古い。 時期 不明

H-9号住居跡 (Fig.31、PL.9・10)

位置 X214、Y106グリッド 主軸方向 N-96°-E 形状等 東西(3.84)m、南北(7.50)m、壁現高33cm
面積 23.03m² 床面 ほぼ平坦であるが硬化面は確認できなかった。 窟 未検出。 壁周溝 ○ 重複
H-6～H-13と重複し、H-6～H-9より古く、H-10～H-13より新しい。 出土遺物 丸瓶 時期
不明

H-10号住居跡 (Fig.31)

位置 X214、Y105グリッド 主軸方向 N-96°-E 形状等 東西(0.88)m、南北(0.86)m、壁現高3cm
面積 0.68m² 床面 やや凹凸あり。 窟 未検出。 重複 H-9、H-11、H-13と重複し、いずれよ
りも新しい。 時期 不明

H-11号住居跡 (Fig.31)

位置 X214、Y105グリッド 面積 1.7m² 床面 ほぼ平坦。 窟 未検出。 重複 H-9、H-10、H
-12、H-13と重複し、H-9、H-12、H-13より新しく、H-10より古い。 時期 不明

H-12号住居跡 (Fig.31、PL.9)

位置 X214、Y105グリッド 形状等 不明。貯蔵穴のみ検出。 窟 未検出。 重複 H-7、H-9、
H-11、H-13と重複し、いずれよりも新しい。 出土遺物 土師器 時期 5世紀第4四半期

H-13号住居跡 (Fig.31)

位置 X214、Y105・106グリッド 窟 未検出。 重複 H-6、H-7、H-9～H-12と重複し、いず
れよりも古い。 出土遺物 土師器壊 時期 6世紀後半

(2) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.29)

位置 X213・214、Y106グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 長さ3.90m、深さ31.0cm、最大上幅76
cm、最大下幅47cm。断面台形状。 時期 不明

Table.11 3区 住居跡一覧表

3a [K]

遺構名	位置	規 模 (m)			面積 (m ²)	主軸方向	電		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高(cm)			位 置	構架材		土師器	須恵器	その他
H-1	X211・212 Y99・100	(0.15)	3.20	10.0	8.65	N-68°-E	東壁南寄り	粘土	○	⋮	⋮	石
H-2	X211 Y98	⋮	⋮	⋮	⋮	計測不能	電のみ検出	粘土	○	⋮	⋮	⋮
H-3	X211・212 Y98	(0.78)	(1.54)	32.5	⋮	N-57°-E	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
H-4 a	X213 Y98	(0.26)	(0.96)	35.0	0.96	N-90°-E	⋮	⋮	○	⋮	⋮	⋮
H-4 b	X213 Y97・98	(0.18)	(0.88)	28.5	(4.04)	N-27°-E	⋮	⋮	○	⋮	⋮	⋮
H-5	X212・213 Y97・98	2.84	(3.08)	39.0	6.94	N-73°-E	東壁中央	粘土	○	⋮	⋮	石
H-6	X211・212 Y97・98	⋮	⋮	⋮	⋮	N-73°-E	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

遺構名	位置	規 模 (m)			面積 (m ²)	主軸方向	電		周講	主な出土物		
		東西	南北	壁厚高(cm)			位 置	構築材		土師器	須恵器	その他の
H-7	X211・212 Y96・97	(4.64)	(3.68)	17.5	12.13	N-59°-E				○		石
H-8	X210・211 Y97・98	3.24	3.12	44.0	9.20	N-76°-E	東壁中央	粘土		○	○	石
H-9	X208・209 Y96・97	3.00	3.12	25.0	8.51	N-99°-E	東壁中央	粘土		○	○	
H-10	X207・209 Y96・97	(8.00)	(5.24)	44.0	22.75	N-65°-E				○	○	石
H-11	X205・206 Y96・97	(3.84)	(3.10)	42.5	10.92	N-92°-E	東壁	粘土	○	○	○	石
H-12	X205 Y96	(2.40)	(2.94)	21.5	5.78	N-85°-E	東壁中央	粘土		○		石
H-13	X205 Y96・97											
H-14	X203・205 Y96・97	6.16	(5.32)	69.0	31.05	N-92°-E			○	○		石
H-15	X203・204 Y96	2.62	3.06	24.5	7.56	N-96°-E	東壁南寄り	粘土				羽量
H-16	X202・203 Y96	3.50	(3.30)	42.0	11.50	N-95°-E	東壁中央	粘土	○	○		石
H-17	X202・203 Y96・97	3.28	(1.18)	46.0	3.11	N-95°-E	東壁中央	粘土		○		石
H-18	X200・201 Y96	2.96	3.56	20.5	9.20	N-88°-E	東壁南寄り	粘土		○	○	石
H-19	X200・201 Y95・96	2.68	(1.62)	16.5	4.28	N-99°-E	東壁南寄り	粘土		○	○	
H-20	X199・200 Y96・97	3.06	3.86	9.0	10.80	N-86°-E	東壁南寄り	粘土				
H-21	X196 Y96	3.20	3.13	14.5	8.60	N-98°-E			○	○		
H-22	X201・202 Y95・97	3.68	3.92	36.0	13.94	N-70°-E			○			
H-23	X201・202 Y96・97	4.34	3.94	38.5	15.18	N-62°-E				○		

3 b区

遺構名	位置	規 模 (m)			面積 (m ²)	主軸方向	電		周講	主な出土物		
		東西	南北	壁厚高(cm)			位 置	構築材		土師器	須恵器	その他の
H-1	X213・214 Y108・110	(5.70)	6.18	43.5	23.15	N-64°-E			○	○		石
H-2	X213・214 Y108・110	(4.00)	7.24	38.5	16.57	N-74°-E			○		○	釘
H-3	X213・214 Y107・108	(1.70)	(4.18)	13.5	6.33	N-90°-E	東壁南寄り	粘土				かわらけ
H-4	X213 Y106・107	(5.8)	(13.2)	35.0	9.38	N-70°-E			○	○		
H-5	X214 Y106・107	(3.48)	(2.46)	3.5	7.29	N-100°-E						
H-6	X214 Y105・106						東壁南寄り	粘土	○	○		羽量等
H-7	X214 Y105							?	粘土			鉄・石
H-8	X213・214 Y105・106	(1.58)	(2.18)	27.0	1.76	N-62°-E	東壁中央	粘土	○	○		
H-9	X214 Y106	(3.84)	(7.50)	33.0	23.03	N-96°-E			○			丸瓶
H-10	X214 Y105	(0.88)	(0.86)	3.0	0.68	N-96°-E						
H-11	X214 Y105											
H-12	X214 Y105								○			
H-13	X214 Y105・106											

Tab.12 3区 溝跡計測表

3 a区

遺構名	位置	長さ(m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X211・212 Y99	3.88	29.5		60.0		40.0		N-98°-E	V字形	
W-2	X211・212 Y98・99	4.10	113.0		330.0		60.0		N-97°-E	U字形	
W-3	X202 Y97	4.20	17.5		70.0		64.0		N-86°-E	台形状	

3 b区

遺構名	位置	長さ(m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X213・214 Y106	3.90	31.0		76.0		47.0		N-88°E	台形状	

Tab.13 3区 土坑・井戸跡計測表

3 a区

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土 遺物	備 考
D-1	X713、Y97	102	62	25			
I-1	X262、Y96	110	95	(48.5)	楕円形		

Tab.14 3区 古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

3 a区

番号	出土遺物	形様名	①口径 ②底径	③側高 ④底高	⑤側厚 ⑥底厚	断面形	器種の特徴・型式・調整技術	登録番号	備 考	
3a-1	H-1	土器腹 壺	①29.4 ③-	②8.3	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR7/6個 ⑩完形	口縁部：外反。内外面無で、外面部削り。胴部：上位に膨らみ。器底大径。内・外面部で、底部欠損。	5		
3a-2	H-1	土器腹 壺	①11.4 ③-	②9.5	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR7/8個 ⑩完形	口縫：体部：外傾、内外面横椭で、底部との交換点に横溝。底部：丸底。内外面で、外面部削り。	図8		
3a-3	H-1	土器腹 壺	①12.6 ③-	②4.4	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR7/6個 ⑩完形	口縫：や外反、内外面横椭で。底部：丸みを帯びた平底。内外面で、外面部削り。	2		
3a-4	H-1	土器腹 壺	①12.0 ③-	②3.3	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR7/6個 ⑩完形	口縫：体部：外傾、内外面横椭で、底部との交換点に横溝。底部：丸底。内外面で、外面部削り。	図		
3a-5	H-1	土器腹 壺	①13.6 ③-	②5.5	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR7/6個 ⑩完形	口縫：外傾、内外面横椭で後底又は底。外面部削り。底部：平底。内外面で、縫隙付き底縁有り、外面部削り。	8		
3a-6	H-1	土器腹 壺	①12.6 ③-	②4.4	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR7/8個 ⑩完形	口縫：外傾、内外面横椭で。外面部横椭で底部付石置削り。底部：平底。内外面で、外面部削り。	図1		
3a-7	H-1	土器腹 壺	①14.5 ③-	②4.5	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR6/8個 ⑩完形	口縫：直立。内外面横椭で。底部：丸底。内外面で、外面部削り。	7		
3a-8	H-1	土器腹 長削壺	①20.7 ③-	②40.3	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR6/8個 ⑩完形	口縫：器底大径。外反。内・外面部削り。胴部・底部：内外面削り。外面部削り。	図7、 31, 37		
3a-9	H-1	土器腹 長削壺	①20.6 ③5.6	②37.2	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR6/6個 ⑩完形	口縫：器底大径。外反。内・外面部削り。胴部・底部：内外面削り。外面部削り。	図20, 21, 23, 26, 28, 30, 47	酸化焰	
3a-10	H-1	土器腹 長削壺	①21.0 ③-	②26.0	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR6/4Cにいわ ⑩完形	口縫：器底大径。外反。内・外面部削り。胴部・底部：内外面削り。外面部削り。	46	酸化焰	
3a-11	H-1	土器腹 長削壺	①21.5 ③-	②32.0	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR6/4Cにいわ ⑩完形	口縫：器底大径。外反。内・外面部削り。胴部・底部：内外面削り。外面部削り。	1	酸化焰	
3a-12	H-2	土器腹 壺	①12.1 ③-	②4.4	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR1/4個 ⑩完形	口縫：外傾。内外面横椭で。外面部削り。底部：丸底。内外面横椭で。外面部削り。	図2	酸化焰	
3a-13	H-2	土器腹 壺9万	①13.4 ③-	②4.6	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR5/6個小丸 ⑩完形	輪廓形、口縫：底部：底部から丸みを帯びて立ち上がり。や外反。内外面削り。底部：内外面で、外面部削り。切妻。	図3	酸化焰	
3a-14	H-3	土器腹 壺	①23.4 ③-	②12.5	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR2/3Cにいわ ⑩絆部破片	輪廓形：「ノック」型。内凹部で、外方に切妻あり。輪縁で突起の所で加工した輪縁削り残る。胴部：内外面削り。外面部横椭部で、底部付近の底縁削り。一部底位の底縁削り。底部：丸底。周辺の壁が薄く、削れやすい印象。底部は破損させ、電の端部に軋まれていた。	図土		
3a-15	H-4	土器腹 壺	①-	②2.8	③0.7	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR7/4Cにいわ ⑩底部破片	輪廓形、口縫部：ほぼ直立。内外面横椭削り。底部：断面三角形でほぼ水平付近。胴部：内外面横椭削り。胴部内面下位に凹所。段差となる箇所有り。開口：水平方向で大きめの丸底。内外面削り。	6	
3a-16	H-5	土器腹 壺	①12.1 ③-	②3.7	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR6/6個 ⑩完形	口縫：底部の凹間に有る。口縫部：ほぼ直立。内外面横椭削り。底部：直立。内・外面部削り。底部付近に横溝。底部：浅い丸底。内外面削り。	図1		
3a-17	H-5	土器腹 壺	①13.6 ③(3.3)	②4.0	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR7/4個 ⑩完形	口縫：大きく外傾。内・外面部削り。底部付近に横溝。底部：浅い丸底。内外面削り。	図2		
3a-18	H-5	土器腹 壺	①12.5 ③-	②2.9	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR6/6個 ⑩完形	輪廓形、口縫：底部：底部から丸みを帯びて立ち上がり。や外反。内外面削り。底部：内外面で、外面部削り。	2	酸化焰	
3a-19	H-7	土器腹 壺	①(14.4) ③-	②(9.4)	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR7/4個 ⑩完形	輪廓削く外反。口縫部横状。口縫部削り。内外面削り。		酸化焰	
3a-20	H-8	土器腹 壺	①11.7 ③-	②2.6	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR6/6個 ⑩完形	口縫：体部：外傾。内外面横椭削り。底部：丸底。内外面削り。外面部削り。	3		
3a-21	H-8	土器腹 壺	①10.7 ③-	②2.4	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR6/6個 ⑩完形	口縫：体部：外傾。内外面横椭削り。底部：丸底。内外面削り。	図2		
3a-22	H-8	土器腹 壺	①14.4 ③-	②4.5	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR6/6個 ⑩完形	口縫：体部：外傾。内外面横椭削り。底部：丸底。内外面削り。	23		
3a-23	H-8	土器腹 壺	①(11.3) ③-	②(9.8)	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR6/6個青黄 ⑩完形	口縫：底部の端に横に有る。口縫部：ほぼ直立。内外面横椭削り。外面部削り。底部：丸底。内外面削り。	図1	酸化焰成	
3a-24	H-8	土器腹 壺	①11.3 ③-	②4.7	④1.0 ⑤2.0 ⑥1.0	⑦圓柱 ⑧直身 ⑨35YR6/6個青黄 ⑩完形	口縫：底部の端に横に有る。口縫部：ほぼ直立。内外面横椭削り。外面部削り。底部：丸底。内外面削り。	4	酸化焰成	

番号	出土遺物	器物名	①口縁 ②底	③土 ④底 ⑤側面 ⑥底付	器物の特徴・形態・調整技術	登録番号	備考
3a-25	H-8	土加藤 环	①(13.8) ②(4.8) ③-	①(8.6) ②丸底 ③SYR6/18白 ④(2)	口縁と底部の境に棱を有する。口縁部：ほぼ直立、内外面横擦で、外表面削り。底部：丸底、内面擦で、外表面削り。	1	
3a-26	H-8	土加藤 环	①(11.6) ②(4.1) ③-	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/2丸黄 ④(1) ⑤(2) ⑥	口縁と底部の境に棱を有する。口縁部：ほぼ直立、内外面横擦で、外表面削り。底部：丸底、内面擦で、外表面削り。	6, 7, 8	
3a-27	H-8	土加藤 环	①(11.8) ②(3.7) ③(3/4)	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/6白 ④(3/4)	口縁と底部の境に棱を有する。口縁部：内外面横擦で、外表面削り。底部：丸底、内面擦で、外表面削り。	13	酸化垢
3a-28	H-8	土加藤 环	①(12.2) ②(3.7) ③-	①(9.6) ②丸底 ③(4/5)	軸織形。口縁と底部の外縁から外反した口縁部に至る。 底部：回転刃切り。	46, 褐土	
3a-29	H-8	土加藤 环	①(24.8) ②(24.5) ③-	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/4C/21-1 機 ④(1.7)	口縁部：外反、内外面擦で、外表面削り。肩部：上位に瘤み。 基部大径、内・外表面で、底部に瘤。	34	
3a-30	H-8	土加藤 环	①(14.0) ②(23.4) ③-	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/18白 ④(1/3)	口縁部：外反、内・外表面で、外表面削り。砂炒合せ。脚部：丸底、内・外表面で、外表面削り。砂炒合せ。脚部底付以下大傾。	35, 42, 49, 61	
3a-31	H-9	高足 環	①(11.8) ②(3.8) ③-	①(9.6) ②丸底 ③(4/5)	軸織形。底部一部底付部、口縁部近く外折。内外面軸織擦で、手持ち削り。	8, 12	酸化垢
3a-32	H-9	高足 環	①(14.9) ②(5.6) ③(3/7.1)	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/9白小窓 ④(2.7)	軸織形。口縁と底部外折。内外面横擦で、外回転刃切り調整後、斜面内角形の高台を取り付け。	7	酸化垢
3a-33	H-9	高足 環	①(13.2) ②(5.1) ③-	①(9.6) ②丸底 ③(4/3)	軸織形。口縁、底部底付部、口縁部近く外折。内外面軸織擦で、手持ち削り。	3	
3a-34	H-9	环	①(12.2) ②(4.6) ③(3/8)	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/7(3/2) 21-1 機 ④(2/3)	軸織形。底部一部底付部、口縁部近く外折。内外面軸織擦で、手持ち削り。		酸化垢或成気球
3a-35	H-9 電	高足 環	①(14.8) ②(5.0) ③-	①(9.6) ②丸底 ③(4/3)	軸織形。口縁と底部外折。内外面横擦で、底部内面横擦で、外回転刃切り調整後内角形の高台を取り付け。	電3	
3a-36	H-9 電	高足 环	①(12.4) ②(4.6) ③(3/7.3)	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/4C/21-1 機 ④(2.7)	軸織形。口縁と底部外折。内外面横擦で、底部内面横擦で、外回転刃切り後斜面内角形の高台を取り付け。	電10	酸化垢或成気球
3a-37	H-10	土加藤 环	①(12.4) ②(4.7) ③(3/4)	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/7(3/2) 21-1 機 ④(2/3)	口縁と底部の境に棱を有する。口縁部：ほぼ直立、内外面横擦で、外表面削り。底部：丸底、内面擦で、外表面削り。	1, 褐土	酸化垢
3a-38	H-10	高足 环	①(13.0) ②(6.7) ③-	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/6高脚 ④(6.0) ⑤(6.0) ⑥	軸織形。环部、底部：緩やかに外折、内外面横擦で、底部や外折。外回転部は軸織擦で、脚部に近い場所は回し置削り。脚部：丸底、内面擦で、外表面削り。	2	褐元垢
3a-39	H-11	土加藤 环	①(12.8) ②(4.4) ③-	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/7(3/2) 21-1 機 ④(2/3)	軸織形。口縁と底部外折。内外面横擦で、底部内面横擦で、外表面削り。	3	
3a-40	H-11	土加藤 环	①(14.4) ②(4.5) ③-	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/6白 ④(2/2)	口縁と底部の境に棱を有する。口縁部：ほぼ直立、内外面横擦で、外表面削り。底部：丸底、内面擦で、外表面削り。	4, 5, 6	
3a-41	H-11, H-17周	土加藤 环	①(13.7) ②(3.9) ③-	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/18白 ④(2/2)	口縁と底部の境に棱を有する。口縁部：ほぼ直立、内外面横擦で、外表面削り。底部：丸底、内面擦で、外表面削り。	南, 褐土	
3a-42	H-11	土加藤 环	①(13.2) ②(3.8) ③-	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/6白 ④(2/2)	軸織形。口縁と底部外折。内外面横擦で、外表面削り。	褐土	
3a-43	H-11	土加藤 环	①(26.2) ②(34.6) ③(11.8)	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/7(3/2) 21-1 機 ④(9/10)	軸織形。口縁部：ほぼ直立、内外面横擦で、底部：脚部二段階でほぼ直立。脚部：内外面横擦で、脚部内面側に4箇所、段状となる瘤み有り。脚部：本水平方向に大きく外反。	24, 34, 褐土	酸化垢
3a-44	H-12	土加藤 环	①(10.8) ②(3.9) ③-	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/4C/21-1 機 ④(2/2)	口縁と底部の境に棱を有する。口縁部：内外面横擦で、外表面削り。	9	
3a-45	H-12	土加藤 环	①(10.3) ②(3.2) ③-	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/6白 ④(2/2)	口縁と底部の境に棱を有する。口縁部：ほぼ直立、内外面横擦で、外表面削り。底部：丸底、内面擦で、外表面削り。	12	
3a-46	H-12, 土加藤 14	土加藤 环	①(20.8) ②(3.5) ③-	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/6白 ④(3/4)	口縁と底部外折。内外面横擦で、外表面削り。底部：丸底、内面擦で、外表面削り。	17	
3a-48	H-14	土加藤 小型型	①(17.4) ②(11.8) ③(4.4)	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/4C/21-1 機 ④(2/2)	軸織形。口縁部：丸底より外折、内・外面擦で。底部：内面擦で、外回転刃切り削り。底部：平底突起、内面擦で、外表面削り。	1	
3a-49	H-15	高足 環	①(12.6) ②(3.8) ③-	①(9.6) ②丸底 ③(4/5)	軸織形。口縁と底部外折した脚部から口縁部に至る。底部：内面擦で。	褐土	酸化垢
3a-50	H-15	高足 環	①(10.6) ②(3.5) ③(3.4)	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/6白 ④(2/2)	口縁部：丸底。脚部：内・外表面軸織擦で。底部：内面擦で、回転刃切り後、高台を取り付け。	1	酸化垢
3a-51	H-16	高足 環	①(9.6) ②(2.5) ③-	①(9.6) ②丸底 ③(4/3)	軸織形。口縁部：丸底。外底：回転刃切。	褐土	酸化垢
3a-52	H-16	土加藤 环	①(9.6) ②(2.9) ③(5.8)	①(9.6) ②丸底(不均) ③SYR6/2丸黄 ④(3/4) ⑤(完)	軸織形。口縁と底部：底から丸みを帯びて立ち上がり、やや外反。内外面擦で、底部：内面擦で、外回転刃切り。	10	酸化垢
3a-53	H-16	高足 环	①(9.9) ②(2.6) ③(5.8)	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/2丸白 ④(2/2)	軸織形。口縁と底部外折。内外面横擦で。底部：内面擦で、手持ち削り。	9	酸化垢
3a-54	H-16	高足 环	①(10.0) ②(2.0) ③(5.6)	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/18白 ④(2/2)	軸織形。口縁と底部外折。内外面横擦で。底部：内面擦で、外表面削り。	1	褐元垢
3a-55	H-16	高足 环	①(14.9) ②(6.3) ③(8.4)	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/2丸白 ④(3/4) ⑤(完)	軸織形。口縁と底部外折。内外面横擦で。底部：内面横擦で、外回転刃切り調整後、斜面内角形の高台を取り付け。	2	酸化垢
3a-56	H-18	高足 环	①(13.6) ②(4.8) ③(6.8)	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/4C/21-1 機 ④(2/2)	軸織形。口縁と底部外折。内外面横擦で。底部：内面擦で、手持ち削り。	1	酸化垢或成気球
3a-57	H-18	环	①(13.3) ②(4.6) ③(5.8)	①(9.6) ②丸底 ③SYR6/18白 ④(3/4) ⑤(完)	軸織形。口縁と底部外折。内外面横擦で。底部：内面擦で、手持ち削り。	1	酸化垢或成気球

番号	出土遺物 位	器種名	①口径 ②底径	③脚高 ④底脚 ⑤底脚 ⑥底脚	器種の特徴・形態・調整技術	登録番号	備考
3a-56	H-18	須惠器 高台脚	①(13.7) ②(5.3) ③(5.8)	④(6.8) ⑤(2.4) ⑥(2.5) ⑦(2.4)	輪縁整形。口縁部：欠損。体部：内・外面部輪縁部。底部：内面 輪縁部、回転赤目り。高台を取付け。	電2	酸化焼成気味
3a-59	H-18 電	カワツ	①(9.6) ②(2.8) ③(—)	④(2.9) ⑤(2.5) ⑥(2.4)	輪縁整形。口縁部：欠損。体部・底部：内外面部輪縁部。回転 赤目りあり。	2	
3a-60	H-20	カワツ	①(9.3) ②(2.5) ③(—)	④(2.9) ⑤(2.5) ⑥(2.4)	輪縁整形。口縁部：欠損。体部・底部：内外面部輪縁部。回転 赤目りあり。	3	
3a-61	H-20	須惠器 カワツ	①(9.9) ②(1.8) ③(—)	④(2.9) ⑤(2.5) ⑥(2.4)	輪縁整形。口縁部：欠損。体部・底部：内外面部輪縁部。回転 赤目りあり。	3	
3a-62	H-20 須惠器 電	カワツ	①(11.8) ②(2.8) ③(—)	④(2.9) ⑤(2.5) ⑥(2.4)	輪縁整形。口縁部：外脚。底部：回転赤目。	電9	
3a-63	H-20	土師器 環	①(10.6) ②(2.3) ③(6.5)	④(3.0) ⑤(2.5) ⑥(2.4)	輪縁整形。口縁部：大まく輪縁なし。内面部無。底部：内面 輪縁部で、外面部回転赤目り。茎部で後、付け舟台。底部一鉄 片舟、文字彫り。	電6	
3a-64	H-21 D-1	高台脚	①(10.8) ②(4.4) ③(—)	④(2.9) ⑤(2.5) ⑥(2.4)	輪縁整形。口縁・体部：外脚。内面部輪縁部。底部：内面輪 縁部で、外面部輪縁を調整後、断面四角形の高台を取り付け。		酸化焼成 気味
3a-65	H-23	須惠器 环	①(15.8) ②(5.8) ③(—)	④(3.0) ⑤(2.6) ⑥(2.5)	輪縁整形。天井部：平底から腰部やかに傾斜。内面部輪縁部で、外 面部輪縁削り。燒け跡。鶏目：ボタン状。	2	光沢感
3a-66	X-1	須惠器 カワツ	①(10.2) ②(2.9) ③(5.6)	④(2.9) ⑤(2.5) ⑥(2.4)	輪縁整形。口縁部：欠損。体部・底部：内外面部輪縁部。回転 赤目りあり。	1	
3a-67	X-1	須惠器 环	①(10.2) ②(2.9) ③(5.4)	④(2.9) ⑤(2.5) ⑥(2.4)	輪縁整形。口縁・体部：外脚。内面部輪縁部。外面部削り。底部：丸底。 内外面部輪縁部。外面部削り。	2, 4	酸化焼成 気味
3a-68	X-1	灰釉 高台脚	①(12.6) ②(2.2) ③(7.4)	④(2.9) ⑤(2.5) ⑥(2.4)	輪縁整形。口縁・体部：大きく外脚。内面部輪縁部。底部：内面 輪縁部で、外面部輪縁を切る。腰部で後、付け高台。内面中央に指印 痕有。	2, 4	

3 b区

番号	出土遺物 位	器種名	①口径 ②底径	③脚高 ④底脚 ⑤底脚 ⑥底脚	器種の特徴・形態・調整技術	登録番号	備考
3b-70	H-1	須惠器 高环	①(—) ②(6.0) ③(—)	④(0.9) ⑤(2.6) ⑥(2.5) ⑦(2.4)	輪縁整形。口縁部：欠損。内・外面部。体部：内面部で、外 面部は輪縁部で、下位回転削り。底部：平底気味。内面部で、外 面部は輪縁削り。	3, 4	
3b-71	H-1	土師器 高环	①(—) ②(9.0) ③(16.1)	④(1.0) ⑤(2.6) ⑥(2.5)	脚部のみ残存。脚部は下方方に開いて下る。	6	酸化感
3b-72	H-1	須惠器 高环	①(11.0) ②(11.7) ③(—)	④(1.0) ⑤(2.6) ⑥(2.5) ⑦(2.4)	輪縁整形。环部：腰部やかに外脚。内面部輪縁部。腰部やかに内脚。 外面部は輪縁然。脚部に近い場所は回転削り。脚部：欠損。	覆土	
3b-74	H-2	須惠器 高台脚	①(13.2) ②(2.7) ③(3.1)	④(0.9) ⑤(2.6) ⑥(2.5) ⑦(2.4)	輪縁整形。口縁・体部：大まく外脚。内面部輪縁部。底部：内面 輪縁部で、外面部削り。茎部で後、付け高台。底部一鉄片舟、 文字彫り。	1	酸化焼成気味
3b-75	H-2	須惠器 高台脚	①(13.8) ②(2.7) ③(3.5)	④(0.9) ⑤(2.6) ⑥(2.5) ⑦(2.4)	輪縁整形。口縁・体部：外脚。内面部輪縁部。底部：回転赤目り 後、2cm前の高さの外脚を付ける。	2	酸化感
3b-76	H-2	灰釉 高台脚	①(14.6) ②(4.3) ③(4.6)	④(1.0) ⑤(2.6) ⑥(2.5) ⑦(2.4)	輪縁整形。口縁部：やや外脚。内面部輪縁部。体部：丸みを帯びて 外脚。内面部輪縁部。底部：内面部輪縁部。外面部削り。付 け高台。	3	
3b-77	H-3	土師器 环	①(11.3) ②(4.0) ③(—)	④(0.9) ⑤(2.6) ⑥(2.5) ⑦(2.4)	口縁・体部：大まく外脚。内面部輪縁部。底部：丸底。 内面部輪縁部。外面部削り。	覆土	酸化感
3b-78	H-3	土師器 环	①(11.6) ②(3.5) ③(—)	④(0.9) ⑤(2.6) ⑥(2.5) ⑦(2.4)	輪縁整形。口縁部：短く腰立。内面部輪縁部。脚部：大き く膨らみ中位で最も膨大。内面部輪縁部。底部：回転赤 目り後、削除した脚部の高さを付ける。	覆土	
3b-79	H-3	土師器 环	①(13.0) ②(4.0) ③(—)	④(0.9) ⑤(2.6) ⑥(2.5) ⑦(2.4)	口縁・体部：外脚。内面部輪縁部。外面部削り。底部：丸底。 内面部輪縁部。外面部削り。	4	
3b-81	H-1	土師器 環	①(20.4) ②(8.3) ③(—)	④(1.0) ⑤(2.6) ⑥(2.5) ⑦(2.4)	口縁部：一部破損。外脚。内面部輪縁部。外脚：回転赤目 後、2cm前の高さの外脚を付ける。	5	
3b-82	H-2	須惠器 高台脚	①(13.8) ②(2.7) ③(3.5)	④(0.9) ⑤(2.6) ⑥(2.5) ⑦(2.4)	輪縁整形。口縁・体部：外脚。内面部輪縁部。底部：回転赤 目り後、2cm前の高さの外脚を付ける。	2	酸化感
3b-83	H-3	土師器 環	①(10.0) ②(2.7) ③(—)	④(0.9) ⑤(2.6) ⑥(2.5) ⑦(2.4)	輪縁整形。口縁部：外脚。内面部輪縁部。外脚：回転赤 目り後、2cm前の高さの外脚を付ける。	3	
3b-84	H-3	土師器 环	①(13.0) ②(4.0) ③(—)	④(0.9) ⑤(2.6) ⑥(2.5) ⑦(2.4)	輪縁整形。口縁部：短く腰立。内面部輪縁部。外脚：回転赤 目り後、削除した脚部の高さを付ける。	4	
3b-85	H-3	須惠器 短脚壺	①(10.2) ②(8.9) ③(—)	④(0.9) ⑤(2.6) ⑥(2.5) ⑦(2.4)	輪縁整形。口縁部：短く腰立。内面部輪縁部。外脚：回転赤 目り後、削除した脚部の高さを付ける。	電3	光沢感
3b-86	H-3	須惠器 壺	①(17.8) ②(26.0) ③(—)	④(0.9) ⑤(2.6) ⑥(2.5) ⑦(2.4)	輪縁整形。口縁部：ほぼ直立。内面部輪縁部。底部：断面三 角形ではほぼ水平に付く。剝離：内面部輪縁部。剝離下面下 位に4箇所、段状になる窪み有り。脚部：水平方向に大きくなり 外脚。	覆土	
3b-87	H-3	土師器 壺	①(9.8) ②(9.3) ③(—)	④(0.9) ⑤(2.6) ⑥(2.5) ⑦(2.4)	輪縁整形。口縁部：ほぼ直立。内面部輪縁部。底部：断面三 角形ではほぼ水平に付く。剝離：内面部輪縁部。剝離下面下 位に4箇所、段状となる窪み有り。脚部：水平方向に大きくなり 外脚。	電1	
3b-88	H-3	土師器 壺	①(11.4) ②(8.6) ③(—)	④(0.9) ⑤(2.6) ⑥(2.5) ⑦(2.4)	輪縁整形。口縁部：欠損。体部：内面部輪縁部。外脚に削 除工具を用いて模様をつけている。底部：欠脚。	電2	
3b-89	H-3	土師器 壺	①(17.2) ②(16.0) ③(—)	④(0.9) ⑤(2.6) ⑥(2.5) ⑦(2.4)	輪縁整形。口縁部：欠損。体部：内面部輪縁部。外脚に削 除工具を用いて模様をつけている。底部：欠脚。	電2	

番号	出土遺構/層位	器種名	①口径 ②高さ		③土・体部 ④内面・外側面	器種の特徴・形態・調整技術	登録番号	備考
			直径	高さ				
3b-85	H-5	須恵器 高台輪 高台輪	①13.0 ②8.4	②5.6 ③—	①中柱・底付 ②丸柱 ③—	輪縁整形。口縁・底部に外輪、内面側で。底部：回転糸切り後、2cm幅の高さの外反する高台を付ける。	1, 2 遺光組	
3b-86	H-6	須恵器 高台輪 高台輪	①14.3 ②—	②6.5 ③—	①中柱 ②丸柱 ③3.5VR6/4Cにぶい調整 ④3/4	輪縁整形。口縁・底部：外輪、内面側で。底部：回転糸切り後、2cm幅の高さの外反する高台を付ける。	24	
3b-87	H-6	須恵器 高台輪 高台輪	①10.9 ②—	②3.9 ③—	①中柱 ②丸柱 ③3.5VR6/6Bにぶい調整 ④3/4は完形	口縁：厚・直立、内・外表面撫で。底部：丸底、内面側で、外表面で、輪削り。	28	酸化焰焼成灰味
3b-88	H-6 電	須恵器 高台輪 高台輪	①10.8 ②—	②3.3 ③—	①中柱 ②丸柱 ③3.5VR6/3Cにぶい調整 ④3/4	輪縁整形。口縁・底部：外傾した斜部から口縁部に至る。底部：回転糸切り。	電6	
3b-89	H-6	須恵器 カワラツ カワラツ	①9.6 ②—	②2.5 ③—	①中柱 ②丸柱 ③3.5VR7/3Cにぶい調整 ④3/4は完形	輪縁整形。口縁部：欠損。底部：内・外表面輪削で。回転糸切りあり。	28	酸化焰
3b-90	H-6	須恵器 高台輪 高台輪	①12.0 ②—	②4.9 ③7.6	①中柱 ②丸柱 ③3.5VR7/4Cにぶい調整 ④3/2	輪縁整形。口縁・底部：外輪、内面側で。底部：回転糸切り後、2cm幅の高さの外反する高台を付ける。	20	
3b-91	H-6 電	須恵器 カワラツ カワラツ	①10.3 ②—	②2.8 ③—	①中柱 ②丸柱 ③4.1は完形	輪縁整形。口縁部：欠損。底部：内・外表面輪削で。回転糸切りあり。	電39	酸化焰
3b-92	H-6	須恵器 カワラツ カワラツ	①10.0 ②—	②2.8 ③4.8	①中柱 ②丸柱 ③3.5VR6/4Cにぶい調整 ④3/4は完形	輪縁整形。口縁部：欠損。底部：内・外表面輪削で。回転糸切りあり。	27	酸化焰
3b-94	H-6 電	須恵器 羽足 羽足	①13.1 ②—	②25.6 ③—	①中柱 ②丸柱 ③3.5VR7/6Bにぶい調整 ④2/5	口縁部：長くほぼ直立。内・外表面で、外表面は内面に比べて凸にしており、粘土の輪縁みが残る。剥離：やや膨らみを帯びて直立。調整口縁部とはほほ同じ。やや弱めの上に短く伸びる跡を残す。底部欠損。	電26, X215 Y106	酸化焰
3b-95	H-6 電	須恵器 羽足	①21.4 ②—	②24.5 ③—	①中柱 ②丸柱 ③3.5VR6/4Cにぶい調整 ④3/4	口縁部：長くほぼ直立。内・外表面で、外表面は内面に比べて凸にしており、粘土の輪縁みが残る。剥離：やや膨らみを帯びて直立。調整口縁部とはほほ同じ。やや弱めの上に短く伸びる跡を残す。底部欠損。	電18, 29, 20, 35, 42, 47, 47, 47 電7	酸化焰
3b-96	H-6 電	土器類 便	①26.2 ②—	②25.4 ③—	①中柱・底付 ②丸柱 ③3.5VR6/4Cにぶい調整 ④—	口縁部：一辺確認。外反、内・外表面で。外表面削り。斜部：上位に立ちらん。器壁：往・往・往・往・往。	電2, 29, 23, 29, 30, 43, 電7	酸化焰
3b-97	H-6 電	須恵器 羽足	①21.2 ②—	②23.5 ③—	①中柱 ②丸柱 ③3.5VR6/8Cにぶい調整 ④3/4	口縁部：長くほぼ直立。内・外表面で、外表面は内面に比べて凸にしており、粘土の輪縁みが残る。剥離：やや膨らみを帯びて直立。調整口縁部とはほほ同じ。やや弱めの上に短く伸びる跡を残す。底部欠損。	電4, 5, 11, 14, 21, 27, 31, 45, 電7	酸化焰
3b-98	H-6	灰陶 高台輪 高台輪	①17.1 ②—	②27.0 ③—	①中柱 ②丸柱 ③3/4	輪縁整形。口縁部：やや外反、内・外表面で。体部：先みを帯びて外輪、内・外表面で。底部：内・外表面で、外表面輪削り後。付け面。	X214 Y106 西38	
3b-99	H-7 鉄穴	須恵器 高台輪 高台輪	①11.8 ②—	②4.1 ③—	①中柱 ②丸柱 ③3.5VR8/2C白質 ④3/4	輪縁整形。口縁・底部：外傾した斜部から口縁部に至る。底部：回転糸切り。	鉄2	
3b-100	H-7 鉄穴	須恵器 高台輪 高台輪	①13.2 ②—	②4.6 ③—	①中柱 ②丸柱 ③3/4	輪縁整形。口縁・底部：外輪、内・外表面で。底部：回転糸切り後、2cm幅の高さの外反する高台を付ける。	鉄6	
3b-102	H-8	土器類 杯	①12.4 ②—	②4.1 ③—	①中柱 ②丸柱 ③3.5VR7/6Bにぶい調整 ④3/4は完形	輪縁整形。口縁部：短く直立。内・外表面輪削で。底部：回転糸切り後、斜面削りの跡を付ける。	1	
3b-104	H-12	土器類 杯	①12.0 ②—	②4.5 ③—	①中柱 ②丸柱 ③3.5VR6/6Bにぶい調整 ④3/4は完形	口縁部：外輪、内・外表面で後略文を施す。外表面輪削で。底部：平底。内面側で、線削らし・縫隙あり。外表面輪削り。	1	
3b-105	H-12	土器類 小鉢	①— ②—	②11.4 ③—	①中柱 ②丸柱 ③3/4は完形	輪縁整形。口縁部：短く外輪、内・外表面で。体部：内・外表面で、外面上位削で。下位輪削り。底部：平底欠損、内面側で、外表面回転糸切り。	2	

Tab.15 3区 石器・石製品観察表

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	備考
3 b-69	X311Y99 隆土	白玉	1.0	1.1	0.6	0.9	滑石	完形	
3 b-73	H-1 隆土	不明石	2.4	2.8	0.9	9.5	滑石		
3 b-93	H-6 隆土	白玉	1.5	0.8	2.5	滑石	ほぼ完形		
3 b-103	H-9	丸玉	4.4	2.9	19.4	軽石岩	完形		

Tab.16 3区 土製品観察表

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	遺存度	備考
3 b-47	H-14 電	土師	4.2	1.4	1.1	ほぼ完形	
3 b-107	H-7	土師	4.2	2.6	2.1	完形	

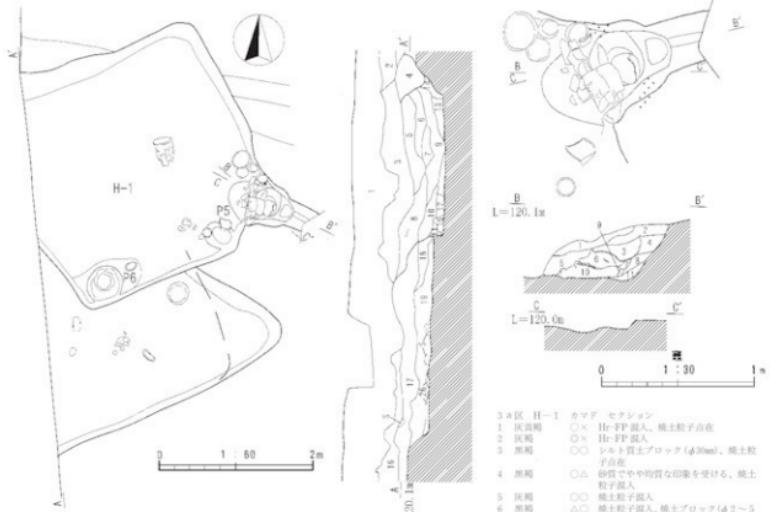
Tab.17 3区 鉄器・鉄製品観察表

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	備考
3 b-1鉄1	H-7	刀子	(24.7)	(24.1)	(7.5)	83.0	ほぼ完形	
3 b-1鉄2	H-9	鉄鏃	(4.2)	(1.8)	(0.3)	36.0	基部欠損	
3 b-1鉄3	H-8	鉄鏃	(5.1)	(2.1)	(5.4)	79.0	先端・基部欠損	
3 b-1鉄4	H-9	鉄斧	6.9	4.2	1.2	143.0	ほぼ完形	
3 b-1鉄5	H-2	折頭鉄	(3.8)	1.5	0.4	3.3	先端欠損	
3 b-1鉄6	H-9	刀子	(19.5)	1.7	0.6	56.0	先端・基部欠損	
3 b-1鉄7	H-9	刀子	(17.4)	2.7	0.4	48.2	基部欠損	
3 b-1鉄8	H-1	折頭鉄	(3.3)	1.8	0.4	5.1	先端欠損	
3 b-1鉄9	H-9	刀子	(3.3)	0.9	0.4	2.8	基部のみ	

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	備考
3 b-鉄10	H-1	刀子	(5.4)	(1.8)	0.6	7.4	基部欠損	

Tab.18 3区 瓦観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	①長さ ②幅さ	③色調 ④斑紋	⑤形状 ⑥遺存度	器種の特徴・整形・調節技術	備考
3 b-瓦1	H-6	平瓦	① ②	① ③ ④	②良好 ③ ④	一枚作り。凹面：布目有り。「宮殿」の割離有り側面：面取り0.1回。	
3 b-瓦2	H-6	平瓦	① ②	① ③ ④	②良好 ③ ④	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：織目有り。側面：面取り1回。	
3 b-瓦3	H-6	平瓦	① ②	① ③ ④	②良好 ③ ④	一枚作り。凸面：織叩き。凹面：叩き。側面：面取り1回。	
3 b-瓦4	H-6	平瓦	① ②	① ③ ④	②良好 ③ ④	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：ナメ調整。側面：面取り1回。	
3 b-瓦5	H-6	平瓦	① ②	① ③ ④	②良好 ③ ④	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：織目有り。側面：面取り1回。	
3 b-瓦6	H-6	平瓦	① ②	① ③ ④	②良好 ③ ④	一枚作り。凸面：織叩き。凹面：叩き。側面：面取り1回。	
3 b-瓦7	H-6	平瓦	① ②	① ③ ④	②良好 ③ ④	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：織目有り。側面：面取り1回。	
3 b-瓦8	H-6	平瓦	① ②	① ③ ④	②良好 ③ ④	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：織目有り。側面：面取り1回。	
3 b-瓦9	H-6	平瓦	① ②	① ③ ④	②良好 ③ ④	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：織目有り。側面：面取り1回。	
3 b-瓦10	H-6	丸瓦	① ②	① ③ ④	②良好 ③ ④	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：ナメ調整。側面：面取り1回。	
3 b-瓦11	H-6	平瓦	① ②	① ③ ④	②良好 ③ ④	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：ナメ調整。側面：面取り1回。	



- 3号区 H-1 セクション
 1 黒褐 $\bigcirc \times$ シルト質土混入
 2 黒褐 $\bigcirc \triangle$ Hr-FP 混入、砂質
 3 黑褐 $\bigcirc \times$ Hr-FP (程度小) 混入、砂質
 4 黑褐 $\bigcirc \times$ 砂質で均質な層、Hr-FP 混入 (W-1 層土)
 5 黑褐 $\bigcirc \times$ Hr-FP 混入、砂層ブロック ($\phi 2 \sim 20\text{mm}$) 混入
 6 黑褐 $\bigcirc \times$ Hr-FP 混入
 7 黑褐 $\bigcirc \times$ Hr-FP 混入、砂層ブロック ($\phi 5 \sim 20\text{mm}$) 点在
 8 黑褐 $\bigcirc \times$ Hr-FP 混入
 9 黑褐 $\bigcirc \times$ Hr-FP 混入、砂層ブロック ($\phi 5 \sim 10\text{mm}$)、純土粒子点在
 10 黑褐 $\bigcirc \times$ As-C (粒度小さめ) 混入、砂層ブロック ($\phi 5 \sim 20\text{mm}$) 点在
 11 黑褐 $\bigcirc \triangle$ As-C 混入、砂層ブロック ($\phi 5 \sim 20\text{mm}$) 点在
 12 黑褐 $\bigcirc \triangle$ As-C 混入、砂層ブロック ($\phi 10\text{mm}$) 点在
 13 黑褐 $\bigcirc \times$ As-C 点在
 14 黑褐 $\bigcirc \times$ 砂層ブロック ($\phi 5 \sim 20\text{mm}$) 混入
 15 黑褐 $\bigcirc \times$ 砂層ブロック ($\phi 2 \sim 10\text{mm}$)、砂層起因の砂質土
 16 黑褐 $\bigcirc \times$ Hr-FP, As-C, 砂層ブロック ($\phi 2 \sim 10\text{mm}$) 混入
 17 黑褐 $\bigcirc \times$ As-C 混入、砂層ブロック ($\phi 5 \sim 10\text{mm}$) 点在
 18 黑褐 $\bigcirc \times$ As-C 混入
 19 黑褐 $\bigcirc \times$ As-C 混入、砂層ブロック ($\phi 5 \sim 10\text{mm}$) 点在
 20 黑褐 $\bigcirc \times$ 砂層ブロック ($\phi 5 \sim 10\text{mm}$) 点在

- 3号区 H-1 カマド セクション
 1 大高周 $\bigcirc \times$ Hr-FP 混入、純土粒子点在
 2 黑褐 $\bigcirc \times$ Hr-FP 混入
 3 黑褐 $\bigcirc \times$ シルト質土ブロック ($\phi 30\text{mm}$)、純土粒子点在
 4 黑褐 $\bigcirc \triangle$ 砂質でやや均質な印跡を受ける、純土粒子混入
 5 黑褐 $\bigcirc \times$ 純土粒子混入
 6 黑褐 $\bigcirc \triangle$ 純土粒子混入、純土ブロック ($\phi 2 \sim 5\text{mm}$) 点在
 7 黑褐 $\bigcirc \times$ 純土ブロック ($\phi 5\text{mm}$)、純土粒子混入、カーボン粒子点在
 8 黑褐 \triangle 純土粒子混入
 9 C-高い黄褐色 \triangle 純土成灰層、純土粒子点在
 10 黑褐 \triangle 純土成灰層、純土粒子混入
 11 黑褐 $\triangle \times$ シルト質

- 3号区 H-3 セクション
 1 にじむ黄褐 $\bigcirc \circ$ 純土ブロック ($\phi 5 \sim 20\text{mm}$)、純土粒子混入
 2 黑褐 $\bigcirc \circ$ 純土ブロック ($\phi 2 \sim 5\text{mm}$)、混入
 3~7 黑褐 $\bigcirc \circ$ 純土ブロック ($\phi 2 \sim 5\text{mm}$)、混入
 W-2 層土
 8 姫褐 $\times \circ$ As-C 混入
 9 黑褐 $\times \circ$ As-C 混入
 10 黑褐 $\times \circ$ As-C 混入
 11 黑褐 $\bigcirc \circ$ As-C 混入
 12 黑褐 $\bigcirc \circ$ As-C (程度小) 混入
 13 黑褐 $\bigcirc \circ$ As-C (程度小) 混入、砂層ブロック ($\phi 2 \sim 10\text{mm}$) 混入、純土粒子点在

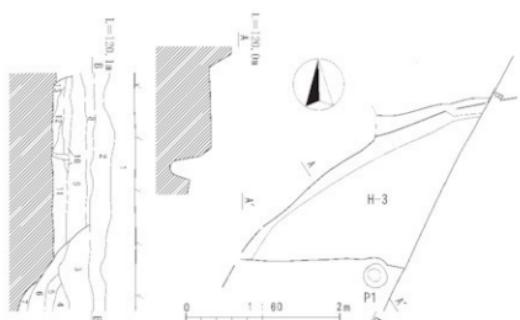


Fig.20 3号区 H-1・3号住居跡

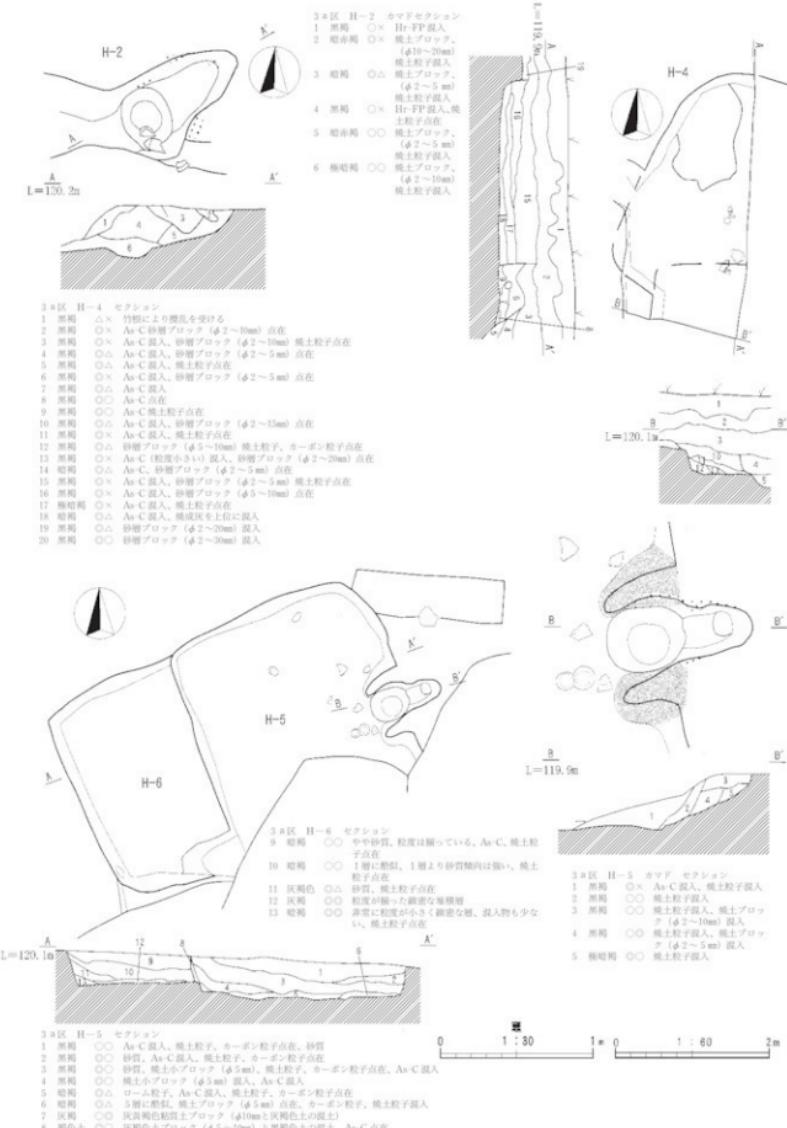


Fig.21 3 a 区H-2・4・6号住跡

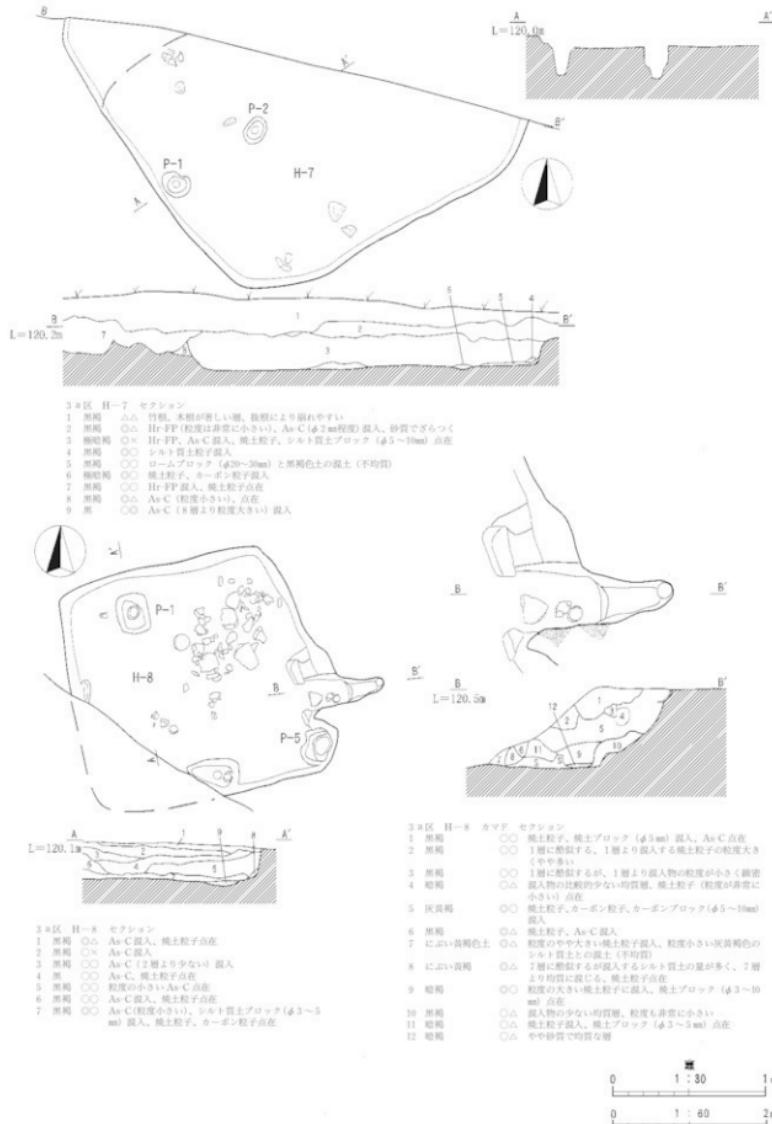


Fig.22 3-a 区 H-7・8 号住居跡

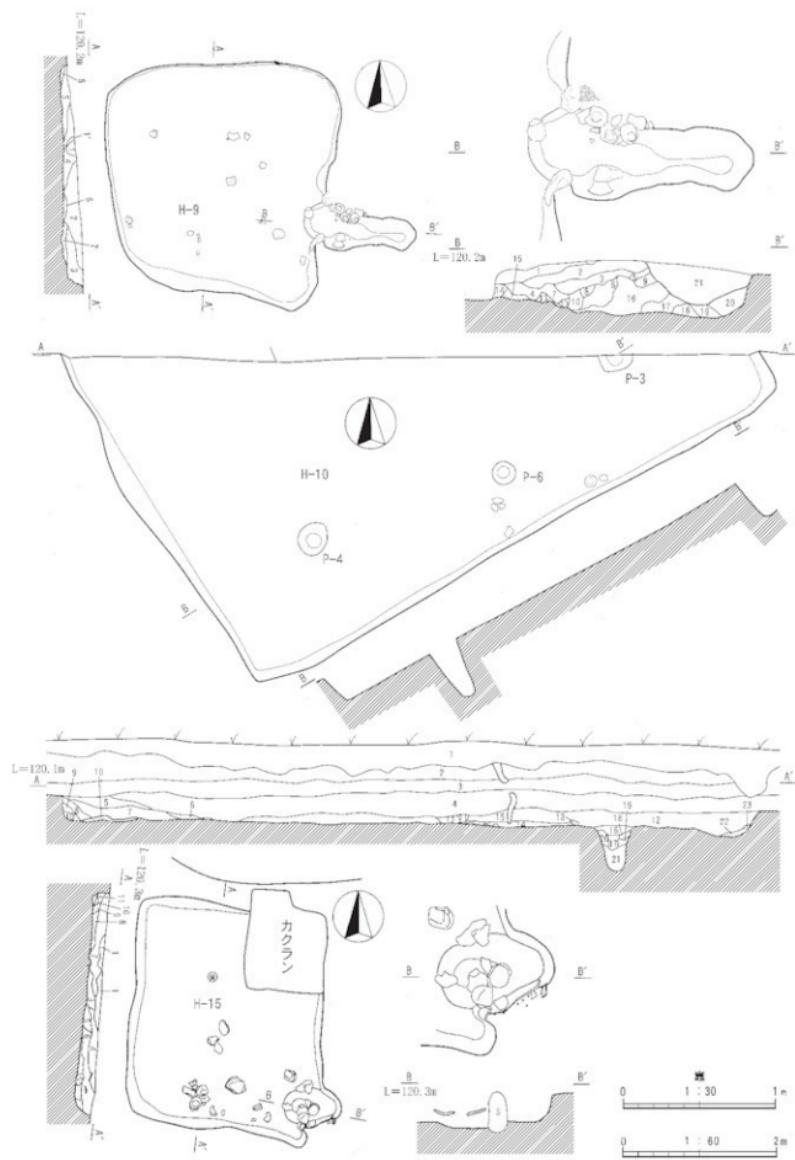


Fig.23 3 a 区H-9・10・15号住居跡

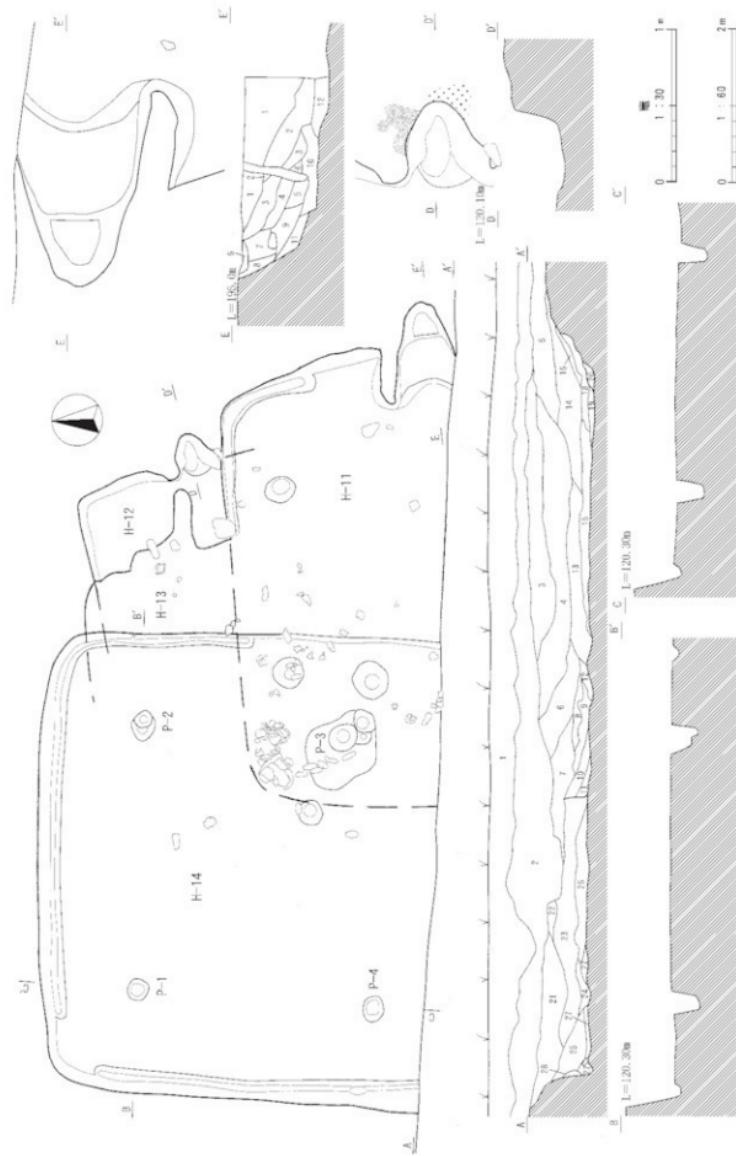
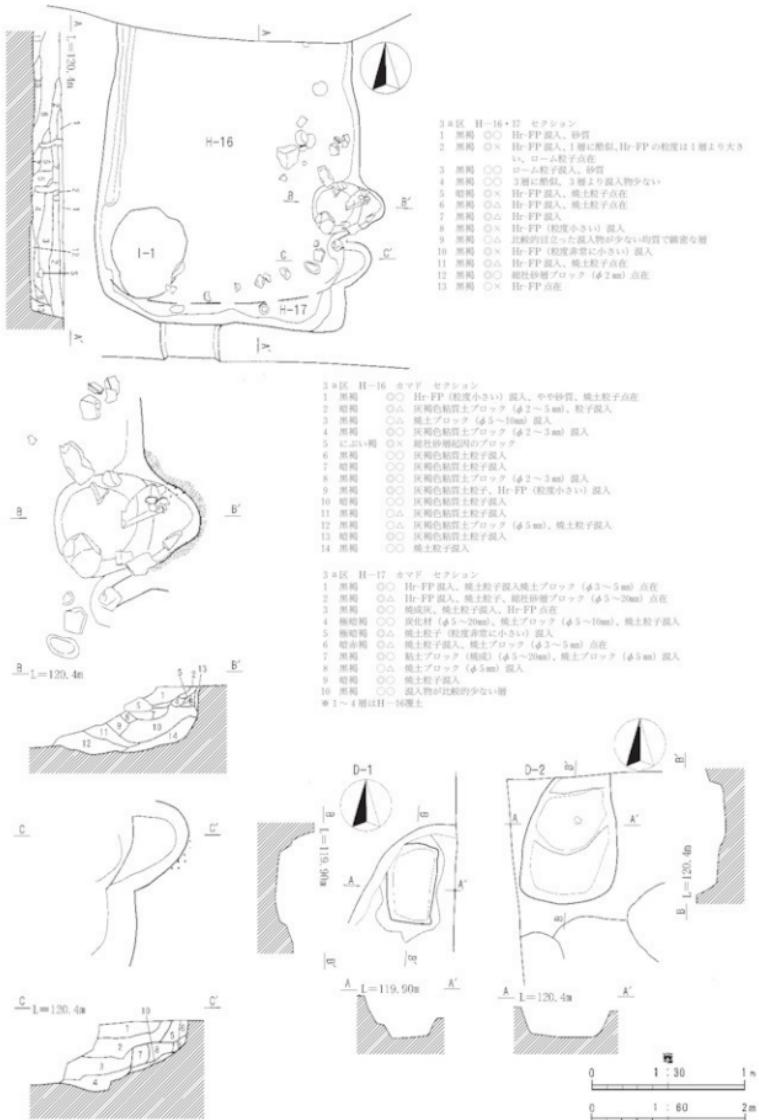


Fig.24 3 a [KH-11]~14号住居跡

3 a 区 H-9 セクション		
1 黒褐 ○△ As-C 賀人、明褐色ブロック ($\phi 5 \sim 10$ mm) 混入	5 黑褐 ○△ As-C (粒度は 4 倍より小さい)。カーボン粒子点在	
1' 黒褐 ○△ 似人形の凹凸のない	6 黑褐 ○△ As-C (2, 4 倍より多く粒度も大きい) 賀人、飛土粒子点在	
2 黒褐 ○△ As-C 賀人、飛土粒子点在	7 黑褐 ○△ As-C (5 倍と同程度) 賀人、飛土粒子点在	
3 黒褐 ○△ As-C (2 倍よりは小さな粒度は小さい) 賀人	8 飛黒褐 ○× As-C (粒度小ささい) 賀人、飛土粒子 (粒度小さい) 点在	
4 黒褐 ○△ As-C (5 倍と同程度) 賀人		
3 a 区 H-10 セクション		
1 黒褐 ○△ 黄褐色色シルト質土ブロック、カーボン粒子混入、やや砂質	12 黑褐 ○△ 黄褐色色シルト質土粒子混入、飛土粒子点在	
2 黒褐 ○○ Hr-FP 賀人、飛土ブロック点在	13 黑褐 ○△ 飛土粒子点在	
3 黑褐 ○○ Hr-FP 賀人、飛土粒子点在	14 明褐 ○△ 黄褐色色シルト質土粒子混入	
4 明褐 ○△ 黄褐色色シルト質土ブロック混入、飛土ブロック点在	15 黑褐 ○△ 黄褐色色シルト質土粒子混入	
5 黑褐 ○△ 黄褐色色シルト質土混入	16 黑褐 ○△ 黄褐色色シルト質土混入	
6 黄褐色 ○○ 黄褐色色シルト質土質の大きなブロック混入	17 黑褐 ○△ 18層に断続、16層より Hr-FP の混入少ない	
7 黑褐 ○△ 黄褐色色シルト質土質の大きなブロック混入	18 黑褐 ○△ 飞土ブロック点在	
8 黄褐色 ○△ 黄褐色色シルト質土質の大きなブロック混入	19 黑褐 ○△ 18層に断続、18層より混入少ない	
9 黑褐 ○○ 黄褐色色シルト質土質の大きなブロック混入	20 黑褐 ○△ As-C 賀人	
10 黑褐 ○○ 黄褐色色シルト質土質の大きなブロック混入	21 黑褐 ○△ Hr-FP、飛土ブロック点在	
11 明赤褐 ○○ 飞土粒子点在、黄褐色色シルト質土質の大きなブロック混入		
12 明赤褐 ○○ 飞土粒子点在、シルト質土の上に、飛土ブロック点在		
3 a 区 H-11 セクション		
1 黒褐 ○× やや砂質、竹根、木根等により撹乱を受ける	13 黑褐 ○× 砂層起因の砂粗粒	
2 黒褐 ○○砂質、As-C (粒度小さい) 賀人	14 黑褐 ○○ As-C (粒度小さい) 賀人、砂層ブロック ($\phi 2 \sim 3$ mm) 混入	
3 黑褐 ○○ As-C 賀人	15 黑褐 ○○ 粒度混合	
4 黑褐 ○○ As-C (粒度大きい) 賀人、2 層に断続、2 層 A-C の混入多め、飛土粒子混入	16 黑褐 ○△ 砂層ブロック ($\phi 2 \sim 5$ mm) 混入、As-C の点在	
5 黑褐 ○○ As-C (粒度大きい) 賀人、飛土粒子混入	17 黑褐 ○○ 砂質土、砂層ブロック ($\phi 2 \sim 8$ mm) 点在	
6 黑褐 ○△ As-C 賀人、砂層ブロック ($\phi 2 \sim 20$ mm) 混入、飛土粒子点在	18 明褐 ○△ 砂層ブロック ($\phi 2 \sim 5$ mm) 混入	
7 黑褐 ○○ As-C 賀人、砂層ブロック ($\phi 2 \sim 10$ mm) 点在	19 黑褐 ○△ 砂層ブロック ($\phi 2 \sim 10$ mm) 混入	
8 黑褐 ○○ As-C 賀人、砂層ブロック ($\phi 2 \sim 5$ mm) 点在	20 明褐 ○△ 砂層ブロック ($\phi 2 \sim 10$ mm) 混入	
9 黑褐 ○○ As-C 賀人、砂層ブロック ($\phi 2 \sim 5$ mm) 点在	21 黑褐 ○○ 砂層ブロック ($\phi 2 \sim 20$ mm) 混入	
10 黑褐 ○○ As-C 賀人、砂層ブロック ($\phi 2 \sim 10$ mm) 混入	22 黑褐 ○○ 砂層ブロック ($\phi 2 \sim 5$ mm) 混入	
11 黑褐 ○○ 砂層ブロック ($\phi 2 \sim 5$ mm) 混入	23 黑褐 ○× 砂層ブロック ($\phi 2 \sim 5$ mm) 混入	
12 明褐 ×× As-C 賀人、砂層ブロック ($\phi 2 \sim 5$ mm) 混入		
3 a 区 H-12 セクション		
1 黒褐 ○○ 砂質でざらつく	7 黑褐 ○○ 黄褐色色粘土ブロック ($\phi 3 \sim 10$ mm), 飞土粒子混入	
2 黒褐 ○○ 1 層に断続、黄褐色色粘土ブロック ($\phi 2 \sim 10$ mm) 混入	8 黑褐 ○○ 粒度が大きい均等な層、混入量も少ない、土粒子点在	
3 黑褐 ○○ 1, 2 層に断続、2 層よりも混入物多い飛土粒子点在	9 黑褐 ○○ 黄褐色色粘土ブロック ($\phi 2 \sim 5$ mm) 粒子とも混入	
4 黑褐 ○○ 黄褐色色粘土ブロック、粒子、飞土粒子混入	10 黑褐 ○○ 黄褐色色粘土粒子混入、飞土粒子点在	
5 黑褐 ○○ 黄褐色色粘土粒子、飞土粒子混入	11 黑褐 ○○ 黄褐色色粘土粒子、飞土粒子混入	
6 黑褐 ○○ 2 層に断続	12 黑褐 ○○ カーボン粒子、飞土粒子混入	
3 a 区 H-11, 14 セクション		
1 明赤褐 ○○ 砂質土、風化土等	16 黑褐 ○○ ローム粒子 (粒度小さい) 混入、飞土粒子混入	
2 黑褐 ○○ As-C 賀人、砂土ブロック ($\phi 2 \sim 5$ mm) 点在	17 黑褐 ○○ 16層に断続、16層より下に入れる程度大きい	
3 施肥褐 ○○ 2 層に断続、土節理點在	18 黑褐 ○○ 砂層ブロック ($\phi 2 \sim 5$ mm) 点在	
4 黑褐 ○○ As-C 賀人	19 黑褐 ○○ 砂層土質起因の砂粗粒 (粒度大きい) 混入	
5 施肥褐 ○○ As-C 賀人、2 層または 3 層から 13 層へは漸移的に変化	20 黑褐 ○○ 地中の飛土ブロック ($\phi 2 \sim 10$ mm) 混入	
6 明褐 ○○ As-C 賀人、灰白色色粘土ブロック ($\phi 2 \sim 5$ mm) 点在	21 黑褐 ○× As-C 賀人	
7 明褐 ○○ As-C 賀人	22 黑褐 ○○ As-C 賀人	
8 黑褐 ○○ 灰白色色粘土ブロック ($\phi 2 \sim 10$ mm) 点在	23 黑褐 ○○ As-C 賀人	
9 黑褐 ○○ 灰白色色粘土ブロック ($\phi 2 \sim 5$ mm) 点在	24 黑褐 ○○ 地中の飛土、砂層ブロック ($\phi 5 \sim 10$ mm) 混入、砂層起因の砂粒 (粒度小さい) 混入	
10 施肥褐 ○○ As-C 賀人、砂層ブロック ($\phi 5 \sim 10$ mm) 点在	25 黑褐 ○△ As-C 賀人	
11 黑褐 ○○ As-C 賀人、砂層ブロック ($\phi 2 \sim 5$ mm) 点在	26 黑褐 ○○ As-C 賀人、カーボン粒子、飞土粒子ともに点在、砂層ブロック ($\phi 2 \sim 10$ mm) 点在	
12 施肥褐 ○○ As-C 賀人、砂層ブロック ($\phi 2 \sim 5$ mm) 点在	27 黑褐 ○○ As-C 賀人、砂層ブロック ($\phi 2 \sim 20$ mm) 混入	
13 黑褐 ○○ As-C 賀人、砂層ブロック ($\phi 2 \sim 10$ mm) 点在	28 黑褐 ○○ As-C 砂層ブロック ($\phi 2 \sim 10$ mm) 混入	
14 黑褐 ○○ As-C 賀人、砂層ブロック ($\phi 2 \sim 5$ mm) 点在		
15 黑褐 ○○ As-C (粒度小さい) 賀人、砂層ブロック ($\phi 2 \sim 5$ mm) カーボン粒子点在		
3 a 区 H-15 セクション		
1 黒褐 ○△ As-C 賀人	6 黑褐 ○○ As-C 賀人	
2 黑褐 ○○ As-C 賀人、地社會細起因砂層ブロック ($\phi 5$ mm), 飞土粒子点在	7 黑褐 ○○ 6 層に断続、6 層粒度小さく均質	
3 明褐 ○○ As-C 賀人	8 黑褐 ○○ As-C 賀人	
4 黑褐 ○△ As-C 賀人、飞土粒子点在	9 施肥褐 ○○ As-C 賀人	
5 施肥褐 ○○ As-C 賀人	10 黑褐 ○○ As-C 賀人、地社會細起因砂層ブロック ($\phi 45$ mm) 点在	
	11 黑褐 ○○ 地中中最も混入物少なく粒度の小さい均質	



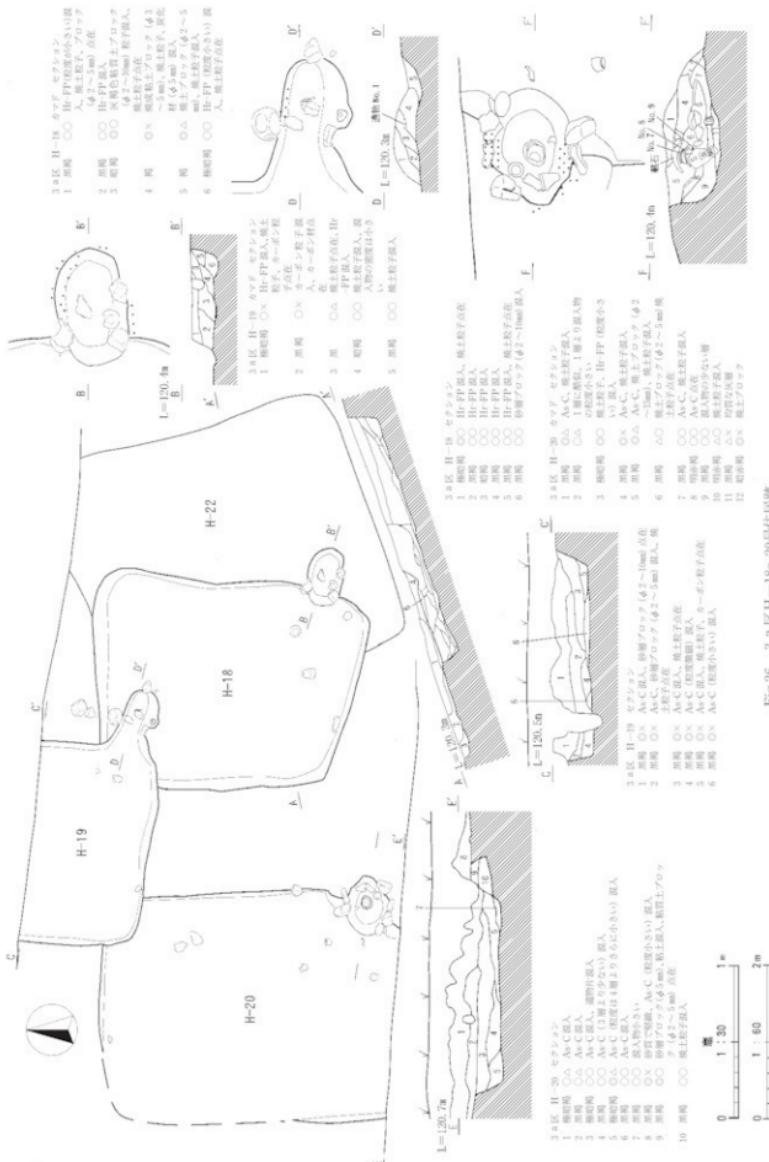


Fig.26 3 a [K]-H-18～20号生垣跡

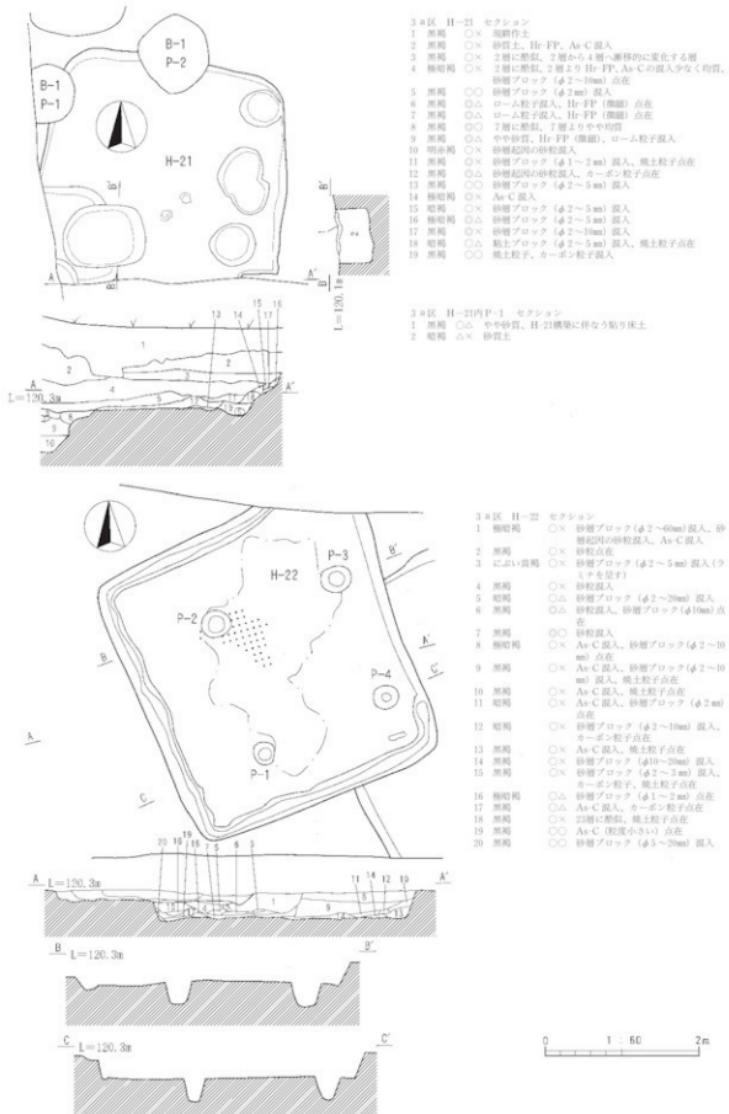


Fig.27 3-a区H-21・22号住居跡

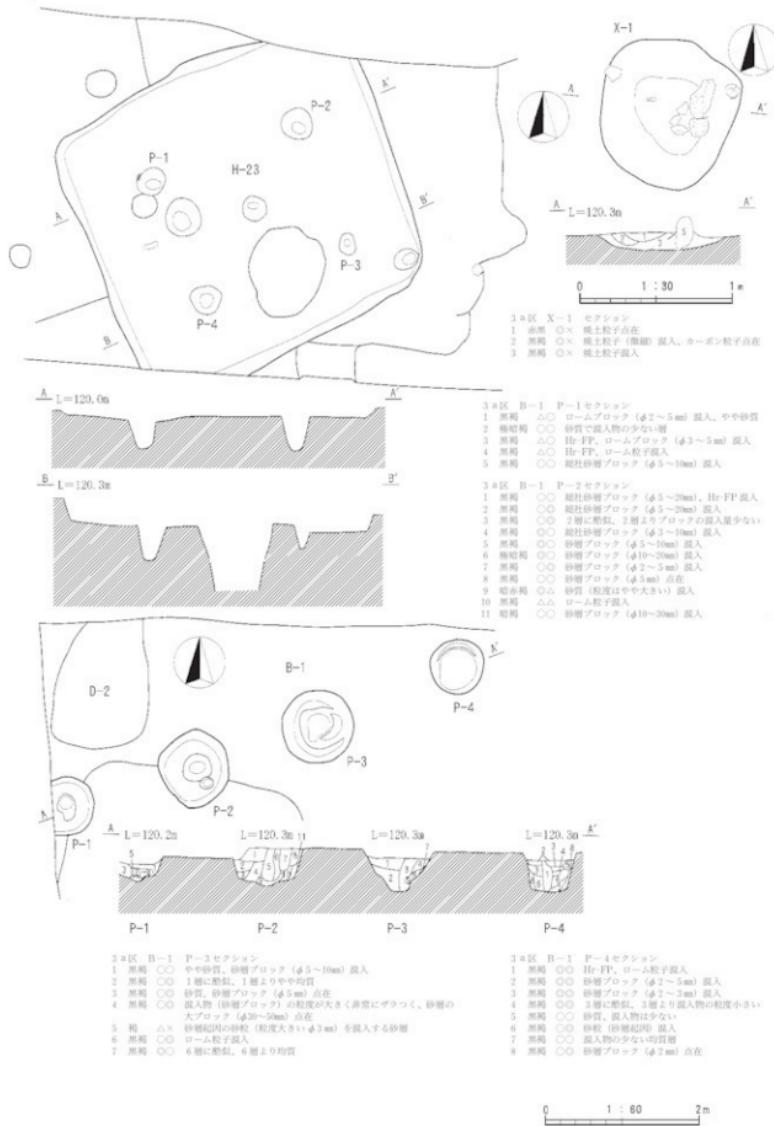


Fig.28 3 a 区 H-23号住居跡、B-1 号掘立柱建物跡、X-1 号遺構

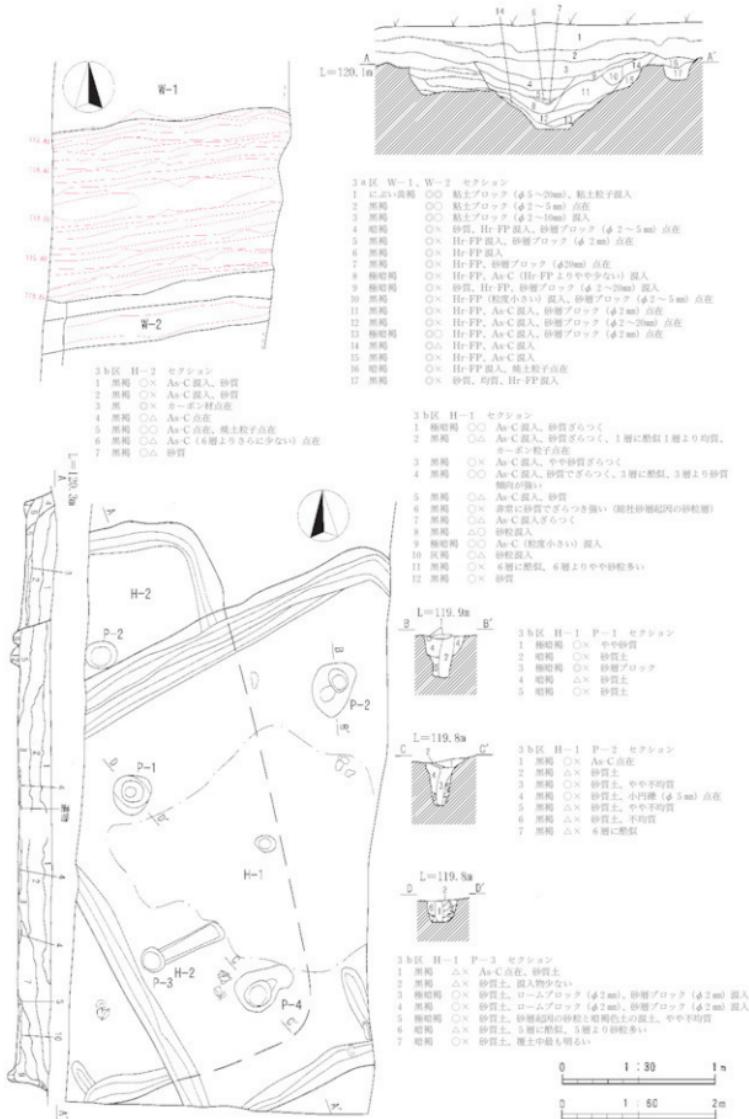


Fig.29 3 a [W-1号溝跡、3 b区H-1・2号住居跡

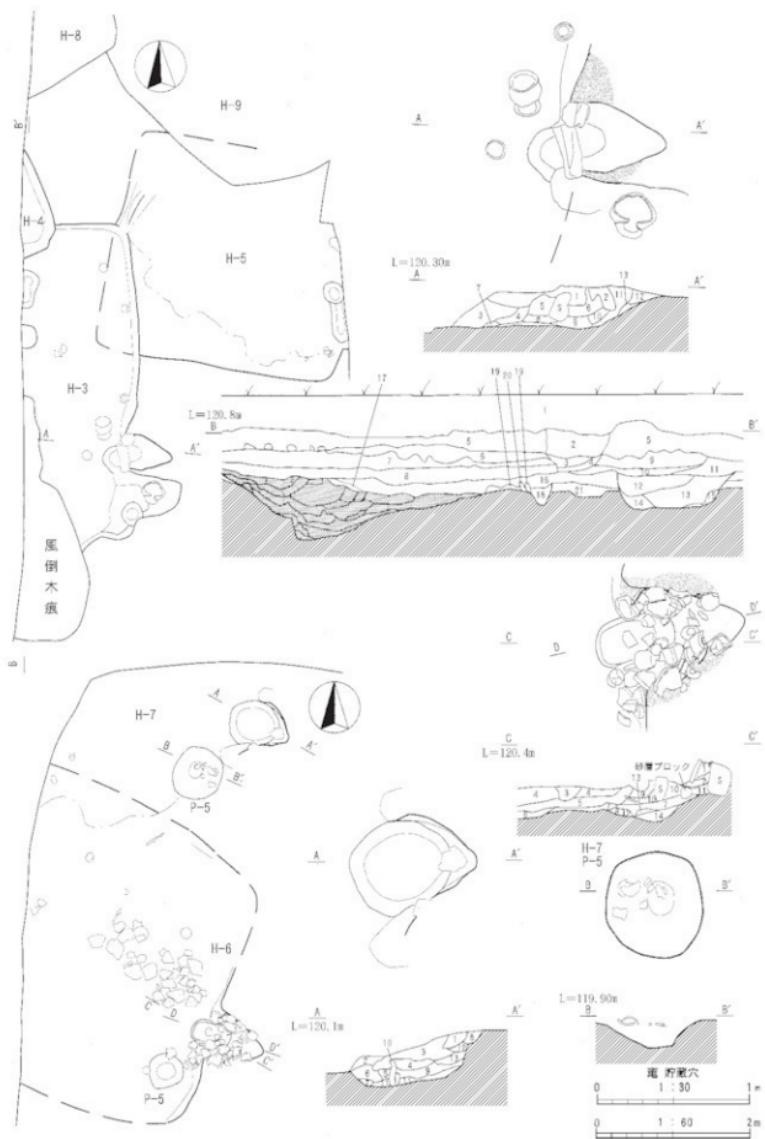


Fig.30 3 b区H-3～7号住居跡

3 b 区 H-3	カマドセクション	
1 黒褐	○△ Hr-FP (Hr-FP 小さき) 混入	8 黒褐 ○○ 植土粒子点在
2 黒褐	○× 砂質、Hr-FP 混入、植土粒子混入	9 黒褐 ○△ 粒度の小さな細かな層、混入物も少なくて均質
3 黑褐	○○ 砂質、灰白色粘土ブロック ($\phi 5 \sim 10\text{mm}$) 混入	10 明赤褐 ○△ 9層に層状する、植土粒子点在
4 黑褐	○× 砂質、植土粒子点在	11 明赤褐 ○△ 植土粒子混入
5 黑褐	○△ 砂質、植土粒子点在	12 黑褐 ○× 均質で微細な層
6 黑褐	○○ 硬質な層 (粒度非常に小さい)、植土粒子点在	13 黑褐 ○△ 12層に層状、12層より程度大きくて不均質
7 明赤褐	○△ 植土ブロック ($\phi 2 \sim 5\text{mm}$)、植土粒子混入	
3 b 区 H-3・4	セクション	
1 黑褐	○× 砂質、Hr-SPN、As-C 混入	12 黑褐 ○× Hr-FP 混入、植土粒子点在
2 明褐	○× 砂質土、円盤 ($\phi 2 \sim 5\text{mm}$) 点在	13 黑褐 ○○ As-C 混入、砂質
3 黑褐	○○ 砂質土	14 明赤褐 ○○ 植土粒子混入、小円盤 ($\phi 5\text{mm}$) 混入
4 黑褐	○× 砂質土	15 黑褐 ○○ 研磨質土、小円盤 ($\phi 2\text{mm}$) 点在
5 植地褐	○× Hr-FP、As-C 混入、植土粒子、角塊 ($\phi 10 \sim 20\text{mm}$) 点在	16 植地褐 ○× Hr-FP 混入
6 明褐	○× 5層に似る、砂質非常にざらつく	17 黑褐 ○× 研磨起因の砂粒混入
7 黑褐	○× Hr-FP 混入、植土粒子点在	18 黑褐 ○○ 砂質土
8 黑褐	○○ Hr-FP 混入、植土粒子点在	19 黑褐 ○○ 砂質土
9 黑褐	○○ Hr-FP 混入、植土粒子点在	20 黑褐 ○○ 砂質土、円盤 ($\phi 2 \sim 5\text{mm}$) 点在
10 黑褐	○○ Hr-FP 混入、植土粒子点在	21 明褐 ○○ 研磨質土、植土粒子点在
11 明褐	○○ Hr-FP 混入、植土粒子点在	
3 b 区 H-6	カマドセクション	
1 黑褐	○○ As-C 混入	8 黑褐 ○× 植成灰混入
2 明褐	○△	9 黑褐 ○○ 植成灰混入
3 黑褐	○○ As-C 点在、褐色粘土ブロック ($\phi 5 \sim 10\text{mm}$) 混入	10 黑褐 △△ 植成灰混入
4 黑褐	○○ As-C 混入、カーボン粒子点在	11 黑褐 ○○ 植土ブロック ($\phi 2\text{mm}$)、粘土ブロック ($\phi 2\text{mm}$) 混入
5 植地褐	○○ As-C 混入	12 黑褐 ○○ 植成灰混入
6 黑褐	○△ 褐色粘土ブロック ($\phi 5 \sim 20\text{mm}$) 混入、As-C 点在	13 黑褐 ○○ 12層に層状、12層より不均質
7 黑	○× 褐成灰層	14 植地褐 ○△ 植成灰、植土粒子混入
3 b 区 H-7	カマドセクション	
1 明褐	○× 植土ブロック ($\phi 2 \sim 10\text{mm}$)、粒子混入	8 黑褐 ○○ 植成土粒子、植土ブロック ($\phi 5\text{mm}$) 混入
2 明褐	○○ 植土粒子混入、As-C 混入	9 黑褐 ○○ 植成灰と底層 ($\phi 5\text{mm}$) を少部分混入する層
3 明褐	○○ 植土粒子混入、As-C 混入	10 黑褐 ○○ 植成灰と底層 ($\phi 1 \sim 5\text{mm}$)、底層の不均質底層
4 明褐	○○ 硫成灰、植土粒子混入	11 植地褐 ○○ 植土粒子、硫成灰とともに混入
5 黑地褐	○○ 硫成灰、植土粒子混入	12 植地褐 ○○ 植土ブロック ($\phi 5 \sim 10\text{mm}$)、植土粒子混入
6 黑褐	○× 硫成灰、植土粒子混入	13 黑褐 ○○ 植成灰と植土ブロック ($\phi 5 \sim 20\text{mm}$) の混生層
7 黑褐	○△ 硫成灰混入	

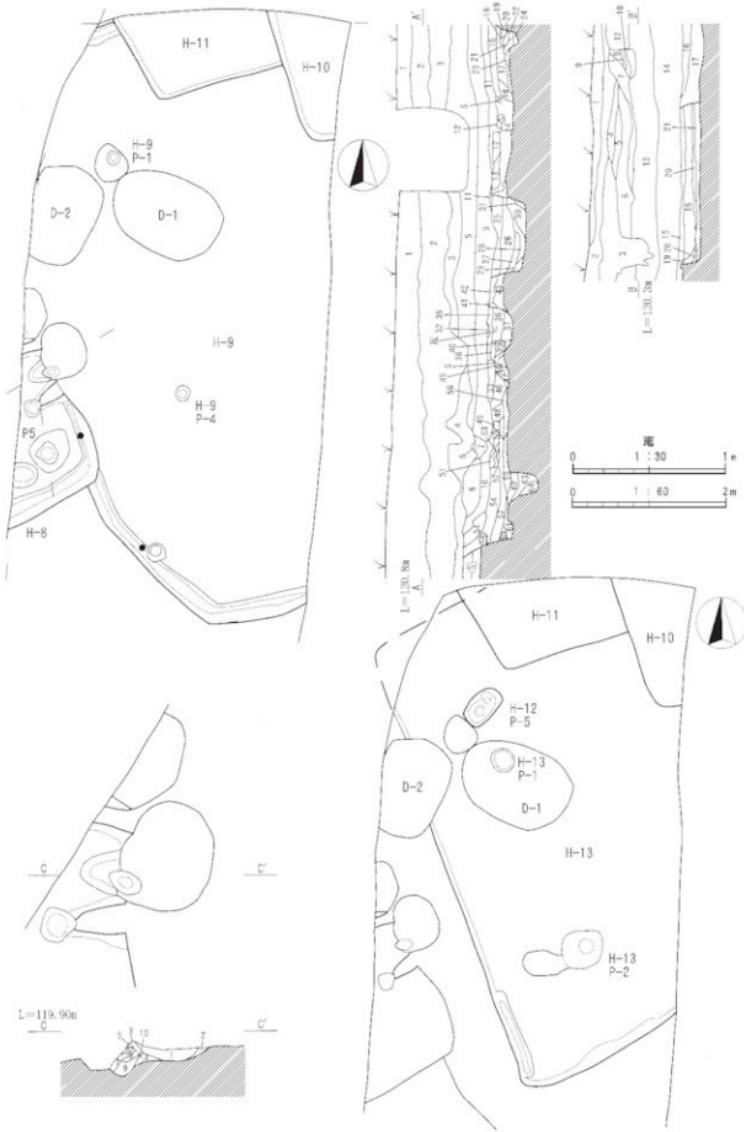


Fig.31 3 b区H-8~13号住居跡

3 b 区 H-8・9、D-2 セクション	
1 黒褐泥 ○× Hr-FP, As-C 混入, 粘土粒子点在, 角塊 (φ10~20mm) 点在	34 黑褐 ○× 砂層ブロック (φ2~20mm) 混入,
2 姥褐泥 ○× Hr-FP, As-C 混入, 粘土粒子点在, 角塊 (φ10~20mm) 点在	35 黑褐 ○× Hr-FP, 砂層ブロック (φ2~10mm) 点在
3 姥褐 ○× Hr-FP 混入, As-C 粒子点在	36 姥褐泥 ○× 砂層ブロック (φ2~20mm) 混入
5 姥褐 ○× Hr-FP 混入 (3層より多い)	37 黑褐 ○× 砂層ブロック (φ2~20mm) 混入, 粘土粒子点在
6 黑褐 ○× 砂質土, 砂層ブロック (φ2~8mm) 点在	38 黑褐 ○× Hr-FP 点在, 砂層ブロック (φ2~10mm) 点在
7 黑褐泥 ○× Hr-FP 混入, As-C 混入, 粘土粒子点在	39 黑褐 ○△ Hr-FP, 粘土粒子, 砂層ブロック (φ2~5mm) 点在
8 黑褐泥 ○× Hr-FP 混入, As-C 混入, 粘土粒子点在	40 黑褐 ○△ Hr-FP, 粘土粒子, 砂層ブロック (φ2~5mm) 点在
9 黑褐 ○× Hr-FP 混入, 砂層ブロック (φ2~10mm) 混入	41 黑褐 ○△ Hr-FP, 粘土粒子, 砂層ブロック (φ2~5mm) 点在
10 姥褐 ○× 砂層ブロック (φ2~10mm) 混入	42 黑褐 ○× Hr-FP 混入, 粘土粒子点在
11 姥褐 ○× 砂層ブロック (φ2~10mm) 混入, Hr-FP 点在	43 黑褐 ○× 砂層ブロック (φ2~5mm) 混入
12 姥褐 ○× 砂層ブロック (φ2~10mm) 混入, Hr-FP 点在	44 姥褐泥 ○△ Hr-FP 混入, 粘土粒子点在
13 黑褐 ○△ Hr-FP 混入, 砂層ブロック (φ2~5mm) 点在	45 黑褐 ○△ Hr-FP 点在
14 黑褐 ○× 砂層ブロック (φ2~5mm) 混入, Hr-FP 点在	46 黑褐 ○△ Hr-FP, 粘土粒子, 粘土粒子点在
15 黑褐 ○○ Hr-FP 混入, As-C 粒子, 粘土粒子点在	47 黑褐 ○△ 粘土粒子点在
16 黑褐 ○× 砂層ブロック (φ2~5mm) 点在	48 明赤泥 ○× 粘土ブロック (φ5~10mm) 混入, 粘土ブロック (φ10mm) 点在,
17 姥褐 ○○ Hr-FP 混入, As-C ブロック, 粘土粒子点在	49 明赤泥 ○○ 粘土粒子混入
18 黑褐泥 ○○ As-C 粒子点在, 粘土粒子点在	50 黑褐 ○○ 粘土粒子点在
19 黑褐 ○○ Hr-FP 混入, 粘土粒子点在	51 黑褐 ○○ 砂層ブロック (φ2~20mm) 混入
20 姥褐泥 ○○ 砂層ブロック (φ1~2mm) 点在	52 黑褐 ○○ 砂層ブロック (φ5mm) 点在
21 姥褐 ○○ 砂層ブロック (φ2~20mm) 点在	53 黑褐 ○○ 硫成灰中ラミテ
22 姥褐 ○○ 砂層ブロック (φ2~5mm) 混入,	54 黑褐 ○○ Hr-FP 混入, 砂層ブロック (φ2~5mm), カーボンブロック (φ5~10mm) 点在
23 黑褐 ○○ 砂層ブロック (φ2~30mm) 混入	55 黑褐 ○△ Hr-FP 点在
24 姥褐泥 ○○ 砂層ブロック (φ2~5mm) 混入	56 黑褐 ○○ 砂層ブロック (φ10~20mm), 粘土粒子点在
25 黑褐 ○○ 砂層ブロック (φ2~20mm) 混入	57 姥褐泥 ○○ 硫成灰混入, 粘土粒子, 粘土ブロック点在
26 黑褐 ○○ 砂層ブロック (φ2~10mm) 混入, As-C 粒子, 粘土粒子点在	58 姥褐泥 ○○ 硫成灰混入, 粘土粒子, 粘土ブロック点在
27 黑褐 ○○ 砂層ブロック (φ2~5mm) 混入, 砂層ブロック (φ5mm) 点在	59 黑褐 ○△ カーボンブロック点在
28 姥褐 ○○ 砂層ブロック (φ2~5mm) 混入	60 黑褐 ○○ 砂層ブロック (φ2mm) 点在
29 姥褐 ○△ 砂層ブロック (φ2~5mm) 混入	61 黑褐泥 ○○ 砂層ブロック (φ2~5mm) 点在
30 黑褐 ○○ 砂層ブロック (φ2~10mm) 混入	62 黑褐 ○○ 砂層ブロック (φ2~10mm) 混入
31 黑褐 ○○ 砂層ブロック (φ2~5mm) 混入	63 黑褐 ○○ 砂層ブロック (φ2~10mm) 混入
32 黑褐 ○○ 粘土粒子少ない	64 黑褐 ○△ 砂層ブロック (φ2~21mm) 混入
33 姥褐泥 ○○ Hr-FP, As-C 混入, 砂層ブロック (φ1~2mm) 点在	65 黑褐 ○○ 砂層ブロック (φ2~20mm) 混入

3 b 区 H-8 カマドセクション	
1 黒褐泥 ○○ 粘土層 Hr-FP, As-C 混入, 粘土粒子点在	5 姥褐 ○○ 硫成灰, 粘土粒子点在
2 姥褐泥 ○○ 層に粘土層 (1層より) 脱入物の粒度大きい	6 明赤泥 ○○ 硫成灰, 粘土ブロック, 粘土, 混入
3 姥褐 ○○ 層に粘土層 (2層より) 脱入物多く, 2層より少ない, 脱入物の粒度は上層の中程度	7 明赤泥 ○○ 砂層ブロック (φ5mm) 混入
4 姥褐 ○○ 砂質土, 上層に砂質層あり, As-C 混入	8 姥褐 ○○ 砂層ブロック (φ2mm), 砂層ブロック (φ2mm) 混入
5 姥褐 ○○ 4層に粘土層, As-C ブロック (4層よりやや多い) 混入	9 明赤泥 ○○ 砂層ブロック (φ2~5mm) 混入, 粘土粒子点在
6 姥褐 ○○ 砂質土, As-C 混入, 粘土粒子点在	10 姥褐 ○○ 砂層ブロック (φ2~10mm) 混入
7 黑褐泥 ○○ 砂質土, 砂層ブロック (φ2~10mm) 点在	14 姥褐 ○○ 13層に細粒, 13層より混入物の粒度大きい, 粘土粒子, ブロック (φ5mm) 混入
8 姥褐 ○○ 砂質土, As-C 混入	15 黑褐 ○○ As-C 混入, 砂層ブロック (φ2~10mm) 混入, 粘土粒子点在
10 姥褐 ○○ 砂質土, As-C 混入	16 姥褐 ○○ As-C 混入, 砂層ブロック (φ2~10mm) 混入, 粘土粒子点在 (H-10層上)
11 姥褐 ○○ 砂質土, 10層に類似2層より均質	17 姥褐泥 ○○ As-C (3層より少ない) 混入, 砂層ブロック (φ2~10mm) 点在, 粘土粒子, カーボン粒子点在 (H-10層上)
12 姥褐 ○○ As-C (程度小さい) 混入	18 姥褐 ○△ As-C 混入, 砂層ブロック (φ2~20mm) 混入, 粘土粒子, 砂層ブロック (φ2~20mm) 混入
13 姥褐 ○○ As-C (程度やや大きい) 混入, 砂層ブロック (φ2~10mm) 点在	19 姥褐 ○○ 砂層ブロック (φ2~20mm) 砂層起因の微細砂混入
	20 黑褐 ○△ H-11の殆り層, 砂層ブロック (φ2~20mm) 混入, 一部ラミテ状に駆られ。
	21 黑褐 ○○ As-C (程度小) 混入, 砂層ブロック (φ2~20mm) 点在

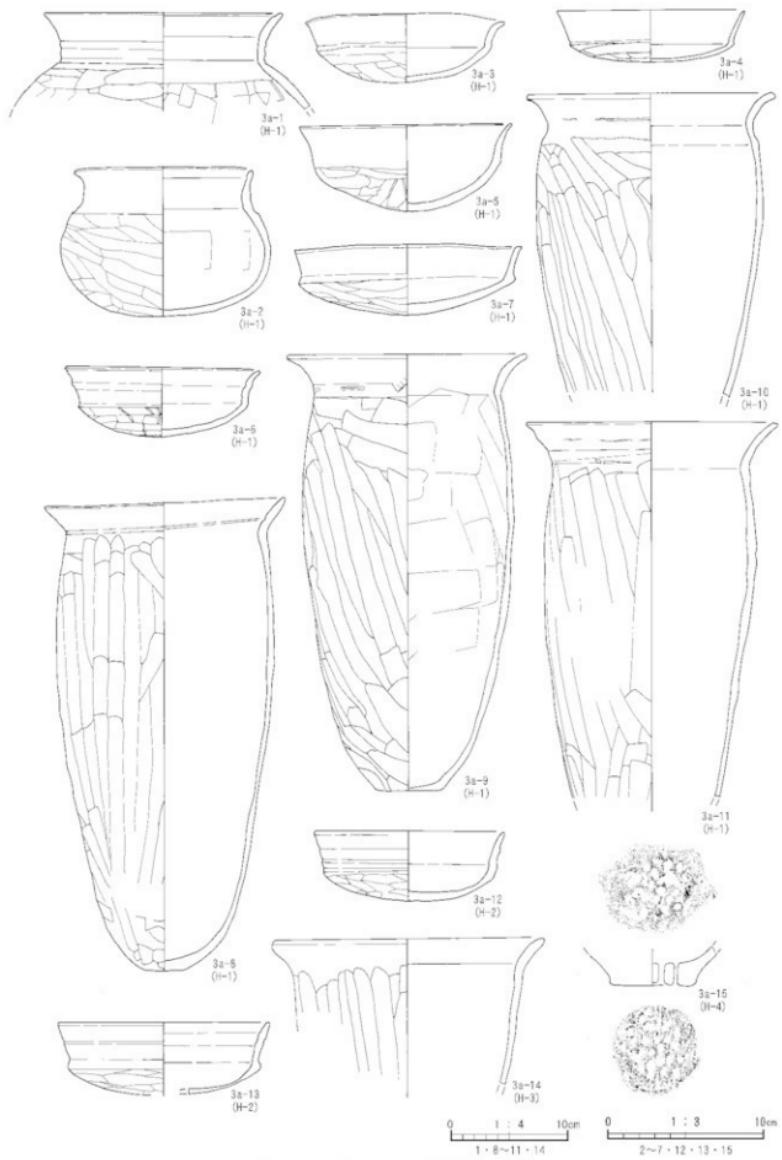


Fig.32 3 a 区 H-1 ~ 4 号住居跡出土遺物

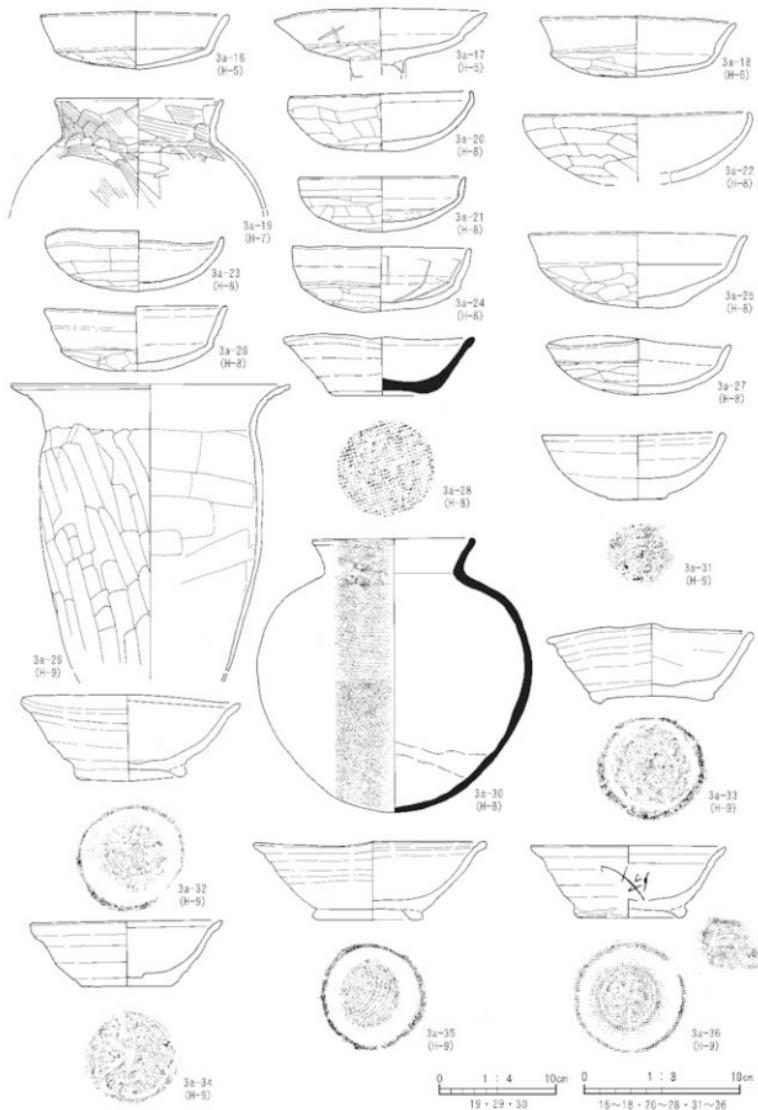


Fig.33 3 a 区 H-5 · 7 ~ 9 号住跡出土遺物

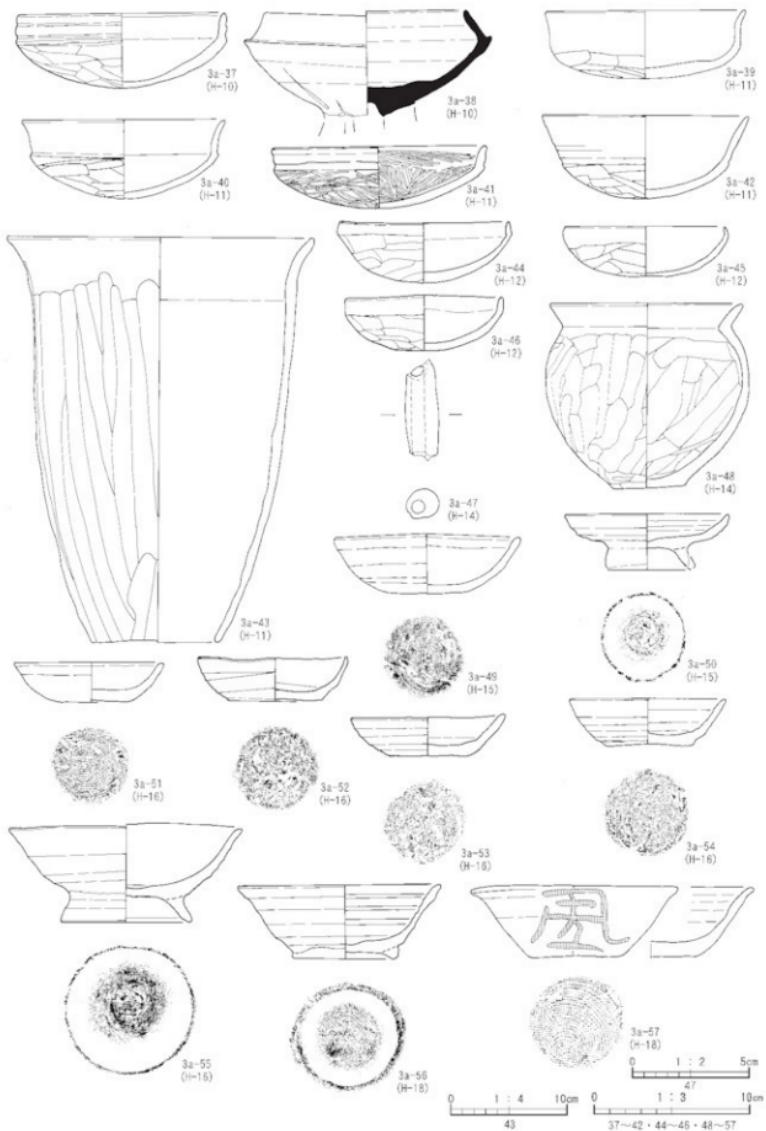


Fig.34 3 a [H-10~12、14~16・18号住跡出土遺物

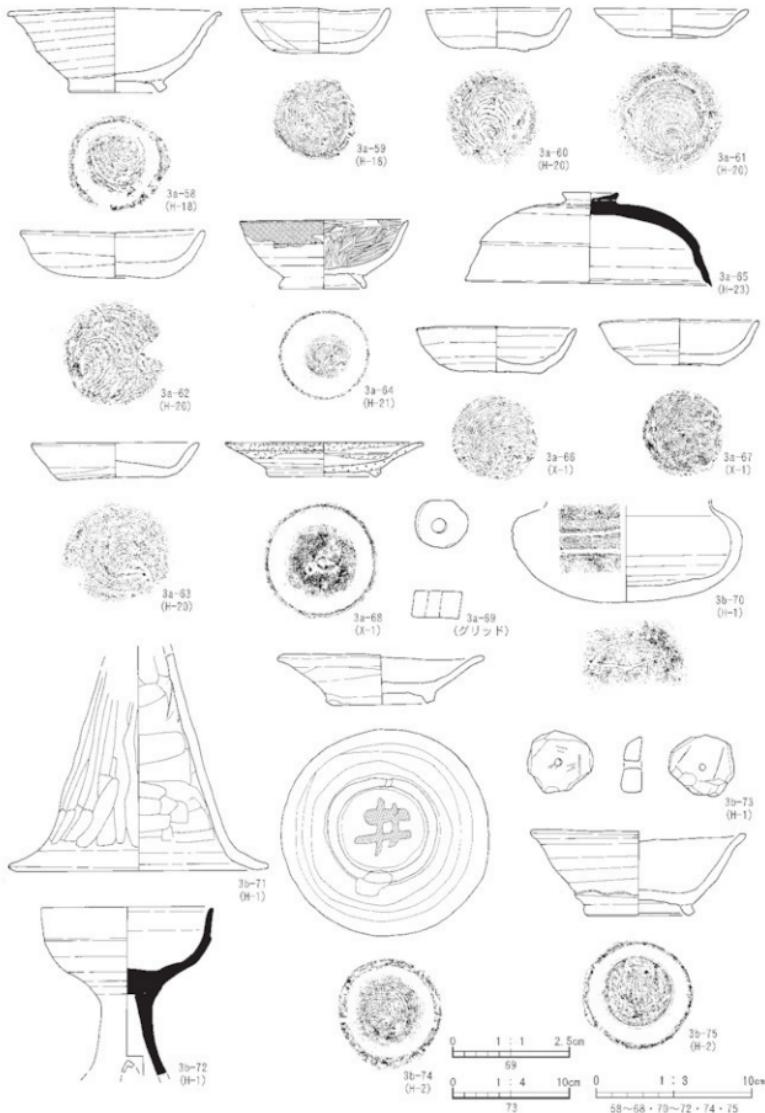


Fig.35 3 a区H-18・20・21・23号住居跡、X-1号遺構、3 b区H-1・2号住居跡出土遺物

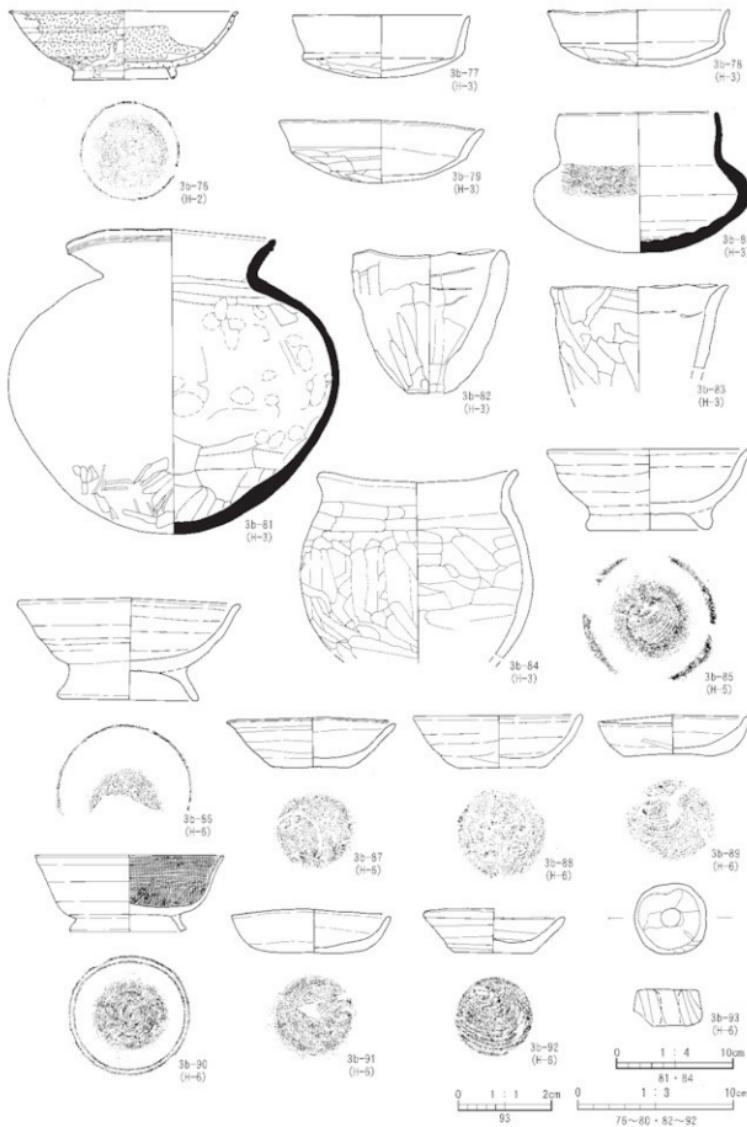


Fig.36 3 b区H-2・3・5・6号住居跡出土遺物

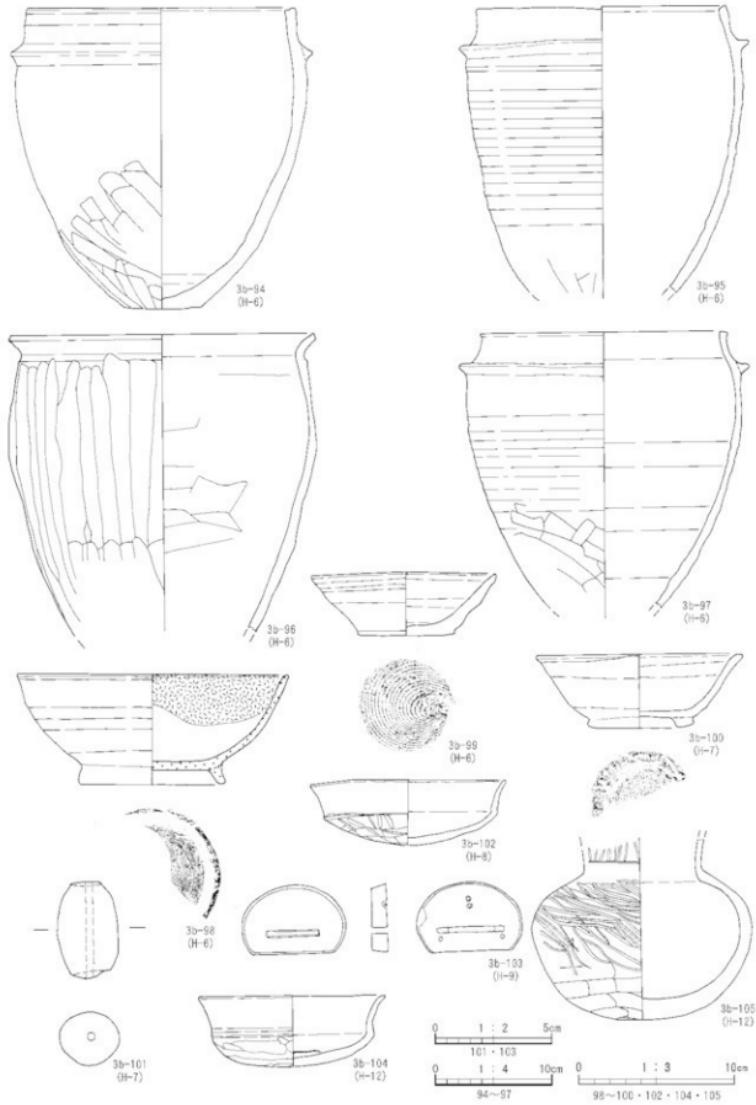


Fig.37 3 b区H-6~9・12号住居跡出土遺物

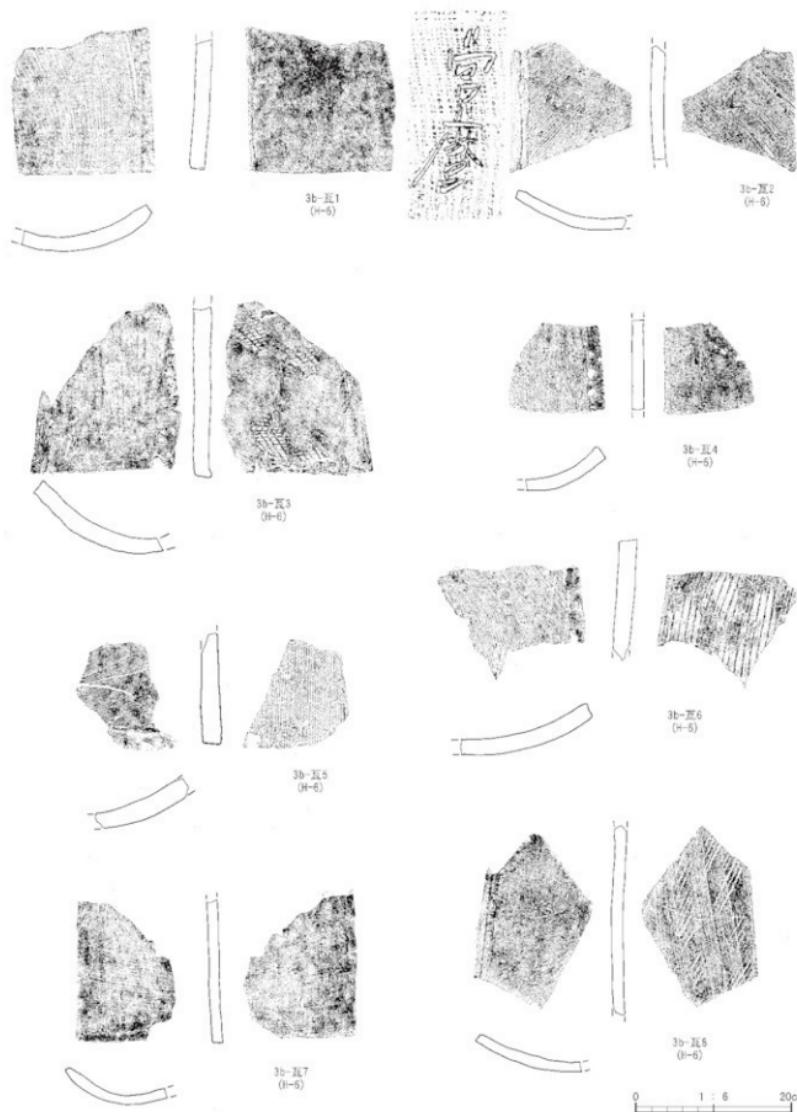


Fig.38 3 b区H-6号住居跡出土瓦(1)

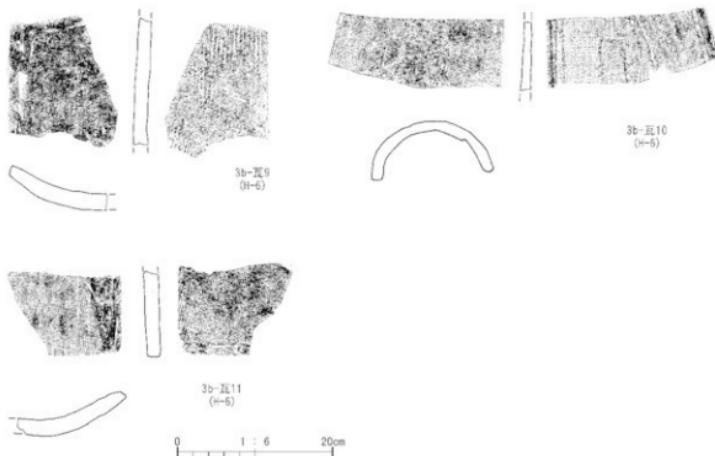


Fig.39 3 b 区H—6号住居跡出土瓦(2)

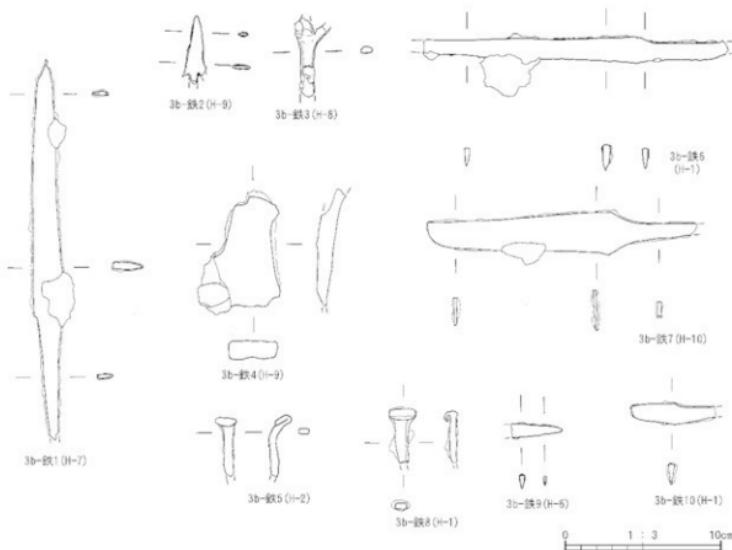


Fig.40 3 b 区出土鐵製品

4 区

調査区の概要

本調査区は3つの調査区からなる。4 a 区は、元總社北小学校の南西約170mの牛池川右岸上に位置し、標高121mほどである。検出した遺構は、覆土中から須恵器の大甕が出土したW-1号溝、その他ビットである。

4 b 区は、4 a 区の南東約50mに位置する。遺構は保存状態は良くないが竪穴住居跡が5軒検出された。4 c 区は4 b 区の東、道を隔てた反対側にある。調査区が狭く、遺構（W-1号溝）の深度が深いところから、調査区内の一部の調査となり、W-1号溝の大まかな走行と深さを確認するにとどまった。

基本層序

4 a 区は、現表土を除去すると、粗粒の砂質土となり、遺構の確認面もこの面であった。

4 b 区は、調査区の南半分ほどを擾乱されており、保存状態は非常に良くなかった。遺構確認面は、緻密な水成ローム（總社砂層の一部を成す）面で、基本層序として適当な場所はなかった。

4 c 区も同様で現耕作土下が確認面で、やや堅緻な總社砂層面であった。

4 a 区

(1) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.42, PL.11)

位置 X168・169、Y93～95グリッド 主軸方向 N-16°-E 形状等 最大上幅3.24m、最大下幅0.54m、深さ1.33m(南側1.27m、北側0.33m) 出土遺物 覆土中から須恵器の大甕が出土している。時期 不明。出土した大甕は廃棄もしくは流れ込みと思われ、遺構の時期を推定できる遺物の出土はなかった。

4 b 区

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.43, PL.11)

位置 X179・180、Y103・104グリッド 主軸方向 N-74°-E 形状等 東西4.42m、南北(3.78)m、壁現高15.5cm 面積 13.84m² 貯蔵穴 長軸45cm、短軸43cm、深さ58.5cm 床面 ほぼ平坦である。重複 H-3～5と重複し、いずれの住居跡よりも本住居跡が新しい。竪 主軸方向N-74°-E。全長107cm、最大幅150cm、焚口部幅48cm。出土遺物 土師器・甕・鉢 時期 6世紀第3四半期

H-2号住居跡 (Fig.42, PL.11)

位置 X177・178、Y102・103グリッド 主軸方向 N-64°-E 形状等 東西(3.76)m、南北(2.60)m、壁現高29.5cm 面積 9.68m² 壁周溝 あり 貯蔵穴 長軸70cm、短軸55cm、深さ55.5cm 床面 ほぼ平坦である。竪 未検出。重複なし 出土遺物 土師器・壺 時期 6世紀第3四半期。なお、調査区の耕作者より本住居跡のあたりから出土したという須恵器の楕の寄贈を受けたが、本住居跡の貯蔵穴出土の土師器・壺とは時期が合わない。

H-3号住居跡 (Fig.43, PL.11)

位置 X180・181、Y103グリッド 主軸方向 N-67°-E 形状等 東西(1.64)m、南北(1.92)m、壁現高37.0cm 面積 1.69m² 床面 ほぼ平坦である。竪 未検出。重複 H-1、H-5と重複し、本住居跡はH-1より古く、H-5より新しい。出土遺物 なし 時期 不明

H-4号住居跡 (Fig.43、PL.11)

位置 X180、Y103グリッド 主軸方向 N-86°-E 形状等 東西(1.18)m、南北(0.68)m、壁現高28.5cm 面積 0.62m² 貯蔵穴 長軸50cm、短軸40cm、深さ19.5cm 床面 貯蔵穴周辺のみの検出のため不明。竈 未検出。重複 H-1と重複し、本住居跡が古い。出土遺物 なし 時期 不明。備考 貯蔵穴周辺のみ検出・調査。

H-5号住居跡 (Fig.43)

位置 X180、Y103グリッド 主軸方向 N-81°-E 形状等 東西(1.80)m、南北(1.20)m、壁現高15.5cm 面積 1.98m² 床面 扰乱により乱れるが、ほぼ平坦である。竈 未検出。壁周溝 あり 重複 H-1、H-3と重複し、本住居跡が言いすればより古い。出土遺物 なし 時期 不明。備考 南壁(壁周溝)の一部のみ検出・調査。

4c区

W-1号溝跡 (Fig.42、PL.10)

位置 X183、Y104・105グリッド 主軸方向 N-3°-W 形状等 最大上幅(3.36)m、最大下幅0.28m、深さ2.52m 出土遺物 なし 時期 不明。備考 本年度調査の5区及び6区の溝と走行が一致するので蒼海城関係の堀と想定できる。

Tab.19 4 b区 住居跡等一覧表

遺構名	位置	規 模 (m)			主軸方向	竈			周溝	主な出土遺物 土器類：調査器：その他
		東西	南北	壁現高(cm)		位 置	構築材			
H-1	X179・180 Y103・104	4.42	(3.78)	15.5	13.84	N-74°-E	東壁中央	粘土	○	……
H-2	X177・178 Y102・103	(3.76)	(2.60)	29.5	9.68	N-64°-E			○ ○	……
H-3	X180・181 Y103	(1.64)	(1.82)	37.0	1.69	N-67°-E				石
H-4	X180 Y103	(1.18)	(0.68)	28.5	0.62	N-86°-E				……
H-5	X180 Y103	(1.80)	(1.20)	15.5	1.98	N-81°-E			○	……

Tab.20 4区 溝跡計測表

遺構名	位置	長さ(m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時 期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
4 a W-1	X168・169 Y95・95	不明	127.0	33.0	324.0		54.0		N-16°-E	V字状	
4 c W-1	X183 Y104・105	不明	252.0		(336.0)		28.0		N-3°-W	V字状	

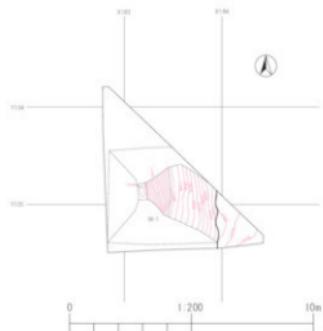
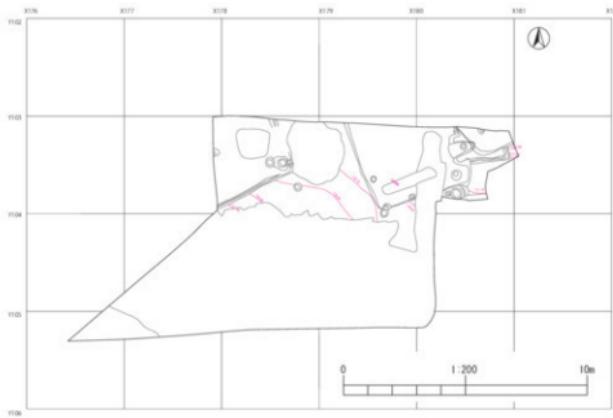
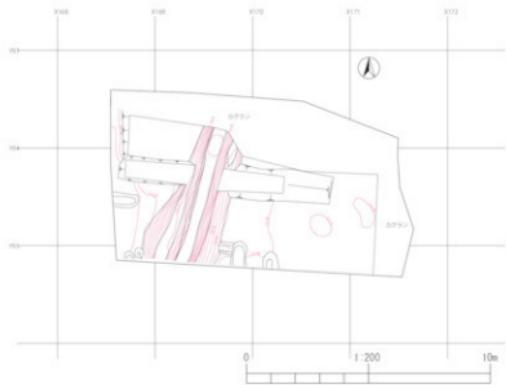


Fig.41 4区全体図

Tab.21 4 区 古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

番号	出土遺構 層	器種名	①又径 ②底径	③高さ	④底幅 ⑤底成 ⑥色調 ⑦道合度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
4 b-1	H-1	土加賀 杯	①21.8 ②—	③(9.4)	④中幅 ⑤直口 ⑥3YR5/6明赤褐 ⑦3/4	口縁部：外反、内外面擦擦で、外面部削り。斜部：上位に膨らみ、器底大鋸、内・外底部で、底部大鋸。	13	
4 b-2	H-2 P-2	土加賀 杯	①12.2 ②—	③2.5	④中幅 ⑤直口 ⑥3YR5/6明赤褐 ⑦3/4	口縁部：外反、内外面擦擦で、底部：やや丸底、内面擦、外面部削り。表面が剥離している。	1	
4 b-3	H-2 P-2	土加賀 杯	①14.4 ②—	③2.5	④中幅 ⑤直口 ⑥3YR6/6赤褐 ⑦3/6	口縁部：一部欠損、内外面擦擦で、底部：やや丸底、内面擦、外面部削り。表面が剥離している。	2	
4 b-4	H-1	土加賀 盤	①[17.2] ②—	③23.3	④中幅 ⑤直口 ⑥3YR7/4C-5V-橙 ⑦3/4	口縁部：外反、内面擦擦で、外面部削り。斜部：上位に膨らみ、器底大鋸、内・外底部で、底部大鋸。	電 4	
4 b-5	H-1	土加賀 長脚壺	①— ②—	③26.2	④中幅 ⑤直口 ⑥3YR6/4C-5V-橙 ⑦3/3	口縁部：器底大鋸、外反、内・外面擦擦で。斜部・底部：内面擦擦で、外面部削り。	電 5, 6, 9, 12, 13	焼成相 化相
4 b-6	H-2 青面電 青面電	土加賀 环	①11.6 ②—	③2.0	④中幅 ⑤直口 ⑥3YR7/4C-5V-深褐 ⑦3/4	口縁部：外反、内・外面擦擦で。斜部：内・外面擦擦で、平底、回転大切りきりあり。		
4 b-7	H-2 青面電 高台櫛	土加賀 環	①12.3 ②—	③4.5	④中幅 ⑤直口 ⑥3YR5/2暗灰黄 ⑦3/4	輪縁整形、口縁・外輪：外輪、内外面擦擦で。底部：内面擦、外面部削りきり、付け高台。		
4 a-1	W-1	須恵器 大甕	①15.6 ②—	③31.2	④中幅 ⑤直口 ⑥3YR5/2暗灰黄 ⑦3/4	輪縁整形。口縁部：内外面輪縁擦で。斜部：中位器底大鋸。外 面叩き、中位に断面四角形の彫み有り。		

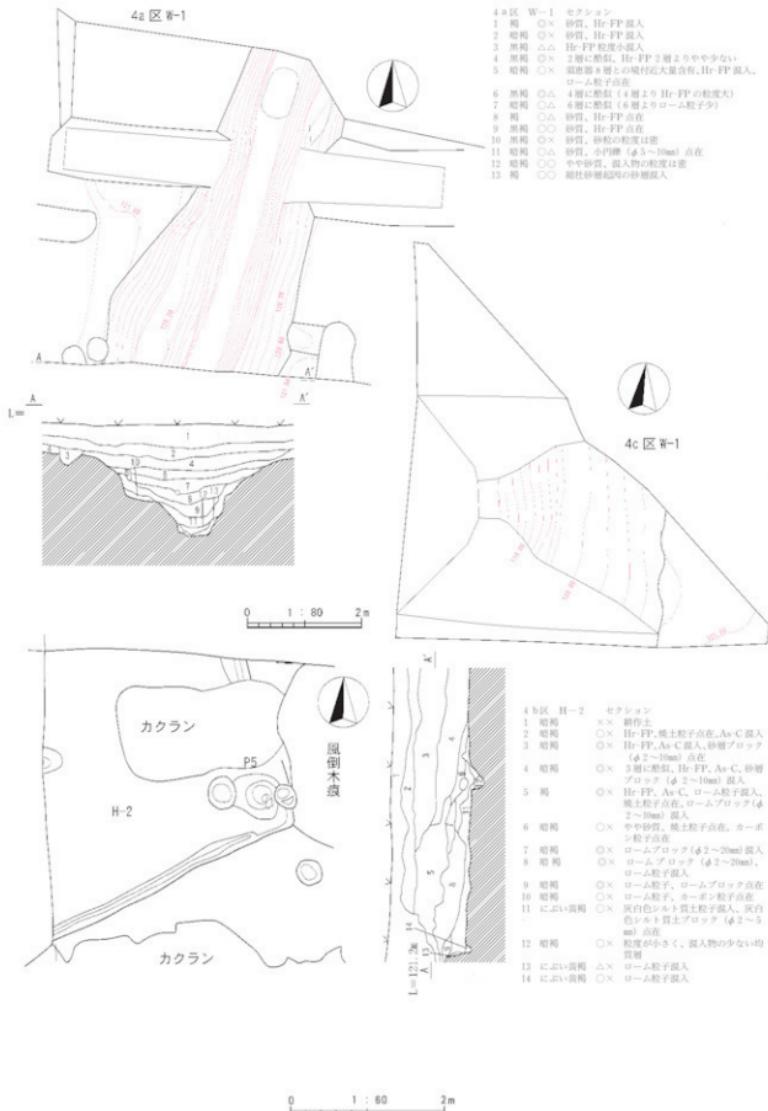


Fig.42 4 a 区W-1号溝跡、4 b 区H-2号住居跡

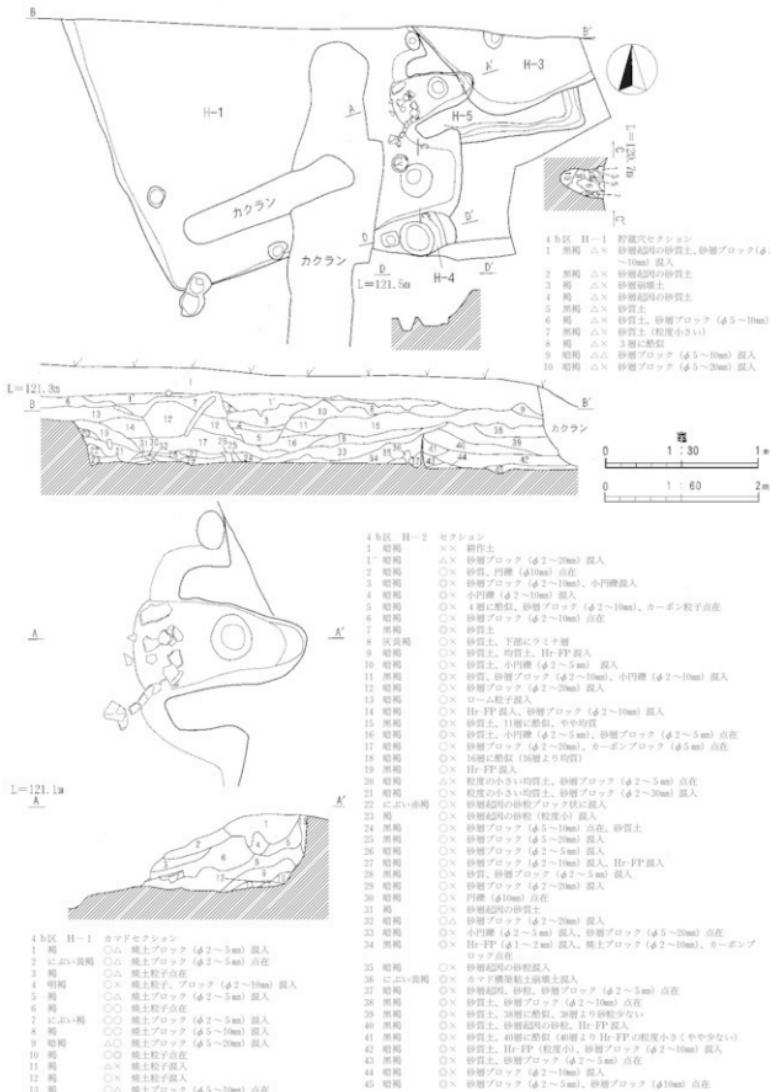


Fig.43 4 b区 H-1・2号住居跡

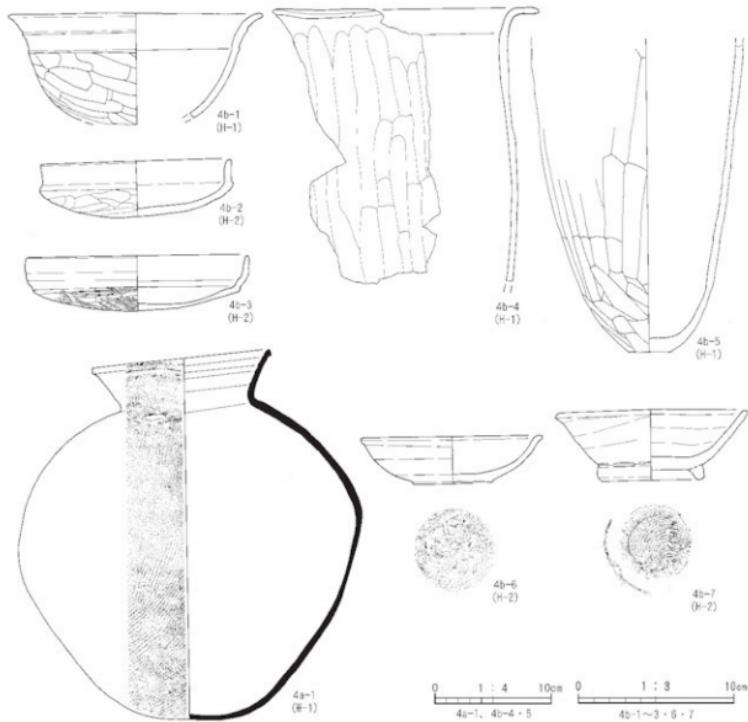


Fig.44 4 b区H-1・2号住居跡、W-1号溝跡出土遺物

5 区

調査区の概要

本調査区は、4 c 区の南約170mに位置し、標高120m程である。検出した遺構は、竪穴住居跡1軒と4 c から本調査区の西を通り6 区の西に抜ける大溝1条、時期不明の溝2条である。

遺構の保存状態は悪く、調査区中央から北にかけては、擾乱されており、検出遺構は比較的保存状態の良い南東からの検出であった。



(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.47、PL.11・12)

位置 X186・187、Y126・127グリッド 主軸方向 N-50°-E 形状等 東西(1.56)m、南北(1.96)m、
壁現高29cm 面積 1.94m² 床面 ほぼ平坦。龕 未検出。壁周溝 ○ 出土遺物 なし

(2) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.46、PL.12)

位置 X186、Y126・127グリッド 主軸方向 N-17°-W 形状等 最大上幅0.82m、最大下幅0.76m、最
小下幅0.64m、深さ12.5cm、長さ3.24m 時期 不明

W-2号溝跡 (Fig.46・47、PL.12)

位置 X186、Y126.127グリッド 主軸方向 N-172°-E 形状等 最大上幅1.1m、最大下幅0.8m、最小
下幅0.42m、深さ27.5cm、長さ3.90m 時期 不明

W-3号溝跡 (Fig.46・47、PL.12)

位置 X184・185、Y125～127グリッド 主軸方向 N-176°-E 形状等 長さ7.18m² 時期 不明

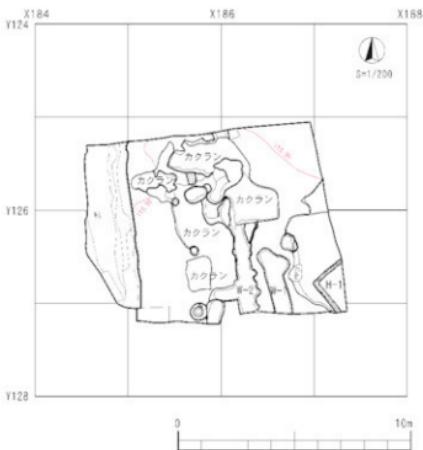


Fig.46 5区全体図

Tab.22 5区 住居跡一覧表

遺構名	位置	規 模 (m)			面積 (m ²)	主軸方向	環		周講	主な出土遺物 土器類：調査器：その他
		東西	南北	壁厚高(cm)			位 置	構築材		
H-1	X186・187 Y126・127	(1.56)	(1.96)	29.0	1.94	N-50°-E			○	

Tab.23 5区 溝跡、その他計測表

遺構名	位置	長さ(m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時 期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X186 Y126・127	3.24	12.5		82.0	76.0		64	N-17°-W	V字状	
W-2	X186 Y126・127	3.90	27.5		110.0	80.0		42	N-172°-E	V字状	
W-3	X184・185 Y129~127	7.18							N-176°-E	V字状	

Tab.24 5区 土坑計測表

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形 状	出 土 遺 物	備 考
D-1	X185, Y127	78.0	72.0		円 形		
D-2	X186, Y126	86.0	66.0		長楕円形	なし	

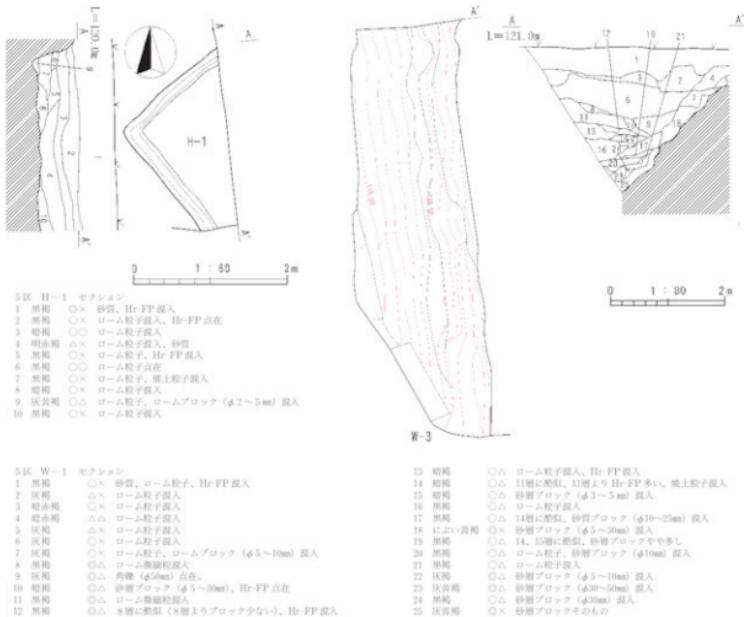


Fig.47 5区H-1住居跡、W-1号溝跡

6区

調査区の概要

本調査区は5区の南約50mに位置し、標高約120mほどである。検出された遺構は、古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡が3軒、土坑2基、溝跡1条を数える。

基本層序

- I層 黒褐色土 現耕作土。Hr-FP 中量均質に混入
- II層 褐灰色土 褐灰色粘質土のブロック粒子を不均質に混入する。
Hr-FP を少量不均質に混入
- III層 黄褐色土 總社砂層
※遺構はII層から掘り込まれる。



Fig.48 6区基本層序

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.50、PL.12)

位置 X186・187、Y137～139グリッド 主軸方向 不明 床面 硬化面あり。焼土あり。竪 主軸方向 N-109°-W。全長92cm、最大幅90cm、焚口部幅34cm 出土遺物 梱縫整形椀・皿、白玉、鉄製品 時期 9世紀後半

H—2号住居跡 (Fig.51、PL.13)

位置 X187・188、Y136・137グリッド 主軸方向 N—71°—E 形状等 東西3.78m²、南北2.37m² 面積 6.23m² 柱穴 P₂ 最大幅46cm、最小幅37cm、深さ60cm 床面 ほぼ平坦であるが硬化面なし。 龟 未検出。 壁周溝 ○ 重複 なし 出土遺物 須恵器・短頸壺・盤、土師器環・甕 時期 7世紀後半 備考 元總社遺跡群 (23) H—3と同一住居

H—3号住居跡 (Fig.50、PL.13)

位置 X186～188、Y138、139グリッド 主軸方向 N—67°—E 形状等 東西4.85m、南北(3.43)m 面積 10.36m² 柱穴 最大幅46cm、最小幅36cm、深さ60cm 床面 ほぼ平坦であるが硬化面なし。 龟 主軸方向 N—68°—W。全長84cm、最大幅(58)cm、焚口部幅(25)cm、煙道部長110cm 壁周溝 ○ 重複 I—1に重複し、I—1より古い。 出土遺物 土師器・甕・坏 時期 6世紀第4四半期

(2) 溝跡

W—1号溝跡 (Fig.51、PL.12・13)

位置 X184・185、Y137～139グリッド 主軸方向 N—17°—W 形状等 底部に狭い平坦面を有する断面V字状。 時期 不明

(3) 土坑、井戸跡 (Fig.51)

D—1号土坑 (Fig.51、PL.13)

位置 X188、Y138グリッド 形状等 円形 最大幅0.72m、最小幅0.62m

D—2号土坑 (Fig.51)

位置 X188、Y137・138グリッド 形状等 長楕円形 最大幅1.92m、最小幅0.97m

I—1号井戸跡 (Fig.49)

位置 X186、Y139グリッド 形状等 円形 最大幅1.00m、最小幅0.87m

I—2号井戸跡 (Fig.49)

位置 X185・186、Y139グリッド 形状等 円形 最大幅0.90m、最小幅0.85m

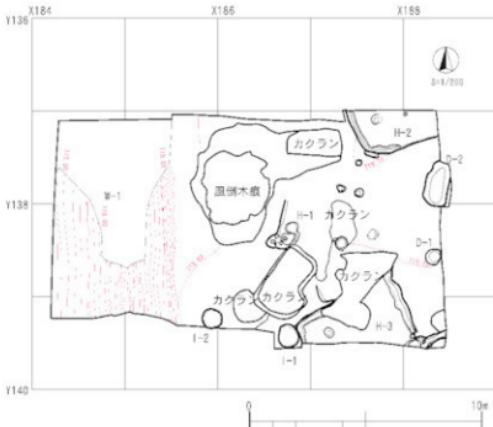


Fig.49 6区全体図

Tab.25 6区 住居跡一覧表

遺構名	位置	規 模 (m)			面積 (m ²)	主軸方向	電		周講	主な出土遺物		
		東西	南北	變規高(cm)			位 置	構築材		土器類	鉄器	その他
H- 1	X186・187 Y137～139	?	?	?	?	?	?	粘土	○	○	○	鐵等
H- 2	X187・188 Y136～137	3.78	2.37		6.23	N-71° E			○	○	○	鐵・石
H- 3	X186～188 Y138～139	4.85	(3.43)		10.36	N-67° E	東壁寄り	粘土	○	○		

Tab.26 6区 溝跡計測表

遺構名	位置	長さ(m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時 期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W- 1	X184・185 Y137～139	不明	256.0		32.0		24		N-17° W	V字状	中世

Tab.27 6区 土坑・井戸跡計測表

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形狀	出 土 遺 物	備 考
D- 1	X188, Y138	72.0	62.0	48.0	円 形	土器類	
D- 2	X188, Y137・138	192.0	97.0	24.0	長椭円形		
I- 1	X186, Y139	100.0	87.0		円 形		
I- 2	X185・186, Y139	90.0	85.0		円 形		

Tab.28 6区 古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②底高 ③底幅 ④底存度	⑤中幅 ⑥外幅 ⑦SYR6/4C.並い様 ⑧/4	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
6-1	H-1 覆土	土器留 カフラク	①8.6 ②1.8 ③4.0	①中幅 ②外幅 ③SYR6/4C.並い様 ④/4	輪轂整形。口縁部：火桶。体部・底部：内外面輪轂飾。回転ホ ーリアリ。		酸化焰焼成灰味
6-2	H-1	須恵器 碗	①13.8 ②4.5 ③—	①中幅 ②外幅 ③SYR6/4C.並い様 ④/4	輪轂整形。口縁部：外反。内外面飾で。体部：底部から外反して 立ち上がり、部らみを持つ口縁部へ至る。内外面飾。底部： 内面焼成。調査。	4	酸化焰焼成灰味
6-3	H-1 覆土	須恵器 碗	①14.8 ②4.2 ③6.7	①中幅 ②外幅 ③SYR6/4C.並い様 ④/4	輪轂整形。口・体部：外幅。内外面飾で。底部：内面焼成。外 面回転系切り。		酸化焰焼成灰味
6-4	H-1	白玉	①最大1.1cm ②最大80.7 ③—	①— ②— ③— ④12件完形			2
6-5	H-1	鐵 刀子	①最大37.7 ②最大45.7 ③最大59.4	①— ②— ③— ④1/2			3
6-6	H-1	鐵 鍔	①最大89.1 ②最大89.0(14.5) ③最大89.8	①— ②— ③— ④1/5			3
6-7	H-2	土器留 环	①10.4 ②3.2 ③—	①中幅 ②外幅 ③SYR6/4C.並い様 ④12件完形	口縁部：やや外反。内外面横飾。底部：丸みを帯びた平底。内 面焼成で。外表面磨り。	6, 28	
6-8	H-2	土器留 环	①11.3 ②3.8 ③—	①中幅 ②外幅 ③SYR6/4C.並い様 ④12件完形	口縁部：直立。内外面横飾で。底部：丸底。内面焼成で。相江底有り。 外表面磨り。	16	酸化焰
6-9	H-2	土器留 环	①11.8 ②12.9 ③—	①中幅 ②外幅 ③SYR6/4C.並い様 ④3/4	口縁部：直立。内外面横飾で。底部：やや丸底。内面焼成で。外 表面磨り。	7, 20	
6-10	H-2	土器留 环	①12.8 ②24.1 ③—	①中幅 ②外幅 ③SYR6/6mm ④12件完形	口縁部：一部火桶。直立。内外面横飾で。底部：丸底。内面焼成で。 外表面磨り。	23, 覆土	酸化焰
6-11	H-2	土器留 环	①14.0 ②24.8 ③—	①中幅 ②外幅 ③SYR6/4C.並い様 ④3/4	口縁部：一部火桶。内外面横飾で。受接点に棱有り。底部： やや平底。内面焼成で。外表面磨り。	9, 16, 覆土	酸化焰
6-12	H-2 覆土	土器留 环	①16.0 ②23.1 ③—	①中幅 ②外幅 ③SYR6/4C.並い様 ④1/3	口縁部：短く直立しし内傾。内外面横飾で。底部：丸底。内 面焼成で。外表面磨り。		
6-13	H-2	須恵器 环	①16.8 ②23.4 ③—	①中幅 ②外幅 ③SYR6/4C.並い様 ④12件完形	輪轂整形。口縁部：やや外反。内外面飾で。体部：やや膨らみを 持つ外側。内外面磨り。底部：内面焼成で。外表面磨り。	24	
6-14	H-2	土器留 环	①16.6 ②23.4 ③—	①中幅 ②外幅 ③SYR6/4C.並い様 ④12件完形	口縁部：やや火桶。内外面横飾で。体部：やや膨らみを持つ外側。 内面焼成で。外表面磨り後。直立。底部：丸底。内面焼成で。外 表面磨り。	27, 35	
6-15	H-2	須恵器 要	①18.6 ②(19.0) ③—	①中幅 ②外幅 ③SYR6/4C.並い様 ④口縁部切欠	輪轂整形。口縁部：外反。内外面：横飾で。斜削：内面輪轂飾で。 外側一部叩き目。底部：火桶。	25	
6-16	H-2	須恵器 要	①24.5 ②15.4 ③—	①中幅 ②外幅 ③SYR6/19K ④2/3	輪轂整形。口・体部：外幅。内外面飾で。底部：内面焼成で。外 面回転ホーリアリ。	12	還光焰
6-17	H-2	須恵器 要	①— ②— ③—	①— ②— ③—			24
6-18	H-2	須恵器 短腹壺	①5.1 ②14.3 ③7.8	①中幅 ②外幅 ③SYR6/4C.並い様 ④3/4	輪轂整形。口縁部：外幅。内・外外面輪轂飾で。回転削削り。斜削： 底部：火桶。	13	
6-19	H-3	土器留 要	①21.6 ②(26.0) ③—	①中幅 ②外幅 ③SYR6/4C.並い様 ④2/3	口縁部：やや直立から外反。内外面：横飾で。斜削：内面輪轂 飾で。外側上部横方に輪轂有り。中位斜方に輪轂有り。軋土村付。斜削は 口縁と同様。底部：内面焼成で。外表面磨り。	7, 13	
6-20	H-3	土器留 有付壺	①11.8 ②20.1 ③—	①中幅 ②外幅 ③SYR6/4C.並い様 ④3/4	口縁部：直立。内外面横飾で。底部：やや平底。内面焼成で。外 面磨り。	1	
6-21	H-3	土器留 有付壺	①15.8 ②21.1 ③—	①中幅 ②外幅 ③SYR6/4C.並い様 ④3/4	口縁部のみ残存。脚部は下方外に開いて下る。	6	酸化焰
6-22	D-1 覆土	土器留 カフラク	①9.6 ②22.3 ③8.2	①中幅 ②外幅 ③SYR6/4C.並い様 ④1/2	輪轂整形。口縁部：火桶。体部・底部：内外面輪轂飾で。回転ホ ーリアリ。		酸化焰焼成灰味

Tab.29 6区 鉄器・鉄製品観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	重さ	遺存度	登録番号	備考
6-5	H-1	刀子	7.2	2.1	0.4	1/2	3	
6-6	H-1	鉄鍔	3.1	(10.5)	0.8	4/5	3	

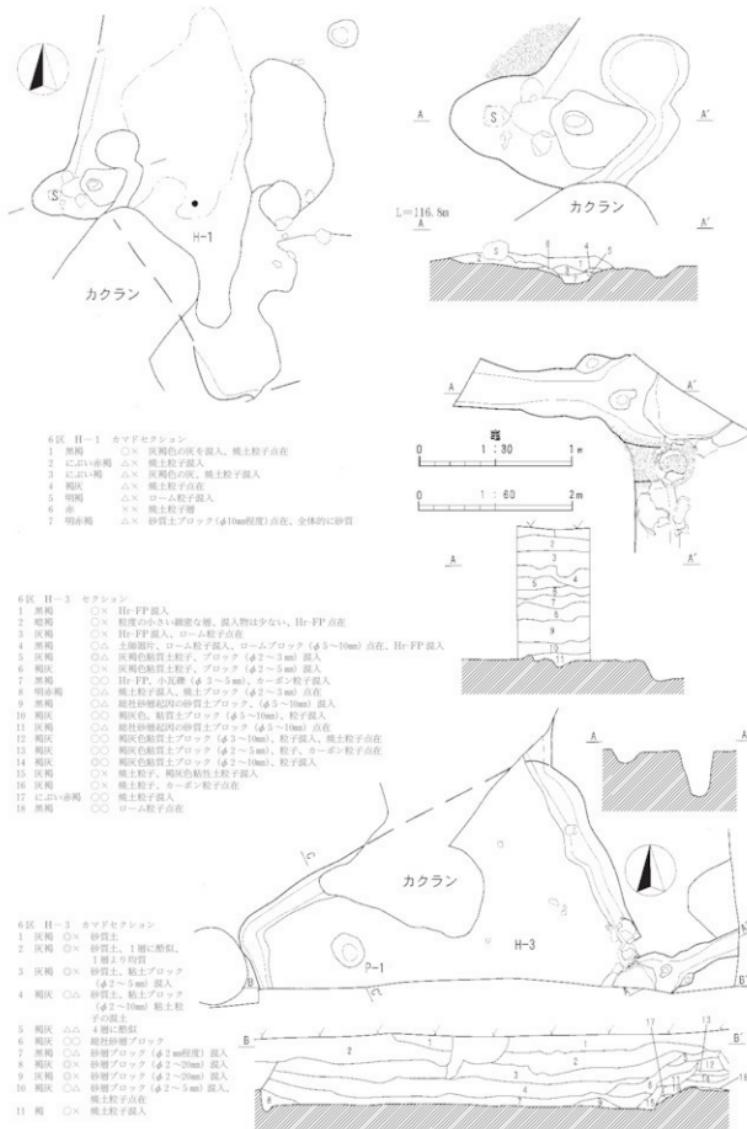
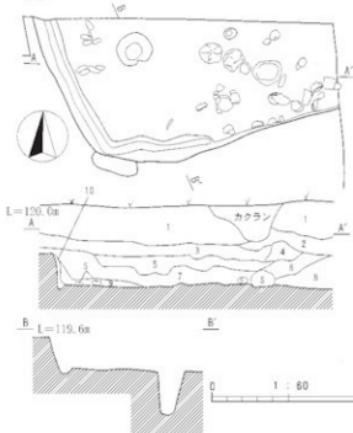


Fig.50 6区H-1・3号住居跡

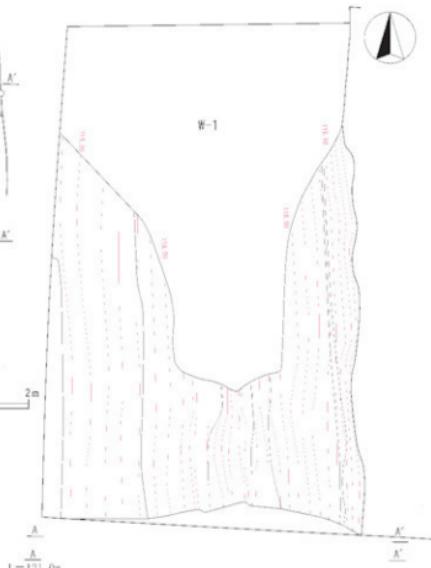
H-2



6区 H-2 セクション

- 1 黒褐 ローム粒子。砂質土混入。上段層に粗礫混入。
 - 2 黒褐 ローム粒子混入。土脚部表面に粗礫混入。
 - 3 黒褐 ローム粒子混入。ロームブロック ($\phi 2\sim20\text{mm}$) 混在。
 - 4 喜赤褐 ローム粒子。ロームブロック ($\phi 2\sim20\text{mm}$) 混入。土崩
細小礫片点在。
 - 5 黑褐 ロームブロック ($\phi 2\sim20\text{mm}$) 混入。
 - 6 黑褐 ローム粒子混入。土脚部表面に粗礫混入。
 - 7 黑褐 ローム粒子。ロームブロック ($\phi 2\sim5\text{mm}$) 混入。
 - 8 黑褐 ロームブロック ($\phi 2\sim5\text{mm}$) 混入。
 - 9 黑褐 ローム粒子混入。
 - 10 黑褐 9層に粗粒。9層よりやローム粒子多い。
- 6区 W-1 セクション
 - 1 黒褐 砂質土。
 - 2 黑褐 砂質土。ローム粒子混入。円礫 ($\phi 30\text{mm}$ 程度) 点在。
 - 3 喜褐 やや砂質。粗度小さく呪留質。円礫 ($\phi 30\text{mm}$ 程度) 点在。
 - 4 黑褐 3層に粗粒するより纖密で切質。粗度はさらにも小さく。ローム粒子点在。
 - 5 喜褐 ローム粒子少く呪留質。
 - 6 黑褐 ローム粒子。ロームブロック ($\phi 2\sim10\text{mm}$)。純土粒子混入。
 - 7 喜褐 6層に粗粒。6層より程度小さく呪留。ローム粒子。炭化物粒子点在。
 - 8 黑褐 ローム粒子。Hr-FP混入。
 - 9 喜褐 ローム粒子。Hr-FP混入。
 - 10 黑褐 3層に粗粒。2層よりも混入物の粗度大きい。
 - 11 喜褐 ローム粒子混入。
 - 12 黑褐 ローム粒子混入。細粒砂質ブロック ($\phi 2\sim10\text{mm}$) 混入。カーボン点在。
 - 13 暗黄褐 砂質土。ローム粒子点在。ざらつく。
 - 14 喜褐 砂質土。ローム粒子点在。
 - 15 喜褐 砂質。ローム粒子混入。純土粒子点在。
 - 16 黑褐 純土。砂質。
 - 17 黑褐 小内礫 ($\phi 5\text{mm}$ 程度) 点在。
 - 18 黑褐 小内礫 ($\phi 5\text{mm}$ 程度) 混入。17層に粗粒。17層より粗度大きい。
 - 19 明暗褐 砂質土。ローム粒子点在。Hr-FP混在。
 - 20 黑褐 純土。細粒砂質ブロック ($\phi 2\sim5\text{mm}$) 混入。
 - 21 暗褐褐 ローム粒子混入。
 - 22 喜褐 砂質。ローム粒子混入。
 - 23 黑褐 小内礫 ($\phi 2\sim5\text{mm}$) 混入。
 - 24 喜褐 細粒砂質の砂質土。
 - 25 喜褐 砂質。ローム粒子混入。
 - 26 喜褐 ロームブロック ($\phi 2\sim5\text{mm}$) 混入。
 - 27 喜褐 砂質土。(純土砂質起因) 小内礫 ($\phi 2\sim5\text{mm}$) 混入。
 - 28 喜褐 小内礫混入。
 - 29 喜褐 砂質。31層に類似するが小内礫の混入少ない。
 - 30 喜褐 砂質。31層に類似起因) 小内礫 ($\phi 5\text{mm}$ 程度) 混入。
 - 31 黑褐 小内礫 ($\phi 2\sim5\text{mm}$) と混入砂質起因の砂質土の園土。非常に砂質。
 - 32 黑褐 砂質。小内礫 ($\phi 2\sim5\text{mm}$) 混入。

W-1



D-1

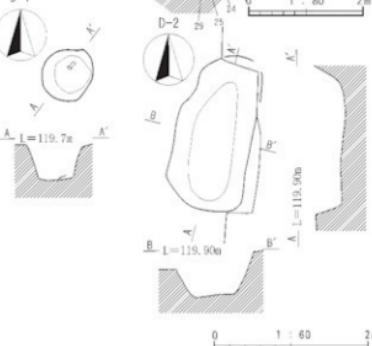


Fig.51 6区H-2号住居跡、W-1溝跡、D-1号土坑

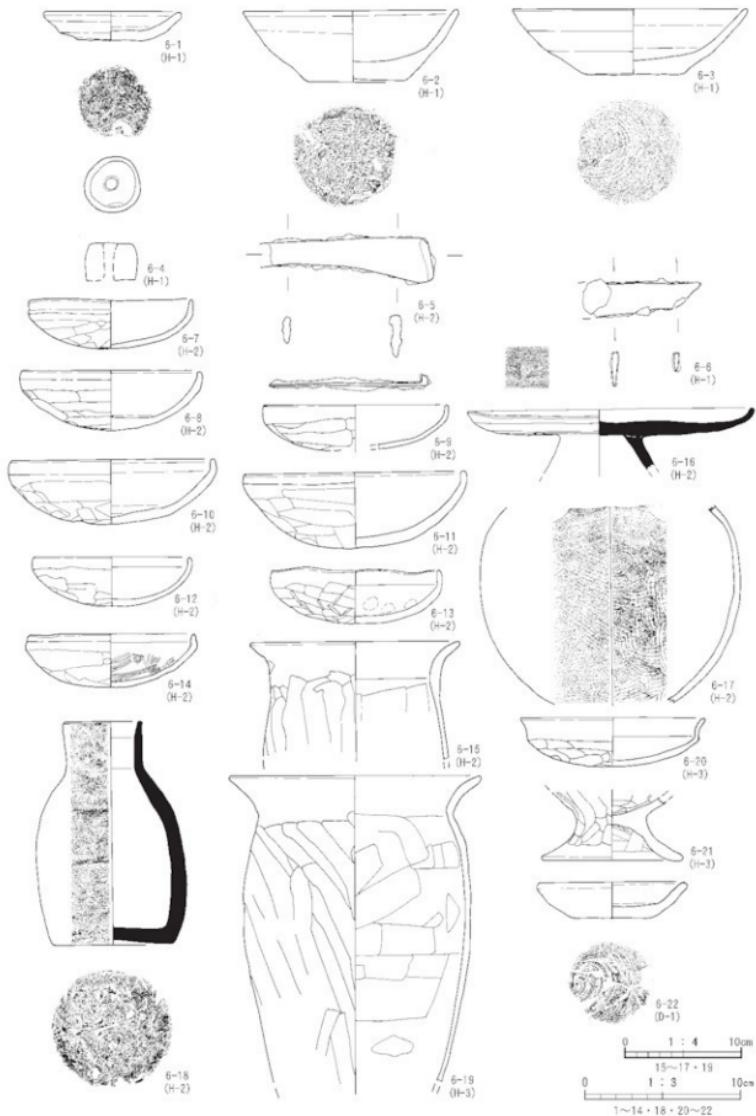


Fig.52 6区H-1～3号住居跡、D-1号土坑出土遺物

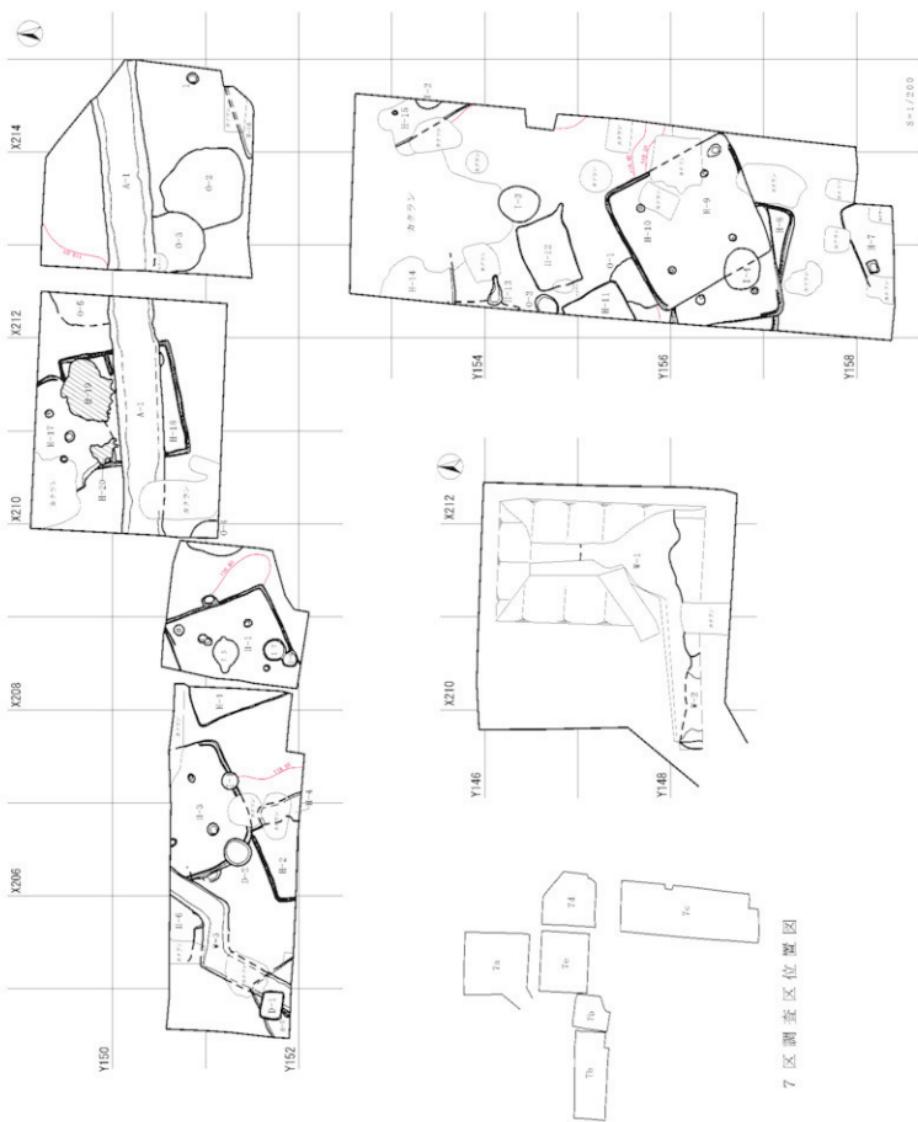


Fig.53 7区全体図

7区

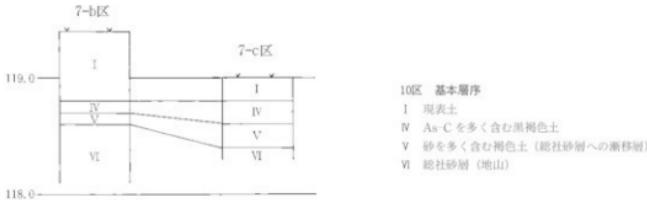


Fig.54 7区基本層序

層序

7区は西側を谷地、東側を牛池川に挟まれた台地上に位置している。付近は蒼海城の縄張図で「諏訪屋敷」とされていること、さらには調査においても蒼海城に関連する大溝が確認されていることから、少なからず造成作業が行われたことが考えられる。さらに調査区周辺は元経社地内でも古くから人家が密集している地域であることから攪乱の影響を受けていることが想定された。よって、表土の下に浅間B軽石を含む層が存在したと思われたが、明確に分層することはできなかった。しかし下層の浅間C軽石層を含む黒色土層、総社砂層への漸移層は確認することができた。ただし、調査位置によっては、浅間C軽石層を含む黒色土層も漸移層も明確にできない混合土の状態のまま地山の総社砂層に達する地点も見られた。

調査区概要

7区において確認された遺構は、竪穴式住居20軒、土坑3基、ピット1基、溝3条、道路状遺構1本、井戸7本、落ち込み5ヶ所が確認された。竪穴式住居は、古墳時代と推定されるものが12軒、奈良・平安時代と推定されるものが8軒確認された。溝については蒼海城の堀と考えられるものが1条確認された。その他、古代のものと考えられる道路状遺構が確認されている。

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.55, PL.15)

位置 X207~209、Y150~152グリッド 主軸方向 N-67°-E 形状等 方形を呈し、東西4.98m、南北5.06m、壁高6.5cmを測る。面積 14.76m² 床面 地山面を床面とする。堅緻面は確認されなかった。竈 東壁中央に構築され、主軸方向はN-69°-E、全長0.52m、最大幅0.6cmを測る。ほとんど破壊され、構築材は確認されなかった。貯蔵穴等 検出されなかつたが、東壁北隅付近に位置するピットが貯蔵穴の可能性が高い。柱穴は4ヶ所検出され、柱穴に向かうように、間仕切り溝も検出された。周溝 北壁の一部・東壁・南壁で確認されている。なお西壁においては残存状態が良好でなかつたため明確な周溝が確認できなかつたが、全体の状況から全周していたものと推定される。幅12cm前後、深さ5~10cmを測り、断面は逆台形を呈する。重複 住居中央部でI-5・6・7と重複する。重複関係は本住居跡→I-5・6・7の順である。出土遺物 竈覆土から土器壊が出土している。その他、土器壊の破片が住居北壁寄りの床面上から出土した。時期 出土遺物から6世紀後半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.55, PL.16)

位置 X205・206、Y151・152グリッド 主軸方向 N-67°-E 形状等 南半分が調査区外に位置し、北

側の一部が擾乱を受けているが、方形を呈すると考えられる。東西(3.54)m、南北(2.48)m、壁現高15cm前後を測る。面積 (5.19)m² 床面 堅緻面は黒色粘質土による貼床。竈 東壁中央に構築されているが、擾乱を受けているため右袖及び焚口部の一部を残して破壊されていた。構築材は灰褐色粘質土を用いる。焚口部は若干凹む。貯蔵穴等 確認されなかった。周溝 確認されなかった。重複 H-4号住居跡と重複する。重複関係はH-4号→本住居跡。出土遺物 出土遺物は少なく、土師器器程度。時期 出土遺物が極めて少なく時期決定が難しいが、重複関係から8~9世紀頃を推定しておきたい。

H-3号住居跡 (Fig.56, PL.16)

位置 X206・207、Y150・151グリッド 主軸方向 N-70°-E 形状等 北側が調査区外であるが、方形を呈する。東西5.62m、南北(4.30)m、壁現高16.5cmを測る。面積 (16.76)m² 床面 地山面を床面とする。堅緻面は確認されなかった。竈 焼土を含む土の堆積は認められたが、竈は検出されず。ただし、西壁に竈状の構築物をもつ。その主軸方向はN-73°-W、全長0.4m、最大幅0.66cmを測り、構築材に粘土を使用する。貯蔵穴等 貯蔵穴は確認されず。柱穴が3基確認された。その他床下土坑を有する。周溝 全周していると考えられる。重複 H-6号住居跡、W-3号溝、D-2号土坑と重複する。重複関係は本住居跡→H-6→W-3→D-2。出土遺物 長剣座、墓編石等。時期 出土遺物等から6世紀と推定される。

H-4号住居跡 (Fig.55, PL.16)

位置 X206・207、Y151グリッド 主軸方向 N-70°-E 形状等 南半分が調査区外に位置し、北側の一部が擾乱を受けているが、ほぼ方形を呈する。東西3.64m、南北(2.10)m、壁現高15.5cmを測る。面積 (4.43)m² 床面 地山面を床面とする。堅緻面が一部で確認された。竈 調査区内で確認されなかったが、南側壁に粘質土の堆積と構築材の砂質凝灰岩が確認できたため、調査区外に存在すると推定される。貯蔵穴等 貯蔵穴は検出されず。柱穴は2基確認された。周溝 精査を行なったが確認されなかった。重複 H-2号住居跡と重複する。重複関係は本住居跡→H-2。出土遺物 土師器坏。時期 出土遺物等から6世紀後半と推定される。

H-5号住居跡 (Fig.56, PL.16)

位置 X204~205、Y152グリッド 主軸方向 N-54°-E 形状等 大半は調査区外であるが、方形と思われる。確認された範囲で東西(2.86)m、南北(2.78)m、壁現高24cm前後を測る。面積 (4.06)m² 床面 地山面を床面とする。堅緻面が一部で確認された。竈 調査区内で確認されなかったが、南側壁に構築材の凝灰岩が確認できたため、調査区外に存在すると推定される。貯蔵穴等 貯蔵穴は確認できなかった。柱穴は1基確認された。その他床下土坑を有する。周溝 精査を行なったが確認されなかった。重複 W-3号溝、D-1号土坑と重複する。重複関係は本住居跡→W-3→D-1の順である。出土遺物 出土遺物は少なく、土師器器程度。時期 出土遺物が極めて少なく時期決定が難しいが、6世紀後半頃と推定される。

H-6号住居跡 (Fig.56, PL.16)

位置 X205、Y150グリッド 主軸方向 N-180°-E 形状等 後世の遺構による破壊や擾乱により竈付近のみ残存するため、詳細は不明であるが、部分的に残る南壁が直線的であることから方形を呈すると思われる。検出された範囲で東西(2.72)m、南北(1.16)m、壁現高9cm前後を測る。面積 (3.18)m² 床面 地

山面を床面とする。竈 南壁に構築され、主軸方位はN—180°—E。全長1.6m、最大幅164cm、焚口部幅124cmを測る。構築材は石を使用し、左袖は砂質凝灰岩の切石を使用し、右袖は川原石を使用している。なお、焚口部前で直列するように出土した甕2固体は転落した天井部の可能性がある。焚口部は若干凹み、煙道部にかけて緩やかに立ち上がる。煙道部先端付近はW—3号溝により破壊されている。貯蔵穴等 確認されなかった。周溝 確認されなかった。重複 H—3号住居、W—3号溝と重複する。重複関係はH—3→本住居跡→W—3の順である。出土遺物 土師器甕の他、焚口付近で土師器坏が出土している。時期 出土遺物等から6世紀末と推定される。

H—7号住居跡 (Fig.56、PL.17)

位置 X212～213、Y157～158グリッド 主軸方向 N—23°—W 形状等 西壁・東壁の一部は攪乱の影響を受け、南壁は調査区外であるが、方形と推定される。検出された範囲で東西(2.28)m、南北(3.76)m、壁現高5cmを測る。面積 (5.73)m² 床面 地山面を床面とする。竈 北壁に構築する。構築材等は確認できなかったが、周辺の覆土に粘土が含まれていた。また、焚口部の燃焼部分が被熱により赤化している。周溝 精査を行なったが確認されなかった。重複 なし。出土遺物 土師器坏片を少量。時期 出土遺物から6世紀前半と推定される。

H—8号住居跡 (Fig.57、PL.17)

位置 X212・213、Y156～157グリッド 主軸方向 N—13°—E 形状等 西壁は調査区外であるが、東西に長軸を持つ長方形を呈する。検出された範囲で東西(5.86)m、南北(4.82)m、壁現高20cmを測る。面積 (24.75)m² 床面 平坦な貼り床。貯蔵穴等 貯蔵穴は確認されなかった。柱穴は4基確認された。周溝 南壁と東壁の一部に周溝が確認された。幅10～18cm前後、深さ10cm前後を測る。重複 H—9号住居、H—10号住居と重複する。重複関係は本住居跡→H—9→H—10の順である。出土遺物 古式土師器（石田川式）破片。時期 出土遺物から4世紀代と推定される。

H—9号住居跡 (Fig.57、PL.17)

位置 X212・213、Y156～157グリッド 主軸方向 N—80°—E 形状等 方形を呈する。検出された範囲で東西4.82m、南北4.68m、壁現高28cmを測る。面積 (21.18)m² 床面 平坦な貼り床。竈 住居の重複により破壊されたが、焚口部の浅い掘りこみが確認できたため、東壁中央付近に構築されていたと推定される。ただし、規模・構築材等は不明。貯蔵穴等 貯蔵穴が南東隅付近で確認された。柱穴は4基確認された。周溝 南西隅で確認された。重複 H—8号住居、H—10号住居と重複する。重複関係はH—8号→本住居跡→H—10号の順である。出土遺物 土師器、須恵器片など。時期 出土遺物等から6世紀末と推定される。

H—10号住居跡 (Fig.58、PL.17・18)

位置 X212～214、Y155～157グリッド 主軸方向 N—61°—E 形状等 方形を呈する。検出された範囲で東西5.72m、南北6.00m、壁現高22cm前後を測る。面積 32.12m² 床面 住居と重複している部分は平坦な貼り床で、重複していない部分は地山面を床面としている。竈 焼土の分布から東壁の中央付近に構築されたと推定されるが、攪乱により破壊されている。貯蔵穴等 南東隅で貯蔵穴が確認されている。柱穴が4基確認されている。その他床下土坑をもつ。周溝 北壁及び東壁の一部で確認された。重複 H—8号住居跡、H—9号住居跡と重複する。重複関係はH—8→H—9→本住居跡の順である。出土遺物

土師器・須恵器片など。 時期 出土遺物等から7世紀前半と推定される。

H-11号住居跡 (Fig.58、PL.18)

位置 X212、Y154・155グリッド 主軸方向 N-61°-E 形状等 南東隅のみの確認であるが、方形と推定される。検出された範囲で東西(2.18)m、南北(3.14)m、壁現高11cmを測る。面積 (3.14)m² 床面 平坦な貼り床。竈 調査範囲内では確認されなかった。貯蔵穴等 調査範囲内では確認されなかった。周溝 なし。重複 D-3号と重複する。本住居跡のほうが古い。出土遺物 土師器壺、磁器片など。

時期 出土遺物等から7世紀後半と推定される。

H-12号住居跡 (Fig.58、PL.18)

位置 X212、Y153・154グリッド 主軸方向 N-69°-E 形状等 東西に長い長方形を呈する。東西3.10m、南北2.18m、壁現高5.5cmを測る。面積 6.32m² 床面 平坦な貼り床。竈 南東隅に構築されている。焚口付近がやや窪む程度の痕跡を残すのみで、構築材等は不明。貯蔵穴等 なし。周溝 なし。重複 なし。出土遺物 土師器、須恵器片など。時期 出土遺物が極めて少なく時期決定が難しいが、出土遺物から10世紀後半頃と考えたい。

H-13号住居跡 (Fig.59、PL.18)

位置 X212、Y153・154グリッド 主軸方向 N-80°-E 形状等 竈及びその周辺の堅緻面が確認できた程度で詳細は不明だが方形と推定される。検出された範囲で東西(0.74)m、南北(2.92)mを測る。面積 (1.10)m² 床面 平坦な貼り床。貯蔵穴等 確認できなかった。周溝 不明。重複 H-14号住居跡と重複する。本住居跡のほうが新しい。出土遺物 酸化焰焼成の須恵器、羽釜片 時期 出土遺物から10世紀後半頃と推定される。

H-14号住居跡 (Fig.59、PL.18)

位置 X212、Y153グリッド 主軸方向 N-81°-E 形状等 残存状況が悪いため判然としないが、方形と思われる。検出された範囲で東西(1.78)m、南北(2.24)m、壁現高26.5cmを測る。面積 (2.15)m² 床面 地山面を床面とする。堅緻面が一部で確認された。貯蔵穴等 調査範囲内では確認できなかった。周溝 なし。重複 H-13号住居と重複する。本住居跡のほうが古い。出土遺物 床面上から出土遺物は石1点のみ。覆土から弥生式土器片、土師器等が出土している。時期 出土遺物が極めて少なく時期決定が難しいが、状況から6世紀代と推定される。

H-15号住居跡 (Fig.59、PL.18)

位置 X215、Y153・154グリッド 主軸方向 N-59°-E 形状等 残存状況が悪いため判然としないが、方形と推定される。検出された範囲で東西(1.94)m、南北(3.92)m、壁現高35cmを測る。面積 (4.38)m² 床面 地山面を床面とする。周溝 精査を行なったが確認されなかった。重複 I-2号井戸と重複する。本住居跡のほうが古い。出土遺物 土師器片などが極少量。時期 出土遺物が極めて少なく時期決定が難しいが、状況から6世紀代と推定される。

H-16号住居跡 (Fig.59、PL.19)

位置 X210・211、Y149・150グリッド 主軸方向 N-72°-E 形状等 北西隅付近のみ確認されたため

判然としないが、方形と推定される。検出された範囲で東西(3.30)m、南北(0.92)m、壁現高36cmを測る。面積 (1.93)m² 床面 地山面を床面とする。周溝 なし。重複 なし。出土遺物 なし。時期 時期決定が難しいが、状況から6世紀代と推定される。

H-17号住居跡 (Fig.60、PL.20)

位置 X210・211、Y149・150グリッド 主軸方向 N-43°-E 形状等 西側が攪乱による影響を受け、北側は調査区外となるが、方形と推定される。検出された範囲で東西(3.96)m、南北(4.30)m、壁現高29.5cmを測る。面積 (11.32)m² 床面 地山面を床面とする。竈 調査区内では確認されなかったが、北側壁の東壁寄りで粘質土の堆積が認められたことから東壁に構築されていたと推定される。貯蔵穴等 貯蔵穴は調査範囲内では確認できなかった。柱穴は2基確認された。周溝 東壁で確認されたが、全周していと推定される。重複 H-18号住居跡、H-19号住居跡と重複する。重複関係はH-18→本住居跡→H-19の順である。出土遺物 土師器、須恵器片など。時期 出土遺物から7世紀後半と推定される。

H-18号住居跡 (Fig.60、PL.20)

位置 X210・211、Y149・150グリッド 主軸方向 N-79°-E 形状等 方形を呈する。東西5.20m、南北5.40m、壁現高31.5cmを測る。面積 24.47m² 床面 地山面を床面とする。南壁寄り中央付近で床下土坑が確認された。東西2.0m、南北1.7m、深さ0.2mを測り、不定形な円形を呈する。竈 確認できなかつたが東壁中央よりやや南付近の覆土に粘質土が少量含まれていたことから、東壁に構築されていたことが推定される。貯蔵穴等 貯蔵穴は南東隅付近で確認された。柱穴も4基確認された。そのほか床下土坑をもつ。周溝 全周する。幅20cm前後、深さ8cmを測り、断面は逆台形を呈する。重複 H-17号住居跡、H-19号住居跡、H-20号住居跡、A-1号道路状遺構と重複する。重複関係は本住居跡→H-17号→A-1号→H-19号・20号の順である。出土遺物 土師器片等など。時期 出土遺物から、6世紀後半と推定される。

H-19号住居跡 (Fig.61、PL.20)

位置 X211、Y149・150グリッド 主軸方向 N-82°-E 形状等 堅緻面のみ確認されたため、詳細は不明。確認された範囲で東西(2.40)m、南北(2.30)mを測る。面積 (4.38)m² 床面 平坦な貼り床。竈 明確な痕跡は確認されなかったが、粘質土が面的に分布していたことから、これを竈の構築した痕跡と考えたい。周溝 なし。重複 H-17号住居跡、H-18号住居跡、A-1号道路状遺構と重複する。重複関係はH-18→H-17号→A-1号→本住居跡。出土遺物 土師器、須恵器、灰釉陶器、羽釜片など。時期 出土遺物から10世紀後半頃と推定される。備考 A-1号道路状遺構に伴っていると考えられた遺物の一部は、出土状況から本住居跡に伴う可能性が高い。

H-20号住居跡 (Fig.61、PL.20)

位置 X210・211、Y150・151グリッド 主軸方向 N-152°-E 形状等 堅緻面のみ確認されたため、詳細は不明。確認された範囲で東西(1.58)m、南北(1.44)mを測る。面積 (1.67)m² 床面 平坦な貼り床。竈 明確な遺構は確認できなかったが、構築材と推定される砂質凝灰岩の切石や礫片がまとまって出土し、その付近で灰の分布も認められたことから、竈跡と推定した。貯蔵穴等 確認されなかった。周溝 不明。重複 H-18号住居跡、A-1号道路状遺構と重複する。重複関係はH-18→A-1号→本住居跡。出土遺物 酸化焰焼成須恵器坏、土釜など。時期 出土遺物から11世紀後半頃と推定される。

(2) 土坑・ピット (Fig.61)

7区においては、土坑が3基、ピットが1基確認されている。土坑のうち、D-1号土坑において底部から中国錢2枚が付着した状態で出土した他は特筆すべき遺物は出土していない。各土坑の詳細については一覧のとおり。

(3) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.61・62、PL.14)

位置 大規模な溝であり、確認できた位置はX210~212、Y146~148グリッドの範囲のみ。東西方向に走行する。 主軸方向 N-85°-E 規模等 調査した範囲内で長さ10.2m、最大幅8.06m、深さ4.06m 形状等 覆土の堆積状況から、溝は3時期にわたり改変されていたと推定される。I期は溝を底面まで掘削した時期である。底面まで調査できなかったため溝の形状等詳細については不明。II期はI期の溝がやや埋没した後に南側法面際にI期よりも小規模な sondageを設けたもの。III期は溝全体が埋没し断面形状が逆台形となり底面が硬化する時期である。III期は、その状況から溝が本来の機能を果たさなくなった後に道路として使われていたと推定できる。なお、III期の覆土に地山のブロックが多く含まれることから、人为的に埋められたことが推定できる。 重複 W-2と重複する。重複関係は、本遺構が新しい。 出土遺物 III期の覆土中から石臼が出土した。 時期 状況からI期、II期は中世、III期は近世と推定される。

W-2号溝跡 (Fig.62、PL.14)

位置 X209・210、Y148グリッド 南北方向に走行する。 主軸方向 N-180°-E 規模等 調査した範囲内で長さ1m、最大幅4.15m、深さ1.25m 形状等 逆台形。 重複 W-1号溝と重複する。重複関係は本遺構のが古い。 遺物 なし 時期 不明 備考 溝と判断したが、土層の堆積状況から風倒木痕の可能性が考えられる。

W-3号溝跡 (Fig.62、PL.16)

位置 X204~206、Y150・151グリッド クランクして走行する。 主軸方向 N-32°-E 規模等 調査した範囲内で長さ8.14m、最大幅1.09m、深さ0.28m 形状等 逆台形を呈する。 重複 H-3号住居跡、H-5号住居跡、H-6号住居跡と重複する。重複関係はH-3号、H-4号→H-6号住居→本遺構の順である。 出土遺物 土師器などの破片が少量。 時期 状況から中世以降と推定される。

(4) 道路状遺構 (Fig.62、PL.19)

位置 X209~214、Y149・150グリッド 東西方向に走行する。 主軸方向 N-88°-E 規模等 調査した範囲での長さ20.7m、最大幅2.1m、硬化面の分布する高さの幅1.5m、掘り方の底部の幅0.6m、掘り方の深さ0.33m。 形状等 浅いU字形の掘り方をもつ。硬化面の分布が主軸方向へ帯状に確認できたが、掘り方の底部においても硬化する部分を持つ。 重複 H-18号住居跡、H-19号住居跡、H-20号住居跡と重複する。重複関係はH-18→本遺構→H-19・H-20の順である。 出土遺物 覆土から土師器片、須恵器片などが出土している。 時期 覆土の遺物と重複関係から8~9世紀頃に帰属すると推定される。

(5) 井戸 (Fig.63)

井戸は7本確認されている。いずれも近世以後に掘削された井戸で、最近まで使用されていた痕跡を残す井戸も存在した。位置・規模等については一覧のとおり。

(6) 落ち込み (Fig.63、PL.18)

落ち込みは5ヶ所で確認されている。性格としては、土層の堆積状況からすべて風倒木痕と考えられる。遺構との重複関係では、すべての落ち込みが他の遺構よりも古いことから、かなり古い時期に形成された風倒木痕であると考えられる。各風倒木痕の位置・規模等については一覧のとおり。

Tab.30 7区 住居跡一覧表

遺構名	位置	規 模 (m)		面積 (m ²)	主軸方向	窓		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北・壁現高(cm)			位 置	構築材		土器	須恵器	その他
H-1	X297・209 Y150・152	(4.98)	(5.06)	(14.76)	N-67°-E	東壁中央	不明	有	环・甕	-	-
H-2	X295・206 Y151・152	(3.54)	(2.48)	(5.19)	N-67°-E	東壁中央	粘土	有	-	-	-
H-3	X296・207 Y150・151	5.62	(4.30)	(16.76)	N-70°-E	東壁中央	不明	有	环・甕	-	砾石
H-4	X296・207 Y151	3.64	(2.10)	(4.43)	N-70°-E	東壁南等	粘土 碎灰岩	-	环	-	-
H-5	X294・205 Y152	(2.86)	(2.78)	(4.06)	N-54°-E	東壁南等	粘土 碎灰岩	-	-	-	-
H-6	X295 Y150	(1.16)	(2.72)	(3.18)	N-180°-E	南壁	粘土 碎灰岩	-	环・甕	-	-
H-7	X212・213 Y157・158	(2.28)	(3.76)	(5.73)	N-23°-W	北壁中央	不明	-	环	-	-
H-8	X212・213 Y156・157	(4.80)	(5.86)	(24.75)	N-13°-E	なし	-	有	甕	-	-
H-9	X212・213 Y156・157	4.82	4.68	(21.18)	N-80°-E	東壁中央	不明	有	环	-	-
H-10	X295・206 Y151・160	5.72	6.00	32.12	N-61°-E	東壁中央?	不明	有	环・甕	环	-
H-11	X212 Y154・155	(2.18)	(3.14)	(3.14)	N-61°-E	未確認	不明	-	环	-	-
H-12	X212 Y153・154	3.10	2.18	6.32	N-69°-E	東壁隅	不明	-	-	-	-
H-13	X212 Y153・154	(0.74)	(2.92)	-	N-80°-E	東壁隅?	粘土	-	-	羽釜	-
H-14	X212 Y153	(2.24)	(1.78)	(2.15)	N-81°-E	未確認	不明	-	-	-	砾石
H-15	X215 Y153・154	(1.94)	(3.92)	(4.38)	N-59°-E	未確認	不明	-	-	-	-
H-16	X210・211 Y149・150	(3.30)	(9.2)	(1.93)	N-72°-E	未確認	不明	-	-	-	-
H-17	X210・211 Y149・150	(3.96)	(4.30)	(11.32)	N-43°-E	東壁中央	粘土	有	环	-	-
H-18	X210・211 Y149・150	5.20	5.40	24.47	N-79°-E	東壁中央	粘土?	有	环・甕	-	-
H-19	X211 Y149・150	(2.40)	(2.30)	-	N-82°-E	不明	不明	-	-	羽釜	灰釉
H-20	X210・211 Y150・151	(1.58)	(1.44)	-	N-152°-E	不明	碎灰岩	-	土釜	坏	-

Tab.31 7区 土坑・ピット・井戸・落ち込み一覧表

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土 遺物	備 考
D-1	X204 Y151	122	92	46	方形	古銭2点「水葉通宝」「(不明)」	
D-2	X206 Y151	94	86	54	円形	なし	近現代か
D-3	X212 Y154	(90)	90	60	円形	石、圓文式土器破片	
P-1	X214 Y150	59	45	26	円形	なし	
I-1	X297 Y150~151	79	70	—	円形	なし	
I-2	X214 Y155	(106)	(62)	—	円形	なし	近現代か
I-3	X213 Y154	(152)	(150)	—	円形	なし	近現代
I-4	X212 Y156	—	—	—	円形	なし	近現代
I-5	X208 Y151	156	110	—	円形	なし	近現代か
I-6	X208 Y151	68	(62)	—	円形	陶器断片	近現代か
I-7	X208 Y151	98	(98)	—	円形	陶器断片	近現代か
O-1	X212 Y155・156	208	232	84	不定形	なし	
O-2	X212・213 Y150	(340)	340	39	不定形	なし	
O-3	X213・214 Y150・151	(260)	(238)	50	不定形	なし	
O-4	X204 Y164	—	—	—	不定形	なし	
O-5	X204 Y165	—	—	—	不定形	なし	

Tab.32 7区 溝跡・道路状構造一覧表

遺構名	位置	長さ(m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時 期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1 (Ⅰ期)			(406)	—	—	—	—	—		薬研?	中世
W-1 (Ⅱ期)	X210~212 Y146~148	(10.2)	(312)	—	(806)	—	36	—	N-85°-E	薬研	中世
W-1 (Ⅲ期)			(182)	—	—	—	—	—		逆台形	近世以後
W-2	X209~210 Y148	(1)	(125)	(115)	(415)	(395)	(235)	(225)	N-180°-E	逆台形?	不明
W-3	X204~206 Y150~151	8.14	28	10	109	94	78	56	N-32°-E	逆台形	中世以後
A-1	X209~214 Y149~150	(20.7)	33	—	—	210	—	150	N-88°-E	U字状	8~9世紀

Tab.33 7区 出土遺物観察表

番号	出土遺物 種	器物名	①口部 ②底部 ③側面 ④構成 ⑤表面	器物の特徴・整形・調節技術	登錄番号	備 考
7-1	土器 甕	①12.9 ②24.5 ③— ④—	丸底の底部から口縁部外反して立ち上る。口縁と体部の境は緩やか な腰をもつ。口縁部削除で、体部裏削り。	1		
7-2	土器 甕	①(11.7) ②(24.4) ③— ④—	丸底の底部から口縫部外反して立ち上る。口縁と体部の境は緩やか な腰をもつ。口縁部削除で、体部裏削り。	2		
7-3	土器 甕	①12.3 ②24.5 ③— ④—	丸底の底部から口縫部外反して立ち上る。口縁と体部の境は緩やか な腰をもつ。口縁部削除で、体部裏削り。	1		
7-4	土器 甕	①(29.6) ②(231.0) ③— ④—	丸底の底部から口縫部外反して立ち上る。口縁と体部の境は緩やか な腰をもつ。口縁部削除で、体部裏削り。	1		
7-5	土器 甕	①(22.2) ②(32.11) ③— ④—	口縫部まで外反して開く。口縫部は削除で、削部外縁は茎削りの後 にヒガリ。内縫についても削て底面にヒガリあり。	1		
7-6	土器 甕	①(13.2) ②(25.1) ③— ④—	口縫部まで外反して開く。最大底は口縫部。口縫部は楕 円削で、削部外縁は茎削りの後削。内縫は横方向の板削で。	2		
7-7	土器 甕	①(13.1) ②(25.0) ③— ④—	平底気泡の体部から口縫部外反して立ち上る。口縁と体部の境は緩 やかな腰をもつ。口縫部削除で、体部裏削り。	3		
7-8	土器 甕	①(13.0) ②(23.8) ③— ④—	平底気泡の体部から口縫部外反して立ち上る。口縁と体部の境は緩 やかな腰をもつ。口縫部削除で、体部裏削り。	1		
7-9	H-10 底直	①12.0 ②(24.7) ③— ④—	丸底の底部から口縫部外反して立ち上る。口縁と体部の境は緩 やかな腰をもつ。口縫部削除で、体部裏削り。	5		
7-10	H-10 底直	①(11.8) ②(33.9) ③— ④—	丸底の底部から口縫部外反して立ち上る。口縁と体部の境は緩 やかな腰をもつ。口縫部削除で、体部裏削り。	4		
7-11	H-10 底直	①(23.0) ②— ③— ④—	丸底削で、口縫部は反対して開く。最大底は口縫部。口縫部は楕 円削で、削部外縁は茎削り。内縫は横方向の板削で。	3		
7-12	H-10 底直	①(17.8) ②(19.0) ③— ④—	丸底削で、口縫部は反対して開く。最大底は口縫部。口縫部は楕 円削で、削部外縁は茎削り。	1		
7-13	H-11 底直	①(11.3) ②(23.3) ③— ④—	丸底の底部から口縫部外反して立ち上る。口縁と体部の境は緩 やかな腰をもつ。口縫部削除で、体部裏削り。	1		
7-14	H-15 底直	①(15.3) ②(25.6) ③— ④—	高台部を特づける底削(刃削き)から体部は内削し。口縫部は楕 円削で、削部外縁は茎削り。	1		
7-15	H-15 底直	①(20.6) ②(29.2) ③— ④—	削底は口縫で削り、口縫部は厚く内傾する。脚は上方に突出する。 削底は刃削で削るが、削部中央下には茎削の痕跡。内縫は口 縫部のみ刃削削で。	3,4		
7-16	H-14 土器 小甕	①— ②(3.3) ③— ④—	底部・体部は削で、体部立上り部分に指捺印。			
7-17	H-10 底直	①(25.1) ③— ④—	削底は楕円形で削り、削部に瘤状。内縫はヒガリ。作生時代後期 の特徴。			
7-18	H-14 土器 小甕	①(13.4) ②(22.7) ③(15.8) ④—	削底は楕円形で削り、削部に瘤状。内縫はヒガリ。作生時代後期 の特徴。			

番号	上土造機 種類	器種名	①口唇 ②顎高 ③顎前	①地土 ②堆成 ③分度	器種の特徴・整・調節技術	番号	備考
7-19	H-11 堆土 車	土耕器 H	① [10.8] ②33.3 ③—	①耕土 ②耕作 ③耕作 ④耕作 ⑤耕作 ⑥耕作	本机の体部から口縁は外反して立てる。口縁と体部の縫は僅かな傾きをなす。口縁は直線で、体部は圓形。	13	
7-20	H-11 底直	土耕器 H	① [16.0] ②33.9 ③—	①耕作 ②耕作 ③耕作 ④耕作 ⑤耕作 ⑥耕作	本机の体部から口縁は内側して立てる。口縁は圓形で、体部は斜面。	15	
7-21	H-19 堆土 車	土耕器 H	①— ②222.8 ③耕作 ④耕作	①中耕松 ②良好 ③耕 ④耕	側部が膨らむまで、側部から底部にかけてのみ残る。側部は外側が緩い張り、内面は横張りで一部に斜め方向の差がある。	3～6	
7-22	H-19 底直	土耕器 H	① [11.1] ②33.7 ③耕作 ④耕作	①中耕松 ②良好 ③浅耕 ④ほぼ完形	体部は内面もしくは口縁部が外反する。輪轂整形で、底部は斜面と斜め方向の差がある。	7	
7-23	H-19 底直	土耕器 H	① [11.8] ②55.8 ③耕作 ④耕作	①耕作 ②良好 ③浅耕 ④耕	「ハ」の字状の高台を付し、体部は直線的に上方に向く。口縁部はやや丸みを帯びる。輪轂整形。	29+28	
7-24	H-19 底直	底直器 H	① [15.3] ②55.3 ③耕作 ④耕作	①耕作 ②良好 ③耕 ④耕	底部は高台を行し、体部はやや丸みを帯びて開く。輪轂回転調整。	1	
7-25	H-19 底直	底直器 H	① [20.1] ②56.1 ③耕作 ④耕作	①耕作 ②良好 ③耕作 ④耕作付近	口縁部は内側する。跨は上方に突出する。外側面輪轂整形。	14+19	
7-26	A-1 高台高	底直器 H	①— ②55.9 ③—	①耕作 ②良好 ③に近い ④耕作 (底) / ④耕作 (底) /	高台を行する始部(回転頭部)から、体部は丸みを帯びて開く。	6	
7-27	A-1 高台高	底直器 H	① [11.5] ②55.9 ③耕作 ④耕作	①耕作 ②良好 ③浅耕 ④ほぼ完形	底部は高台を行し、輪轂整形で、直線的に開く。口縁部に保護ゴムがあり、口縁部が内側に大幅に変形した後も使用されている。	4	H-19K前面上 か
7-28	A-1 高台高	底直器 H	① [13.6] ②55.2 ③耕 ④耕	①耕作 ②良好 ③耕 ④耕	体部は内面もしくは口縁部が外反する。輪轂整形で、「ハ」の字状の高台を付す。黒色上部で、口縁部内側にミキナ。内面に斜面状に広がり口縁部行でほぼ整形状となる範囲あり。	1	
7-29	H-20 底直	底直器 H	① [9.8] ②57.1 ③耕作 ④耕作	①耕作 ②良好 ③耕作 ④ほぼ完形	輪轂整形で底部は未調節の斜面と斜め方向の差がある。	12	
7-30	H-20 底直	底直器 H	① [14.6] ②44.2 ③耕作 ④耕作	①耕作 ②良好 ③耕作 ④耕作 ⑤に近い ⑥耕 ⑦ほぼ完形	体部は直線的に開く。輪轂整形で、底部は回転未切りで未調整。	11	
7-31	H-20 底直	底直器 H	① [14.1] ②55.0 ③耕作 ④耕作	①耕作 ②良好 ③耕作 ④底部・体部	体部は直線的に開く。輪轂整形で、底部は回転未切りで未調整。	7	
7-32	H-20 土耕器 車	土耕器 H	① [27.0] ②53.7 ③—	①耕作 ②良好 ③明確 ④耕作	体部は内面もしくは口縁部が直線的に外反する。全体的に機械化によって調整。外側口縁部から下に斜め方向の腰による調整。	1～4	
						6	

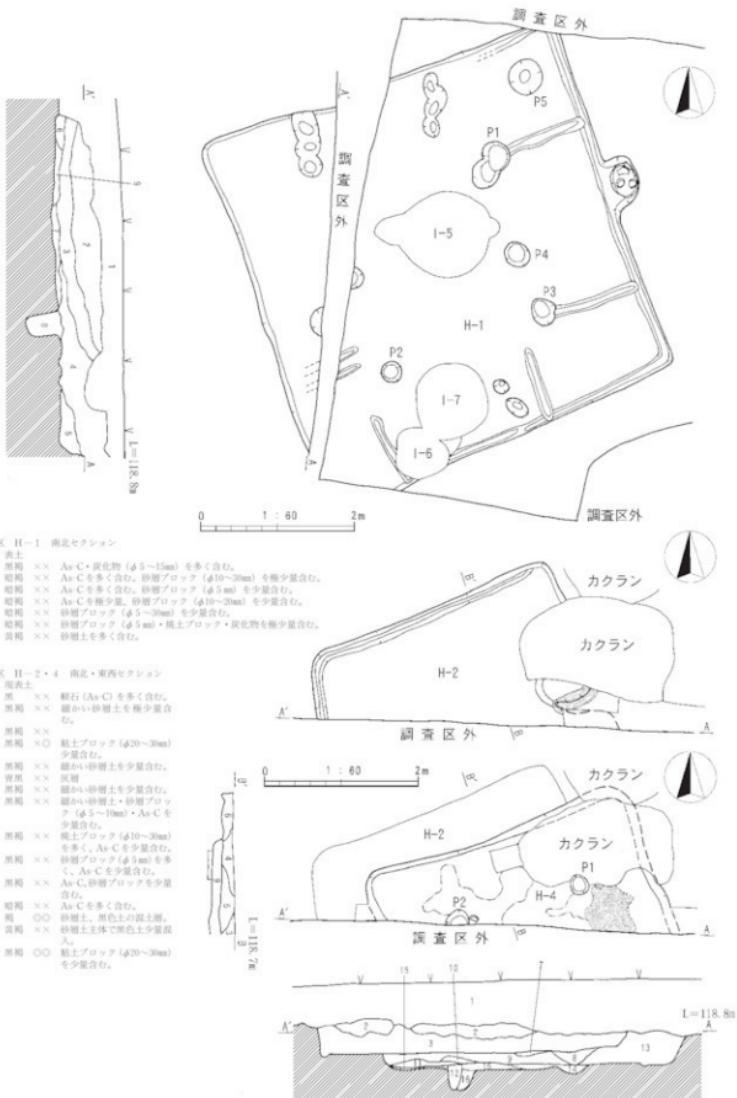
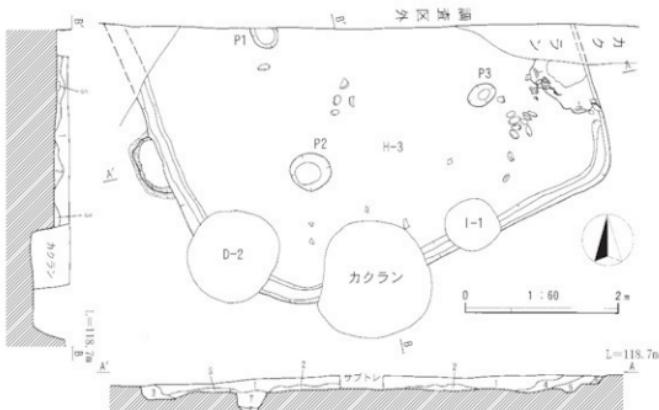
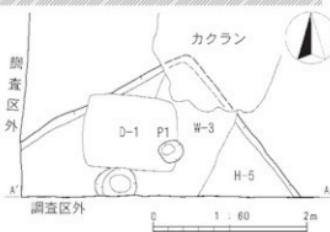


Fig.55 7区H-1・2・4号住居跡



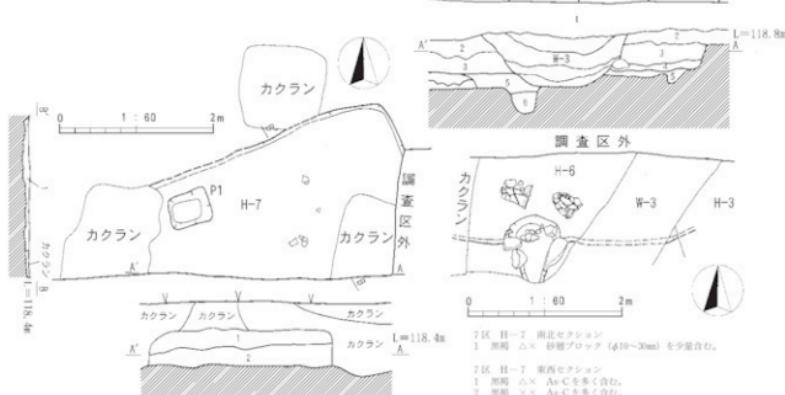
7区 H-3 南北・東西セグション

- 1 黒周 ×× As-Cを多量含む。
 - 2 黒周 ×× 砂留ブロック（φ10mm）・As-Cを少量含む。
 - 3 黒周 ×× 地上ブロック・As-Cを少量含む。
 - 4 黒周 ×× 地上ブロックを多く含む。As-Cを少含む。
 - 5 黒周 ×× 地上ブロックを多量。As-Cを多量含む。
 - 6 黒周 ×× 砂留ブロック（φ20mm）を極少量。As-Cを少量含む。
 - 7 黒周 ×× 細かな砂留土を多く含む。As-Cを少量含む。
- 注記記載



7区 H-5 西セグション（南）

- 1 黒周 ×× As-Cを多量。砂留ブロック（φ20mm）を極少量含む。
- 2 黒周 ×× As-Cを極少量。砂留ブロック（φ10mm）を若干含む。
- 3 黑周 ×× As-Cを極少量。砂留ブロック（φ10mm）を極少量含む。
- 4 黑周 ×× As-Cを極少量含む。
- 5 黑周 ×× As-Cを少含む。
- 6 黑周 ×× As-Cを少量含む。



- 1 黒周 △× 砂留ブロック（φ10~30mm）を少量含む。
- 2 黑周 ×× As-Cを多く含む。

Fig.56 7区H-3・5~7号住居跡

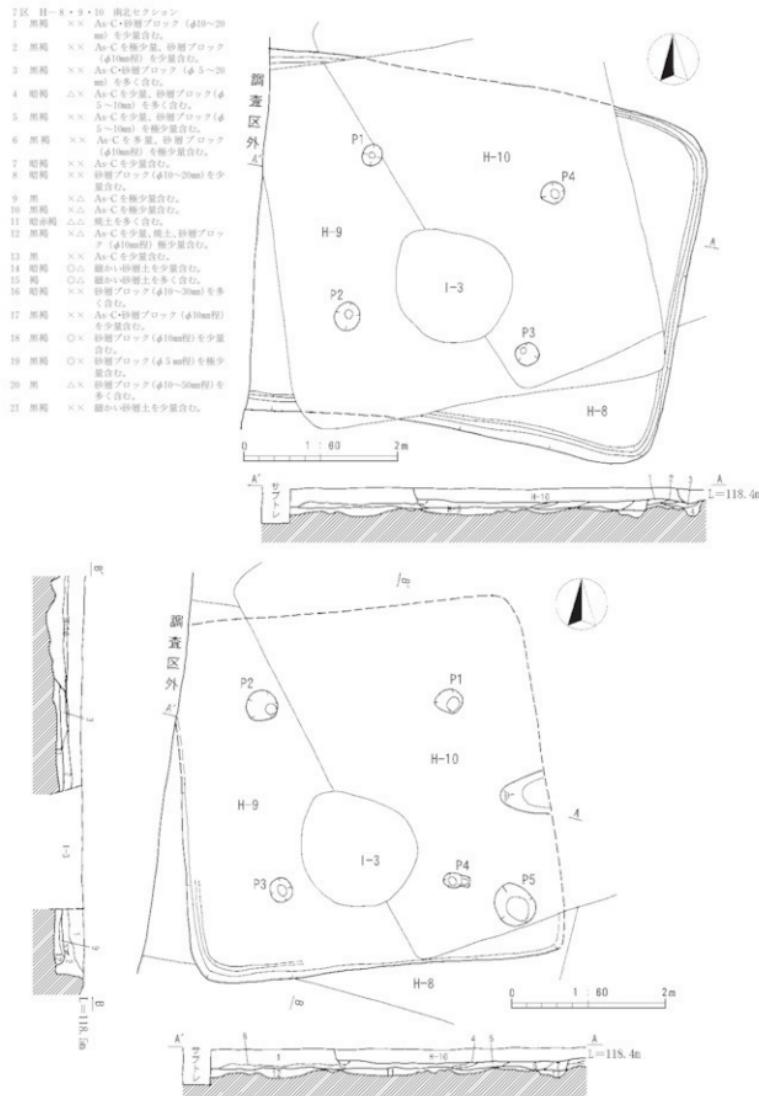
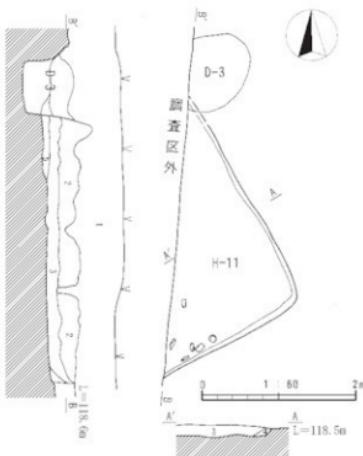
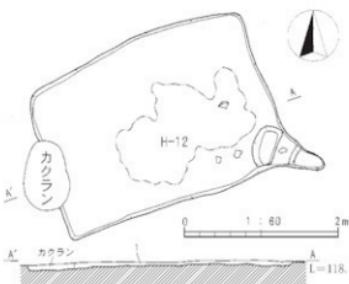
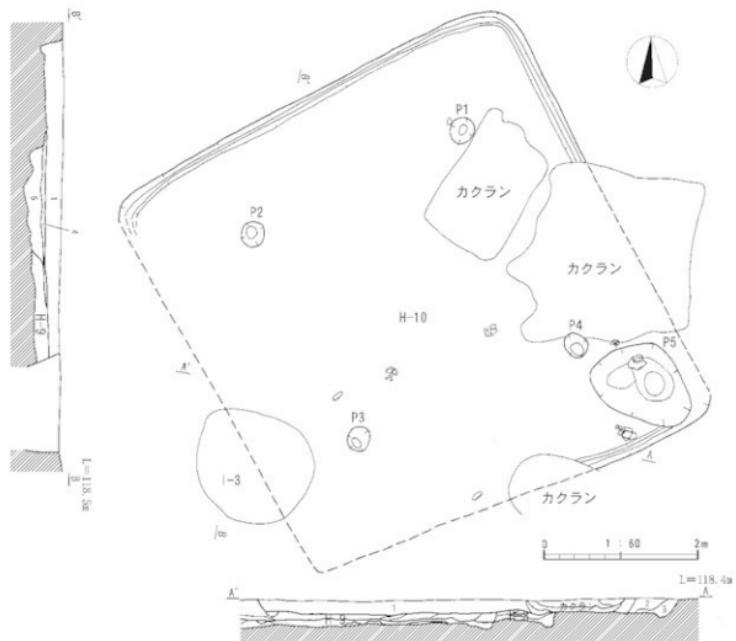


Fig.57 7区H-8・9号住居跡



7図 H-12 セクション

1 黒丸

2 穴開き ××× 砂留ブロック (φ 5~10mm) を少量。As-C を多く含む。

3 穴開き ××× 砂留ブロック (φ10mm) を極少量。As-C を多く含む。

4 穴開き ××× 破かれた砂留土を多く含む。

5 喫渴 ××× 砂留ブロック (φ10~20mm) を極少量含む。

Fig.58 7図 H-10~12号住居跡

7区 H-13・14 セクション
 1 現在土
 2 黒褐 $\times \times$ As-Bを多く含む。
 3 黒褐 $\times \times$ As-Bを非常に多く含む。
 4 黒褐 $\times \times$ As-Cを多く含む。
 5 細 $\times \times$ 淡灰物、砂層ブロック ($\phi 10m$) を若干含む。
 6 黒 $\triangle \Delta$ 水灰少量含む。
 7 黒褐 $\square \square$ As-Cを多く含む。
 8 黒褐 $\times \times$ As-Cを多く含む。
 9 黒褐 $\times \times$ As-Cを多く、粗か-砂層土を少量含む。
 10 黒 $\times \times$ 粗か-砂層土・砂層ブロック ($\phi 20m$) を極少量含む。
 11 黒褐 $\times \times$ As-Cを少量含む。

7区 H-13 カマダ セクション
 1 始層 $\times \times$ 粗か-砂層土を少量含む。
 2 始層 $\triangle \triangle$ 地土ブロックを少量含む。
 3 黒灰 $\times \times$ 風を多く含む。
 4 細 $\times \times$ 砂土を多く含む。
 5 始層 $\times \times$ 砂土を少量化。
 6 始層 $\times \times$ 粗か-砂層土を少量含む。

7区 H-15 南北セクション

1 現在土
 2 黒 $\times \times$ As-B, Hr-PP, As-Cを多く含む。
 3 黒 $\triangle \triangle$ As-Cを少量、混多く含む。
 4 黒 $\triangle \triangle$ Hr-PP・砂層ブロック ($\phi 5 \sim 10m$) を少量含む。
 5 細 $\times \times$ As-Bを少量化。
 6 細 $\triangle \triangle$ 砂層ブロック ($\phi 5 \sim 10m$) を少量化。
 7 始層 $\times \times$ As-Cを少量、砂層ブロック ($\phi 10m$) を少量含む。
 8 始層 $\times \times$ As-Cを極少量、粗か-砂層土を少量含む。
 9 始層 $\times \times$ 砂層ブロック ($\phi 10m$) を少量化、As-C・黑色土ブロック ($\phi 10m$) を多く含む。

10 始層 $\times \times$ 砂層ブロック ($\phi 10m$) ・As-C・黑色土ブロック ($\phi 5 \sim 10m$) を極少量化。
 11 始層 $\times \times$ 砂層ブロック ($\phi 10m$) 極少量、As-C・細か-砂層土を少量含む。
 12 黒褐 $\times \times$ 砂層ブロック ($\phi 10m$) を極少量、黑色土ブロック ($\phi 10 \sim 20m$) を多く含む。

7区 H-15 東西セクション

1 黒 $\times \times$ 砂層ブロック ($\phi 10m$) を少量、黑色土ブロックを極少量化。
 2 始層 $\triangle \triangle$ 砂層ブロック ($\phi 10m$) を多く、As-C少量、黑色土ブロックを極少量化。
 3 黑褐 $\triangle \triangle$ 砂層ブロック ($\phi 10m$) を極少量、黑色土ブロック ($\phi 10 \sim 30m$) を多く含む。

4 黒 $\times \times$ 粗か-砂層土を多く含む。

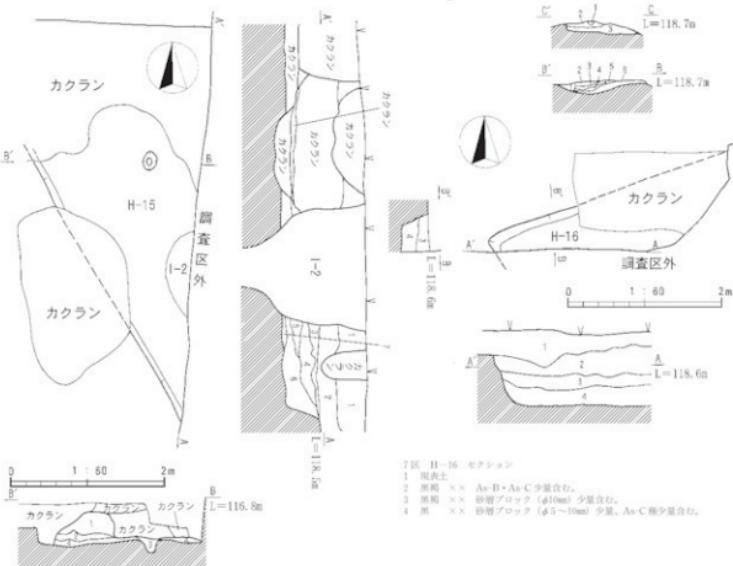


Fig.59 7区H-13～16号住居跡

7区 H-17 セクション

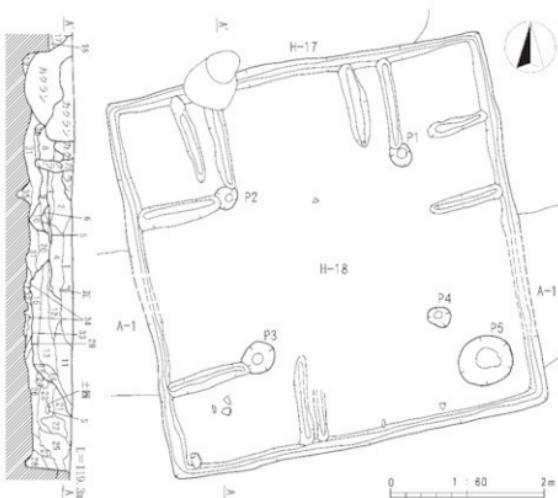
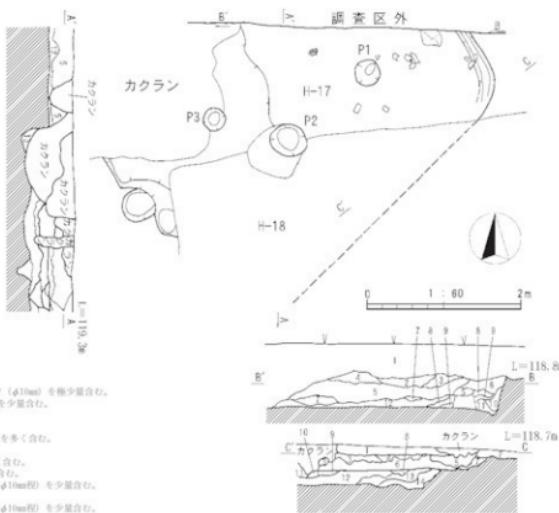
- 1 黒褐 $\times \times$ As-B + As-C を少量含む。
- 2 明褐 $\times \times$ As-C を少量、砂層ブロック($\phi 10$ mm程度)を極少量含む。
- 3 明褐 $\times \times$ As-C を少量含む。
- 4 明褐 $\times \times$ As-C を少量含む。
- 5 黒褐 $\times \times$ As-C を少量含む。
- 6 明褐 $\times \times$ As-C を多く含む。
- 7 黒褐 $\times \times$ As-C を多く含む。
- 8 黑褐 $\times \triangle$ As-C を少し、粘土・礫かい風土を多く含む。
- 9 黑褐 $\times \times$ As-C + 粘土を極少量含む。
- 10 黑褐 $\times \times$ As-C を少量含む。
- 11 明褐 $\times \times$ 炭化物・粘土を少量含む。
- 12 明褐 $\times \times$ 細かい砂層土を多く含む。

7区 H-17・18・19 セクション

- 1 黑褐 $\times \times$ As-C を多く、砂層ブロック($\phi 10$ mm)を極少量含む。
- 2 黑褐 $\times \times$ As-C を多く含む。
- 3 黑褐 $\times \times$ As-C を多く、細かい砂層ブロック($\phi 5$ mm程度)を含む。
- 4 黑褐 $\times \times$ As-C を少し、Hr-FAブロック($\phi 10$ mm程度)を極少量含む。
- 5 黑褐 $\times \times$ As-C を少量、Hr-FAブロック($\phi 10$ mm程度)を極少量含む。
- 6 黑褐 $\times \times$ As-C を多く含む。
- 7 明褐 $\times \times$ As-C を少く、Hr-FAブロック($\phi 10$ mm)を極少量含む。
- 8 明褐 $\times \times$ As-C を極少量、細かい砂層土を少量含む。
- 9 明褐 $\times \times$ As-C を極少量含む。
- 10 明褐 $\times \times$ As-C を少く、Hr-FAブロック($\phi 5$ mm程度)を含む。
- 11 黑褐 $\times \times$ As-C + Hr-FAを少々、黒色土を多く含む。
- 12 黑褐 $\times \times$ As-C を少く含む。
- 13 明褐 $\times \times$ As-C を極少量、Hr-FAを多く含む。
- 14 黑褐 $\times \times$ Hr-FAを多く、炭化物を含む。
- 15 明褐 $\times \times$ 細かい砂層土・砂層ブロック($\phi 10$ mm程度)を少量含む。
- 16 云い黄褐 $\times \times$ 細かい砂層土を多く含む。
- 17 明褐 $\times \times$ 細かい砂層土・砂層ブロック($\phi 10$ mm程度)を少量含む。

7区 H-18・19・A-1 セクション

- 1 黑褐 $\times \times$ As-B を少量、As-C を多く含む。
- 2 黑褐 $\times \times$ As-C を少量含む。
- 3 黑褐 $\times \times$ As-C を多く、砂層ブロック($\phi 10$ mm程度)を極少量含む。
- 4 黑褐 $\times \times$ As-C を多く、砂層ブロック($\phi 5\sim 10$ mm)を極少量含む。
- 5 黑褐 $\times \times$ As-C を多く、砂層ブロック($\phi 10\sim 30$ mm)を極少量含む。
- 6 黑褐 $\times \times$ As-C、砂層ブロック($\phi 5\sim 10$ mm)を極少量含む。
- 7 黑褐 $\times \times$ As-C を少し、砂層ブロック($\phi 10$ mm程度)を極少量含む。
- 8 黑褐 $\times \times$ As-C を多く含む。
- 9 黑褐 $\circ \triangle$ As-C を極少量、粘土ブロックを下部に層状に持つ。
- 10 黑褐 $\times \times$ As-C を多く、Hr-FAブロック($\phi 10$ mm)を極少量含む。
- 11 黑褐 $\times \times$ As-C、Hr-FAを少々、黒色土を多く含む。
- 12 黑褐 $\times \times$ As-C を少し、細かい砂層土を若干含む。
- 13 黑褐 $\times \times$ Hr-FAを少々、As-C を含む。
- 14 黑褐 $\times \times$ As-C を少し、砂層ブロック($\phi 5\sim 10$ mm)を極少量含む。
- 15 黑褐 $\times \times$ As-C を少含む。
- 16 黑褐 $\times \times$ As-C を少含む、Hr-FAを含む。
- 17 黑褐 $\times \times$ Hr-FAを少含む。
- 18 黑褐 $\times \times$ Hr-FAを少含む。
- 19 露灰 $\times \times$ Hr-FAを少含む。
- 20 露灰 $\times \times$ Hr-FAを多く含む。
- 21 露灰 $\times \times$ Hr-FAを少含む。
- 22 露灰 $\times \times$ Hr-FAを少含む。
- 23 黑褐 $\times \times$ As-C を少し、砂層ブロック($\phi 5\sim 10$ mm)を極少量含む。
- 24 黑褐 $\times \times$ As-C を少含み、砂層ブロック($\phi 10$ mm程度)をHr-FAブロック($\phi 10$ mm)を極少量含む。
- 25 黑褐 $\times \times$ Hr-FAを少含む。
- 26 明褐 $\times \times$ As-C + Hr-FA を極少量含む。
- 27 黑褐 $\triangle \triangle$ As-C + 砂層土・砂層ブロック($\phi 10$ mm程度)・粘土ブロック($\phi 10$ mm)を少含む。
- 28 黑褐 $\times \times$ 細かい砂層土・砂層ブロック($\phi 5\sim 10$ mm)を多く含む。



- 29 黑褐 $\times \times$ 細かい砂層土・砂層ブロック($\phi 10\sim 50$ mm)を多く含む。
- 30 明褐 $\times \times$ 細かい砂層土・砂層ブロック($\phi 5\sim 10$ mm)を多く含む。

Fig.60 7区H-17・18号住居跡

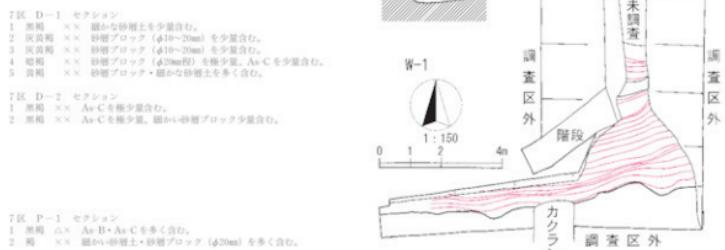
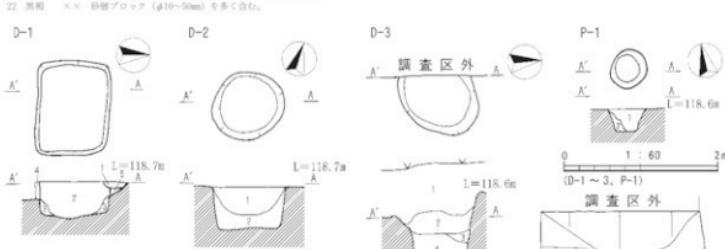
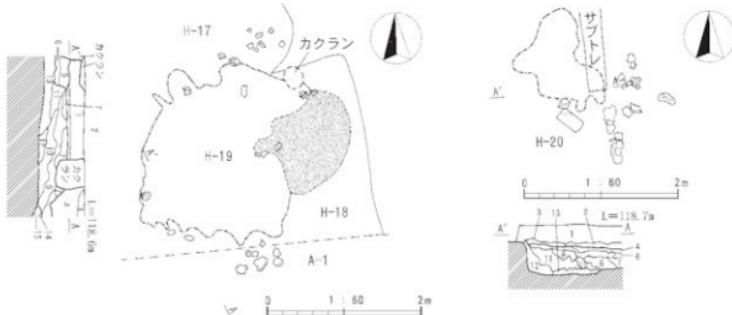


Fig.61 7区H-19・20号住居跡、D-1～3号土坑、P-1号ビット、W-1号溝跡

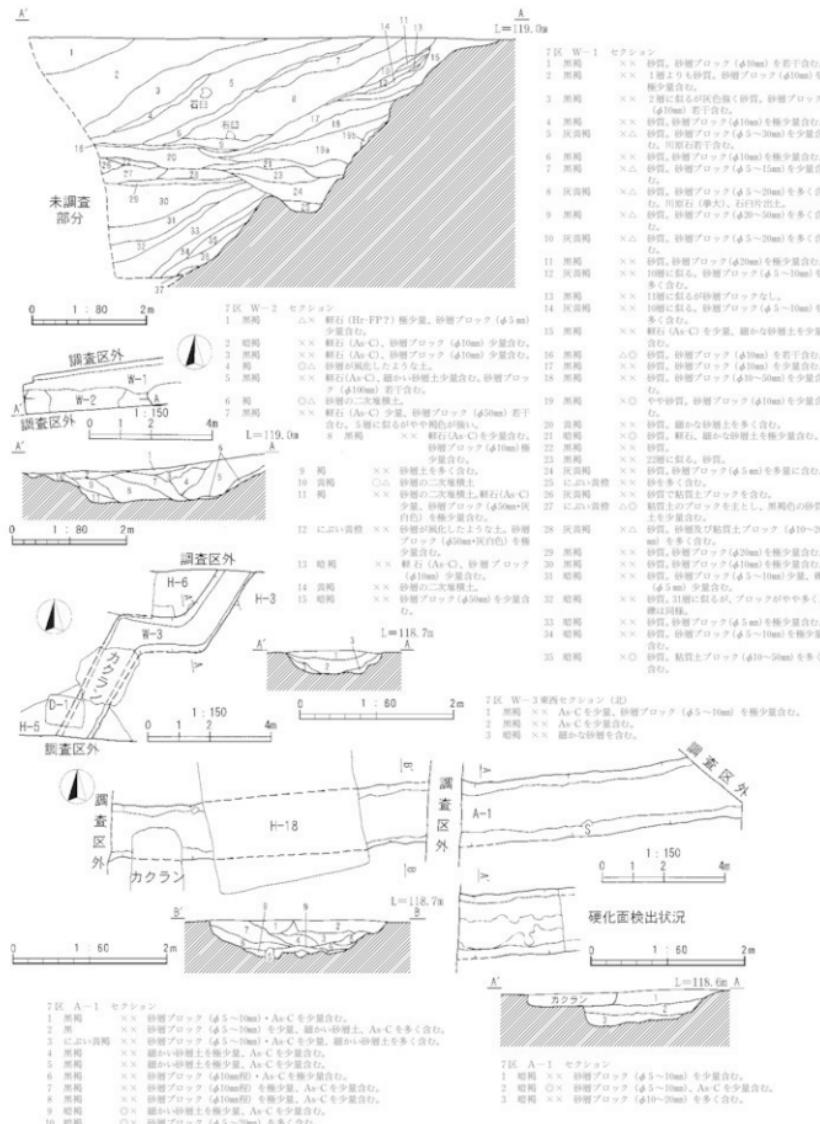


Fig. 62 7#W-1~3号道路状況

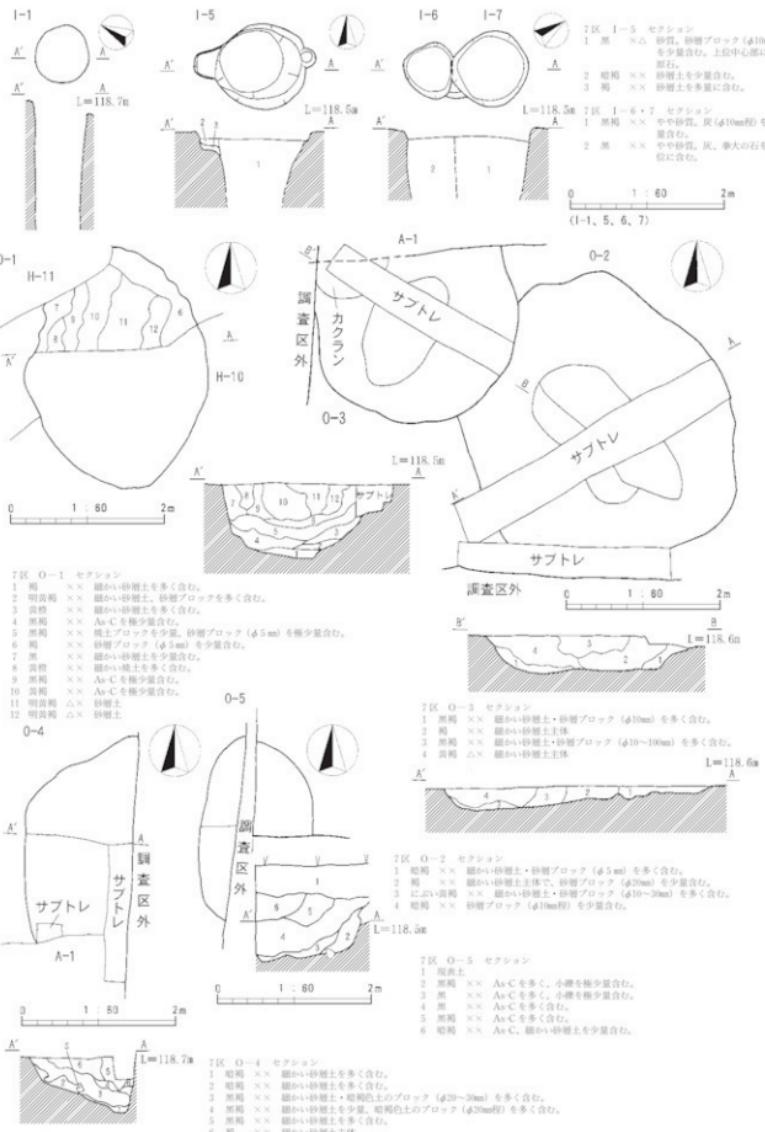


Fig.63 7区I-1～5号井戸、O-1～5号落ち込み

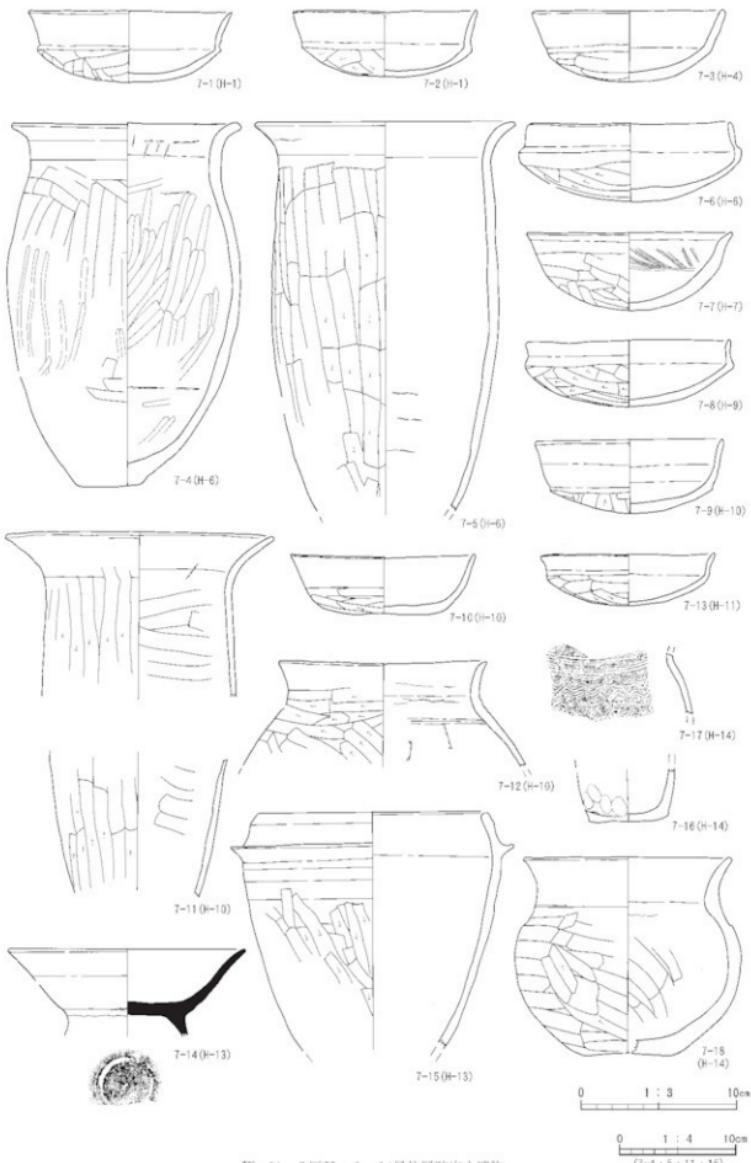


Fig.64 7区H-1~14号住居跡出土遺物

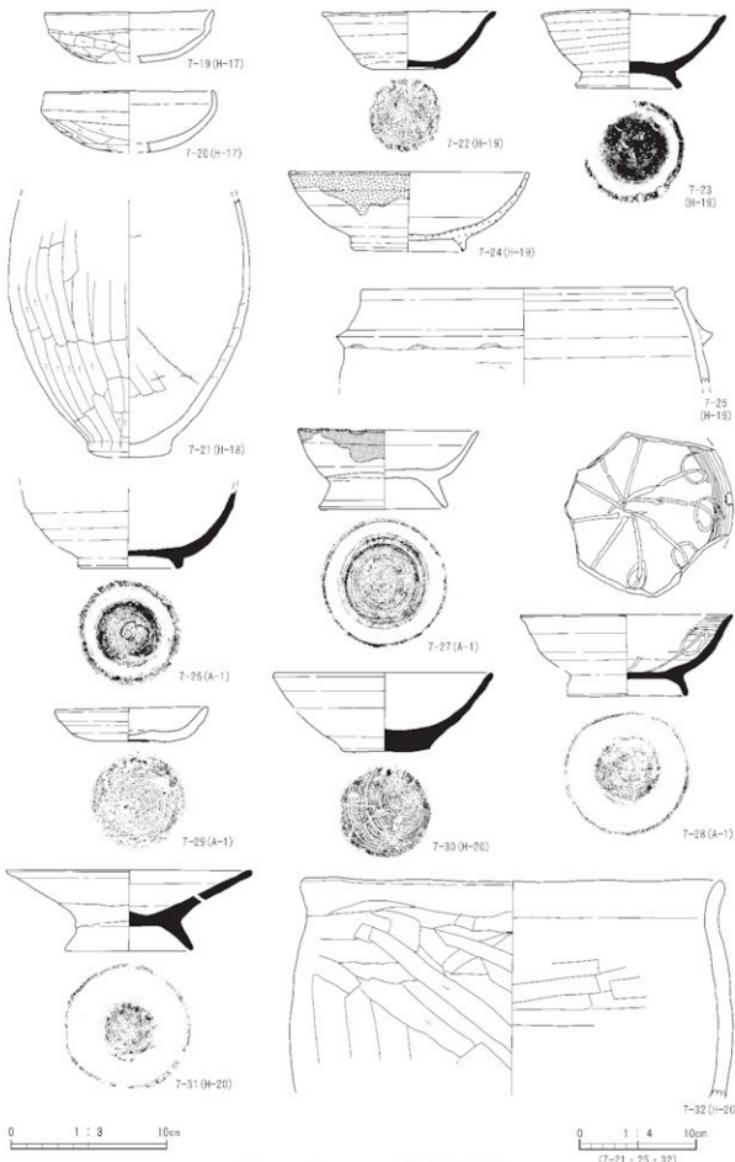
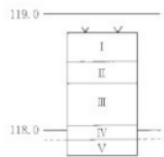


Fig.65 7区H-17~20号住居跡出土遺物

8区



8区 基本層序

- I 耕作土
- II 客土
- III 喷播 ○○ As-B 混土層
- IV 黒褐 ○○ As-C・Hr-FP 混土層
- V 黒褐 ○○ 組織砂層

Fig.66 8区基本層序

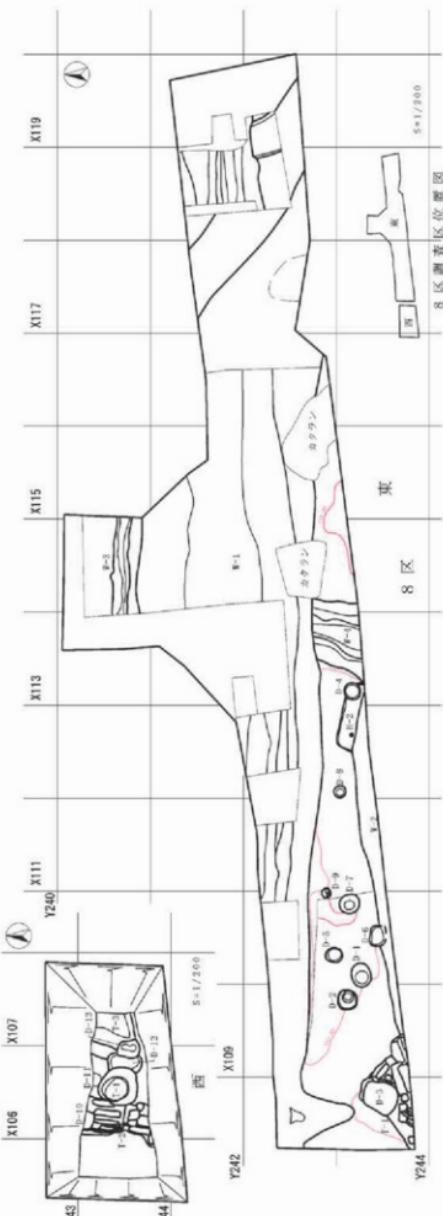


Fig.67 8区全体図

調査区の概要

平成22年度に発掘調査を行った元總社蒼海遺跡群(36)4区に隣接する調査区。竪穴住居跡2軒、溝4条、電構築材探掘坑3基が検出された。調査区の大半が蒼海城の堀と考えられる溝跡であった。調査区西側の土坑から内耳鍋や片口鉢、石臼片、砥石などが検出され、中世の廃棄土坑と考えられる。その土坑を掘り下げてみると地山が四角く切り取られており、古代の電構築材探掘坑であるとし、その後に中世の土坑が掘られたと考えられる。

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (PL.21)

位置 X110、Y243グリッド 形状等 床面と考えられる硬化面のみの検出であり、形状や面積、竪、貯蔵穴、周溝等は確認できなかった。
出土遺物 土師器13点、須恵器36点、石製品1点。そのうち須恵器壺1点、須恵器甕1点、平瓦2点を図示。
時期 覆土や出土遺物から9世紀から10世紀代と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.68、PL.21)

位置 X112・113、Y243グリッド 主軸方向 N-102°-E 形状等 東西(3.03)m、南北(0.80)m、壁現高 8.5cm。面積 (2.07)m² 床面 平坦な床面。竪 東壁に施設されたと考えられるが、調査区外のため確認できず。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行ったが確認されなかった。
出土遺物 須恵器3点。
時期 覆土や出土遺物から10世紀代と考えられる。

(2) 竪穴状遺構

T-1号竪穴状遺構 (Fig.70、PL.22)

位置 X108・109、Y243グリッド 規模等 東西(5.09)m、南北(2.20)m、壁現高 40.0cm。面積 (5.60)m² 床面 地山が矩形に切り取られた電構築材探掘坑と考えられる。
重複 D-3と重なり、新旧関係は本遺構→D-3。
時期 覆土や遺構の特徴から古墳時代と考えられる。

T-2号竪穴状遺構 (Fig.70、PL.22)

位置 X106、Y243グリッド 規模等 東西(1.51)m、南北(2.90)m、壁現高 45.5cm。面積 (4.38)m²
床面 地山が矩形に切り取られた電構築材探掘坑と考えられる。
重複 D-10、I-1と重なり、新旧関係は本遺構→D-10、I-1。
出土遺物 土師器8点、須恵器2点。そのうち須恵器蓋1点、石製鋸鍤車1点を図示。
時期 覆土や遺構の特徴から古墳時代と考えられる。

T-3号竪穴状遺構 (Fig.70、PL.22)

位置 X107、Y243グリッド 規模等 東西(1.55)m、南北(1.92)m、壁現高 42.5cm。面積 (2.98)m²
床面 やや凸凹した地山が広がる。
出土遺物 須恵器1点。そのうち須恵器長頸壺1点を図示。
時期 覆土や遺物から古墳時代と考えられる。

(3) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.69・70、PL.22・23)

位置 X108~118、Y241~243グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 逆台形。長さ47.00m、最大深100.0cm、最大上幅740.0cm、最大下幅330.0cm
重複 W-4と重なり、新旧関係は本遺構→W-4。
出土

遺物 土師器13点、須恵器25点、瓦14点、繩文土器1点、石製品7点、中世5点、馬骨。そのうち板碑1点、摺り石1点、丸瓦1点、平瓦1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から中世と考えられる。 備考 葦海城の廻跡と考えられる。

W-2号溝跡 (Fig.69, PL.23)

位置 X109～113、Y243グリッド 主軸方向 N-81°-E 形状等 長さ 14.99m 最大上幅 (83.0)cm 重複 H-2と重なり、新旧関係はH-2→本遺構。 出土遺物 土師器3点、須恵器20点、瓦1点、鉄製品2点、石製品1点、中世1点。 時期 覆土や出土遺物から中世と考えられる。

W-3号溝跡 (Fig.69, PL.23)

位置 X114・115、Y140グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 U字形。長さ4.18m、深さ21.0cm、最大上幅82.0cm、最大下幅41.0cm 時期 覆土から As-B 降下以降と考えられる。

W-4号溝跡 (Fig.69, PL.23)

位置 X113・114、Y242・243グリッド 主軸方向 N-14°-E 形状等 U字形。長さ2.78m、深さ53.0cm、最大上幅280.0cm、最大下幅88.0cm 重複 W-1と重なり、新旧関係は本遺構→W-1。 出土遺物 土師器5点、須恵器22点、瓦2点、石製品13点、中世1点。そのうち内耳鍋1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から中世と考えられる。

(4) 土坑・井戸跡 (Fig.68・70, PL.22)

D-3号土坑 (Fig.68, PL.21・22)

位置 X108、Y243グリッド 形状等 楕丸方形、長軸[156.0]cm、短軸[124.0]cm、深さ38.0cm。 重複 T-1と重なり、新旧関係はT-1→本遺構。 出土遺物 土師器35点、須恵器161点、瓦16点、石22点、鉄4点、中世79点。そのうち須恵器壺1点、須恵器甕1点、内耳鍋4点、カワラケ3点、香炉1点、灰釉陶器1点、砥石5点、板碑1点、土製円盤1点、丸瓦2点、平瓦5点、釘1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から中世と考えられる。

他の土坑、井戸跡については、Tab.36土坑・ピット・井戸跡等計測表を参照のこと。

(5) グリッド等出土遺物

土師器44点、須恵器26点、瓦3点、繩文土器1点、鉄製品2点、石製品2点、綠釉陶器1点、中世1点を出土。そのうち須恵器壺1点、丸瓦1点、平瓦1点を図示。

Tab.34 8区 住居跡等一覧表

遺構名	位置	規 模 (m)		面積 (m ²)	主軸方向	電		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北			位 置	構築材		土師器	須恵器	その他
H-2	X112・113 Y243	(3.03)	(0.80)	8.5 (2.07)	N-102°-E			—	壺	瓦	
T-1	X108・109 Y243	(5.09)	(2.20)	40.0 (5.60)	—			—			
T-2	X106 Y243	(1.51)	(2.90)	45.5 (4.38)	—			—	蓋		
T-3	X107 Y243	(1.55)	(1.92)	42.5 (2.98)	—			—	長頸壺		

Tab.35 8区 溝跡計測表

遺構名	位置	長さ(m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X108~118 Y241~243	47.00	100.0	60.0	740.0	不明	330.0	70.0	N-85° E	逆台形	中世
W-2	X109~113 Y243	14.30	不明	不明	83.0	不明	不明	不明	N-81° E	不明	中世
W-3	X114~115 Y240	4.18	21.0	9.5	82.0	55.0	41.0	9.0	N-87° W	U字形	中世
W-4	X113~114 Y242~243	2.78	53.0	24.5	280.0	246.0	88.0	28.0	N-14° E	U字形	中世

Tab.36 8区 土坑・井戸跡計測表

遺構名	位 置	長さ(cm)	形幅(cm)	深さ(cm)	形状	出土 遺物	備 考
D-1	X109~110 Y243	104.0	84.0	27.0	横 円 形	土 2・須 2・鍬 6	
D-2	X109 Y243	86.0	82.0	32.5	楕丸形	土 1	
D-3	X108 Y243	[156.0]	[124.0]	38.0	楕丸形	土 35・須 161・瓦 16・石 22・鉄 4・中世	
D-4	X113 Y243	74.0	72.0	28.5	円 形		
D-5	X110 Y242・243	74.0	66.0	42.0	円 形	須 2・瓦 1	
D-6	X110 Y243	88.0	[68.0]	26.0	楕丸形	須 3・鉄 1	
D-7	X110 Y243	90.0	84.0	22.5	円 形	須 1	
D-8	X112 Y242・243	52.0	52.0	29.5	円 形		
D-9	X110・111 Y242	44.0	40.0	30.5	円 形		
D-10	X106 Y243	77.0	43.0	23.0	楕丸形		
D-11	X106 Y243	56.0	30.0	不明	円 形		
D-12	X106 Y243	148.0	[92.0]	29.0	長椭円形		
D-13	X106・107 Y243	98.0	72.0	38.5	楕丸形		
I-1	X106 Y243	170.0	164.0	147.5	横 円 形		

Tab.37 8区 古墳・奈良・平安時代出土土器觀察表

番号	出土土器 種類	遺構名	①口径 ②底径		③高さ (cm)	④底脚 ⑤内表面 成形 (通直度)	⑥縁脚 ⑦内表面 成形 (通直度)	⑧縁脚の特徴・整形・調整技術		登録番号	備 考
			①	②				③	④		
S-1	H-1 底	須器	⑪11.0	⑫32.7	⑬	⑭縁脚	⑮好	楕圓形。口縁部から全体部・内外面細麗な面、縁やかに外傾する。	6	酸化焰	
S-2	H-1 底	須器	①~	②~	⑬	⑭縁脚	⑮好	楕圓形。口縁部・外縁部・縁脚部・内表面印字。内面は當て具の齊刷りで、外縁部は凹凸の無い滑らかな面。	9		
S-3	H-1 底	須器	①~	②~	⑬(13.0)	⑭縁脚	⑮好	楕圓形。口縁部・外縁部・縁脚部・内表面印字。内面は當て具の齊刷り、外縁部底引き板の平行線が残る。斜鏡下部・内外面面。底部・底足。	10	平安	
S-4	D-3 底	須器	⑪11.8	⑫32.8	⑬6.0	⑭縁脚	⑮好	楕圓形。口縁部から全体部・内外面細麗な面、縁やかに外傾する。口縁部・底部・底足。	17	酸化焰	
S-5	D-3 底	須器	①~	②~	⑬	⑭縁脚	⑮好	楕圓形。口縁部・外縁部・縁脚部・内表面に朱色の波状文を3段に施す。内面は、外縁部・底部・底足。	73		
S-6	D-3 底	須器	①~	②~	⑬	⑭縁脚	⑮好	楕圓形。口縁部・外縁部・縁脚部・内表面に朱色の波状文を3段に施す。内面は、外縁部・底部・底足。	73		
S-7	D-3 底	須器	①~	②~	⑬(6.9)	⑭22.0	⑮好	楕圓形。口縁部から全体部・内外面細麗な面、縁やかに外傾する。口縁部・底部・底足。	35	酸化焰	
S-8	D-3 底	須器	⑪17.6	⑫22.1	⑬4.6	⑭縁脚	⑮好	楕圓形。小口の須器。口縁部から全体部・内外面細麗な面。口縁部・底部・底足。	32	酸化焰	
S-9	D-3 底	須器	⑪8.5	⑫22.3	⑬5.4	⑭縁脚	⑮好	楕圓形。小口の須器。口縁部から全体部・内外面細麗な面。口縁部・底部・底足に付す。底部・底足。	123	酸化焰	
S-10	D-3 底	須器	⑪27.2	⑫22.0	⑬	⑭縁脚	⑮好	瓦足・楕圓形。口縁部から全体部・内外面細麗な面。口縁部・底部・底足。	42	中世	
S-11	D-3 底	内肩輪	⑪32.0	⑫17.0	⑬(19.8)	⑭縁脚	⑮好	瓦足・楕圓形。口縁部から全体部・内外面細麗な面。口縁部・底部・底足。	75	中世	
S-12	D-3 底	内肩輪	⑪33.2	⑫20.0	⑬(20.2)	⑭縁脚	⑮好	瓦足・楕圓形。口縁部から全体部・内外面細麗な面。口縁部・底部・底足。	27	中世	
S-13	D-3 底	内肩輪	⑪25.6	⑫14.0	⑬(15.6)	⑭縁脚	⑮好	瓦足・楕圓形。口縁部から全体部・内外面細麗な面。口縁部・底部・底足。	126	中世	
S-14	D-3 底	内肩輪 大型	①~	②~	⑬(11.3)	⑭縁脚	⑮好	瓦足・楕圓形。口縁部から全体部・内外面細麗な面。口縁部・底部・底足。	156		
S-15	D-3 底	内肩輪	⑪24.2	⑫15.6	⑬(16.4)	⑭縁脚	⑮好	瓦足・楕圓形。口縁部から全体部・内外面細麗な面。口縁部・底部・底足。	5	中世	
S-16	D-3 底	内肩輪	⑪7.8	⑫5.7	⑬(5.8)	⑭縁脚	⑮好	欽賀陶陶。楕圓形。丸峰が強く口縁部に向けて内寄する。口縁部と全体部の壁に弧を施して内寄を一巡させる。口縁部から全体部・外縁部細麗な面。底部・外縁部細麗な面。底部・厚みを持つ。脚3つと想定。2脚を外側に1脚を内側に。	38	中世	
S-17	D-3 底	内肩輪	①~	②~	⑬(5.7)	⑭縁脚	⑮好	楕圓形。口縁部・底部・外縁部細麗な面。底部・外縁部細麗な面。底部・厚みを持つ。脚3つと想定。2脚を外側に1脚を内側に。	119	中世	
S-18	D-3 底	内肩輪	①~	②~	⑬(5.6)	⑭縁脚	⑮好	楕圓形。口縁部から全体部・外縁部細麗な面。底部・外縁部細麗な面。底部・厚みを持つ。脚3つと想定。2脚を外側に1脚を内側に。	79	中世	
S-19	D-3 底	内肩輪 大型	①~	②~	⑬(12.0)	⑭縁脚	⑮好	欽賀陶陶。楕圓形。丸峰が強く口縁部に向けて内寄する。口縁部から全体部・外縁部細麗な面。底部・外縁部細麗な面。底部・厚みを持つ。	69	中世	
S-20	D-3 底	内肩輪 便	①~	②~	⑬(5.1)	⑭縁脚	⑮好	楕圓形。口縁部・底部・外縁部細麗な面。底部・外縁部細麗な面。底部・厚みを持つ。	中世		

番号	出土遺構／層位	器種名	①口径 ②底径 ③高さ	④地土 ⑤焼成 ⑥存度	器種の特徴・形態・調整技術	登録番号	備考
8-21	T-2 覆土	須恵器 壺	①(11.7) ②(3.9) ③—	④地土 ⑤焼成 ⑥存度	輪轍整形。内面縁部から底部まで平行で傾斜する。天井部：壺の子母を割り、底部：外側面輪轍あり。底：丸なし。		
8-22	T-3 覆土	須恵器 壺	①— ②(13.0)	④地土 ⑤焼成 ⑥存度	輪轍整形。壺底：直立からわずかに外傾する。内面面輪轍なし。胸中部で大幅ほどとある。	1	
8-23	W-4 覆土	内耳鍋	①(25.6) ②(5.7) ③—	④地土 ⑤焼成 ⑥口縁部破片	瓦質。輪轍整形。口縁部：内外面輪轍なし。内部：接合部のみ。口縁部：綻やかな「U」字に開く。	5	
8-24	W-4 覆土	内耳鍋	①— ②(9.0)	④地土 ⑤焼成 ⑥口縁部破片	瓦質。輪轍整形。内面縁部：内外面輪轍なし。底部：綻やかな開く「U」字に開く。内面底：側面から底部；火點。	4	
8-25	表探	須恵器 壺	①— ②(3.1)	④地土 ⑤焼成 ⑥存度	輪轍整形。口縁部から胸部：火點。底部：内面輪轍み痕あり。外面輪轍なし。底：円筒。		

Table.38 8区 石器・石製品観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	通存度	登録番号	備考
8-石1	D-3 覆土	錐	14.90	7.15	3.55	560	安山岩	ほぼ完形	160	
8-石2	D-3 覆土	錐	10.95	3.45	2.45	120	碧玉	ほぼ完形	74	
8-石3	D-3 覆土	板錐	18.40	11.75	1.65	560	綠泥片岩	一部	16	
8-石4	D-3 覆土	砾石	8.90	4.60	3.80	260	流紋岩	ほぼ完形	22	
8-石5	D-3 覆土	砾石	8.80	3.95	3.14	120	流紋岩	ほぼ完形	6	
8-石6	D-3 覆土	砾石	8.55	2.95	1.00	25	頁岩	ほぼ完形		
8-石7	D-3 覆土	砾石	10.50	12.10	3.50	420	流紋岩	剝離片	177	
8-石8	D-3 覆土	砾石	21.90	15.50	4.50	2490	安山岩	ほぼ完形	34	
8-石9	D-3 覆土	叩き石	10.25	4.00	3.20	220	緑泥片岩	ほぼ完形	181	
8-石10	D-3 覆土	石臼	(11.40)	(8.30)	9.65	(860)	安山岩	1/8		
8-石11	D-3 覆土	石臼	(9.65)	(6.90)	5.85	(420)	安山岩	1/10		
8-石12	T-2 覆土	彷彿塵	4.20	3.80	1.05	19	滑石	完形		
8-石13	W-1 覆土	板磚	14.50	9.05	2.38	410	綠泥片岩	一部		
8-石14	W-1 覆土	鋸り石	11.60	10.20	7.10	1040	安山岩	ほぼ完形		
8-石15	W-1 覆土	五輪塔	35.70	30.20	21.50	11700	角閃石安山岩	3/4		
8-石16	W-4 覆土	石核	12.10	5.00	2.80	290	頁岩	1/10	10	

Table.39 8区 鉄製品観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	通存度	登録番号	備考
8-鉄1	D-3 覆土	釘	9.20	1.90	1.30	25.00	ほぼ完形	120	

Table.40 8区 土製品観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	通存度	登録番号	備考
8-土1	D-3 覆土	円盤	5.10	5.10	1.00	空形	67	

Table.41 8区 瓦観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	①高さ ②厚さ ③径	④地土 ⑤焼成 ⑥存度	器種の特徴・形態・調整技術	登録番号	備考
8-瓦1	H-1 床瓦	瓦	①18.6 ②3.1 ③—	④地土 ⑤焼成 ⑥破片	一枚作り。凹面：丸で。凸面：子母状の瓦底板2箇所あり。面取り1回。	8	
8-瓦2	H-1 床瓦	瓦	①20.6 ②2.6 ③—	④地土 ⑤焼成 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目あり。面取り2回。	11	
8-瓦3	D-2 瓦	瓦	①8.8 ②2.0 ③—	④地土 ⑤焼成 ⑥破片	凹面：布目あり。凸面：丸で。側面：面取り2回。	158	
8-瓦4	D-3 瓦	瓦	①13.5 ②3.0 ③—	④地土 ⑤焼成 ⑥破片	行基板。凹面：布目に布板あり。凸面：丸で。側面：面取り9回。	8	
8-瓦5	D-3 瓦	瓦	①8.1 ②2.6 ③—	④地土 ⑤焼成 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：丸で。側面：面取り3回。	76	
8-瓦6	D-3 瓦	瓦	①11.1 ②2.0 ③—	④地土 ⑤焼成 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：丸で。	46	
8-瓦7	D-3 瓦	瓦	①12.8 ②1.5 ③—	④地土 ⑤焼成 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：丸で。横位の縫隙1条あり。側面：面取り1回。	111	
8-瓦8	D-3 瓦	瓦	①9.1 ②1.7 ③—	④地土 ⑤焼成 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：圓文瓦底あり。	167	
8-瓦9	D-3 瓦	瓦	①8.7 ②2.2 ③—	④地土 ⑤焼成 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：丸で。側面：面取り2回。	179	
8-瓦10	W-1 瓦	瓦	①8.2 ②1.6 ③—	④地土 ⑤焼成 ⑥破片	凹面：布目あり。凸面：圓文瓦底あり。側面：面取り2回。		
8-瓦11	W-1 瓦	瓦	①9.8 ②2.2 ③—	④地土 ⑤焼成 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：丸で。側面：面取り1回。		
8-瓦12	W-4 瓦	瓦	①9.2 ②1.6 ③—	④地土 ⑤焼成 ⑥破片	凹面：布目あり。凸面：丸で。側面：面取り2回。	6	
8-瓦13	表探	瓦	①19.6 ②2.0 ③—	④地土 ⑤焼成 ⑥破片	行基板。凹面：布目あり。縫隙2字あり。凸面：丸で。側面：面取り1回。		
8-瓦14	表探	瓦	①13.2 ②2.6 ③—	④地土 ⑤焼成 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目あり。凸面：丸で。側面：面取り2回。		

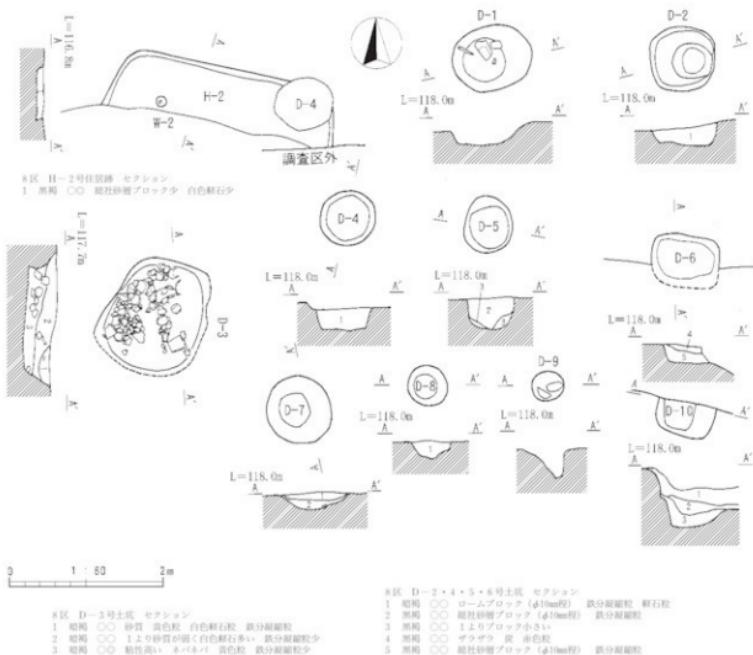


Fig.68 8区H-2号住居跡、D-1~10号土坑

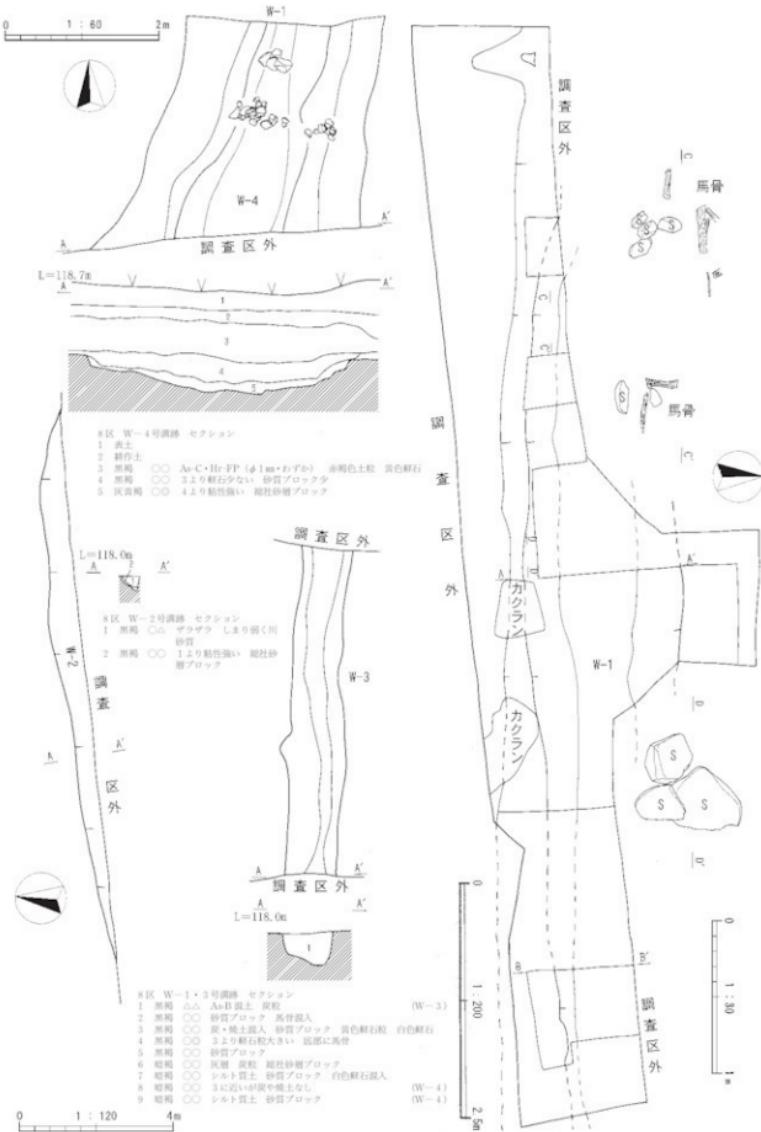


Fig.69 8区W-1～4号溝跡

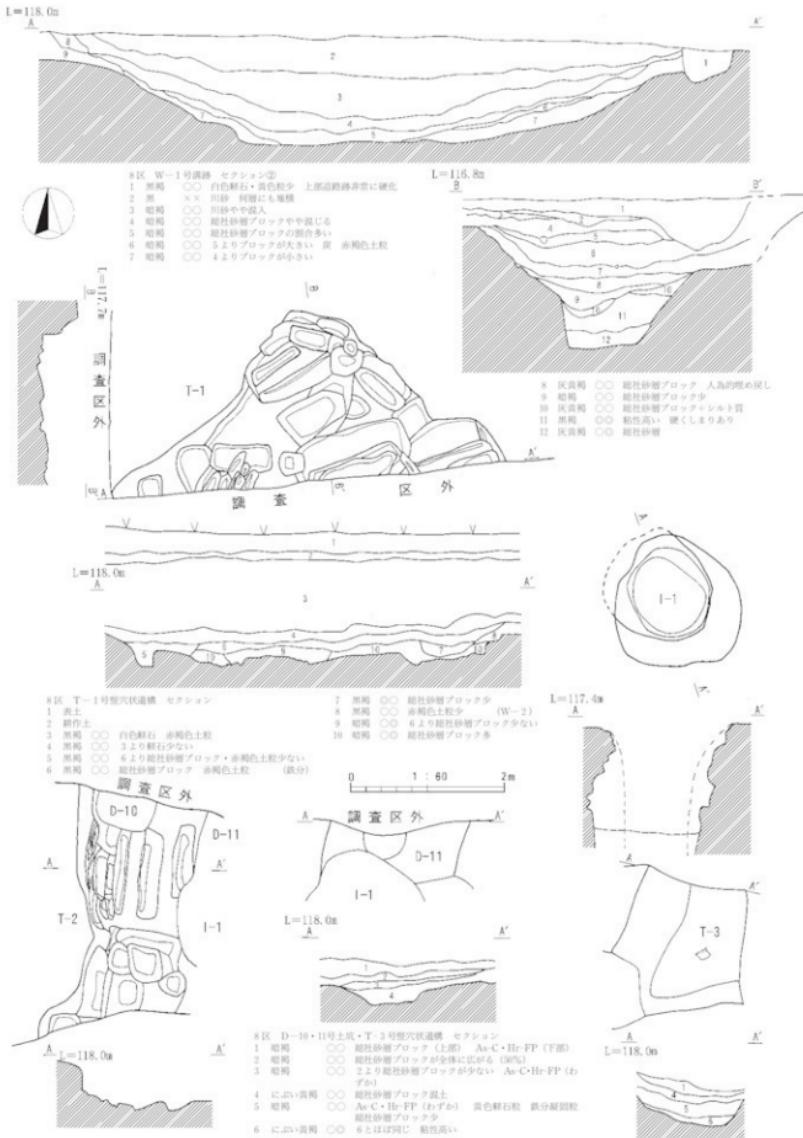


Fig.70 8区W-1号溝跡、T-1～3号窓穴状遺構、I-1号井戸跡、D-11号土坑

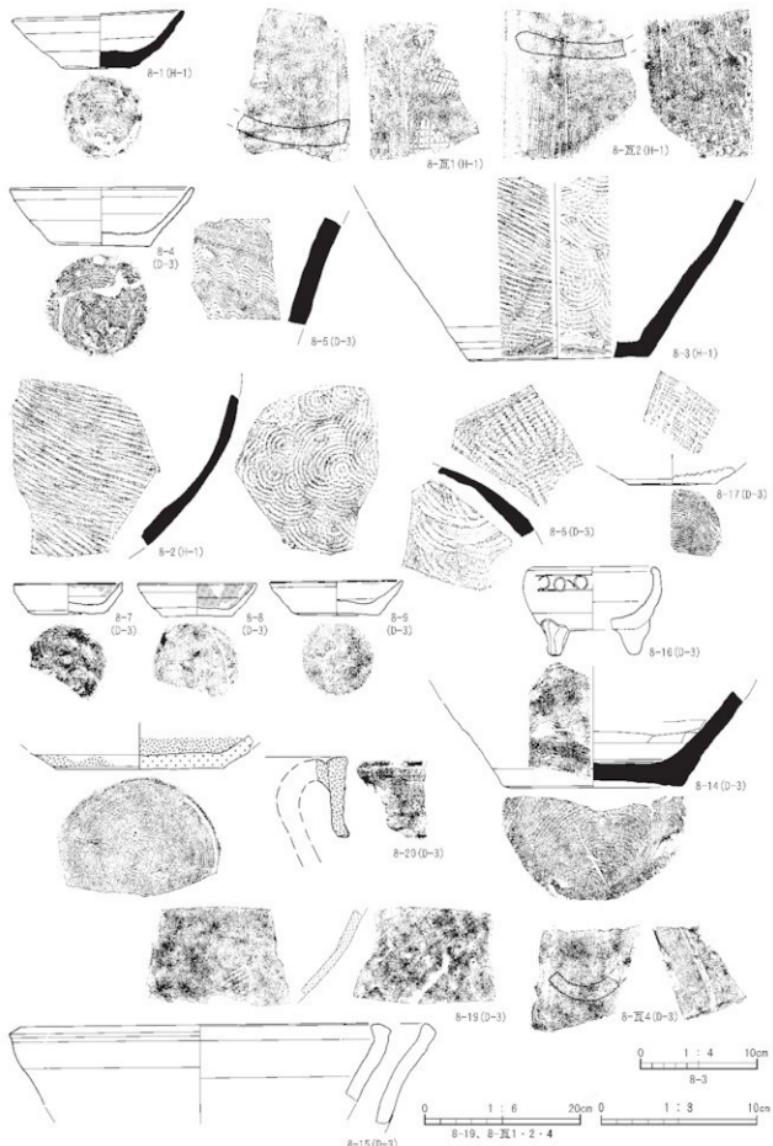


Fig.71 8区H-1号住居跡、D-3号土坑出土遺物

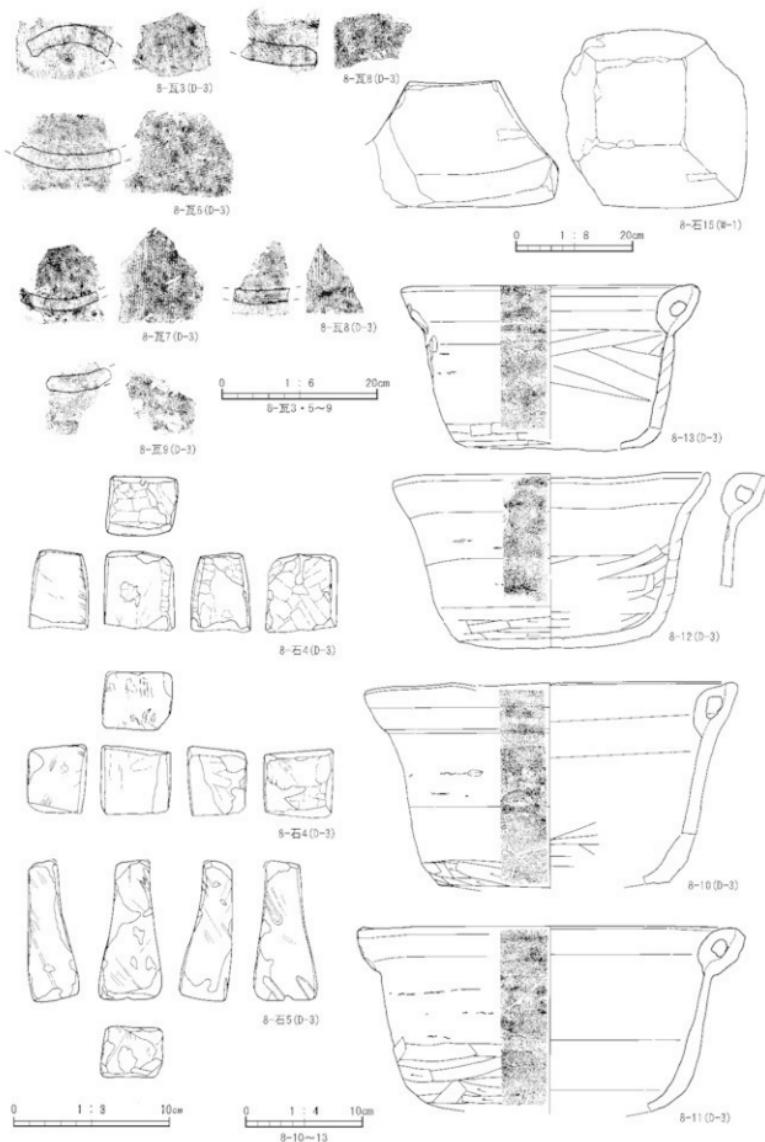


Fig.72 8区D-3号土坑、W-1号溝跡出土遺物

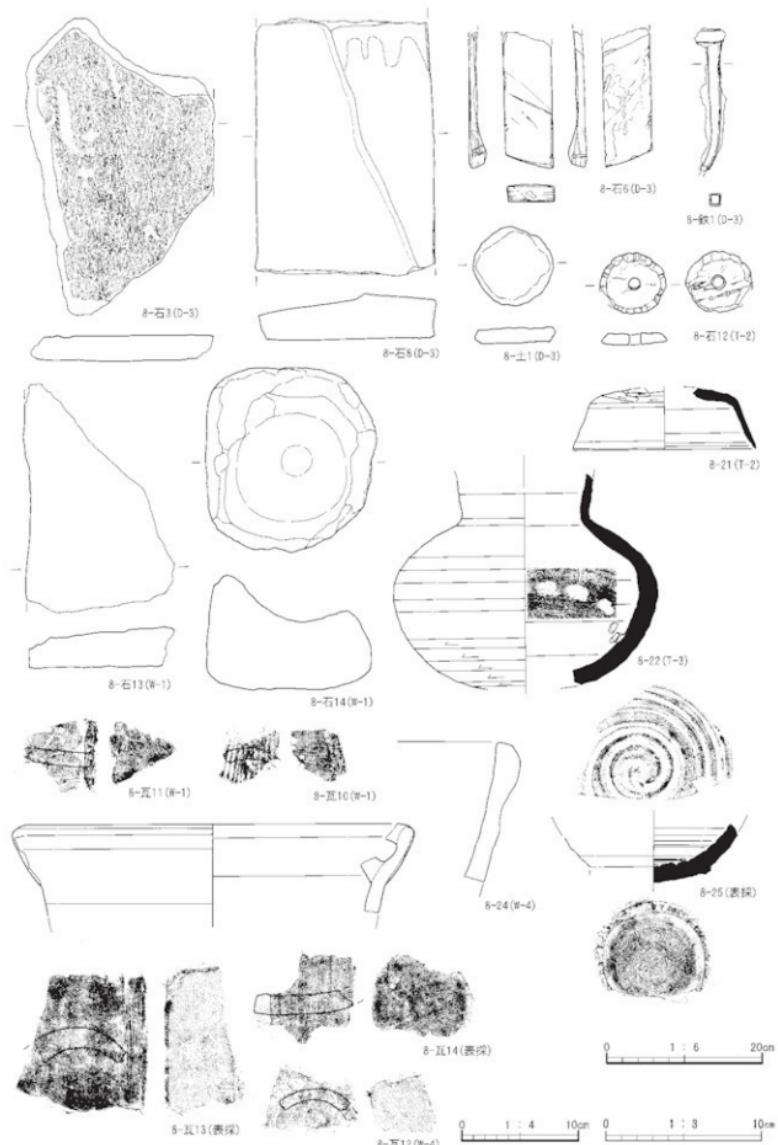


Fig.73 8区D—3号土坑、T—2·3号竖穴状遗構、W—1·4号溝跡出土遺物

9区

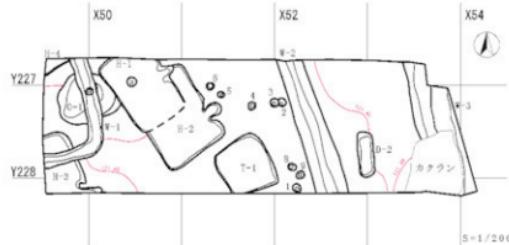


Fig.74 9区全体図



Fig.75 9区基本層序

調査区の概要

平成22年度に発掘調査を行った元総社蒼海遺跡群(35) 2区に隣接する調査区。堅穴住居跡4軒、土坑2基、溝3条が検出された。調査区の西側に遺構が集中しており、北西部では覆土にAs-Bを含む逆L字形の溝が確認できた。平安時代の区画溝と考えられる。竈の構築材に複数の瓦が使用されている住居跡があり、その中には文字瓦が2枚確認できた。

(1) 堅穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.76, PL.24)

位置 X50・51、Y226・227グリッド 主軸方向 N-56°-E 形状等 東西2.47m、南北[3.57]m、壁現高16.5cm。面積 (7.56)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁南寄りに施設。両袖に石を配置する。主軸方向N-58°-E、全長72.0cm、最大幅86.0cm、焚口部幅34.0cm。焚口部は若干凹み、煙道部は緩やかに立ち上がる。煙道は東壁より50cm程張り出す。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行ったが確認されなかった。重複 H-2と重なり、新旧関係はH-2→本遺構。出土遺物 土師器63点、須恵器42点、繩文土器1点、灰釉陶器2点。そのうち土師器墨書き土器1点、須恵器高台碗2点、須恵器大甕1点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.76, PL.24)

位置 X50・51、Y226・227グリッド 主軸方向 N-56°-E 形状等 東西2.97m、南北3.86m、壁現高27.5cm。面積 (10.70)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁南寄りに施設。主軸方向N-56°-E、全長83.0cm、最大幅96.0cm、焚口部幅30.0cm。煙道部は緩やかに立ち上がる。煙道は東壁より50cm程張り出す。貯蔵穴等 貯蔵穴を検出。46×34cmの隅丸方形で深さは7cm。周溝 東壁竈・貯蔵穴付近以外ほぼ全周する。

幅13cm前後、深さ3cm程度であり、断面は逆台形。重複 H-1と重なり、新旧関係は本遺構→H-1 出土遺物 土師器180点、須恵器22点、繩文土器1点、石製品1点、陶磁器2点。そのうち土師器杯1点、土師器甕1点、土師器口付甕1点、須恵器蓋1点、須恵器坏1点、須恵器高台碗1点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.77, PL.24)

位置 X49・50、Y227・228グリッド 主軸方向 N-67°-E 形状等 東西(1.08)m、南北(3.01)m、壁現高44.0cm。面積 (3.96)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁中央に施設。主軸方向 N-71°-E、全長[144.0]cm、最大幅[112.0]cm、焚口部幅[29.0]cm。5枚の瓦と6個の石で袖部から煙道部が構築されていた。焚口部は凹み、煙道部は急激に立ち上がる。煙道は東壁より75cm程張り出す。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行ったが確認されなかった。重複 W-1と重なり、新旧関係は本遺構→W-1。出土遺物 土師器113点、須恵器24点、瓦8点、繩文土器1点、鉄製品1点、陶磁器1点。そのうち土師器甕1点、須恵器坏1点、丸瓦2点、平瓦8点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.77, PL.25)

位置 X49、Y226グリッド 主軸方向 N-62°-E 形状等 東西(1.76)m、壁現高17.5cm。面積 (0.51)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁に施設されたと考えられるが、住居のほとんどが調査区外のため確認できず。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行ったが確認されなかった。出土遺物 繩文土器1点、石製品1点。時期 覆土からAs-B降下以前と考えられる。

(2) 竪穴状遺構

T-1号竪穴状遺構 (Fig.76, PL.25)

位置 X52・53、Y227・228グリッド 主軸方向 N-60°-E 規模等 東西2.03m、南北2.48m、壁現高13.5cm。面積 (4.87)m² 時期 不明。

(3) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.78, PL.25)

位置 X49・50、Y226・227グリッド 主軸方向 N-82°-E 形状等 逆台形。長さ8.38m、深さ12.0cm、最大上幅73.0cm、最大下幅52.0cm 出土遺物 土師器5点、須恵器3点、瓦1点。時期 覆土や出土遺物からAs-B降下以前と考えられる。備考 平安時代の区画溝と考えられる。

W-2号溝跡 (Fig.78, PL.25)

位置 X52・53、Y226～228グリッド 主軸方向 N-18°-E 形状等 逆台形。長さ5.98m、深さ60.0cm、最大上幅135.0cm、最大下幅47.0cm 出土遺物 土師器12点、須恵器4点、石製品1点、陶磁器1点。時期 覆土や出土遺物から中世と考えられる。

W-3号溝跡 (Fig.78, PL.25)

位置 X53・54、Y226～228グリッド 主軸方向 N-11°-E 形状等 逆台形と思われる。長さ4.70m、深さ68.0cm、最大上幅(184.0)cm、最大下幅(59.0)cm 出土遺物 須恵器1点。時期 覆土や周辺遺跡との関係から中世と考えられる。備考 蒼海城の堀の一部である可能性も考えられる。

(4) 土坑、ピット (Fig.77)

D-2号土坑 (Fig.77, PL.25)

位置 X52・53、Y227グリッド 形状等 円形。長軸194.0cm、短軸68.0cm、深さ38.5cm。出土遺物 土師器4点、須恵器2点、中世4点。そのうち須恵器高台碗2点、カワラケ4点を図示。 時期 覆土や出土遺物から中世と考えられる。

他の土坑、ピットについては、Tab.44土坑・ピット計測表を参照のこと。

Tab.42 9区 住居跡等一覧表

遺構名	位置	規 模 (m)		面積 (m ²)	主軸方向	施 工		周溝	主な出土遺物 土師器・須恵器・その他
		東西	南北	壁面高(cm)		位 置	構 造 材		
H-1	X49・51 Y226・227	2.47	[3.57]	16.5	(7.56)	N-56-E	東壁南寄り	粘土	—
H-2	X49・51 Y226・227	2.97	3.86	27.5	(10.79)	N-56-E	東壁南寄り	粘土	— 台付壁 环
H-3	X49・50 Y227・228	(1.08)	(3.01)	44.0	(3.96)	N-67-E	東壁中央	瓦、粘土	— 壁 环
H-4	X49 Y226	(1.76)	—	17.5	(0.51)	N-62-E	—	—	—
T-1	X52・53 Y227・228	2.03	2.48	13.5	(4.87)	N-60-E	—	—	—

Tab.43 9区 溝跡計測表

遺構名	位置	長さ(m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時 期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X49・50 Y226・227	8.38	12.0	3.5	73.0	50.0	52.0	23.0	N-82-E	逆台形	平安
W-2	X52・53 Y226・228	5.98	60.0	45.3	135.0	102.0	47.0	27.0	N-18-W	逆台形	中世
W-3	X52・54 Y226・228	4.70	68.0	62.0	184.0	174.0	59.0	32.0	N-11-W	逆台形	中世

Tab.44 9区 土坑・ピット計測表

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形 状	出 土 遺 物		備 考
						最 大	最 小	
D-1	X49・50 Y226・227	276.0	234.0	不明	円 形	—	—	—
D-2	X52・53 Y227	194.0	68.0	38.5	楕丸形	土42・頭2	—	—
P-1	X53 Y228	42.0	34.0	23.0	稍 圓 形	—	—	—
P-2	X53 Y227	34.0	34.0	22.0	円 形	—	—	—
P-3	X52・53 Y227	36.0	34.0	25.0	円 形	—	—	—
P-4	X52 Y227	36.0	34.0	18.0	円 形	—	—	—
P-5	X52 Y227	39.0	26.0	27.0	円 形	—	—	—
P-6	X52 Y226・227	34.0	30.0	16.0	円 形	—	—	—
P-7	X52 Y226・227	42.0	40.0	21.0	円 形	—	—	—
P-8	X53 Y227	38.0	30.0	13.0	楕丸形	—	—	—
P-9	X53 Y227・228	40.0	32.0	15.5	円 形	—	—	—

Tab.45 9区 古墳・奈良・平安時代出土土器觀察表

番号	古墳名	遺構名	寸 法		形 態	特 徴	調 査 技 術	参 考 番 号	備 考
			縦	横					
9-1	H-1 須恵器 底	①— ②— ③— ④—	⑤縦幅 ⑥横幅 ⑦— ⑧—	⑨— ⑩— ⑪—	⑫—	⑬—	⑭—	⑮—	⑯—
9-2	H-1 須恵器 底	①(16.3) ②(6.3) ③— ④—	⑤縦幅 ⑥横幅 ⑦— ⑧—	⑨— ⑩— ⑪—	⑫—	⑬—	⑭—	⑮—	⑯—
9-3	H-1 須恵器 底	①(14.6) ②(5.5) ③— ④—	⑤縦幅 ⑥横幅 ⑦— ⑧—	⑨— ⑩— ⑪—	⑫—	⑬—	⑭—	⑮—	⑯—
9-4	H-1 須恵器 底	①— ②— ③— ④—	⑤縦幅 ⑥横幅 ⑦— ⑧—	⑨— ⑩— ⑪—	⑫—	⑬—	⑭—	⑮—	⑯—
9-5	H-2 土師器 底	①(12.4) ②(7.6) ③— ④—	⑤縦幅 ⑥横幅 ⑦— ⑧—	⑨— ⑩— ⑪—	⑫—	⑬—	⑭—	⑮—	⑯—
9-6	H-2 土師器 底	①(19.2) ②(27.5) ③(4.2) ④—	⑤縦幅 ⑥横幅 ⑦— ⑧—	⑨— ⑩— ⑪—	⑫—	⑬—	⑭—	⑮—	⑯—
9-7	H-2 土師器 台付壁	①— ②— ③(12.7)	④(16.3) ⑤良好 ⑥—	⑦— ⑧— ⑨—	⑩—	⑪—	⑫—	⑬—	⑭—
9-8	H-2 土師器 底	①(12.1) ②(9.6) ③— ④—	⑤縦幅 ⑥横幅 ⑦— ⑧—	⑨— ⑩— ⑪—	⑫—	⑬—	⑭—	⑮—	⑯—
9-9	H-2 土師器 底	①(12.1) ②(9.6)	③(6.6)	④(4.0)	⑤—	⑥—	⑦—	⑧—	⑨—

番号	出土遺物 部位	器種名	①口径 ②底径 ③高さ ④存分度	①地土 ②埴成 ③焼成 ④分度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
9-10	H-2 底面 両輪	③ 10.4	①(2.2) ②(2.2) ③灰 ④底部	輪底部、口縁部から体部・底部・底座；内外面輪底など。外側回転切りの底。底座を設けた。両輪部；内外面輪底など。	19		
9-11	H-3 底面 両輪	③(22.6) ④(11.7)	①輪底 ②良好 ③灰 ④底片	口縁部；内外面輪底など。倒上部；内側など。外表面模造ツヨい底の塑形り。輪脚部から底座に欠損。	39		
9-12	H-3 底面 両輪	③(12.8) ④(7.0)	①輪底 ②良好 ③灰 ④(1/3)	輪底部。底から外側する。口縁部から体部；輪底など。底部；上げ足。外側回転切り。	41		
9-13	D-2 両台付 底面	③(11.4) ④5.8	①輪底 ②良好 ③浅黄 ④山ばら形	輪底部。底；外側する。口縁部から体部；内外面輪底など。	10	酸化焰	
9-14	D-2 両台付 底面	③(11.1) ④6.0	①輪底 ②良好 ③灰 ④(2/3)	輪底部。大とく外側する。口縁部から体部；内外面輪底など。底部；外側回転切りの底。底座を取り付けた。両台部；内外面輪底など。	5	酸化焰	
9-15	D-2 底面 かわらけ	③(10.2) ④4.7	①輪底 ②良好 ③焼 ④空形	輪底部。小形の器形。口縁部；やや外側して開く。口縁部から体部；輪底など。底座；平底。外側回転切り。	1	酸化焰	
9-16	D-2 底面 かわらけ	③(10.6) ④4.6	①輪底 ②良好 ③焼 ④空形	輪底部。小形の器形。口縁部；やや外側して開く。口縁部から体部；輪底など。底座；平底。外側回転切り。	3	酸化焰	
9-17	D-2 底面 かわらけ	③(9.6) ④3.8	①輪底 ②良好 ③浅黄 ④(4/4)空形	輪底部。小形の器形。口縁部から体部；輪底など。底座；平底。外側回転切り。	9	酸化焰	
9-18	D-2 底面 かわらけ	③(11.3) ④3.6	①輪底 ②良好 ③焼 ④空形	輪底部。小形の器形。口縁部；やや外側して開く。口縁部から体部；輪底など。底座；平底。外側回転切り。	13	酸化焰	

Tab.46 9区 瓦観察表

番号	出土遺物 部位	器種名	①長さ ②幅 ③厚さ ④色調 ⑤存分度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
9-瓦1	H-3 瓦	③(19.0) ④2.1	①輪底 ②良好 ③灰 ④(1/2)	凹面；布目あり。凸面；なし。縦列文字「千」あり。側面；面取り2回。 電燒 材に使用。	72	文字有
9-瓦2	H-3 瓦	③(38.8) ④2.2	①輪底 ②良好 ③焼 ④(4/4)空形	行基式。凹面；布目あり。陶なで文字「正」あり。凸面；なし。側面；面取り3回。 電燒 材に使用。	66	文字有
9-瓦3	H-3 瓦 便士	③(12.5) ④2.4	①輪底 ②良好 ③焼 ④(4/4)空形	一枚作り。凹面；布目あり。凸面；なし。側面；面取り2回。	51	
9-瓦4	H-3 瓦 便士	③(10.1) ④2.2	①輪底 ②良好 ③焼 ④(4/4)空形	一枚作り。凹面；布目あり。凸面；異なり。側面；面取り2回。	53	
9-瓦5	H-3 瓦 便士	③(11.5) ④1.7	①輪底 ②良好 ③焼 ④(4/4)空形	一枚作り。凹面；布目あり。凸面；網目文瓦底あり。側面；面取り2回。	70	
9-瓦6	H-3 床瓦 便士	③(11.5) ④1.6	①輪底 ②良好 ③焼 ④リーフ状瓦(瓦端片)	一枚作り。凹面；布目あり。凸面；なし。側面；面取り1回。	13	
9-瓦7	H-3 瓦 便士	③(12.3) ④1.5	①輪底 ②良好 ③焼 ④(4/4)空形	一枚作り。凹面；布目あり。凸面；なし。 電燒 材に使用。	68	
9-瓦8	H-3 瓦	③(30.5) ④2.3	①輪底 ②良好 ③灰 ④(4/4)	一枚作り。凹面；布目あり。凸面；異なり。側面；面取り3回。 電燒 材に使用。	67	
9-瓦9	H-3 瓦	③(33.3) ④2.6	①輪底 ②良好 ③にじ ④(3/4)	一枚作り。凹面；布目あり。凸面；網目文瓦の後、なで調整。側面；面取り9回。 電燒 材に使用。	71	
9-瓦10	H-3 瓦	③(25.4) ④2.6	①輪底 ②良好 ③にじ ④(1/2)	一枚作り。凹面；なで調整。凸面；なし。側面；面取り2回。 電燒 材に使用。	69	

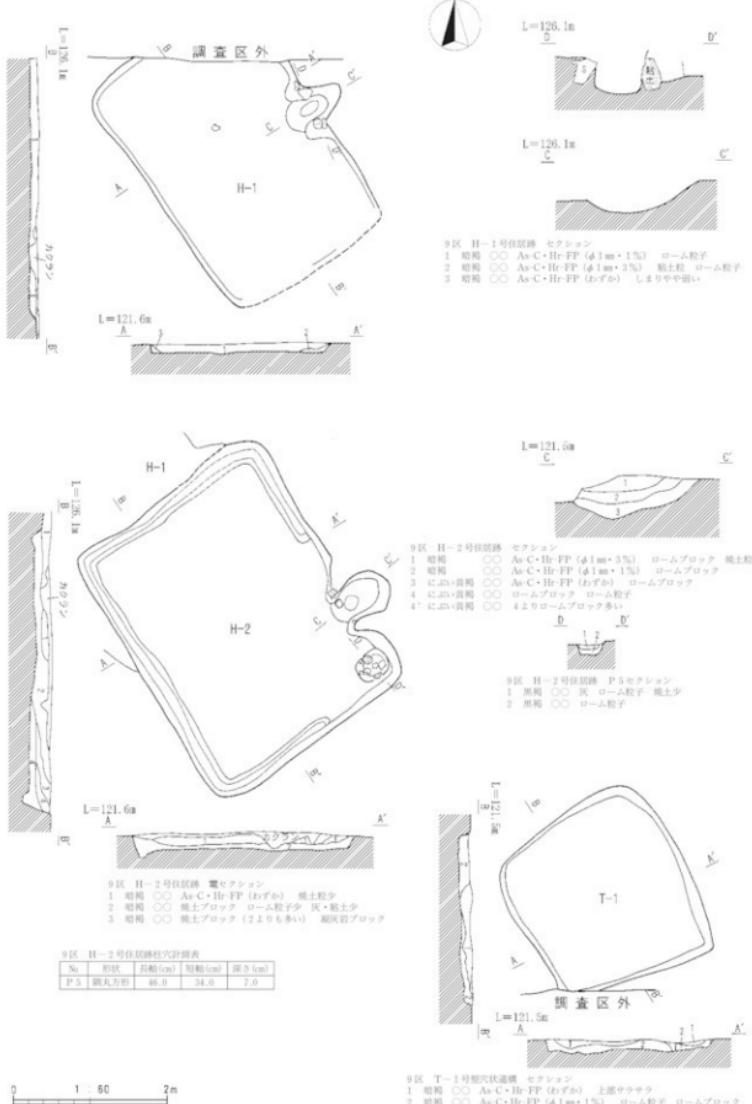


Fig.76 9区H-1・2号住居跡、T-1号堅穴状遺構

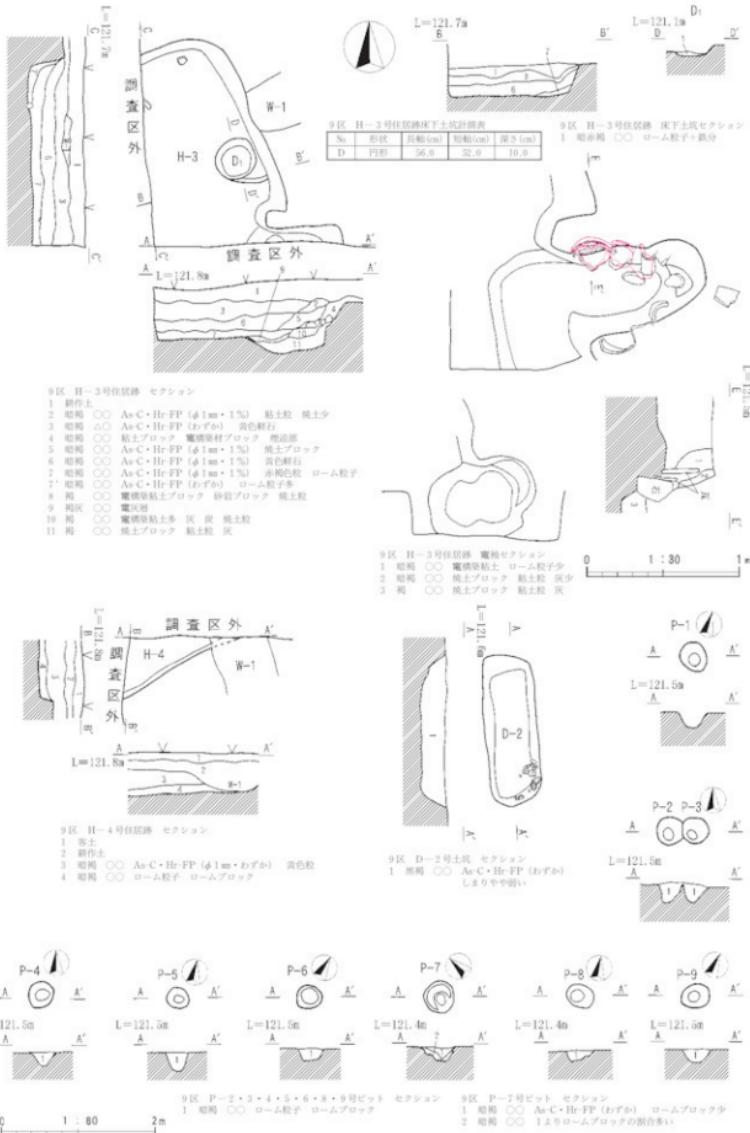


Fig.77 9区H-3・4号住居跡、D-2号土坑、P-1～9号ビット

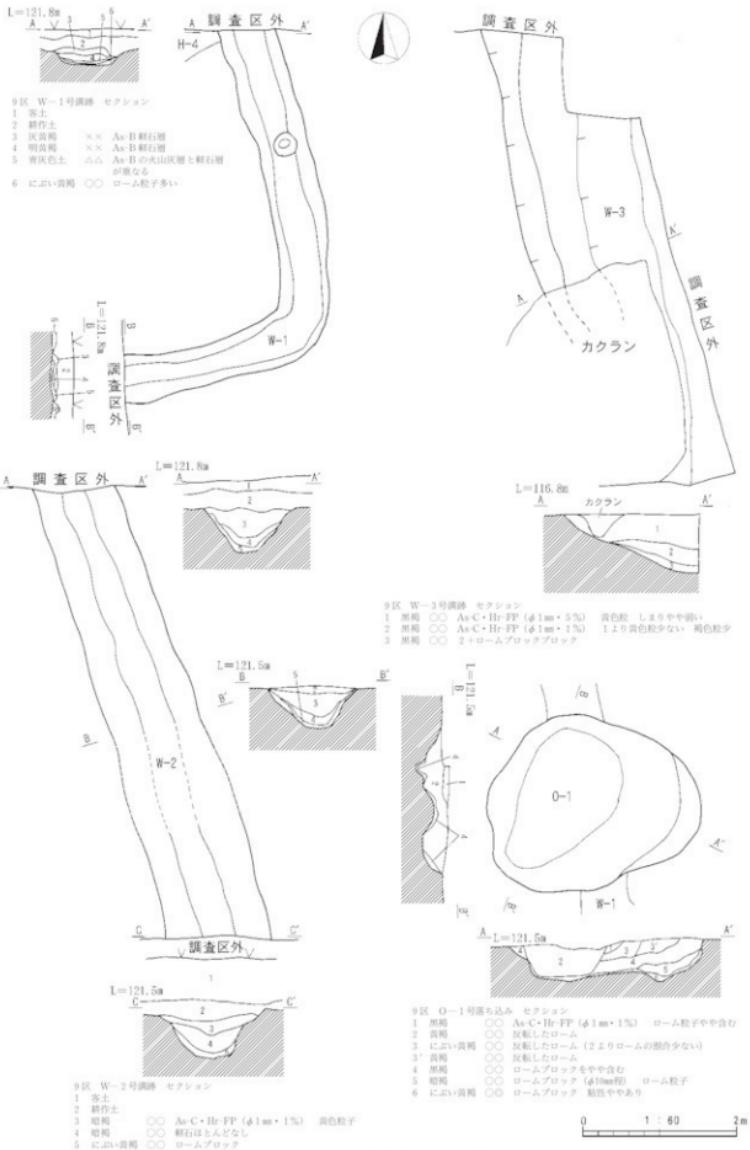


Fig.78 9区W-1～3号溝跡、O-1号落ち込み

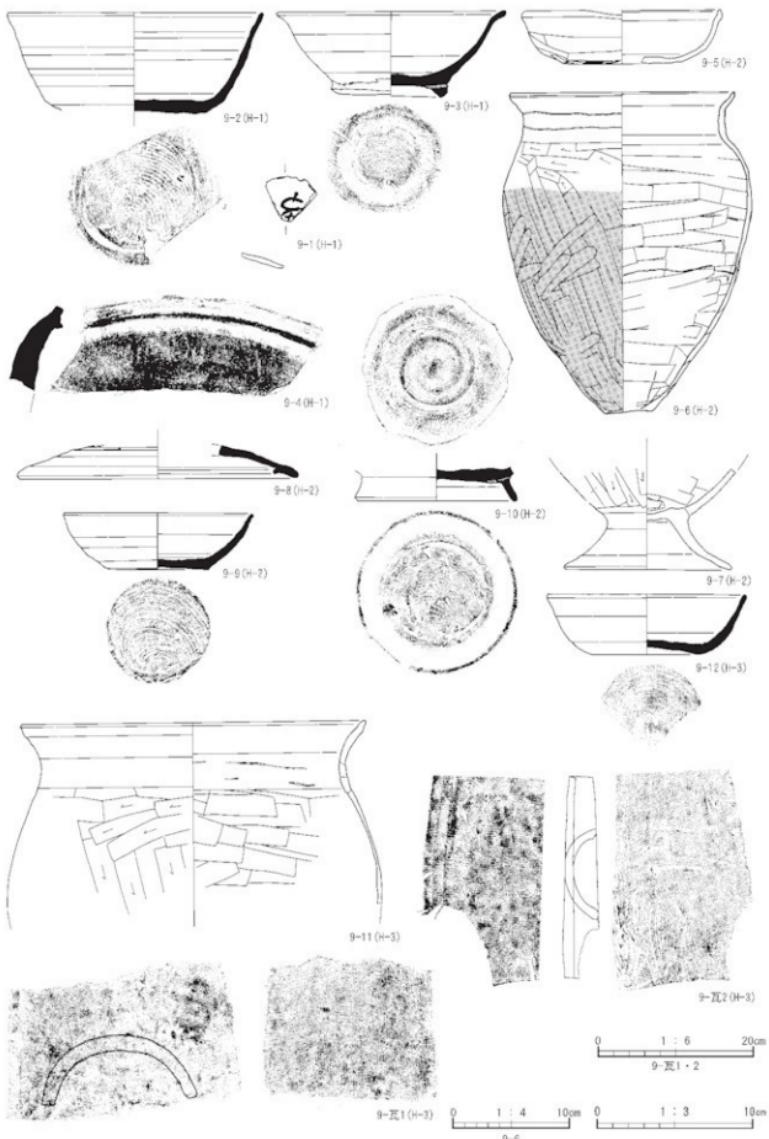


Fig.79 9区H-1～3号住居跡出土遺物

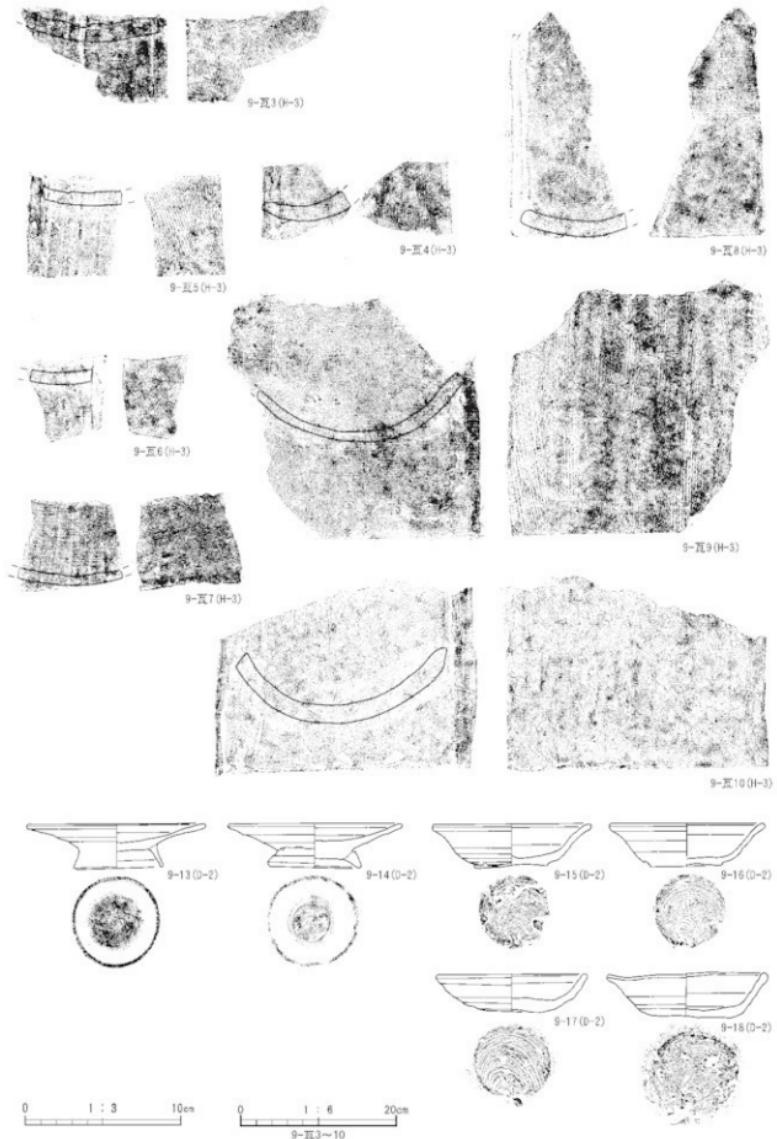


Fig.80 9区H-3号住居跡、D-2号土坑出土遺物

10区

調査区の概要

本調査区は蒼海遺跡群の南西部、染谷川の左岸に位置する。調査区東西に長い長方形を呈する。周辺は、住宅が立ち並ぶ一角で、調査前には、住宅が立っていた。遺構の保存状況はあまり良くなく、遺構は、竪穴住居跡が5軒、溝跡1条が検出された。

基本土層

厚さ約40cmの表土を除去すると、粗粒の砂質土となり、遺構確認面もこの面であり遺構の保存状況はあまり良くない。

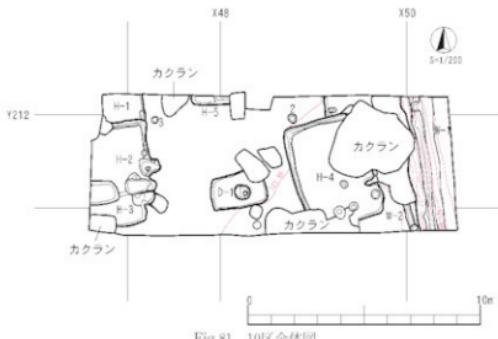


Fig.81 10区全体図

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.82、PL.26)

位置 X46・47、Y212・212グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 東西(1.82)m、南北(1.36)m、壁現高13.5cm 面積 2.30m² 床面 シルト質粘土 窟 未検出 壁周溝 ○ 重複 H-2と重複し、H-2より古い。 出土遺物 輪轤整形挽 時期 不明

H-2号住居跡 (Fig.82、PL.26)

位置 X46・47、Y212・212グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 東西(3.30)m、南北(3.20)m、壁現高17cm 面積 8.72m² 床面 シルト質粘土 窺 主軸方向N-92°-E、全長96.0cm、最大幅80cm、焚口部幅52cm 壁周溝 ○ 重複 H-1・3と重複し、いずれよりも新しい。 出土遺物 輪轤整形挽・皿 時期 10世紀

H-3号住居跡 (Fig.82、PL.26)

位置 X46・47、Y212・213グリッド 主軸方向 N-78°-E 形状等 東西(2.98)m、南北(1.36)m、壁現高25cm 面積 3.55m² 床面 ほぼ平坦 窺 主軸方向N-133°-E、全長(102)cm、最大幅78cm、焚口部幅46cm 重複 H-2と重複し、H-2より古い。 出土遺物 輪轤整形挽 時期 10世紀

H-4号住居跡 (Fig.83、PL.26)

位置 X48・49、Y212・213グリッド 主軸方向 N-70°-E 形状等 東西3.56m 南北(4.70)m 壁現

高16cm 面積 15.30m² 床面 ほぼ平坦 突起 主軸方向N=60°-E、全長(60)cm、最大幅(46)cm、焚口部幅(18)cm 壁周溝 ○ 出土遺物 軸轆整形挽、土師器・坏 時期 9世紀前半

H-5号住居跡 (Fig.82、PL.26)

位置 X47・48、Y211グリッド 主軸方向 N=93°-E 形状等 東西(16.6)m、南北(0.40)m、壁現高11.5cm 面積 0.64m² 床面 ほぼ平坦 突起 未検出。 出土遺物 軸轆整形挽 時期 不明

(2) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.82、PL.26)

位置 X49・50、Y211～213グリッド 主軸方向 N=5°-W 形状等 断面箱状 時期 不明

W-2号溝跡 (Fig.82、PL.26)

位置 X46、Y212グリッド 主軸方向 N=16°-W 形状等 断面箱状 時期 不明

(3) 土坑、ピット

D-1 (Fig.83)

位置 X47・48 Y212・213グリッド 主軸方向 N=78°-E 形状等 長方形 最大幅2.30m、最小幅1.56m、深さ12.5cm

P-1 (Fig.83)

位置 X48、Y212グリッド 形状等 円形 最大幅0.68m、最小幅0.66m

P-2 (PL.26)

位置 X48、Y211・212グリッド 形状等 円形 最大幅0.42m、最小幅0.36m

P-3 (Fig.81)

位置 X47、Y212グリッド 形状等 円形 最大幅0.32m、最小幅0.30m

Tab.47 10区 住居跡一覧表

遺構名	位置	規 模 (m)		面積 (m ²)	主軸方向	突起		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北			壁現高(cm)	位置		土師器	鍍金器	その他
H-1	X46・47 Y211・212	(1.82)	(1.36)	13.5	23.0	N=85°-E	△	○	○	○	
H-2	X46・47 Y212	(3.30)	(3.20)	17.0	8.72	N=85°-E	東壁南寄り	粘土	○	○	瓦
H-3	X46・47 Y212・213	(2.98)	(1.36)	25.0	3.55	N=78°-E	東壁南寄り	粘土		○	
H-4	X48・49 Y212・213	3.56	(4.70)	16.0	15.30	N=70°-E	東壁中央	粘土	○	○	○
H-5	X47・48 Y211	(16.6)	(0.40)	11.5	9.64	N=93°-E	△	△	○		

Tab.48 10区 溝跡計測表

遺構名	位置	長さ(m)	深 S (cm)		上幅 (cm)		下幅 (cm)		主軸方向	断面形	時 期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X49・50 Y211～213	5.8	96.0						N=5°-W	箱状	
W-2	X46 Y212	1.1	24.0		28.0		16.0	9.0	N=16°-W	U字状	

Table 49 10区 土坑・ピット計測表

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出 土 物	備 考
D-1	X47・48、Y212・213	250.0	156.0	12.5	長方形		
P-1	X48、Y212	68.0	66.0		円 形		
P-2	X48、Y211・212	42.0	36.0		円 形	漆器	
P-3	X47、Y212	32.0	30.0		円 形		

Table 50 10区 古墳・奈良・平安時代出土器觀察表

番号	古墳・遺構	器種名	①(1)寸 ②(2)幅	③(3)厚 ④(4)深	⑤(5)長 ⑥(6)幅	器種の特徴・整形・調整技術	参考番号	備 考
10-1	H-1 墳上	漆器	①(14.2) ②(2.6) ③— ④(3)4mm	⑤(5)2.0 ⑥(6)1.0	⑦(7)4mm	輪轂整形。口縁：欠損。体部：外縁、内外面撫で。底部：内面撫で。外回転軸切り後、高台を取付けた。	遺光昭	
10-2	H-2 高台	漆器	①(13.6) ②(2.5) ③6.0	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR7/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	輪轂整形。口縁部：欠損。体部：内・外面輪轂整形で。底部：内面撫で。外回転軸切り後、高台を取付けた。	遺1	酸化処理成気球
10-3	H-2 高台	漆器	①(13.0) ②(2.5) ③—	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR7/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	輪轂整形。口縁部：欠損。内・外面撫で。体部：やや膨らみを持った外縁、内面撫でで。底部：外回転軸切り後、付け高台。高台の接着後の輪轂整形が難。	遺10	酸化処理成気球
10-4	H-2 高台	漆器	①— ②(5.1) ③7.8	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR7/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	輪轂整形。口縁部：外縁、内外面撫で。体部：外縁、内外面撫で。底部：外回転軸切り後、付け高台。	1	酸化処理成気球
10-5	H-2 高台	漆器	①(14.8) ②(2.5) ③6.6	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR7/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	輪轂整形。口縁・体部：丸みを帯びて外縁、内外面撫で。底部：内面撫で、外回転軸切り後、付け高台。	9	酸化処理成
10-6	H-2 高台	漆器	①(15.6) ②(6.5) ③7.5	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR7/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	輪轂整形。口縁・体部：やや膨らみを持った外縁、内外面撫で。底部：内面撫で、外回転軸切り後、付け高台。2~3mmほどの膨らみが複数あり。表面面の凹凸している。	6	酸化成
10-7	H-2 墳	漆器	①(13.4) ②(2.5) ③—	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR7/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	輪轂整形。口縁・体部：やや膨らみを持った外縁、内外面撫で。底部：内面撫で、外回転軸切り後、付け高台。底部の内面撫での心が膨る。	遺穴6 11	酸化処理成気球
10-8	H-2 壊	漆器	①(14.0) ②(2.5) ③5.2	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR7/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	口縁部：外縁、内・外面撫で。剥離部：外・外面撫で。底部：内面撫で。外回転軸切り後、付け高台。	35	酸化成
10-9	H-2 土塚 台付	漆器	①(12.6) ②(2.6) ③8.2	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR7/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	口縁部：やや膨らみから外縁、内面撫で。剥離部：内・外面撫で。底部：内面撫で。外面上の横方に輪轂があり、剥離大底。外面上下の剥離位に輪轂入り。剥離部：内・外面撫で。剥離との接合部分は横轂で、剥離四角の側の脚部近傍部に輪轂入り付ける。剥離の部分が外・外付。	43	45, 42, 41
10-10	H-2 土塚 桿	漆器	①(15.2) ②(5.4) ③7.0	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR7/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	口縁部：短く丸く、内・外面撫で。底部：丸底、内面撫で、外面撫で、彫り入り。	39	酸化処理成気球
10-11	H-2 電 鉄製 高台	漆器	①(14.0) ②(2.5) ③—	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR7/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	輪轂整形。口縁・体部：やや膨らみを持った外縁、内外面撫でする。内面撫でで、底部から体部へ立ち上がる部分を削り、底面：内面撫で、外回転軸削り、高さ4mmほどの短い高台を付けた。	遺 遺穴12	遺光昭
10-12	H-2 電 壊	漆器	①(13.2) ②(3.5) ③—	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR7/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	口縁部：外縁、内・外面撫で。剥離部：内・外面撫で。底部：平底。回転軸切りきり。	遺34	遺光昭
10-13	H-2 壊	漆器	①(12.4) ②(3.6) ③—	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR7/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	輪轂整形。口縁部：欠損。剥離下部：内・外面撫で。底部：平底。	遺穴6 36, 37	酸化成気球
10-14	H-2 高台	漆器	①(10.8) ②(4.0) ③—	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR6/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	輪轂整形。口縁・体部：外縁。内・外面輪轂整形で。底部：内面輪轂整形で、外回転軸削り調整後、削り出した高台を施す。	28, 土 電覆土	酸化成気球
10-15	H-2 壊	漆器	①(12.5) ②(3.8) ③(5.4)	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR6/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	輪轂整形。口縁・体部：外縁、内・外面撫で。底部：内面撫で、外回転軸切り。	32, 電 電覆土	酸化成気球
10-16	H-3 壊	漆器	①(15.8) ②(6.4) ③—	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR6/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	輪轂整形。口縁・体部：外・外面撫で。底部：内・外面撫で。外回転軸切り調整。	4	
10-17	H-3 壊	漆器	①— ②(2.5) ③6.0	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR7/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	輪轂整形。口縁・体部：外縁、内・外面輪轂整形で。底部：内面撫で、手削り削り。	13, 土 電4	遺光昭
10-18	H-3 高台	漆器	①(12.0) ②(2.5) ③—	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR7/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	輪轂整形。口縁部：欠損。体部：内・外面輪轂整形で。底部：内面撫で、回転軸切り後、高台を取付けた。	12, 14	
10-19	H-4 墳上	漆器	①(13.5) ②(4.0) ③—	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR6/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	輪轂整形。口縁・体部：外縁、内・外面撫で。底部：内面撫で、外回転軸切り。		
10-20	H-4 壊	漆器	①(12.4) ②(3.5) ③—	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR6/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	口縁と底部の間に縫を有する。口縁部：ほぼ直立、内・外面撫で。外回転軸切り、底部：丸底、内面撫で、外・外面撫で。	8	酸化成
10-21	H-4 壊	漆器	①(14.8) ②(4.9) ③—	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR6/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	輪轂整形。口縁・体部：外縁、内・外面撫で。底部：内面撫で、外回転軸切り。	21, 26	遺光昭
10-22	H-4 壊	漆器	①(14.4) ②(4.2) ③(6.8)	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR6/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	輪轂整形。口縁・体部：外縁、内・外面撫で。底部：内面撫で、外回転軸切り。	22	遺光昭
10-23	H-4 壊	漆器	①(14.5) ②(4.0) ③—	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR6/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	輪轂整形。口縁・体部：外縁、内・外面撫で。底部：内面撫で、外回転軸切り。	20	
10-24	H-4 墳上	漆器	①(12.4) ②(2.8) ③(5.6)	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR7/4C-25-1 ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	輪轂整形。口縁・体部：外縁、内・外面撫で。底部：内・外面撫で、外回転軸切り。		酸化成気球
10-25	H-5 墳上	漆器	①(15.8) ②(6.6) ③(7.8)	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)2.0 ⑧(8)2.0 ⑨(9)YR5/1M ⑩(10)1mm ⑪(11)2mm	輪轂整形。口縁・体部：外縁、内・外面撫で。底部：内面撫で、外回転軸切り。	1	遺光昭
10-26	D-1 墳上	灰陶	①— ②— ③(2.1)	④— ⑤— ⑥—	⑦(7)1.5 ⑧(8)1.5 ⑨(9)1.5	輪轂整形。口縁・体部：外縁、内・外面撫で。底部：内面撫で、外回転軸切り。		

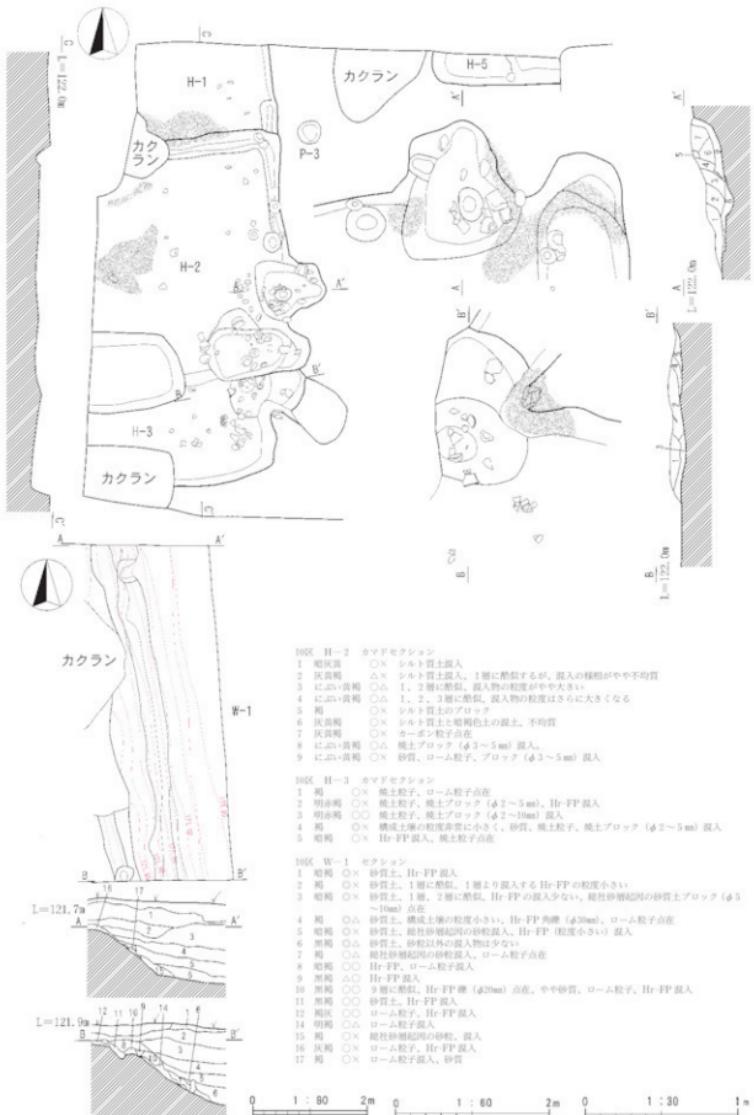
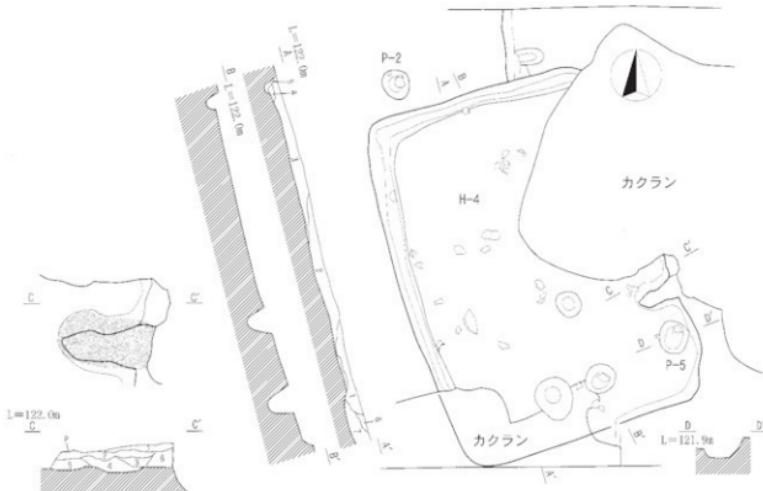


Fig.82 10K・H-1～3号住居跡、W-1・2号溝跡

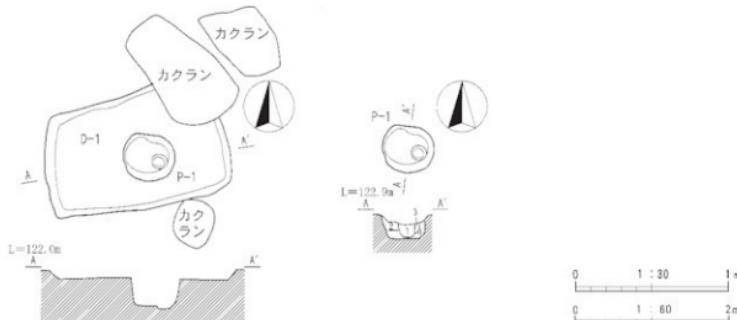


図版 H-4 セクション

- 1 黒褐 ○× 砂質、底土粒片、Hr-FP、土細胞片、ローム粒子混入
- 2 黒褐 ○× 1層に粘板、1層に比べ、底土粒子の混入少ない
- 3 黒褐 ○× Hr-FP 混入、底土粒子混入
- 4 黑褐 ○× 地下水砂層起因の砂質土、底土粒子混入
- 5 黄褐色 △× 地下水砂層起因の砂質土（崩壊層）
- 6 黑褐 ○× 塗状灰、底土粒、Hr-FP 混入、砂質土
- 7 黑褐 ○× 砂質土、Hr-FP、ローム粒子混入

図版 H-4 カマゼクション

- 1 始層 ○× 砂質土、ローム粒子混入、底土粒子点在
- 2 黑褐 ○× 純成土層の密度は小さい、地表粒子、ローム粒子混入
- 3 黑褐 ○× ローム粒子混入、底土粒子点在
- 4 黑褐 ○× ローム粒子混入、底土粒子点在
- 5 黑褐 ○× 底土無粒子混入、地土ブロック ($\phi 45\text{mm}$) 当在
- 6 始層 ○× Hr-FP、ローム粒子混入



図版 P-1 セクション

- 1 黄褐 ○× 結核砂層起因の砂質土、小凹窪 ($\phi 5 \sim 10\text{mm}$) 混入、Hr-FP 点在、砂質
- 2 黄褐 ○× 結核砂層起因の砂質土、小凹窪 ($\phi 5 \sim 10\text{mm}$) と暗褐色土との混土
- 3 黄褐 ○× 2層に粘板、2層より暗褐色色の混入少ない
- 4 に近い黄褐 ○× 結核砂層起因の砂質土、小凹窪 ($\phi 5 \sim 10\text{mm}$)、暗褐色土混入

Fig.83 10区H-4号住居跡、D-1号土坑、P-1号ピット

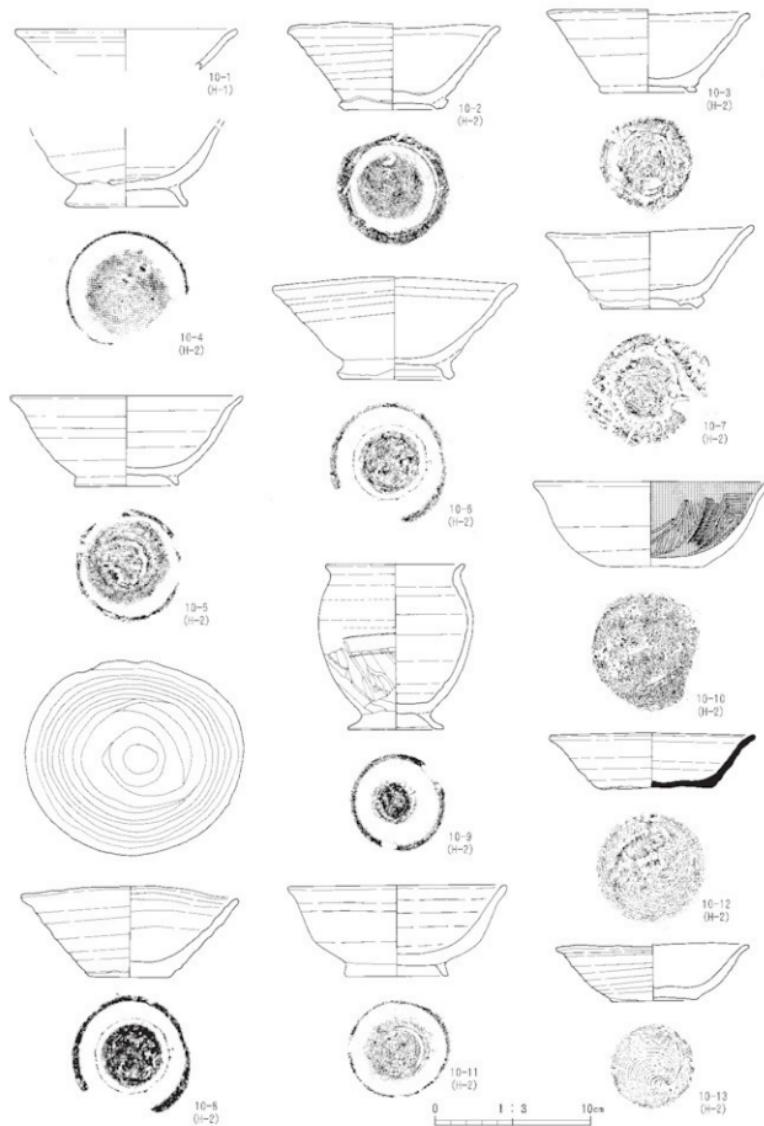


Fig.84 10KH-1 • 2号住居跡出土遺物

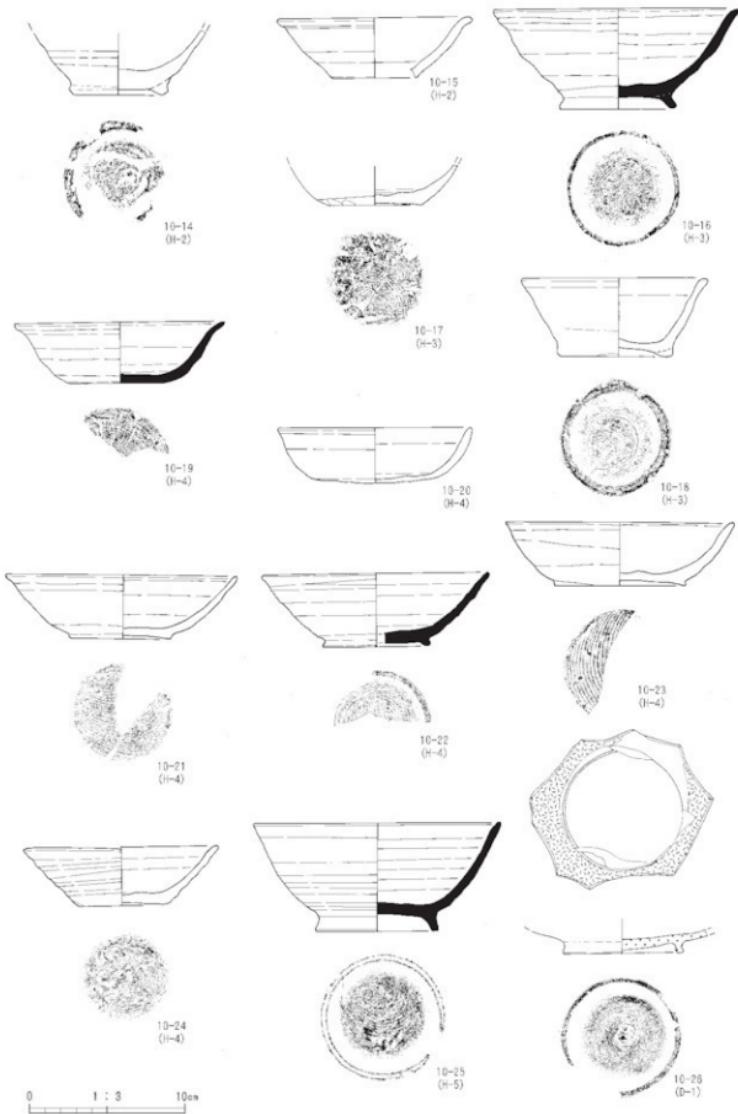


Fig.85 10KH-2 ~ 5号住居跡、D-1号土坑出土遺物

11区

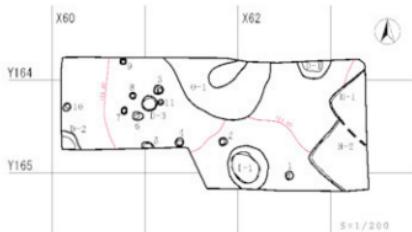


Fig.86 11区全体図



Fig.87 11区基本層序

調査区の概要

平成21年度に発掘調査を行った元總社蒼海遺跡群（26）6区と平成21年度に発掘調査を行った元總社蒼海遺跡群（24）32区の間に位置する調査区。竪穴住居跡2軒、土坑3基、井戸1基が検出された。調査区中央部では多くの石が検出された井戸跡が確認できた。それらの石はほとんどが川原石であり特に組まれている様子もなく、井戸を廃棄する際に投げ込まれたものであると考えられる。

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.88、PL.27)

位置 X62・63、Y163・164グリッド 主軸方向 N-51°-E 形状等 東西(2.30)m、南北(0.96)m、壁現高 11.5cm。面積 (1.64)m² 床面 平坦な貼り床。電 東壁に施設されたと考えられるが、調査区外のため確認できず。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行ったが確認されなかった。重複 H-2と重なり、新旧関係はH-2→本遺構。出土遺物 土師器10点。そのうち土師器壊2点を図示。時期 覆土や出土遺物から6世紀後半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.88、PL.27)

位置 X62・63、Y164・165グリッド 主軸方向 N-41°-E 形状等 東西(3.88)m、南北(2.30)m、壁現高24.0cm。面積 (6.73)m² 床面 平坦な貼り床。電 東壁に施設されたと考えられるが、調査区外

のため確認できず。貯蔵穴等 北西部の柱穴のみ検出。32×29cmの円形で深さは30.5cm。周溝 精査を行ったが確認されなかった。重複 H-1と重なり、新旧関係は本遺構→H-1。出土遺物 土器9点、繩文土器5点。そのうち土器1点を図示。時期 覆土や出土遺物から6世紀後半と考えられる。

(2) 土坑、ピット、井戸跡、落ち込み (Fig.89、PL.27)

土坑、ピットについては、Tab.52土坑・ピット・井戸跡等計測表を参照のこと。

(3) グリッド等出土遺物

須恵器8点、瓦1点、黒曜石2点を出土。そのうち須恵器1点、土製円盤1点を図示。

Tab.51 11区 住居跡一覧表

遺構名	位置	規 模 (m)		面積 (m ²)	主軸方向	断 面		周溝	主な出土遺物 土器類：須恵器
		東西	南北			壁厚高(cm)	位 置		
H-1	X62・63 Y163・164	(2.3)	(0.96)	11.5	(1.64)	N-35°-E	—	环	……
H-2	X62・63 Y164・165	(3.88)	(2.30)	24.0	(6.73)	N-41°-E	—	环	……

Tab.52 11区 土坑・ピット・井戸等計測表

遺構名	位 置	長幅(cm)	短幅(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
D-1	X62 Y163	(154.0)	(76.0)	32.0	円 形 圖1		
D-2	X60 Y164	(87.0)	(85.0)	15.0	円 形		
D-3	X60・61 Y164	66.0	65.0	18.5	円 形		
P-1	X62 Y164・165	36.0	33.0	34.0	円 形		
P-2	X61 Y164	35.0	33.0	33.5	円 形		
P-3	X61 Y164	40.0	38.0	33.0	楕丸形		
P-4	X61 Y164	39.0	34.0	35.5	円 形		
P-5	X60・61 Y164	52.0	(29.0)	27.0	長楕円形		
P-6	X60 Y164	44.0	34.0	25.5	楕丸形		
P-7	X60 Y164	31.0	26.0	26.0	円 形		
P-8	X60 Y164	28.0	28.0	22.5	円 形		
P-9	X60 Y163	26.0	24.0	24.5	楕丸形		
P-10	X60 Y164	36.0	30.0	16.5	楕 形		
P-11	X61 Y164	26.0	22.0	18.5	円 形		
O-1	X61・62 Y163・164	(466.0)	(271.0)	—	円 形 圖1		
I-1	X61・62 Y164・165	198.0	179.0	201.0	円 形 圖20・土74・圖27・瓦5・石33・中世14		

Tab.53 11区 古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

番号	出土遺構 名	面種名	①口部 ②底部	③側面 ④底面 ⑤通存度	面種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
H-1 床底	土器 坪	①11.8 ②—	③1頭脚 ④良好	⑤—	口縁部：直立からやや外傾する。内外面整然たる。体部：内面なので、外側面の割り振り。底部：丸底。	1	
H-2 床底	土器 坪	①11.9 ②(4.1)	③1頭脚 ④良好	⑤—	口縁部：直立からやや外傾する。口縁部や内面がやや外れる。内外面整然たる。底部：丸底。	2	
H-3 床底	土器 坪	①11.4 ②—	③1頭脚 ④良好	⑤—	口縁部：直立から外傾し口縁部までやや外れる。著しく歪む。内外面整然たる。底部：内面なので、外側面の割り振り。底部：丸底。	1	
H-4	須恵器 蓋	①— ②—	③— ④—	⑤—	輪轂整型。天井部：内外面整然たる。体部：内面輪轂な。外側面輪轂あり。底なし。底部：丸底。		
H-5	須恵器 引足	①— ②—	③— ④—	⑤—	輪轂整型。口縁部：丸底。底部：ほぼ水平に張り出す。内外面整然たる。底部から底面：丸底。	輪化焰	
H-6	土器 小器	①(16.4) ②(10.6)	③1頭脚 ④良好	⑤—	口縁部：短く外傾する。すり付器。内外面整然たる。底部：内面なので、外側面の割り振り。底部：丸底。		

Tab.54 11区 石器・石製品観察表

番号	出土遺構／場所	面種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	通存度	登録番号	備考
H-石1	H-1 床底	不明	4.40	1.90	0.75	5.2	黒曜石	刺離片	6	
H-石2	I-1 床土	板磚	7.60	5.45	1.00	60	結晶片岩	一部	3	
H-石3	I-1 床土	叩き石	11.65	4.95	3.26	300	安山岩	ほぼ完形		フクド
H-石4	I-1 床土	叩き石	7.90	4.15	2.96	120	結晶片岩	3/2		フクド
H-石5	X62, Y163	不明	2.30	2.20	0.40	2.0	黒曜石	刺離片		

Tab.55 11区 土製品観察表

番号	出土遺構／部位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	遺存度	登録番号	備考
11-土-1	I-1 覆土	円盤	7.10	6.70	1.70	完形		

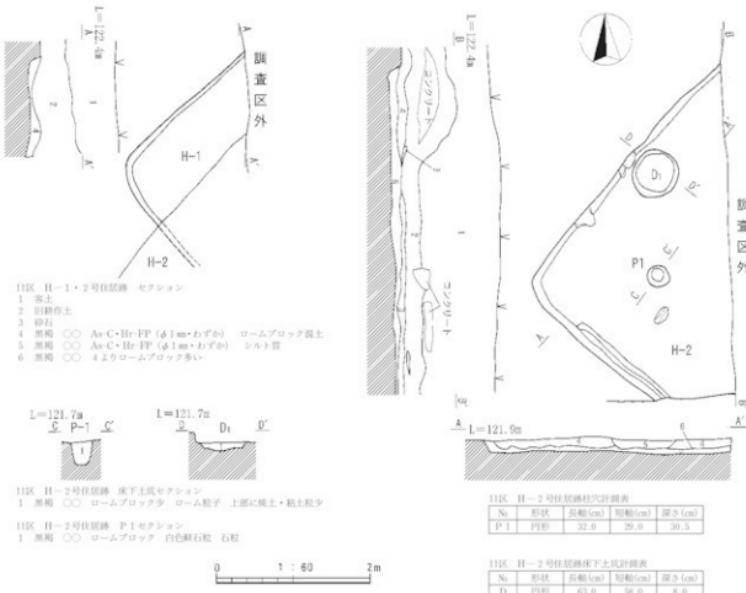


Fig.88 11区H-1・2号住居跡

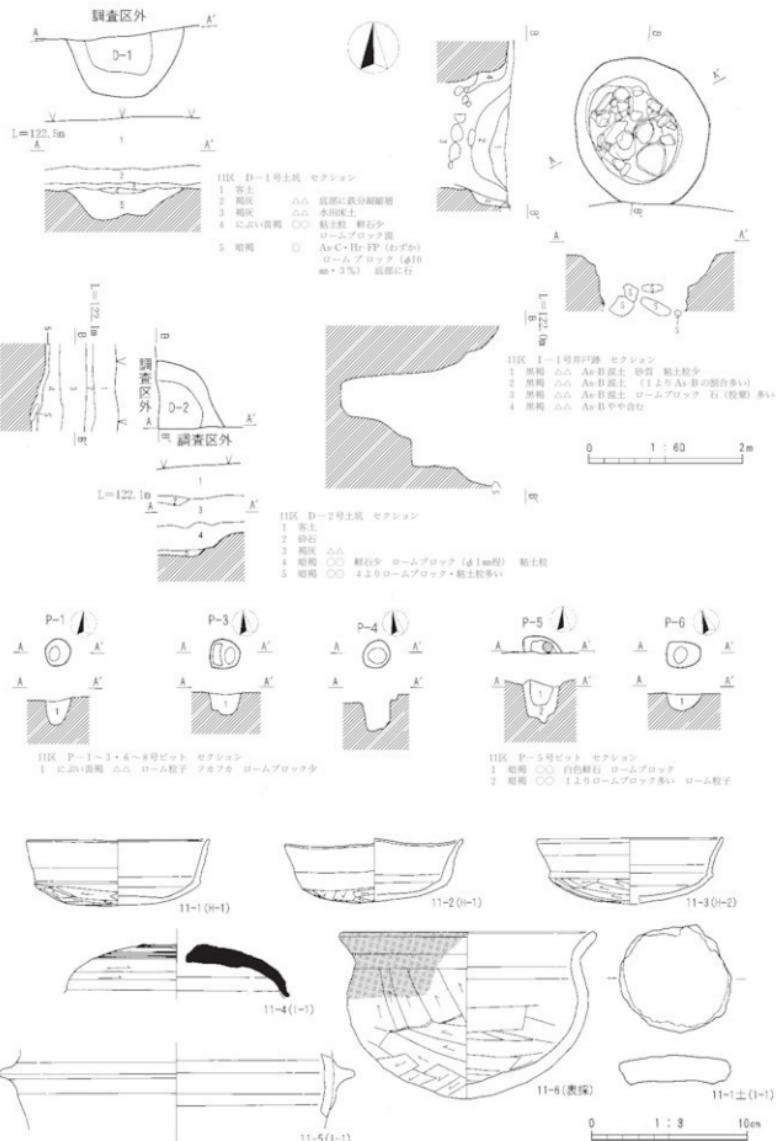


Fig.89 11区 I-1号井戸跡、D-1・2号土坑、P-1・3～6号ビットH-1・2号住居跡、I-1号井戸跡出土遺物

13区

調査区の概要

本調査区は蒼海遺跡群の北西部、関越自動車道の東100m、推定上野国分尼寺の南方に位置する。標高126m程を図る。調査区は幅1.2m、長さ37mの調査区である。道路の拡幅幅のみの調査であり、竪穴住居跡1軒、溝跡2条のほか近年の耕作に伴うものと考えられる耕作溝が5条、確認調査された。周辺は、耕作地が広がるやや開けた地域である。

基本層序

厚さ約36cmの表土を除去すると、すぐに遺構確認面であり遺構の保存状況はあまり良くない。

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.91、PL.28)

位置 X36・37、Y64.65グリッド 主軸方向 N-72°-E 形状等 東西(3.06)m、南北(5.30)m、現高19cm 面積 4.27m² 床面 ほぼ平坦である。竪穴 主軸方向N-84°-E 全長(45)cm、最大幅(90)cm、焚口部幅(40)cm 出土遺物 土師器 時期 9世紀

(2) 溝跡

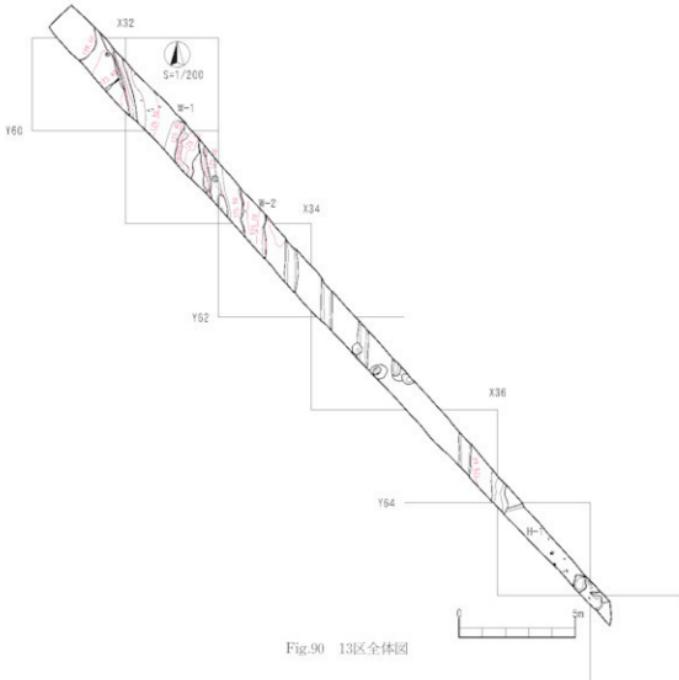


Fig.90 13区全体図

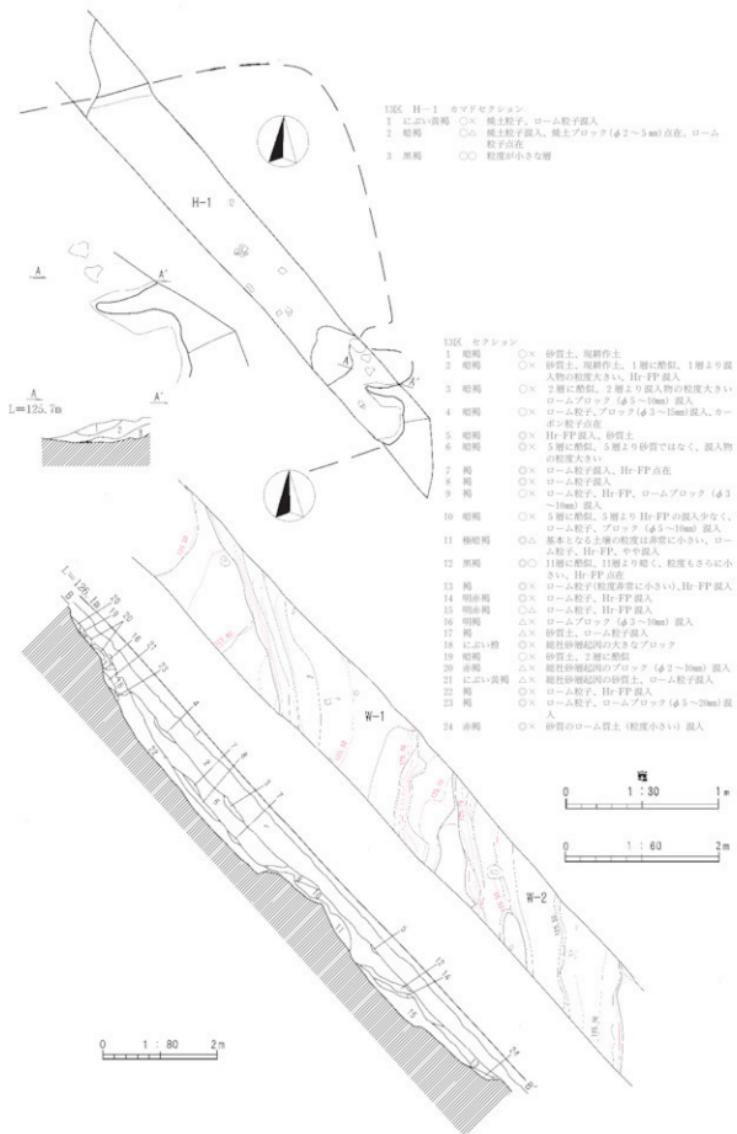


Fig.91 13区H-1号住居跡、W-1・2号溝跡

W-1号溝跡 (Fig.91、PL.28)

位置 X31・32、Y58～60グリッド 主軸方向 N-10°-W 最長3.10m、最短1.00m、深さ66.5cm 形状等 断面箱状。 時期 不明

W-2号溝跡 (Fig.91、PL.28)

位置 X32.33、Y60.61グリッド 主軸方向 N-10°-W 最長2.80m、最短0.46m、深さ50.5cm 形状等 断面形は皿状。 時期 不明

Tab.56 13区 住居跡一覧表

遺構名	位置	規 模 (m)		面積 (m ²)	主軸方向	電		周講	主な出土遺物	
		東西	南北			位 置	構架材		土器部：調査器：その他	
H-1	X58・37 Y64・65	(3.06)	(5.30)	19.0	4.27	N-72°-E	東壁中央	粘土	○	⋮

Tab.57 13区 溝跡計測表

遺構名	位置	長さ(m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時 期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X31・32 Y58～60	?	66.5		310.0		100.0		N-10°-W	形	
W-2	X32・33 Y60・61	?	50.5		280.0		46.0		N-10°-W	形	

14区

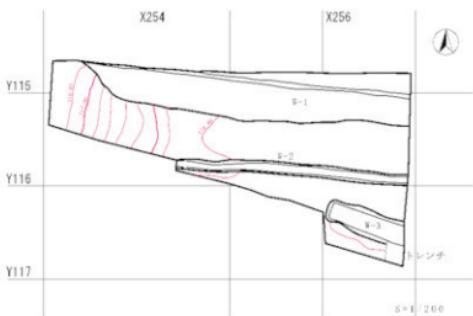


Fig.92 14区全体図

層序について

14区は牛池川左岸に位置し、調査区西側と南側は牛池川の河岸段丘の崖線となっている。土層の堆積状況としては、表土の下層は砂層となっている。ただし、砂層といつても総社砂層の地山のように硬化したものではなく、河岸に堆積した小躍を含む砂の層で、ラミナが観察できるやわらかい砂層である。

調査区概要

14区においては3条の溝のみが確認された。W-1号溝は形状等から時期の特定も可能であるが、他の2条については遺物も少なく詳細は不明である。なお、調査区西側の崖線付近で古代の石切り場の有無を調べたが、存在しなかった。

(1) 溝 跡

W-1号溝 (Fig.93)

位置 X253～256、Y114・115グリッド 主軸方向 N-96°E 形状等 薬研堀 長さ 14.3m 幅 最大値は、溝の北側が調査区外の部分もあるため、確認できる幅で230.0cm 深さ 最大値131.0cm、最小値122.0cm 重複 なし 出土遺物 土師器、須恵器、瓦、灰釉陶器片などを極少量。 時期 形状から中世と考えたい。

W-2号溝 (Fig.93)

位置 X254～256、Y114・115グリッド 主軸方向 N-94°E 形状等 U字形 長さ 10.0m 幅 最大値52.0cm 深さ 最大値16.0cm、最小値12.0cm 重複 なし 出土遺物 土師器片、鉄滓などを極少量。 時期 明確な根拠となる遺物等がないため不明。

W-3号住居跡 (Fig.93)

位置 X256、Y116グリッド 主軸方向 N-110°E 形状等 逆台形 長さ 3.7m 幅 最大値116.0cm 深さ 最大値86.0cm、最小値83.0cm 重複 なし 出土遺物 陶磁器片を極少量。 時期 近世以後と推測される。

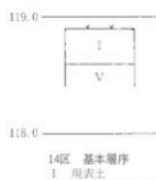
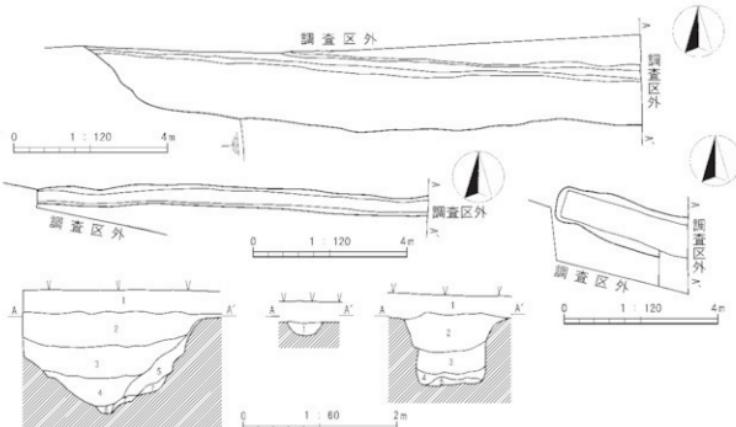


Fig.93 14区基本層序

Tab.58 14区 溝跡計測表

遺構名	位置	長さ(m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X253~256 Y114~115	14.3	131.0	122.0	(230.0)	—	18.0	—	N-96-E	薬研	中世か
W-2	X254~256 Y115	10.0	16.0	12.0	52.0	42.0	34.0	22.0	N-94-W	U字形	不明
W-3	X256 Y116	3.7	86.0	83.0	116.0	86.0	76.0	68.0	N-110-W	逆台形	不明



14区 W-1号溝 セクション

- 1 黄土
 2 黒褐 ×× 砂質で砂礫（φ3～10mm）を多く含む。
 3 黒褐 ×× 砂質で砂礫（φ10～20mm）を多く含む。
 4 黒褐 ×× 砂質で砂礫多く含む。砂質土（疊山）の土を少量含む。
 5 黒褐 ×× 砂質土（疊山）を少量含む。
 6 黑褐 ×× 砂質で砂礫（φ10～20mm）を多く含む。
 7 黒褐 ×× 二次堆積した砂質土（疊山）。

14区 W-2号溝 セクション

- 1 黄土
 2 黒褐色 ×× 砂を多く含む。
 3 黑褐色 ×× 砂を多く含む。
 4 黑褐色 ×× 砂を多く含む。
 5 黑褐色 ×× 4に似るが、黒色土を若干含む。

Fig. 94 14区W-1～3号溝跡

Tab.59 14区 出土遺物観察表

番号	出土遺物名	器種名	①口径 ②底径 ③底高 ④底幅 ⑤底厚 ⑥底成形				器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考	
			①縦	②横	③縦	④横				
14-1	W-1 甕	灰陶器	①— ②5.2	②(1.2)	①縦幅 ②底厚 ③底高 ④底幅 ⑤底厚	③底幅 ④底厚	⑤底高	⑥底成形	⑦縦幅	⑧底厚
14-2	W-1 甕	灰陶器	①(3.4)	②(3.2)	①縦幅 ②底厚 ③底高 ④底幅 ⑤底厚	②底厚	③底高 ④底幅 ⑤底厚	⑥底成形	⑦縦幅	⑧底厚
14-3	W-2 甕	灰陶器	①(13.2)	②(26.8)	①縦幅 ②底厚 ③底高 ④底幅 ⑤底厚	②底厚	③底高 ④底幅 ⑤底厚	⑥底成形	⑦縦幅	⑧底厚

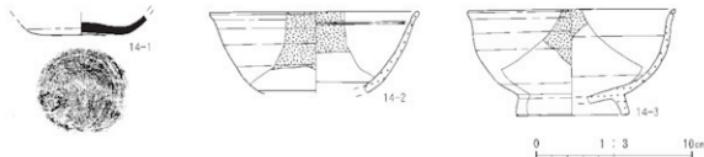


Fig. 95 14区W-1・3号溝跡出土遺物

15区

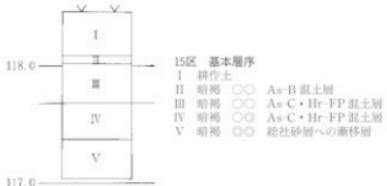


Fig. 96 15区基本層序

調査区の概要

南北に細長い調査区である。調査区全体が駐車場として使用されており、一面に碎石が敷き詰められていた。その碎石を剝がすと現代の水田耕作面となり、その下はすぐにAs-C混土となっており以降確認面は非常に浅かった。竪穴住居跡14軒、土坑14基、溝3条が検出された。古墳時代の住居跡では、7m四方の大型住居跡や床一面に炭が広がっていた焼失住居跡など確認できた。電の支脚に重ねた土器を使用している住居跡が3軒あり、この辺りの住居跡の特徴と考えられる。

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig. 98, PL.30)

位置 X288・289・Y88・89グリッド 主軸方向 N-66°-E 形状等 東西(1.44)m、南北(2.94)m、壁高10.0cm。面積 (1.95)m² 床面 地山を床面とする。竈 竈本体は調査区外のため詳細は不明であるが東壁中央に施設されたと思われる。主軸方向N-66°-E、全長(76.0)cm、最大幅(57.0)cm、焚口部幅不明。貯藏穴・周溝等 住居跡のほとんどが調査区外のため確認できず。出土遺物 土師器33点。そのうち土師器環1点を図示。時期 覆土や出土遺物から5世紀後半から6世紀前半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig. 98, PL.30)

位置 X288・Y91 主軸方向 N-63°-E 形状等 東西(0.92)m、南北(1.76)m、壁高30.5cm。面積 (0.76)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁中央に施設されたと考えられるが、住居跡のほとんどが調査区外の



Fig. 97 15区全体図

ため確認できず。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行ったが確認されなかった。出土遺物 土師器9点。時期 覆土や出土遺物から5世紀後半から6世紀前半と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.99, PL.30)

位置 X288・289、Y93・94グリッド 主軸方向 N-70°-E 形状等 東西(2.71)m、南北4.54m、壁現高43.5cm。面積 (8.45)m² 床面 平坦な貼り床。南西部で多くの焼土を確認。竈 東壁中央に施設。主軸方向N-75°-E、全長108.0cm、最大幅129.0cm、焚口部幅54.0cm。左袖部からは袖石として使用されていた凝灰岩が検出された。右袖部はD-5で破壊され確認できなかった。焚口部は若干凹み、煙道部は急傾斜で立ち上がる。煙道は東壁からわずかに張り出す。貯蔵穴等 北東部柱穴は39×37cmの円形で深さは49cm。南東隅の貯蔵穴は104×78cmの隅丸方形で深さは66cm。底部から石と多数の土器が検出された。周溝 精査を行ったが確認されなかった。重複 D-5と重なり、新旧関係は本遺構→D-5。出土遺物 土師器102点、石製品6点。そのうち土師器環2点、土師器甕1点、土師器櫃1点、砥石3点、臼玉1点を図示。時期 覆土や出土遺物から5世紀後半から6世紀前半と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.99, PL.30)

位置 X289、Y95・96グリッド 主軸方向 N-57°-E 形状等 東西(3.76)m、南北(7.08)m、壁現高31.0cm。面積 (11.24)m² 床面 平坦な床面。一面に炭が広がっており焼失住居と考えられる。竈 東壁南寄りに施設。主軸方向N-57°-E、全長86.0cm、最大幅123.0cm、焚口部幅56.0cm。支脚として2つの土器が裏返しで重ねられていた。煙道部は急傾斜で立ち上がる。煙道は東壁からわずかに張り出す。貯蔵穴等 南東隅の貯蔵穴は98×78cmの長方形で深さは66cm。周溝 精査を行ったが確認されなかった。出土遺物 土師器130点、須恵器3点。そのうち土師器環3点、土師器高杯1点、土師器小甕1点を図示。時期 覆土や出土遺物から5世紀後半から6世紀前半と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig.100, PL.31)

位置 X288～290、Y96～98グリッド 主軸方向 N-65°-E 形状等 東西(7.40)m、南北(7.58)m、壁現高34.5cm。北壁西寄りに(150)×50cmの張り出し部を持つ。面積 (47.56)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁南寄りに施設。主軸方向N-68°-E、全長133.0cm、最大幅89.0cm、焚口部幅36.0cm。左右の袖石が設置された形で残っており、天井石は焚口部手前で確認できた。支脚として2つの土器が裏返しで重ねられていた。焚口部は若干凹み、煙道部は緩やかに立ち上がる。煙道は東壁より20cm程張り出す。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行ったが確認されなかった。重複 H-8・13と重なり、新旧関係はH-13→本遺構→H-8。出土遺物 土師器680点、須恵器10点、繩文土器5点、石製品3点。そのうち土師器環3点、土師器甕3点を図示。時期 覆土や出土遺物、重複関係から5世紀後半から6世紀前半と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.101, PL.31)

位置 X288・289、Y98・99グリッド 主軸方向 N-84°-E 形状等 東西(3.48)m、南北3.36m、壁現高14.0cm。面積 (10.71)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁中央に施設。主軸方向N-88°-E、全長95.0cm、最大幅85.0cm、焚口部幅41.0cm。左右の袖石が切り石でしっかりと据えられていた。焚口部は凹み、煙道部は短く立ち上がる。燃焼部から煙道部は65cm程東壁より張り出す。貯蔵穴等 南東隅の貯蔵穴は48×43cmの円形で深さ10cm。周溝 精査を行ったが確認されなかった。重複 H-8・9・13と重なり、新旧関係はH-13→H-8→H-9→本遺構。出土遺物 土師器98点、須恵器7点、繩文式土器1点、綠

釉陶器 1 点。そのうち須恵器高台榦 2 点、縁釉陶器托 1 点を図示。 時期 覆土や出土遺物、重複関係から 10世紀代と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig.101、PL.31)

位置 X290、Y95・96グリッド 主軸方向 N-66°-E 形状等 東西(2.36)m、南北(4.92)m、壁現高46.0cm。 面積 (5.79)m² 床面 平坦な床面。北壁の一部から炭片を検出。 窯 東壁中央に施設されたと考えられるが、調査区外のため確認できず。 貯蔵穴等 検出されず。 周溝 精査を行ったが確認されなかった。 重複 T-1と重なり、新旧関係は本遺構→T-1。 出土遺物 土師器46点、須恵器 1 点。そのうち土師器壺 1 点、土師器高杯 1 点を図示。 時期 覆土や出土遺物から 5 世紀後半から 6 世紀前半と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig.100、PL.32)

位置 X289・290、Y97~100グリッド 主軸方向 N-54°-W 形状等 東西(6.98)m、南北(7.20)m、壁現高32.0cm。 面積 (44.37)m² 床面 平坦な床面。 窯 西壁南寄りに施設。主軸方向N-56°-W、全長134.0cm、最大幅130.0cm、焚口部幅39.0cm。支脚として 2 つの土器が裏返しで重ねられていた。煙道部は緩やかに立ち上がる。煙道は東壁より10cm程張り出す。 貯蔵穴等 南西隅の貯蔵穴は78×71cmの円形で深さ80.5cm。 周溝 精査を行ったが確認されなかった。 重複 H-5・6・9・10・14と重なり、新旧関係はH-10→H-5→本遺構→H-14→H-9→H-6。 出土遺物 土師器1184点、須恵器10点、鉄製品 1 点、石製品 3 点、灰釉陶器 1 点。そのうち土師器壺 5 点、白玉 2 点、管玉 1 点を図示。 時期 覆土や出土遺物、重複関係から 5 世紀後半から 6 世紀前半と考えられる。

H-9号住居跡 (Fig.101、PL.32)

位置 X288・289、Y99グリッド 主軸方向 N-76°-E 形状等 東西(3.86)m、南北(2.16)m、壁現高15.0cm。 面積 (6.21)m² 床面 平坦な貼り床。 窯 東壁に施設されたと考えられるが、重複関係により確認できず。 貯蔵穴等 検出されず。 周溝 精査を行ったが確認されなかった。 重複 H-6・8・10・11と重なり、新旧関係はH-10→H-11→H-8→本遺構→H-6。 出土遺物 東南隅に遺物が集中。土師器25点、石製品 1 点。そのうち土師器壺 9 点、土師器高杯 1 点、土師器小甕 1 点、土師器甕 2 点、土師器榦 1 点を図示。 時期 覆土や出土遺物、重複関係から 6 世紀代と考えられる。

H-10号住居跡 (Fig.103、PL.32)

位置 X288・289、Y99・100グリッド 主軸方向 N-62°-E 形状等 東西(3.73)m、南北(4.90)m、壁現高32.5cm。 面積 (8.57)m² 床面 平坦な貼り床。 窯 東壁中央に施設されたと考えられるが、重複関係により確認できず。 貯蔵穴等 検出されず。 周溝 精査を行ったが確認されなかった。 重複 H-8・9・11と重なり、新旧関係は本遺構→H-11→H-8→H-9。 出土遺物 土師器201点、須恵器 1 点。そのうち土師器壺 1 点、須恵器高台榦 1 点を図示。 時期 覆土や出土遺物から 5 世紀後半から 6 世紀前半と考えられる。

H-11号住居跡 (Fig.103、PL.32)

位置 X288・289、Y99・100グリッド 主軸方向 N-64°-E 形状等 東西(2.00)m、南北(4.15)m、壁現高20.0cm。 面積 (3.87)m² 床面 平坦な貼り床。 窯 東壁中央に施設されたと考えられるが、重複

関係により確認できず。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行ったが確認されなかった。重複 H—9・10と重なり、新旧関係はH—10→本遺構→H—9。出土遺物 土師器20点。時期 覆土や出土遺物から5世紀後半から6世紀前半と考えられる。

H—12号住居跡 (Fig.98、PL.33)

位置 X289、Y99グリッド 形状等 電極道部のみの検出のため詳細は不明。竈 東壁中央に位置すると考えられる。主軸方向 N—75°—E、全長(38.0)cm、最大幅(36.0)cm、焚口部幅不明。出土遺物 土師器1点。時期 不明。

H—13号住居跡 (Fig.101)

位置 X288・289、Y97・98グリッド 主軸方向 N—62°—E 形状等 東西(3.00)m、南北(3.58)m、壁現高18.5cm。面積 (4.12)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁中央に施設されたと考えられるが、重複関係により確認できず。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行ったが確認されなかった。重複 H—5・6・8と重なり、新旧関係は本遺構→H—5→H—8→H—6。出土遺物 土師器59点、須恵器1点。そのうち土師器1点を図示。時期 出土遺物や重複関係から5世紀後半から6世紀前半と考えられる。

H—14号住居跡 (Fig.103、PL.33)

位置 X289・290、Y99・100グリッド 主軸方向 N—59°—E 形状等 東西(4.76)m、南北(2.28)m、壁現高8.5cm。面積 (6.03)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁中央に施設されたと考えられるが、重複関係により確認できず。貯蔵穴等 検出されず。周溝 精査を行ったが確認されなかった。重複 H—8と重なり、新旧関係はH—8→本遺構。出土遺物 土師器20点。時期 覆土や出土遺物から6世紀代と考えられる。

(2) 壇穴状遺構

T—1号壇穴状遺構 (Fig.103、PL.33)

位置 X290、Y96グリッド 主軸方向 N—78°—E 規模等 東西(2.24)m、南北(2.45)m、壁現高10.0cm。面積 (3.99)m² 重複 H—7と重なり、新旧関係はH—7→本遺構。出土遺物 土師器32点。時期 7世紀以降と考えられるが、詳細は不明である。

(3) 溝跡

W—1号溝跡 (Fig.104、PL.33)

位置 X288・289、Y90・91グリッド 主軸方向 N—70°—E 形状等 逆台形。長さ6.44m、深さ7.0cm、最大上幅40.0cm、最大下幅29.0cm 出土遺物 土師器6点、須恵器1点。時期 7世紀以降と考えられるが、詳細は不明である。

W—2号溝跡 (Fig.104、PL.33)

位置 X288～290、Y90～92グリッド 主軸方向 N—44°—W 形状等 U字形。長さ11.48m、深さ23.5cm、最大上幅52.0cm、最大下幅26.0cm 出土遺物 土師器63点、須恵器3点。時期 7世紀以降と考えられるが、詳細は不明である。

W-3号溝跡 (Fig.104、PL.33)

位置 X289・290、Y88~93グリッド 主軸方向 N-15°-W 形状等 逆台形。長さ(15.90)m、最大深93.0cm、最大上幅580.0cm、最大下幅380.0cm 出土遺物 土師器1,186点、須恵器6点、繩文土器11点。そのうち土師器環28点、土師器高杯2点、土師器壺1点、土師器櫃1点、土師器椀2点、土師器小甕3点。土師器甕13点、須恵器大甕1点、白玉2点、磁石1点、土製円盤1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から溝部は4世紀後半から5世紀前半と考えられる。

(4) 土坑、ピット (Fig.104~106)

土坑、ピットについては、Tab.62土坑・ピット・井戸跡等計測表を参照のこと。

(5) グリッド等出土遺物

土師器1,208点、須恵器7点、繩文土器26点、石製品6点、灰釉陶器1点、陶磁器1点を出土。

Tab.60 15区 住居跡等一覧表

遺構名	位置	規模 (m)		面積 (m ²)	主軸方向	電		周溝	主な出土遺物 土師器・須恵器・その他
		東西	南北			壁厚高 (cm)	構築材		
H-1	X288・289 Y88・89	(1.44)	(2.94)	10.0	(1.95)	N 66° E	東壁中央 粘土	—	环
H-2	X288 Y91	(0.92)	(1.76)	30.5	(0.76)	N 63° E	—	—	—
H-3	X288・289 Y93・94	(2.71)	4.54	43.5	(8.45)	N 75° E	東壁中央 凝灰岩、粘土	—	环、瓶
H-4	X289 Y95・96	(3.76)	(7.08)	31.0	(11.24)	N 57° E	東壁南寄り 粘土	—	环、甕
H-5	X288~290 Y96~98	(7.40)	(7.58)	34.5	(47.56)	N 65° E	東壁南寄り 石、粘土	—	环、甕
H-6	X288・289 Y98・99	(3.48)	3.36	14.0	(10.71)	N 84° E	東壁中央 石、粘土	—	高台桿・縄欅柱
H-7	X290 Y95・96	(2.36)	(4.92)	46.0	(5.79)	N 66° E	—	—	环
H-8	X289・290 Y97~100	(6.98)	(7.20)	32.0	(44.37)	N 54° E	西壁南寄り 石、粘土	—	环
H-9	X288・289 Y99	(3.86)	(2.16)	15.0	(6.21)	N 76° E	—	—	环、瓶
H-10	X288・289 Y99~100	(3.73)	(4.90)	32.5	(8.57)	N 62° E	—	—	环、高台桿
H-11	X288・289 Y99~100	(2.00)	(4.15)	20.0	(3.87)	N 64° E	—	—	—
H-12	X288・289 Y97~98	(3.00)	(3.58)	18.5	(4.12)	N 62° E	—	—	环
H-14	X289・290 Y99~100	(4.76)	(2.28)	8.5	(6.03)	N 59° E	—	—	—
T-1	X290 Y96	(2.24)	(2.45)	10.0	(3.99)	N 78° E	—	—	—

Tab.61 15区 溝跡計測表

遺構名	位置	長さ (m)	深さ (cm)		上幅 (cm)		下幅 (cm)		主軸方向	断面形	時 期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X288・289 Y90・91	6.44	7.0	4.5	40.0	26.0	29.0	20.0	N 70° E	逆台形	中世
W-2	X288~290 Y90~92	11.48	23.5	9.5	52.0	30.0	26.0	4.0	N 44° W	U字形	中世
W-3	X289~290 Y88~93	15.90	93.0	29.5	580.0	190.0	380.0	65.0	N 15° W	逆台形	古墳

Tab.62 15区 土坑・ピット計測表

遺構名	位 置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形狀	出 土 遺 物		備 考
						幅 大	幅 小	
D-1	X290 Y88	123.0	76.0	28.0	長楕円形	圓 1・土 16	—	—
D-2	X290 Y88	58.0	37.0	9.0	長楕円形	—	—	—
D-3	X289 Y88	81.0	44.0	47.5	長楕円形	—	—	—
D-4	X288・289 Y92・93	(243.0)	(140.0)	51.0	椭 圆 形	圓 6・土 30・頭 2	—	—
D-5	X288・289 Y93・94	179.0	150.0	19.5	楕丸形	土 41・頭 1	—	—
D-6	X289・290 Y94	158.0	142.0	17.5	楕丸形	土 7	—	—
D-7	X290 Y73	176.0	164.0	45.5	円 形	土 45	—	—

遺物名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出 土 遺 物	備 考
D- 8	X290・291 Y92	(176.0)	(76.0)	38.5	梢 円 形	土5	
D- 9	X289 Y92	201.0	100.0	35.0	楕丸方形	画3・土7	
D- 10	X288 Y93	(230.0)	(76.0)	(35.5)	梢 円 形		
D- 11	X289 Y91	[142.0]	[102.0]	38.5	梢 円 形		
D- 12	X290 Y97	121.0	100.0	32.5	楕丸方形	土20	
D- 13	X290 Y95	269.0	160.0	31.5	楕丸方形	土14	
D- 14	X290 Y99	(82.0)	(44.0)	31.5	円 形	土1	
P- 1	X288 Y90	28.0	28.0	23.5	円 形		
P- 2	X288・289 Y90・91	130.0	94.0	5.5	梢 円 形		
P- 3	X288・289 Y91	41.0	35.0	18.0	円 形		
P- 4	X289 Y91	32.0	28.0	23.0	円 形		
P- 5	X288 Y91	34.0	32.0	14.5	円 形		
P- 6	X289 Y91	46.0	28.0	11.0	長梢円形		
P- 7	X289 Y91・92	69.0	64.0	36.0	円 形	土1	
P- 8	X289 Y92	30.0	28.0	19.0	円 形	土2	
P- 9	X289 Y92	33.0	26.0	11.0	梢 円 形	土1	
P- 10	X290 Y92	40.0	36.0	16.0	円 形	土1	
P- 11	X290 Y92	32.0	32.0	14.5	円 形		
P- 12	X290 Y92・93	36.0	36.0	13.0	円 形		
P- 13	X289 Y92・93	54.0	46.0	13.0	円 形		
P- 14	X289・290 Y93	37.0	35.0	16.5	楕丸方形		
P- 15	X289 Y92	60.0	31.0	49.5	長梢円形		
P- 16	X289 Y92	50.0	44.0	21.0	梢 円 形		
P- 17	X289 Y92	37.0	27.0	13.5	梢 円 形		
P- 18	X289 Y93	34.0	29.0	18.0	円 形	土1	
P- 19	X289 Y92	26.0	24.0	13.5	円 形		
P- 20	X289 Y74	38.0	37.0	34.5	楕丸方形		
P- 21	X290 Y74	32.0	30.0	29.0	円 形	土1	
P- 22	X289 Y96	63.0	56.0	22.5	円 形	土2	
P- 23	X290 Y97	42.0	38.0	33.0	円 形		
P- 24	X290 Y99	61.0	52.0	64.5	円 形	土11	
P- 25	X290 Y99	26.0	26.0	32.5	円 形		
P- 101	X289 Y98	56.0	56.0	35.5	楕丸方形	土5	
P- 102	X289 Y97・98	55.0	46.0	33.5	楕丸方形		
P- 103	X290 Y97	87.0	60.0	12.5	楕丸方形	土2	
P- 104	X290 Y97	77.0	62.0	34.0	楕丸方形	土35	
P- 105	X289 Y99	36.0	36.0	44.5	円 形		
P- 106	X289・290 Y99	43.0	38.0	40.5	円 形		
P- 107	X290 Y98・99	32.0	30.0	20.0	円 形		
P- 108	X290 Y99	24.0	24.0	17.5	円 形		
P- 109	X290 Y99	38.0	[34.0] / 2	19.5	円 形		
P- 110	X290 Y99	42.0	36.0	21.0	円 形		
P- 111	X290 Y99	39.0	28.0	36.0	円 形		
P- 112	X290 Y99	26.0	25.0	34.0	円 形		
P- 113	X290 Y99	34.0	22.0	21.0	梢 円 形		
P- 114	X290 Y99	20.0	16.0	18.0	梢 円 形		
P- 115	X289・290 Y99	30.0	26.0	22.0	楕丸方形		
P- 116	X290 Y97	31.0	28.0	36.0	円 形	土1	
P- 117	X289 Y98	34.0	28.0	40.5	梢 円 形		
P- 118	X289 Y96	39.0	35.0	44.5	円 形		
P- 119	X289・290 Y100	(68.0)	(22.0)	50.5	楕丸方形	土1	

Tab.63 15区 古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

番号	出土遺構	施作名	①口部	②側面	③底土	④側面・底土の成形	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備 考
15- 1	H- 1 床直	土器留 环	①13.6 ②—	②45.6 ③—	③— ④—	④—	口縁部：直立から外斜線とする。内外面無なで、体部：内面まで。 外斜線部の削り取り。すす付型。底部：丸底。	26	
15- 2	H- 3 覆土	土器留 环	①13.6 ②—	②25.6 ③—	③— ④—	④—	口縁部：内斜線様。内外面無なで、体部：内面まで。斜削状態み がきを有す。外斜線部の削り取り。底部：丸底。	15	
15- 3	H- 3 覆土	土器留 环	①13.5 ②—	②44.7 ③—	③— ④—	④—	口縁部：内斜線様。内外面無なで、体部：内面まで。斜削状態み がきを有す。外斜線部の削り取り。底部：丸底。	18	
15- 4	H- 3 床直	土器留 环	①— ②—	②(13.3) ③—	③— ④—	④— ⑤—	口縁部から削り上削：丸底。神部に最大幅となる。斜削部から底 部：内面まで。外斜線部の削り取りの後、裏みがき。底部：平底。	28	
15- 5	H- 3 覆土	土器留 环	①22.6 ②—	②27.8 ③—	③— ④—	④— ⑤—	口縁部：直立からやや外斜する。最大径。内外面無なで、斜上削 部：内面まで。外斜線部の削り取り。削り落し：内面など。外斜線部の削 り取り。	14	
15- 6	H- 4 床直	土器留 环	①15.0 ②—	②59.7 ③—	③— ④—	④—	口縁部：内斜線様。内外面無なで、体部：内面まで。斜削状態み がきを有す。外斜線部から底部の削り取り。底部：丸底。	23	
15- 7	H- 4 床直	土器留 环	①(12.2) ②—	②59.9 ③—	③— ④—	④—	口縁部：わざかに内面削る。内外面無なで、体部：内面まで。削 り状態異常が見られる。外斜線部と斜削部の削り取り。底部：丸底。	18	
15- 8	H- 4 土器留	土器留 环	①— ②—	②(11.6) ③—	③— ④—	④— ⑤—	口縁部：大きめ外反する。内外面無なで、体部：内面まで。外斜 線部の削り取り。底部：丸底。	1	
15- 9	H- 4 土器留	土器留 环	①— ②—	②(6.6) ③—	③— ④—	④— ⑤—	口縁部：大底外反。削り落し：内面など。外斜線部の削り取り。削 り落し：内面など。外斜線部の削り取り。	4	
15-10	H- 4 床直	土器留 小器	①(12.2) ②—	②(14.9) ③—	③— ④—	④— ⑤—	口縁部：内斜線様。削り落し：内面など。外斜線部の削り取り。削 り落し：内面など。外斜線部の削り取り。	24	

番号	出土場所	器種名	①口径	②脚高	③底面	④側面	分類	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
15-11	H-5 底面 环	土器筒	⑨13.3	⑨25.1	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：内側に傾く。外底面がなだらか。体部：内面なで、船文を施す。 外底面の割れ目あり。底部：丸底。	125	
15-12	H-5 底面 环	土器筒	⑨13.3	⑨24.1	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：直立から外側下る。外底面横溝なし。体部：内面なで、外底面の割れ目あり。底部：丸底。	76	
15-13	H-5 底面 环	土器筒	⑨13.4	⑨24.1	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：直立からやや外側下る。外底面横溝なし。体部：内面なで、外底面の割れ目あり。底部：丸底。	118	
15-14	H-5 底面 环	土器筒	⑨13.4	⑨24.1	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：直立から外側下る。外底面横溝なし。体部：内面なで、外底面の割れ目あり。底部：丸底。	183	
15-15	H-5 底面 环	土器筒	⑨12.0	⑨26.5	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：内底面横溝なし。最大径、胴下部：内面なで。外底面の割れ目あり。胴中段から底部：丸底。	57	
15-16	H-5 底面 环	土器筒	⑨12.0	⑨24.0	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：内底面横溝なし。最大径、胴下部：内面なで。外底面の割れ目あり。胴中段から底部：丸底。	124	
15-17	H-6 底面 环	土器筒	⑨13.5	⑨25.1	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：やや外側下し、口縁端に窪く。口縁部から底部：横溝なし。底部：外底面横溝ありの後、底部を丸付ける。	12	
15-18	H-6 底面 环	土器筒	⑨13.7	⑨25.0	⑨3.0	⑨2.0	外底面	横縫整形。底部から外側下し、口縁端に窪く。口縁部から底部：横溝なし。底部：外底面横溝ありの後、底部を丸付ける。	9	
15-19	H-7 底面 环	研物	⑨14.4	⑨21.7	⑨3.0	⑨2.0	良好	口縁部：底部から外側下し、外底面横溝なし。内面施加。内面中程に底面台の痕跡三形状の凸部をも素造せる。底部から底面台：丸底。	16	黒原90号式期
15-20	H-7 底面 环	土器筒	⑨13.6	⑨25.0	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：内側に傾く。内外面横溝なし。体部：内面なで。放射状観みがきを施す。外底面の割れ目あり。底部：丸底。	13	
15-21	H-8 底面 环	土器筒	⑨12.0	⑨25.0	⑨3.0	⑨2.0	外底面	研磨：大底。胴部：外側しならぎあり。接縫部で圓く。内外面横溝なし。底部：丸底。	9	
15-22	H-8 底面 环	土器筒	⑨12.3	⑨25.2	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：やや外側下し。外底面横溝なし。体部と口縁に上部の溝。体部：内面なで。放射状観みがきを施す。黑色處理。外底面横溝と斜めに底部：丸底。	51	
15-23	H-8 底面 环	土器筒	⑨11.2	⑨24.4	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：やや外側下する。内外面横溝なし。体部：内面なで。放射状観みがきを施す。外底面の割れ目あり。底部：丸底。	27	
15-24	H-8 底面 环	土器筒	⑨13.0	⑨25.0	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：やや外側下する。内外面横溝なし。体部：内面なで。放射状観みがきを施す。外底面横溝：斜めに底部：丸底。	82	
15-25	H-8 底面 环	土器筒	⑨14.4	⑨24.0	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：大きく外側下る。内外面横溝なし。体部：内面なで。放射状観みがきを施す。外底面横溝の割れ目あり。底部：丸底。	132	
15-26	H-9 底面 环	土器筒	⑨12.2	⑨23.9	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：やや外側下する。内外面横溝なし。底部：内面なで。外底面横溝：斜めに底部：丸底。	72	
15-27	H-9 底面 环	土器筒	⑨12.2	⑨25.2	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：やや外側下する。内外面横溝なし。体部：内面なで。外底面横溝の割れ目あり。底部：丸底。	1	
15-28	H-9 底面 环	土器筒	⑨12.8	⑨24.3	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：やや外側下する。内外面横溝なし。体部：内面なで。外底面横溝の割れ目あり。底部：丸底。	11	
15-29	H-9 底面 环	土器筒	⑨11.5	⑨24.2	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：やや外側下する。内外面横溝なし。体部：内面なで。外底面横溝の割れ目あり。底部：丸底。	12	
15-30	H-9 底面 环	土器筒	⑨11.8	⑨23.9	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：やや外側下し。横縫：口縁外に反する。内外面横溝なし。体部：内面なで。外底面横溝なし。底部：丸底。	13	
15-31	H-9 底面 环	土器筒	⑨11.4	⑨24.3	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：やや外側下し。横縫：口縁外に反する。内外面横溝なし。体部：内面なで。外底面横溝なし。底部：丸底。	14	
15-32	H-9 底面 环	土器筒	⑨11.6	⑨23.7	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：内側に傾く。内外面横溝なし。体部：内面なで。外底面横溝なし。底部：丸底。	8	
15-33	H-9 底面 环	土器筒	⑨12.0	⑨23.9	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：やや外側下する。内外面横溝なし。底部：内面なで。外底面横溝なし。底部：丸底。	6	
15-34	H-9 底面 环	土器筒	⑨12.4	⑨24.8	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：やや外側下する。内外面横溝なし。体部：内面なで。外底面横溝の割れ目あり。底部：丸底。	7	
15-35	H-9 底面 环	土器筒	⑨15.7	⑨21.0	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：むかひ大きさに傾く。口縁部から底部：内面なで。船文を施す。外底面横溝で、胴部：底部：むかひ外側にながら下り接縫面に向かって大きくくぼむ。内面なで。外底面横溝なし。底部：丸底。	24	
15-36	H-9 底面 环	土器筒	⑨11.8	⑨21.3	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：内側に傾く。内外面横溝なし。底部：内面なで。外底面横溝の割れ目あり。底部：丸底。	3	
15-37	H-9 底面 环	土器筒	⑨20.8	⑨14.5	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：内底面横溝なし。底部：内面なで。外底面横溝の割れ目あり。底部：丸底。	15	砂粒含む
15-38	H-9 底面 环	土器筒	⑨18.4	⑨18.8	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：直立から外側下する。内底面横溝なし。底部：内面なで。外底面横溝の割れ目あり。底部：丸底。	砂粒含む	
15-39	H-9 底面 环	土器筒	⑨15.8	⑨12.6	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：直立からわらわずに反する。内底面横溝なし。底部：内面なで。外底面横溝の割れ目あり。底部：丸底。	5	
15-40	H-10 底面 环	土器筒	⑨12.7	⑨25.3	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：むかひ内側下す。内外面横溝なし。底部：内面なで。放射状観みがきを施す。外底面横溝なし。底部：内面なで。	23	
15-41	H-10 底面 环	土器筒	⑨12.0	⑨25.7	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：内側に傾く。内外面横溝なし。底部：内面なで。放射状観みがきを施す。外底面横溝なし。底部：内面なで。	5	酸化垢
15-42	H-12 底面 环	土器筒	⑨21.6	⑨25.7	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：内側に傾く。内外面横溝なし。底部：内面なで。放射状観みがきを施す。外底面横溝なし。底部：内面なで。	2	
15-43	H-12 底面 环	土器筒	⑨21.6	⑨25.7	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：内側に傾く。内外面横溝なし。底部：内面なで。放射状観みがきを施す。外底面横溝なし。底部：内面なで。	2	
15-44	H-12 底面 环	土器筒	⑨11.2	⑨23.8	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部：やや外側下し。内底面横溝なし。底部：内面なで。外底面横溝の割れ目あり。底部：丸底。	253	
W-3	W-3 底部	土器筒	⑨4.8	⑨19.2	⑨3.0	⑨2.0	外底面	口縁部から外側下し。外底面横溝なし。底部：内面なで。外底面横溝の割れ目。後。放射状観みがき。底部：平底。	S 4	

Tab.64 15区 石器・石製品観察表

番号	出土場所	器種名	最大径	最大幅	厚さ	石材	遺存度	登録番号	備考
15-石1	H-3 底面	砾石	7.50	5.60	4.24	240.0	流紋岩	ほぼ完形	11
15-石2	H-3 底面	砾石	9.10	7.05	4.80	460.0	安山岩	1/2 S 2	
15-石3	H-3 底面	砾石	17.15	14.35	5.05	1900.0	閃綠岩	完形	P 5 底部
15-石4	H-3 底面	砾石	15.45	7.10	5.05	740.0	碧岩	完形	S 3
15-石5	H-3 底面	砾石	15.60	5.85	4.24	670.0	安山岩	完形	S 1
15-石6	H-5 底面	砾石	9.75	6.75	0.18	6.1	漂石	完形	100
15-石7	H-5 底面	砾石	14.85	6.15	5.70	720.0	凝灰岩	酸化鉄	S 1
15-石8	H-5 底面	砾石	20.75	8.05	4.85	1140.0	凝灰岩	完形	S 2
15-石9	H-5 底面	砾石	15.75	715.00	4.72	760.0	砂岩	完形	S 3
15-石10	H-5 底面	砾石	19.70	8.35	3.98	900.0	安山岩	完形	S 4

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	通密度	登録番号	備考
15-f11	H-5 床底	瓦礫石	15.30	7.00	4.79	930.0	砂岩	完形	S 5	
15-f12	H-5 床底	瓦礫石	10.95	5.90	4.08	400.0	安山岩	完形	S 6	
15-f13	H-5 床底	瓦礫石	13.80	5.55	4.16	460.0	砂岩	完形	S 7	
15-f14	H-5 床底	瓦礫石	12.50	6.45	3.24	400.0	砂岩	完形	S 8	
15-f15	H-8 墓土	白玉	0.65	0.65	0.45	0.2	帶石	完形	1	
15-f16	H-8 墓土	白玉	0.70	0.70	0.50	0.2	帶石	完形	50	
15-f17	H-8 床底	管石	2.70	0.60	0.60	1.7	帶石	完形	100	
15-f18	W-3 墓土	白玉	0.55	0.55	0.35	0.1	帶石	完形	517	遺物577内
15-f19	W-3 墓土	白玉	0.65	0.65	0.35	0.2	帶石	完形		
15-f20	W-3 墓土	砾石	3.20	2.80	1.50	20.0	流紋岩	完形		

Tab.65 15区 土製品観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	通密度	登録番号	備考
15-1	W-3 墓土	円盤	7.60	7.50	1.00	完形	11	

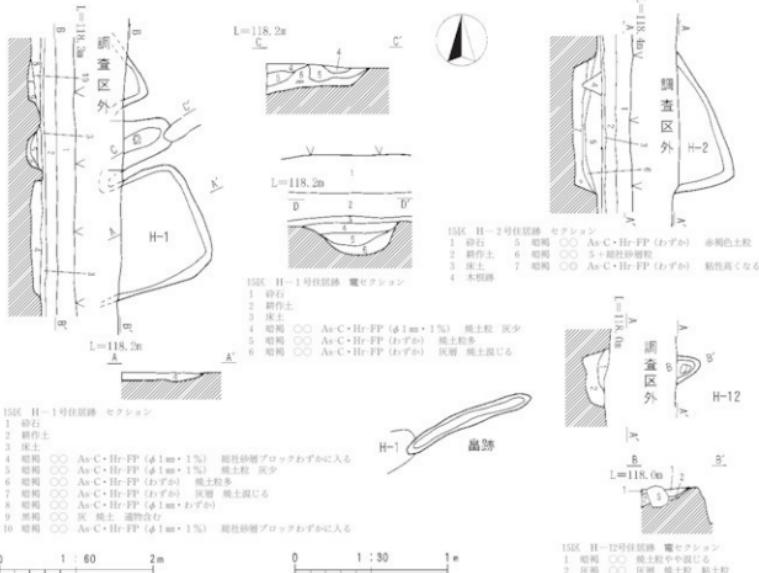
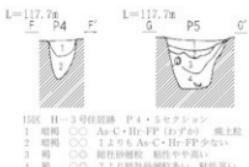


Fig.98 15区H-1・2・12号住居跡、畠跡



15区	H-3号住居路	P4・5セクション
1	暗褐	○○ As-C・Hr-FP (わずか)
2	暗褐	○○ Iよりも As-C・Hr-FP 少ない
3	褐	○○ 鮎社砂層粒 粘性や高い
		○○ 3より鮎社砂層粒多い 粘性高い

15K H-3号住居跡土坑計測表

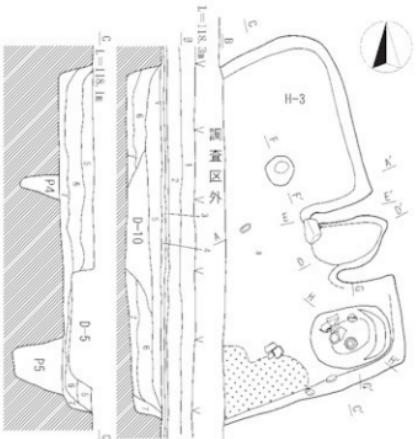
No	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P 4	円形	39.0	37.0	49.0
P 5	橢丸方形	104.0	78.0	66.0

15区 H-3・4号住居路

- | セクション | 組成 | 特徴 |
|-------|----------------------------|-----------------|
| 1 砂土 | ○○○ As-C-Hr FP (φ 1.0m・1%) | 鉄分でやや硬化 |
| 2 新耕土 | ○○○ As-C-Hr FP (φ 1.0m・1%) | 能社砂層ブロックやむかわ |
| 3 床土 | ○○○ As-C-Hr FP (φ 1.0m) | 鐵土粒
能社砂層ブロック |
| 4 埋肥 | ○○○ As-C-Hr FP (φ 1.0m) | 鐵土 |
| 5 培肥 | ○○○ As-C-Hr FP (φ 1.0m) | 鐵土 |
| 6 耕肥 | ○○○ As-C-Hr FP (φ 1.0m) | 鐵土粒
能社砂層ブロック |
| 7 肥料 | ○○○ As-C-Hr FP (φ 1.0m) | 鐵土 |

15K H-4号住居跡 P5セクション

- 1 黄褐 $\Delta\Delta$ 麻石をやや含むが砂質 炭・灰混入 塩化物



111

- Fig. 12. The same as Fig. 11, but for the case of the second-order transition.

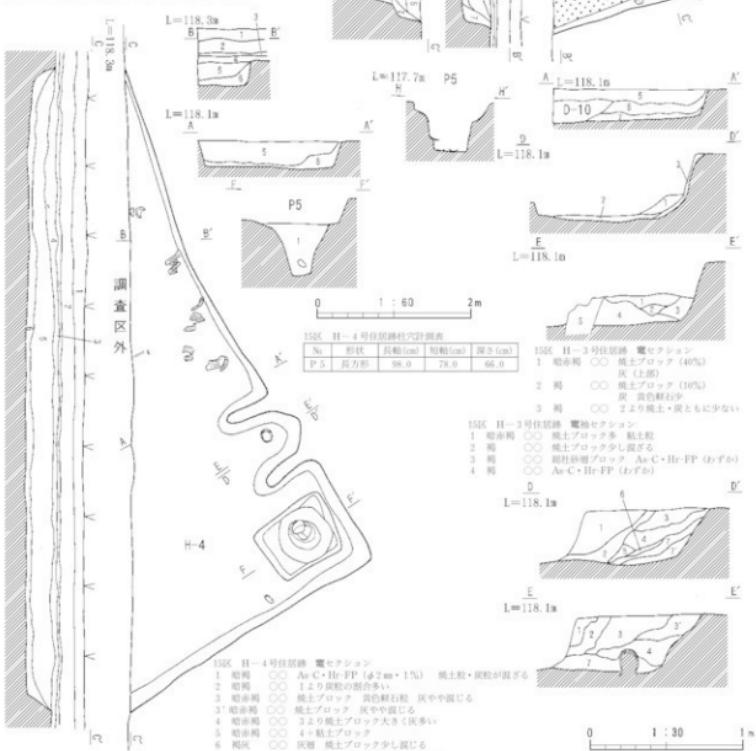


Fig.99 15区H-3·4号住居跡

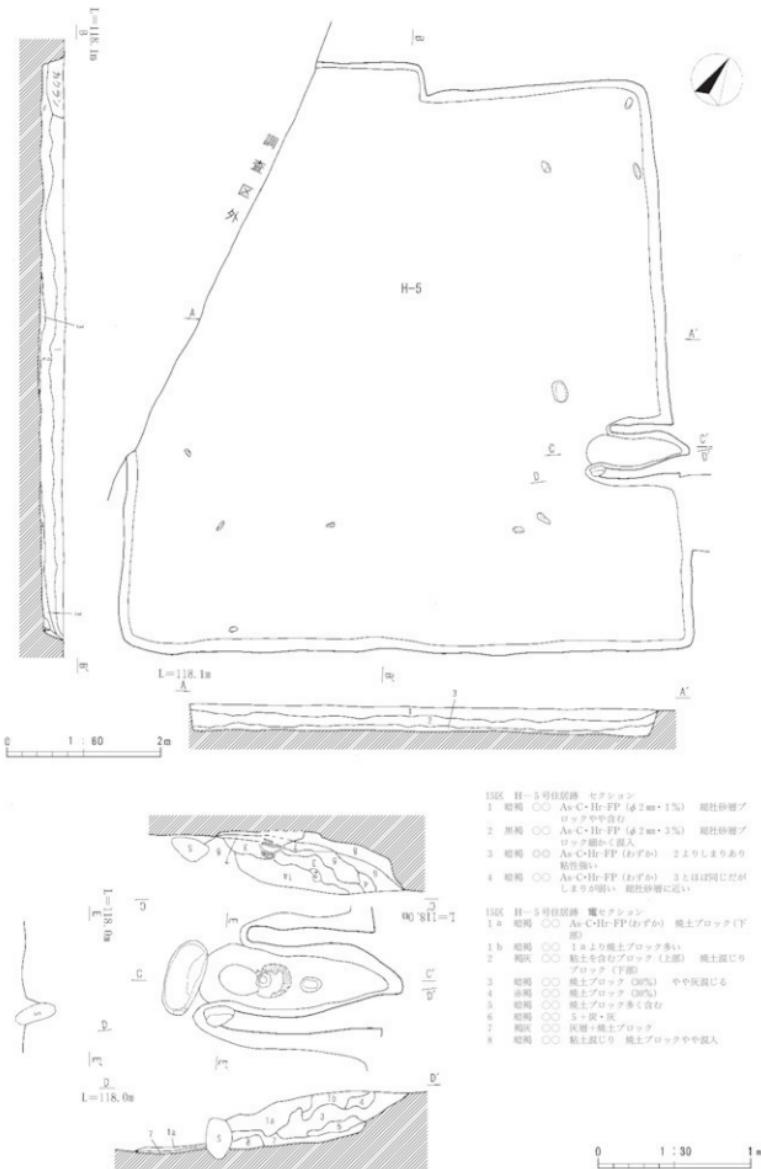


Fig.100 15区 H-5号住居跡

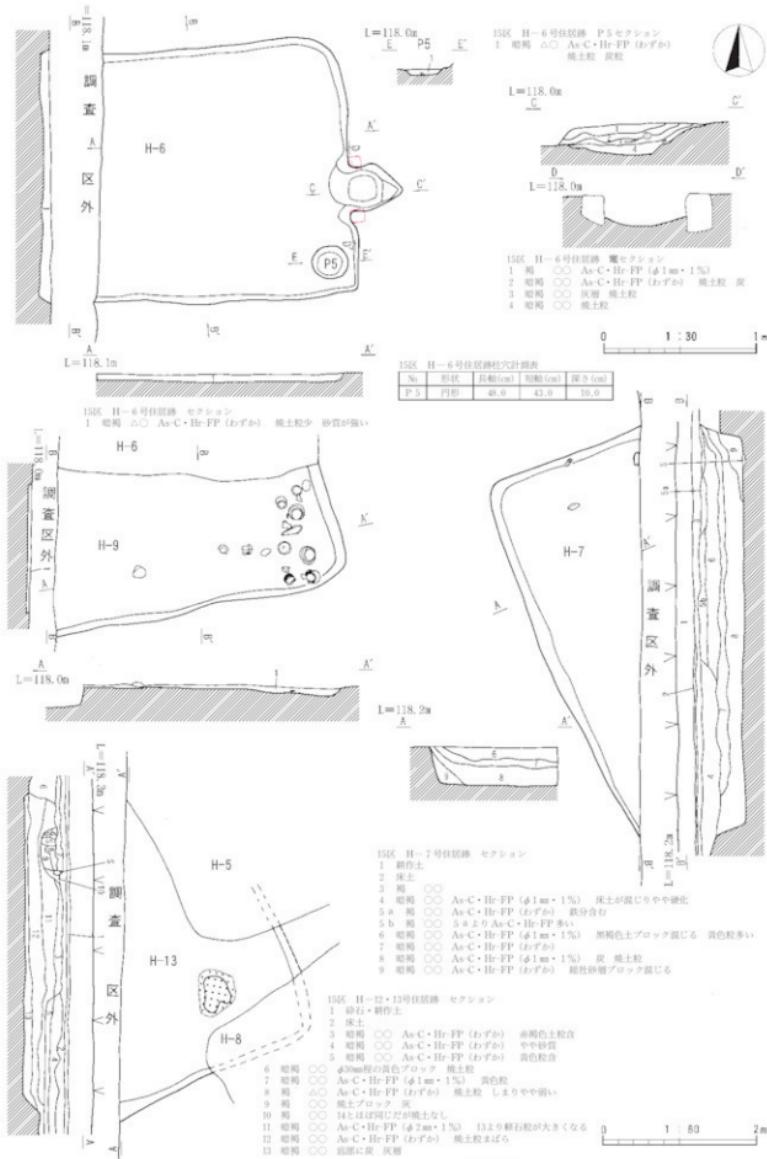


Fig.101 15区H-6・7・9・13号住居跡

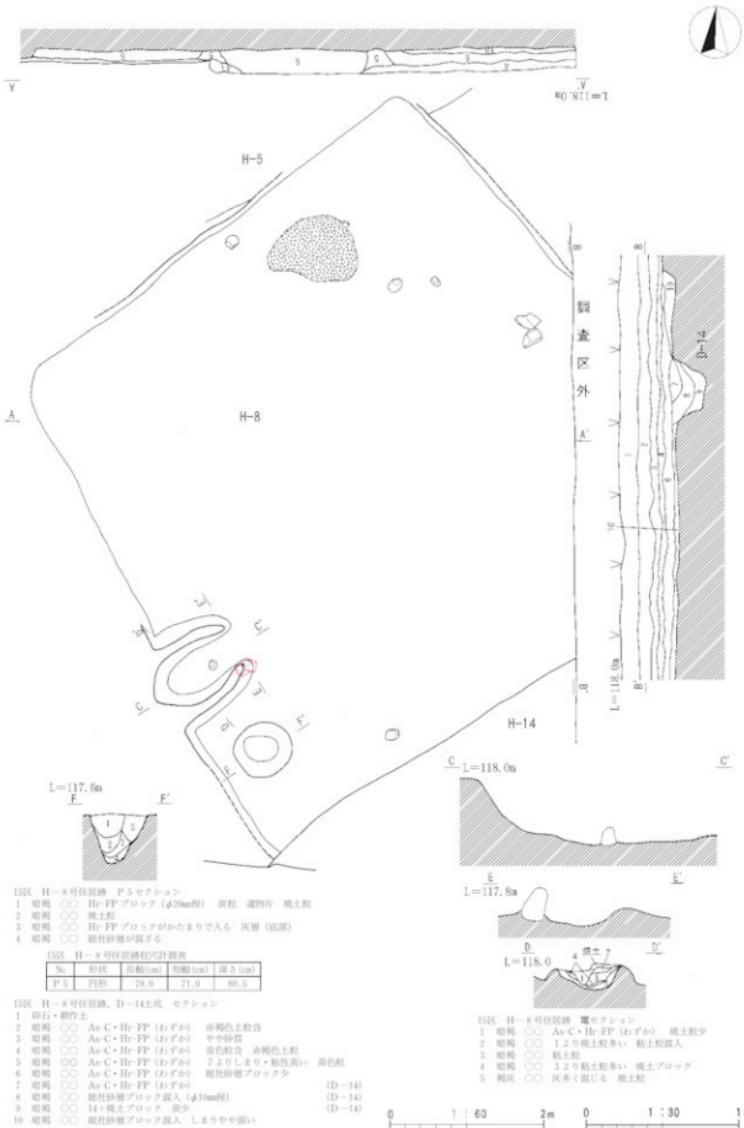


Fig.102 15区H-8号住居跡

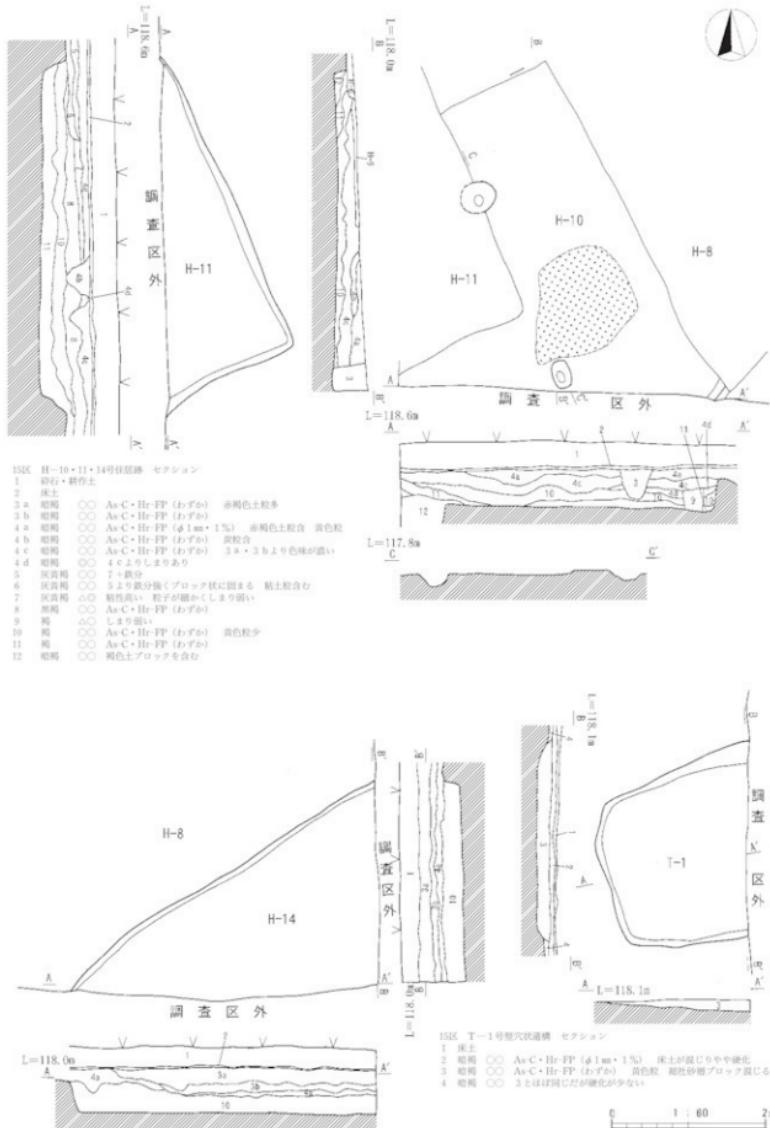


Fig.103 15区H-10・11・14号住居跡、T-1号竪穴状遺構

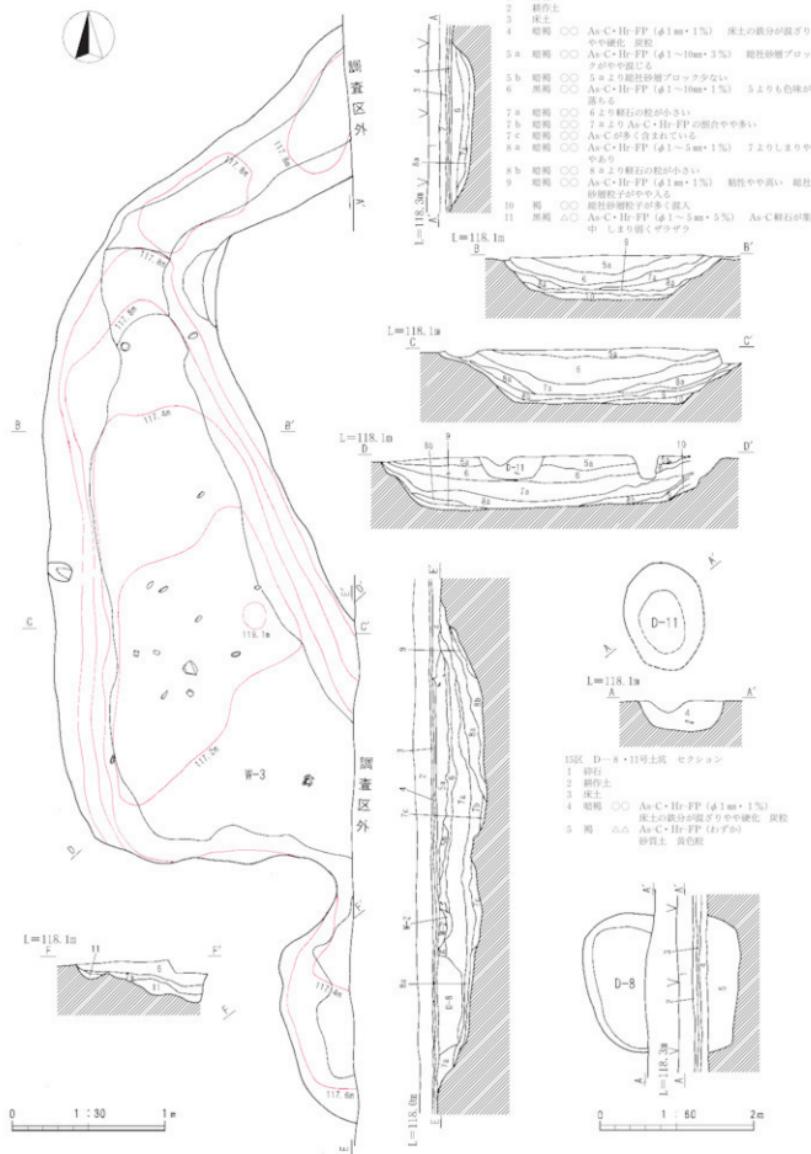


Fig.104 15区W-3号溝跡、D-8・11号土坑

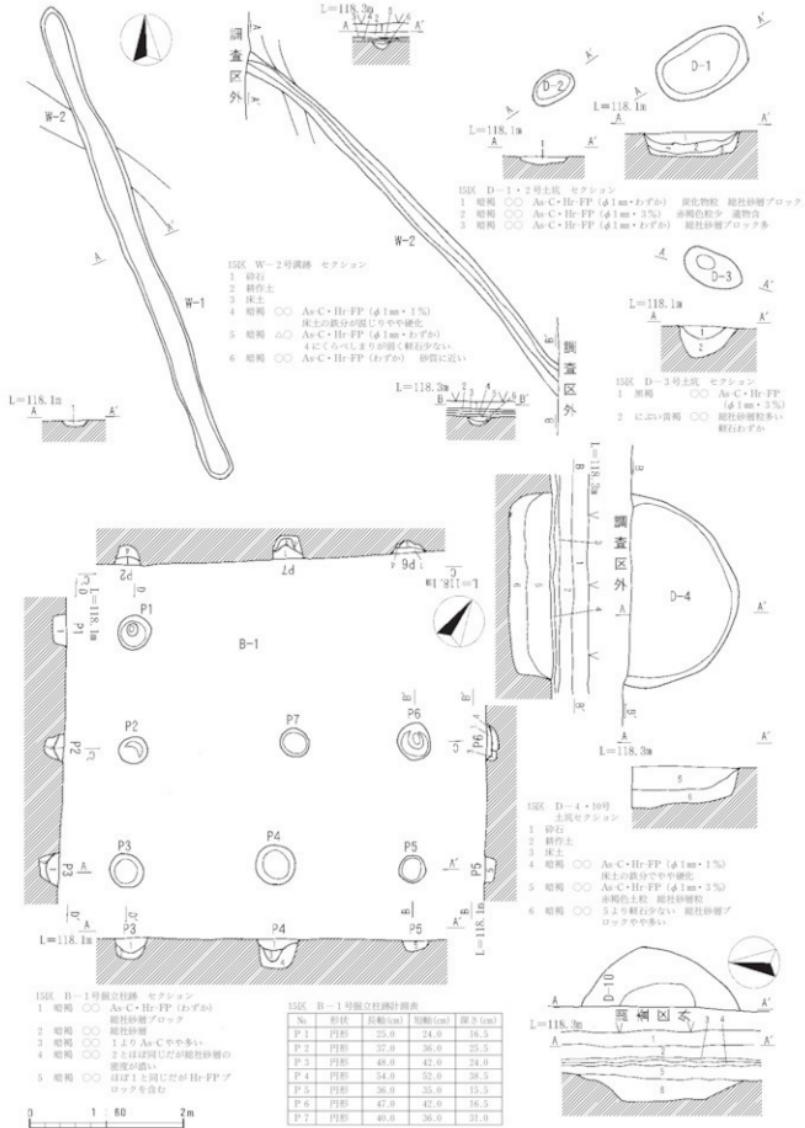


Fig.105 15IkW-1・2号溝跡、B-1号掘立柱跡、D-1～4・10号土坑

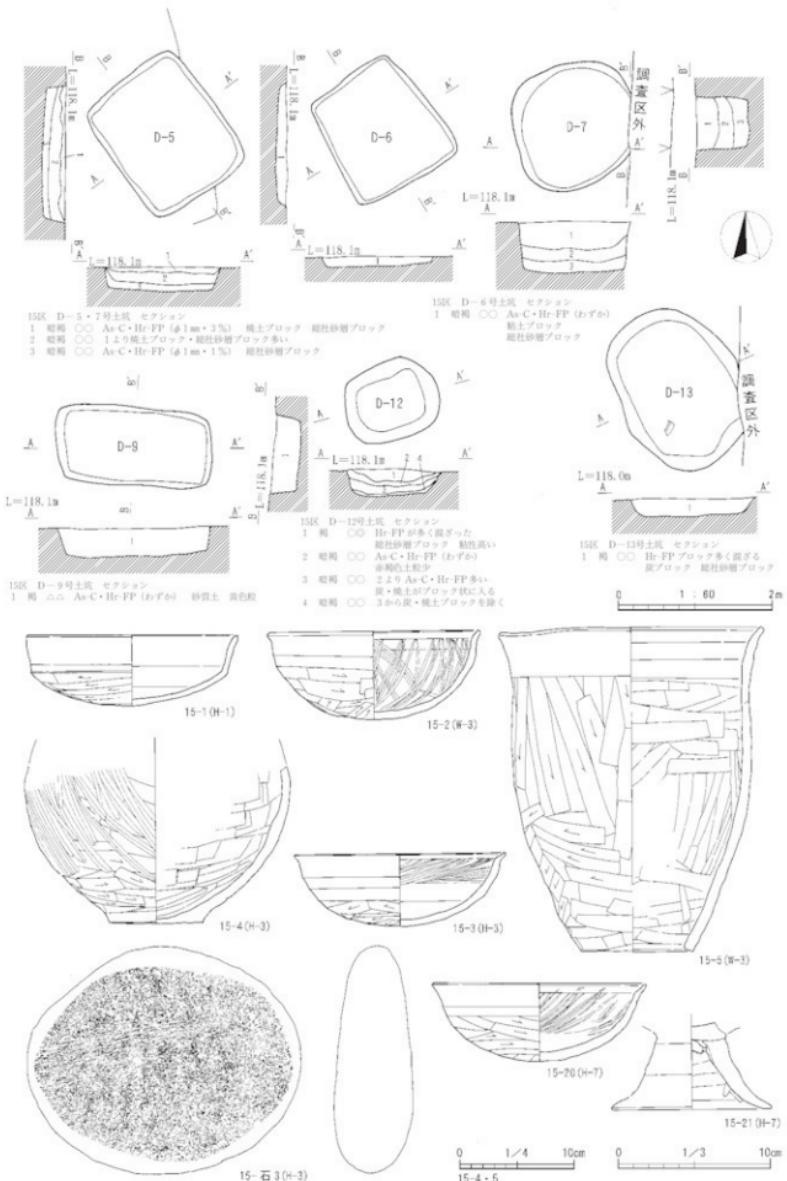


Fig.106 15-K D-5 ~ 7 · 9 · 12 · 13号土坑、H-1 · 3 · 7号住居跡出土遺物

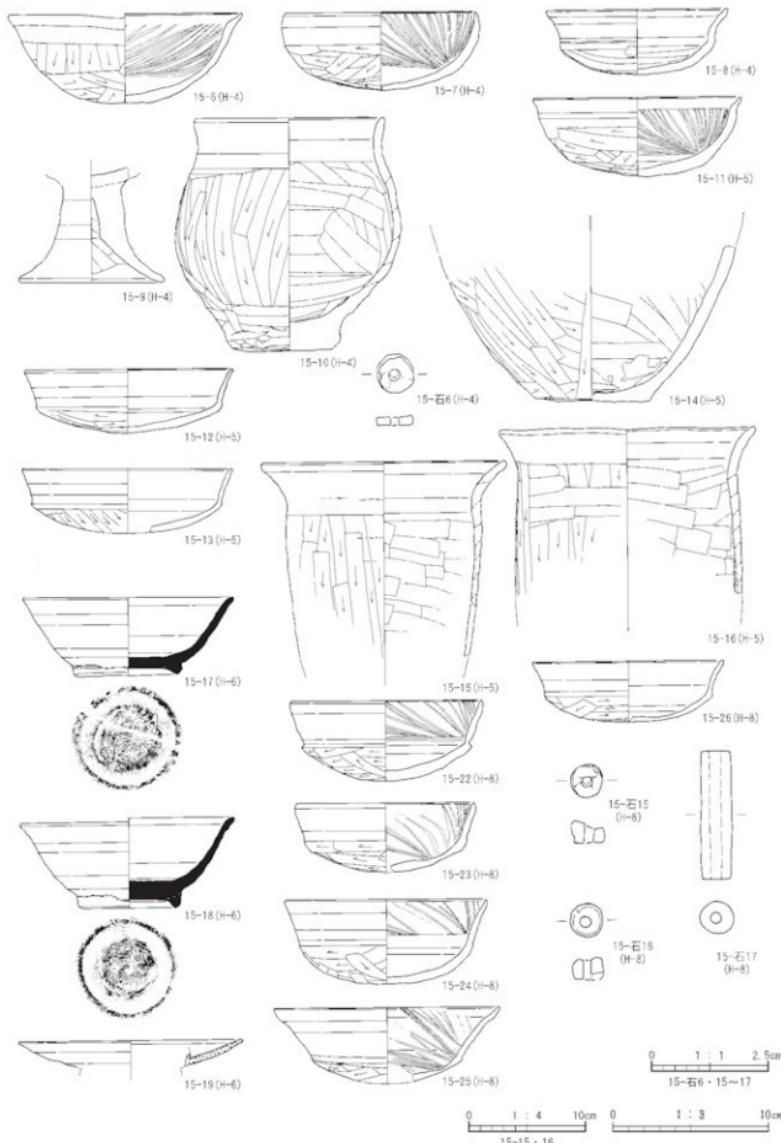


Fig.107 15-KH-4 ~ 6 • 8号住居跡出土遺物

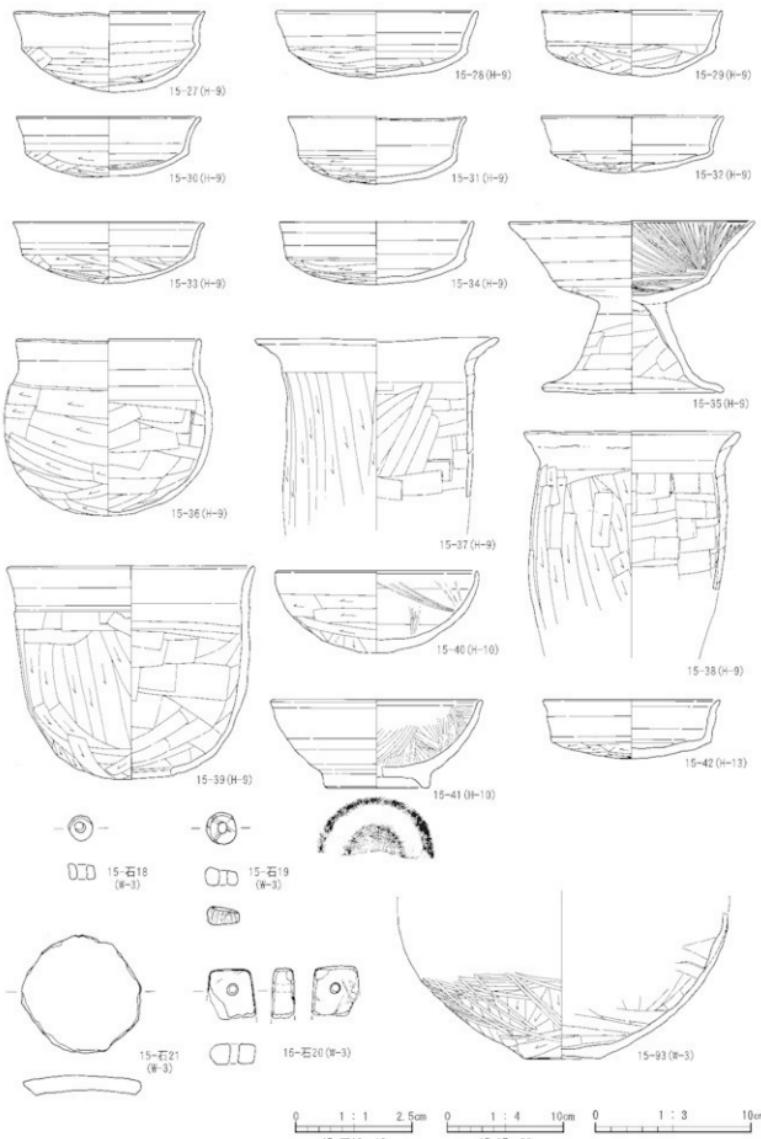


Fig.108 15区H—9 • 10 • 13号住居跡、W—3号溝跡出土遺物

16区

調査区の概要

本調査区は、牛池川が総社中学校の南で大きく南に流路を変えた下流約90mの地点で、牛池川の左岸である。東の台地との比高差は大きく約4mを測る。調査地は牛池川の氾濫原にあたり、砂礫の堆積・浸食により複雑な堆積状況を示す。

検出された遺構は堅穴住居跡1軒及びHr-FAに被覆された水田跡が確認・調査された。

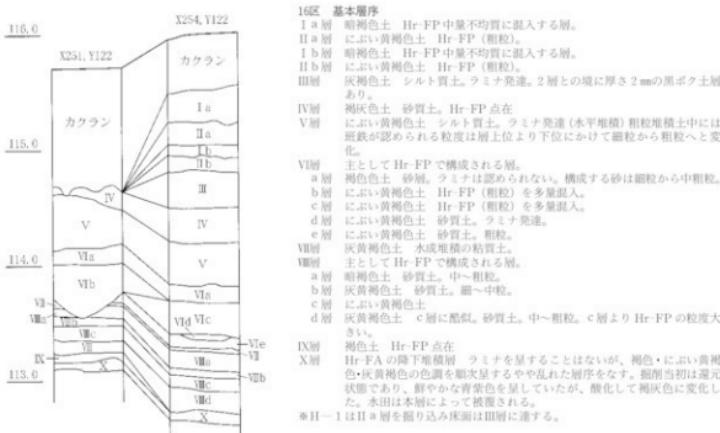


Fig.109 16区基本層序

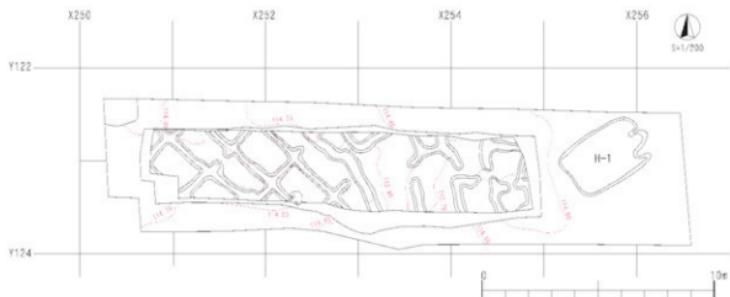


Fig.110 16区全体図

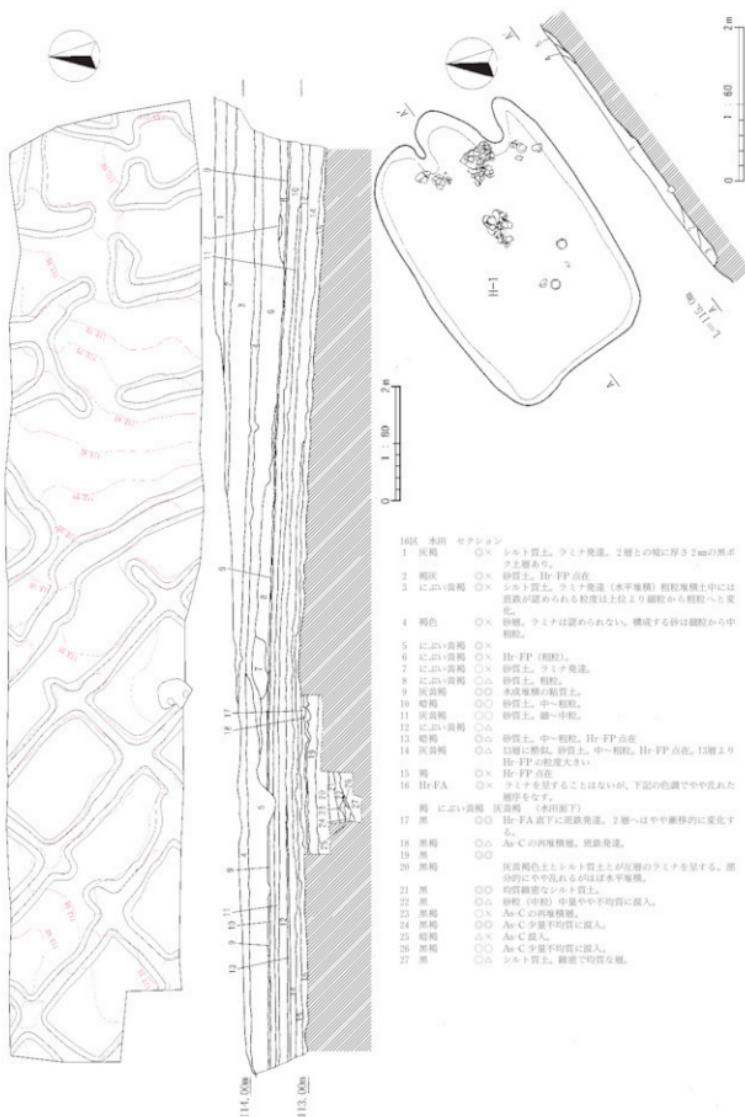


Fig.111 16KH-1号住居跡、Hr-FA下水田跡

(1) 壇穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.111, PL.34・35)

位置 X255・256、Y122・123グリッド 主軸方向 N-53°-E 形状等 東西3.74m、南北2.56m、壁現高13cm 面積 8.30m² 床面 ほぼ平坦である。 壇 主軸方向N-54°-E、全長104cm、最大幅136cm、焚口部幅56cm 出土遺物 土師器、須恵器 時期 6世紀後半

(2) 水田跡

Hr-FA下水田跡 (Fig.111, PL.34・35)

位置 X250~255、Y122~123グリッド 長軸方向 N-230°-W 形状等 形状及び規模が確認できる区画は6つあり、長軸長×短軸長がそれぞれ2.0×1.4m、2.0×1.2m、2.1×1.4m、2.2×1.2m、1.8×1.4m、2.1×1.4mの正区小区画水田である。 備考 X250~252、Y122・123グリッドでは比較的整然と畦畔が3列確認できる。東で畦畔の形状は乱れ等高線も東に向かって緩やかに傾斜する。畦畔が全く確認できない訳ではないので、水田として復旧する以前の状態か、何らかの事情で放棄された区域かもしれない。

Table.66 16区 住居跡一覧表

遺構名	位置	規 模 (m)		面積 (m ²)	主軸方向	電		周講	主な出土遺物 土師器：須恵器：その他
		東西	南北			位 置	構築材		
H-1	X255・256 Y122・123	3.74	2.56	13.0	8.30	N-53°-E	東壁中央	粘土	○ ⋯ ○ ⋯

Table.67 16区 古墳・奈良・平安時代出土土器觀察表

番号	出土遺構名	器種名	①口径 ②底径 ③底厚	④地土 ⑤焼成 ⑥芯厚	⑦堆高 ⑧通存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備 考
16-1	H-1	土加賀 坪	①17.2 ②4.6 ③—	④地土 ⑤良好 ⑥0.2cm ⑦—	⑧13cm ⑨通存	口縁と底部の間に縁を有する。口縁部：ほぼ直立、内外面横擦で、外表面削り。底部：丸底。内 外面横擦で、外表面削り。	1	
16-2	H-1	土加賀 坪	①12.1 ②4.3 ③—	④地土 ⑤良好 ⑥SYR6/6B ⑦—	⑧4.5cm ⑨4/5	口縁・底盤・外壁、内外面横擦で、外表面削り。底部：丸底。内 外面横擦で、外表面削り。	3	酸化焰
16-3	H-1	土加賀 坪	①12.2 ②33.7 ③—	④地土 ⑤良好 ⑥SYR7/6B ⑦—	⑧— ⑨11.2cm	口縁と底部の間に縁を有する。口縁部：ほぼ直立、内外面横擦で、外表面削り。底部：丸底。内 外面横擦で、外表面削り。	9, 10, 11, 12	酸化焰
16-4	H-1	土加賀 坪	①12.0 ②4.5 ③—	④中空 ⑤良好 ⑥SYR7/6B ⑦—	⑧4.0cm ⑨0.4	口縁・底盤・外壁、内外面横擦で、外表面削り。底部：丸底。内 外面横擦で、外表面削り。	8	酸化焰
16-5	H-1	土加賀 坪	①19.4 ②28.5 ③—	④地土 ⑤良好 ⑥SYR7/6B ⑦—	⑧9.7cm ⑨0.7	口縁部：内側、内外面削り。底部：丸みを帯びている。内面削 りと擦で、外表面削り。外表面に縁とよく違った痕跡有。	13, 14	
16-6	H-1	土加賀 坪削邊	①22.0 ②37.0 ③—	④地土 ⑤良好 ⑥SYR7/6B ⑦—	⑧— ⑨1.2cm	口縁部：器底大筋、外壁、内・外表面削り。底部：底部：内外面削 で、外表面削り。	7	
16-7	H-1	土加賀 坪	①21.0 ②15.5 ③—	④地土 ⑤良好 ⑥SYR6/4C ⑦—	⑧— ⑨1.0cm	口縁部：外壁、内・外表面削り。砂粒含む。底部：内 外表面削り。外表面削り、砂粒含む。剥離部分以下丸底。	11	
16-8	H-1	圓窓	①(16.2) ②(26.4) ③—	④地土 ⑤良好 ⑥SYR7/明開灰 ⑦—	⑧— ⑨—	橢円形。口縁部：ほぼ次底、内外面横擦で、一部叩き痕有り。中位に断面四角形の縫 み有り。底部：二重火候、内外面横擦で、外表面削り調整。	5	酸化焰成気球
16-9	木田 窓 壁土	土加賀 坪	①(4.7) ②(6.9) ③—	④地土 ⑤良好 ⑥SYR6/4C ⑦—	⑧— ⑨—	椭圆形。口縁部：火候、剥離部分以下：内外面削り。底部：平底。		酸化焰成気球

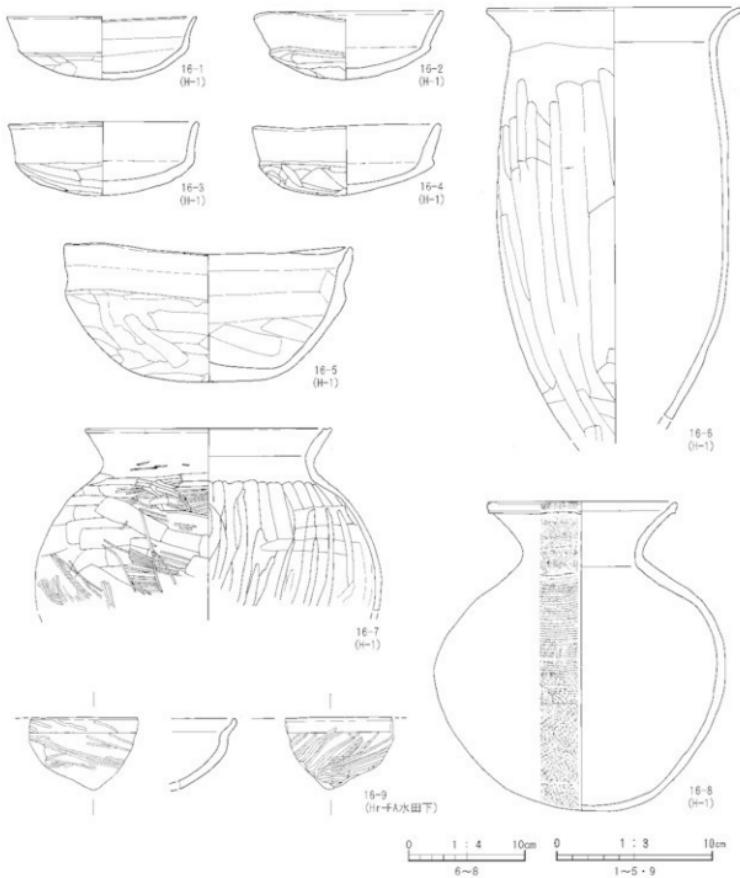


Fig.112 16区H—1号居住跡、Hr-FA下水田跡出土遺物

V ま と め

1 前方後方形周溝墓について

本遺構は、元總社蒼海遺跡群(38)15区の北側、W—3号溝跡として名称をつけ調査した。このW—3号溝跡は浅間C輕石を多く含む緻密な黒色土が堆積していることやくびれ部の周溝と想定される曲線部があること、底面から4世紀代の壘形土器が出土したことから、前方後方形周溝墓の周溝の一部であると考えた。W—3号溝跡は周溝の北西部に当たると推定し、同じような規模の周溝を持つ前橋市富士見町原之郷の下庄司東原遺跡1号方形周溝墓を参考に復元してみるとFig.113のようになり、方台部の全長18.00m、後方部最大幅10.00m、前方部最大幅6.00m、くびれ部幅3.00mとなる。周溝を含めた全体の規模は東西19.00m、南北22.00mとなる。

前方後方形周溝墓は、群馬県内では下佐野I遺跡、鈴ノ宮遺跡、元島名遺跡、熊野堂II遺跡、矢中村東遺跡(以上、高崎市)、堀之内遺跡(藤岡市)、伊勢崎・東流通団地遺跡(伊勢崎市)、屋敷内B遺跡(太田市)、下郷遺跡

(玉村町)などで、前橋市内では、堤東遺跡(荒子町)、中山A遺跡、東原B遺跡(以上、下大屋町)、富田高石遺跡(富田町)、内堀遺跡群上堀引遺跡(西大室町)、下庄司東原遺跡(富士見町原之郷)などで確認されている。前橋市内で確認された主な前方後方形周溝墓の規模はTab.68のとおりである。多くの前方後方形周溝墓の周溝外形が不整梢円形であるのに対して、下庄司東原遺跡1号周溝墓や東原B遺跡2号周溝墓は周溝外形にはくびれ部が存在しており、周溝外形が前方後方形になっている堀之内遺跡CK—2号に近い形状となっている。

Tab.68 前橋市内の主な前方後方形周溝墓の規模

	方台部(m)				周溝を含めた規模(m)	
	全長	後方部幅	前方部幅	くびれ部幅	長軸長	短軸長
本例	(18.00)	(10.00)	(6.00)	(3.00)	(22.00)	(19.00)
堤東2号周溝墓	25.00	14.50	6.50	3.30	30.00	24.00
中山A1号周溝墓	15.00	8.00	4.00	2.00	19.40	15.10
東原B1号周溝墓	16.00	10.00	4.50	2.50	20.50	17.00
東原B2号周溝墓	16.00	9.80	6.20	2.50	18.00	18.00
東原B14号周溝墓	12.60	8.60	3.10	2.80	18.00	15.60
東原B16号周溝墓	11.90	8.60	2.90	1.30	17.60	16.20
富田高石3号周溝墓	23.40	13.20	5.40	3.67	26.66	(18.00)
下庄司東原1号周溝墓	18.80	9.60	5.50	2.90	20.70	14.40

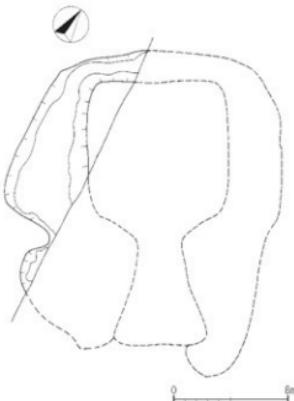


Fig.113 前方後方形周溝墓模式図

2 古墳時代後期の祭祀跡について

(1) 概要

W—3号溝跡の南東部から大量の土器が出土した。これらの土器は東西1.90m×南北0.90mの長方形内に配置されており、あたかも木枠に収められていた状態を示していた。周辺の竪穴住居跡もほぼ同時期の土器を使用していることから、これらの集落に係わる祭祀跡と考えられる。なお、祭祀跡では土坑状の掘り込みや土壙状の高まりは確認できなかった。

本遺構から検出された土器は土師器の壺、榢、高環、甕、鉢、壺、甑のほか、須恵器甕である。平面的な分布は、長方形の外周に大型の器形が置かれ、内側には小型の器形が重ねられて置かれていた。中央部では土師器壺が6つ重ねられた状態で置かれていた。垂直分布では、ほぼ1層に集約できると考えられ、外周の大型の土器の高さを越えて積み上げられている様子はなかった。完形や完形に近い遺物が多い中、接合により復元できた遺物も数点あった。そのほとんどが近接する地点から出土した破片同士で接合できたが、大型の器形の中には離れた地点から出土した土器片が接合する状況があった。これは破片を散布したというよりも後世の耕作による破損と想定した方が自然である。

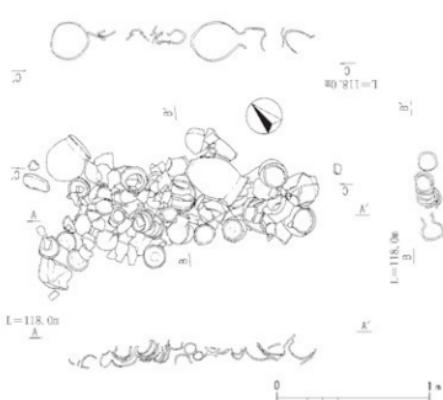


Fig.114 祭祀跡遺物出土状態



Fig.115 器種別出土状態



Fig.116 祭祀跡と住居跡

完形の土器や土器片を含めて、Noをつけて取り上げた遺物は1,208点に及び、遺物洗浄、接合の整理作業を通して、器種が明確に判別できたものは100点に及んだ。その内訳はTab.69のとおりである。なお、土師器壺

については Tab.70のとおり 3つに分類した。

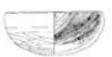
本遺構と同様の規模の祭祀跡としては高崎市箕郷町の下芝五反田遺跡 1号土器集積が東西1.80m×南北1.1m、少し大きくなると高崎市寺尾町の寺尾東館 I 遺跡 1号祭祀が東西1.80m×南北2.00mとなる。なお、大規模な祭祀跡としては高崎市箕郷町の下芝天神遺跡 3区祭祀集積遺構が知られており、その規模は東西10m、南北5mで2474個体の土器が検出された。

土器の出土量は、下芝五反田遺跡 1号土器集積と比べてみてもそれほどの差はないが、石製模造品の数が少ない。Tab.69の「出土遺物の比率」は他の祭祀跡と大差はない。

Tab.69 祭祀跡出土遺物の内訳と比率

	完形・復元	口縁片	計	比率(%)
土 師 器	坏 A	21	15	36 20.5
	坏 B	25	26	51 28.9
	坏 C	10	7	17 9.7
	椀	3	0	3 1.7
	高坏	17	1	18 10.2
	埴	1	0	1 0.6
	甑	1	0	1 0.6
	鉢	1	0	1 0.6
	甕	20	22	42 23.8
須恵器 甕	1	5	6	3.4
土 器 計	100	74	176	100.0
白 玉	2	0	2	—
計	102	76	178	—

Tab.70 坏の分類

	内湾口縁
坏A	
坏B	
坏C	

Tab.71 各遺跡の祭祀跡出土遺物

	土師器									須恵器	白玉	計
	坏A	坏B	坏C	椀	高坏	埴	甑	鉢	甕			
蒼海 (38) 15区	36	51	17	3	18	1	1	1	42	6	2	176
寺尾東館 I 遺跡	63	102	27	0	50	0	0	3	33	9	2,000	2,287
下芝五反田遺跡	39	18	2	0	3	0	0	6	6	0	44	118
下芝天神遺跡	799	881	61	0	261	64	0	75	139	6	302	2,588

(2) 土器の分類

本遺構出土土器の分類は以下の通りである。

①土師器坏…口縁の形態によって、3つに分類した。口縁部が内側に曲がる内湾口縁坏(坏A)、短い口唇部が外に開く内斜口縁杯(坏B)、須恵器坏蓋を模倣した模倣坏(坏C)である。坏Aは平均口径12.3cm、平均器高5.5cmの大きさである。なかには、Fig.117の47のように口径が11.1cm、器高が6.2cmと内挽がやや強く深さが目立つものがあった。内面に放射状暗文を施したものが大部分である。坏Bは平均口径13.5cm、平均器高5.7cmの大きさである。なかには、Fig.117の60のように口径が16.1cm、器高が8.2cmと大型ものがあった。坏Aと同じく内面に放射状暗文を施したものが大部分である。坏Cは平均口径12.4cm、平均器高5.9cmの大きさである。坏Aや坏Bにあった内面の放射状暗文は施されていない。

②土師器椀…坏の中で口径に比べて器高が高いものを椀として分類した。Fig.119の78、82は器高／口径比(器高÷口径×100)が60.0を越えており、坏全体平均器高／口径比の44.3を大きく上回っていた。なお、Fig.119の79は器高／口径比がやや高く、底部が平底のため椀と分類した。

③土師器壺…壺部が残存している9個体の全てが前項の壺Bを載せており、その大きさは平均口径14.2cm、平均器高5.4cmである。脚部の大きさは、平均脚高4.2cm、平均裾径9.5cmである。脚部は短く、裾部は外反して開くものが多い。なかにはFig.119の74のように壺部内面と脚部外面に篦みがきが施されているものもある。

④土師器甕…明確に判別できた20点のうち、底部のみの4点を除いた16点を器高と胴部の形態で3つに分類した。器高20cmを境に小型甕と大型甕に分け、大型甕を胴部最大径と胴部長の比較(胴部最大径÷胴部長×100)から球形甕(95以上)と長胴甕(95未満)に分けた。小型甕は2個体。Fig.119の80は最大径が胴下部にあり、81は胴部外面に刷毛目が残るのが特徴である。大型球形甕は5個体。Fig.117・118の85と91は口縁が直立し、86は胴部外面に刷毛目が残るのが特徴である。大型長胴甕は9個体。Fig.119の90は胴上部が最大径となり、87は胴下部外面に刷毛目が残るのが特徴である。

⑤土師器鉢…口縁径が器形最大径となるFig.119の92を鉢と分類した。

⑥土師器壇・土師器櫃・須恵器甕…それぞれ1個体ずつの検出のため、詳細はTab.72遺物観察表を参照のこと。

(3)まとめ

古墳時代の日常生活用具である土器を使用した祭祀跡として、樹木祭祀跡が挙げられる。群馬県内では、渋川市の中筋遺跡、黒井峯遺跡、西組遺跡、宮田愛宕遺跡、宮田瘤ノ木遺跡が知られている。樹木祭祀跡の特徴は、樹木痕の根回りを中心になじ模様に祭祀具(土師器や石製模造品)が置かれることである。

本遺構は樹木祭祀跡とは性格を異にしており、下芝五反田遺跡や下芝天神遺跡の祭祀跡に近く、農耕集落内で祭祀が行われていたのである。その特徴は、土器の配置で、大型の器形を長方形の外周に配置し、小型の器形を中に入れている点が共通している。もう1つの特徴は、祭祀跡の周辺に堅穴住居跡と畠跡が検出されている点である。下芝五反田遺跡や下芝天神遺跡は2つの特徴を備えているが、本調査区の中では畠跡が確認できなかった。しかし、北西60mにある總社甲種荷塚大道西III・IV遺跡で本遺構と同じ年代の畠跡が確認されている事から農耕集落内祭祀として捉えることができる。今後、元總社蒼海遺跡群の発掘調査が進んでいくなかで、祭祀を行ったこの農耕集落の様子がより詳しく解明できるものと考える。

参考文献

- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「富田高石遺跡」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010年
近藤雅順・相垣慎太郎編 「総社甲種荷塚大道西IV遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
高鶴一彦・近藤薰編 「総社甲種荷塚大道西II遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「下芝五反田遺跡」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998年
群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「下芝天神遺跡・下芝上田遺跡」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998年
小林 修編 「宮田愛宕遺跡」 势多郡赤城村教育委員会 1998年
黒沢洋大編 「守屋東前I・II・III遺跡」 高崎市教育委員会 1996年
堀口 修編 「宮田瘤ノ木遺跡」 勢多郡赤城村教育委員会 1995年
前原 静・伊藤 良・戸所慎策編 「内堀遺跡群V」 前橋市教育委員会 1993年
群馬県教育委員会編 「中山A・東原A・B」 群馬県教育委員会・荒砥北部遺跡群調査会 1992年
羽鳥政彦編 「神磧・庄司原古墳群」 富士見村教育委員会 1991年
群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「研究紀要8」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991年
石井文己・早田 勉・井川達雄編 「黒井峯遺跡発掘調査報告書」 北群馬郡子持村教育委員会 1990年
渋川市教育委員会編 「市内遺跡III」 渋川市教育委員会 1990年
群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「研究紀要4」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1987年
群馬県教育委員会編 「荒砥北原遺跡」 群馬県教育委員会 1986年
群馬県教育委員会編 「堤東遺跡」 群馬県教育委員会 1985年
群岡市教育委員会編 「堤東遺跡群」 群馬県教育委員会 1982年

Tab.72 禮祀跡出土遺物觀察表

番号	器種名	①口徑		②縦高		③底上 交換成 ④底面 木通存度		器種の特徴・整形・調整技術
		①(19.20.2)	②(29.7)	①(48.6)	②(50.5)	③(3.15) 濃焼 住化3	④(3.15)	
88	土師器	(1) 20.2	(2) 29.7	(1) 48.6	(2) 50.5	(3) 3.15 濃焼 住化3	(4) 3.15	口縁部：直線的に外傾する。内外面焼なで。胴上部から胴中部：内面焼位のなで。外面部位の差削り。胴下部：内外面焼位のなで。底部：平底。
89	土師器	(1) —	(2) (27.8)	(1) 縦焼	(2) 良好	(3) 明燒	(4) 3/4	口縁部：欠損。胴部：内面なで。外面部位の差削り。胴中部で最大径となる。底部：やや内厚な平底。
90	土師器	(1) 14.0	(2) (14.2)	(1) 縦焼	(2) 良好	(3) 横	(4) 3/4	口縁部：直線的に外傾する。内外面焼なで。胴上部から胴中部：内面なで。外面部位の差削り。胴上部で最大径となる。胴下部から底部：欠損。
91	土師器	(1) (14.3)	(2) (17.9)	(1) 縦焼	(2) 良好	(3) 横	(4) 3/2	口縁部：ほぼ直立する。内外面焼なで。胴上部から胴中部：内面なで。胴中部で最大径となる。胴下部から底部：欠損。
92	土師器	(1) (20.8)	(2) (13.8)	(1) 縦焼	(2) 良好	(3) 濃焼	(4) 3/2	口縁部：外傾して開く。口縁部が最大径となる。外面部位のなで。胴部：内面焼位の差削り。底部：内面な平底。
94	土師器	(1) 18.7	(2) (7.9)	(1) 縦焼	(2) 良好	(3) 横	(4) —	口縁部：直線的に外傾する。内外面焼なで。胴部から底部：欠損。
95	土師器	(1) (19.4)	(2) (10.3)	(1) 縦焼	(2) 良好	(3) 横	(4) —	口縁部：やや外反しながら開く。内外面焼なで。胴上部：内面焼位のなで。外面部位のなで。胴中部から底部：欠損。
96	須吉器	(1) (18.8)	(2) (8.4)	(1) 縦焼	(2) 良好	(3) 横	(4) 口縫部	横縞整形。口縁部：内面焼位のなで。外面部位のなで。口縫上部の波状文を施す。胴上部：内面焼位のなで。外面部位のなで。叩き板の平行筋が底面に残る。胴中部から底部：欠損。

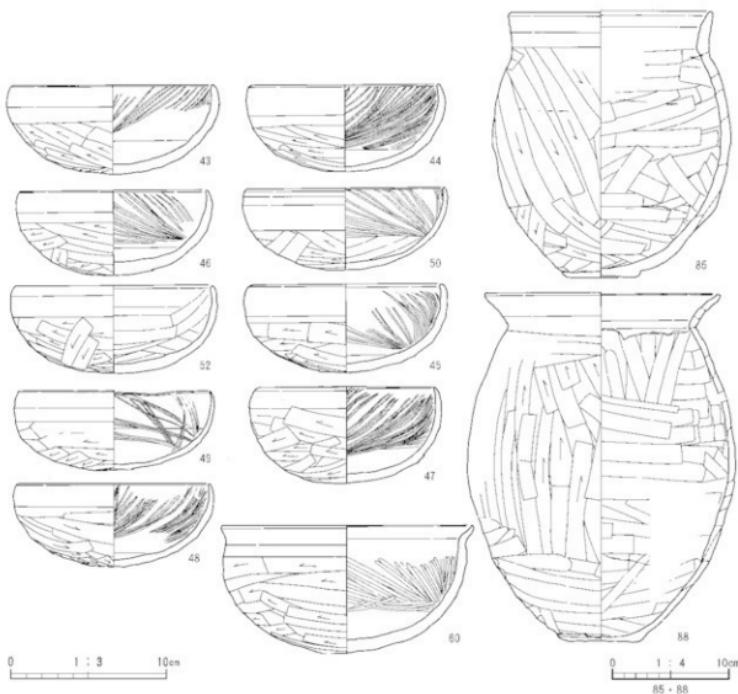


Fig.117 祭祀跡出土遺物(1)

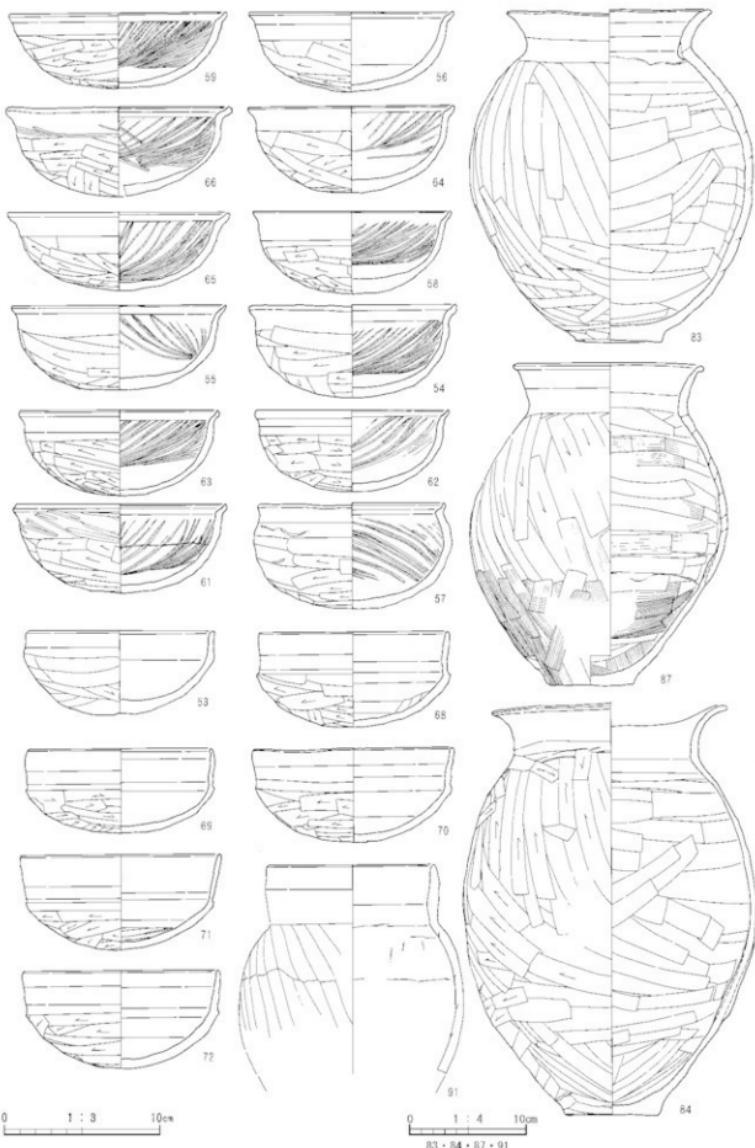


Fig.118 祭祀跡出土遺物(2)

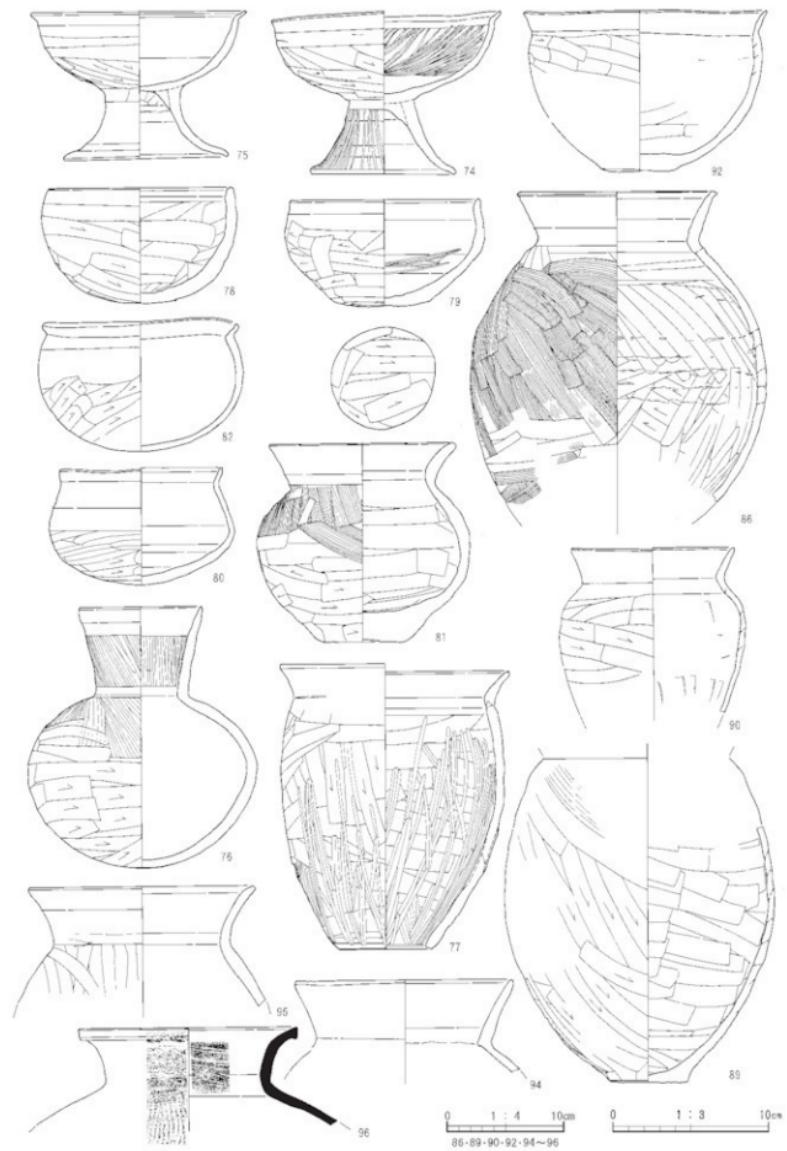


Fig.119 祭祀跡出土遺物(3)

図 版



I区 調査区全景（上が北）



H-1号住居跡銅鈴出土状態（西から）



H-1号住居跡全景（西から）



H-1号住居跡遺物出土状態（西から）



H-1号住居跡遺物全景（西から）



1区 H-2号住居跡遺物出土状態（西から）



1区 H-2号住居跡全景（西から）



1区 H-2号住居跡遺物セクション（南から）



1区 H-2号住居跡遺物出土状態（西から）



1区 H-2号住居跡全景（南から）



1区 H-3号住居跡全景（西から）



1区 H-4号住居跡全景（西から）



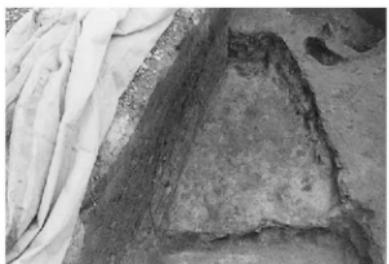
1区 H-4号住居跡遺物出土状態（西から）



1区 H-5号住居跡柱穴・貯蔵穴（西から）



1区 H-5号住居跡全景（西から）



1区 H-6号住居跡全景（西から）



1区 H-7号住居跡Hr-FA堆積状況（北から）



1区 H-7号住居跡全景（西から）



1区 H-8号住居跡遺物出土状態（西から）



1区 H-8号住居跡全景（西から）



1区 W-1号溝跡全景（北から）



2区 調査区全景（東から）



2区 W-1号溝全景（西から）



2区 W-1号の土層堆積状況（南から）



2区 W-1号溝南壁の土層堆積状況（北から）



2区 W-1号溝北壁の土層堆積状況（南から）



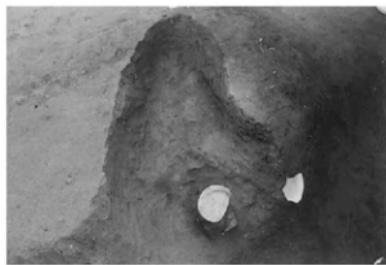
2区 I-1号井戸の遺物出土状態



3a区 H-1号住居跡全景（西から）



3a区 H-1号住居跡遺物出土状態



3a区 H-2号住居跡全景（南西から）



3a区 W-1号(右)、2(左)号全景（西から）



3a区 H-4号住居跡全景（北西から）



3a区 H-5(奥)、H-6(手前)号住居跡全景（西から）



3a区 H-5号住居跡全景



3a区 H-7号住居跡全景（南西から）



3a区 H-8号住居跡全景（西から）



3a区 H-8号住居跡遺物出土状態（北から）



3a区 H-9号住居跡全景（西から）



3a区 H-10号住居跡全景（西から）



3a区 H-14号住居跡堀方（南から）



3a区 H-14号住居跡全景（東から）



3a区 H-14号住居跡遺物出土状態



3a区 H-15号住居跡全景（西から）



3a区 H-16(左)、H-17(右)号住居跡全景（西から）



3a区 H-16(奥)、H-23(手前)号住居跡重複状態（西から）



3 a区 H-8号住居跡全景



3 a区 H-18号住居跡全景（西から）



3 a区 H-19号住居跡全景（西から）



3 a区 H-20号住居跡全景（西から）



3 a区 H-20号住居跡全景



3 a区 H-22号住居跡全景（南から）



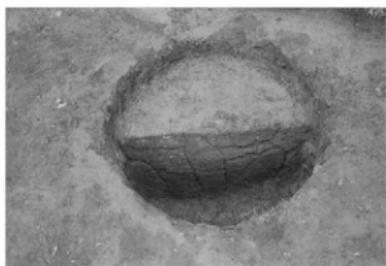
3 a区 H-22(手前)、H-23(奥)号住居跡重複状態（西から）



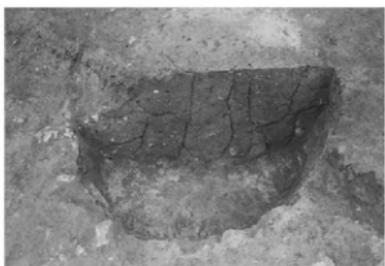
3 a区 H-21号住居跡掘り方（北から）



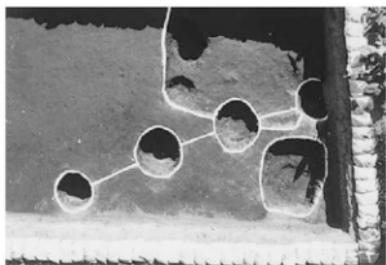
3 a区 住居跡の重複状況 (左上からH-17、H-16、H-23、H-22、H-18、H-19、H-20: 上空から、下が北)



3 a区 B-1号掘立柱建物跡 P 4 土層堆積状況 (南から)



3 a区 B-1号掘立柱建物跡 P 2 土層堆積状況 (南から)



3 a区 H-21号住居跡B-1号掘立柱建物跡全景 (上空から、下が北)



3 a区 D-2号土坑全景 (東から)



3b区 H-1(左)、2(右)号住居跡全景(北から)



3b区 H-1、2号住居跡西側土層堆積状況(北東から)



3b区 H-1号住居跡P1土層堆積状況(西から)



3b区 H-3号住居跡全景(北から)



3b区 H-1号住居跡遺物出土状態



3b区 H-8(右)、H-9(左)号住居跡全景(北から)



3b区 H-3号住居跡遺物出土状態



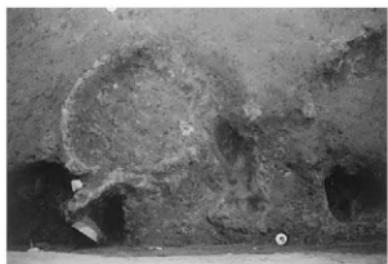
3b区 H-12号住居跡貯藏穴全景(南東から)



3b区 H-6号住居跡全景（北西から）



3b区 H-6号住居跡全景（北西から）



3b区 H-8号住居跡全景（西から）



3b区 H-9号住居跡丸柄出土状態



4c区 調査区全景（上空から、上が北）



4 a区 調査区全景（東から）



4 a区 W-1号溝東側土層堆積状況



4 b区 調査区全景（西から）



4 b区 H-2号住居跡全景（西から）



4 b区 H-1号住居跡遺物出土状態



4 b区 H-2号住居跡藏穴遺物出土状態



4b区 H-1(手前)、H-3(奥左端)、H-4(奥右端)号住居跡重複状態（西から）



5区 H-1住居跡全景（北から）



5区 調査区全景（上空から、上が北）



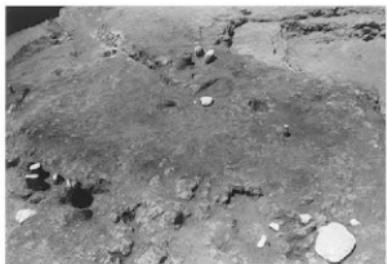
5区 W-3号溝跡全景（南から）



5区 H-1号住居跡東側土層堆積状況（西から）



6区 W-1号溝跡土層堆積状況（北から）



6区 H-1号住居跡全景（東から）



6区 調査区全景（上空から、上が北）



6区 H-3号住居跡全景（東から）



6区 H-2号住居跡土層堆積状況（南から）



6区 H-2号住居跡遺物出土状態（南から）



6区 D-1号土坑全景（西から）



7区 a 地点 調査区全景（左が北）



7区 W-1号溝（北から）



7区 W-1号溝土層堆積状況（西から）



7区 W-2号溝全景（北から）



7区 b地点(西半) 調査区全景 (北から)



7区 b地点(東半) 調査区全景



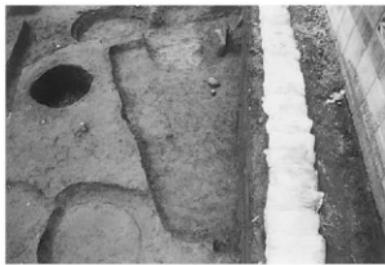
7区 H-1号住居跡遺物出土状態 (西から)



7区 H-1号住居(東半)全景 (北から)



7区 H-1号住居(西半)全景 (北から)



7区 H-2号住居跡全景（西から）



7区 H-3号住居跡全景（西から）



7区 H-4号住居跡全景（西から）



7区 H-5号住居跡全景（西から）



7区 H-6号住居跡全景（北から）



7区 H-6号住居跡遺物出土状態（北から）



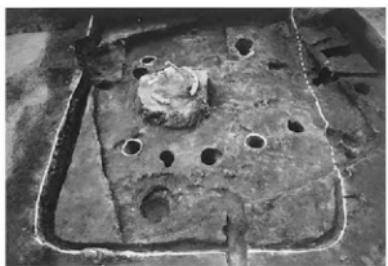
7区 W-3号溝跡全景（南西から）



7区c地点 調査区全景（北から）



7区 H-7号住居跡全景（北から）



7区 H-8号住居跡全景（東から）



7区 H-9号住居跡全景（東から）



7区 H-10号住居跡全景（北西から）



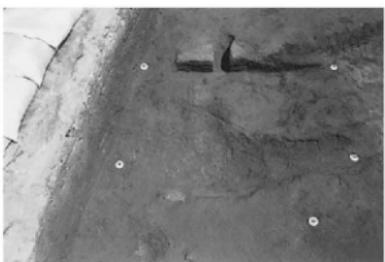
7区 H-10号住居跡貯藏穴遺物出土状態（北西から）



7区 H-11号住居跡全景（東から）



7区 H-12号住居跡全景（南東から）



7区 H-13号住居跡全景（南から）



7区 H-13号住居跡遺物出土状態（南から）



7区 H-14号住居跡全景（東から）



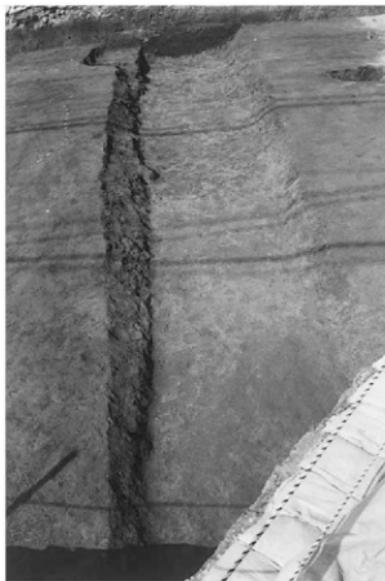
7区 H-15号住居跡全景（東から）



7区 O-1号落ち込み土層堆積状況（南から）



7区 d 地点 調査区全景（西から）



7区 A-1号道路状遺構(東半)全景（西から）



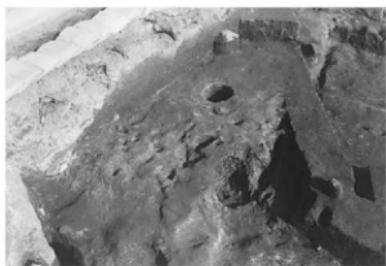
7区 H-16号住居跡全景（北から）



7区 A-1号道路状遺構硬化面（北東から）



7区 e 地点 調査区全景（西から）



7区 H-17号住居跡全景（西から）



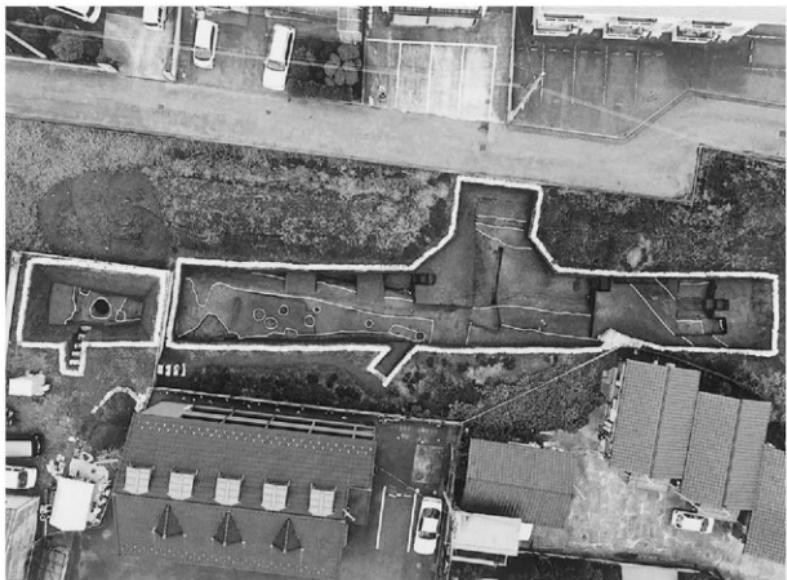
7区 H-19号住居跡全景（東から）



7区 H-19号住居跡南側遺物出土状態（南から）



7区 H-20号住居跡遺物出土状態（南西から）



8区 調査区全景（上が北）



8区 H-2号住居跡全景（西から）



8区 D-3号土坑馬骨出土状態（北から）



8区 D-3号土坑遺物出土状態（北から）



8区 D-3号土坑遺物出土状態中位部（北から）



8区 D-3号土坑遺物出土状態下層部（北から）



8区 T-1号埴構築材探掘坑全景（南から）



8区 T-2号埴構築材探掘坑全景（東から）



8区 T-3号埴構築材探掘坑出土遺物（東から）



8区 T-3号埴構築材探掘坑全景（東から）



8区 I-1号井戸跡全景（東から）



8区 W-1号溝跡馬骨出土状態(1)（東から）



8区 W-1号溝跡馬骨出土状態(2)（東から）



8区 W-1号溝跡全景（西から）



8区 W-2号溝跡全景（西から）



8区 W-1号溝跡石製品等出土状態（西から）



8区 W-3号溝跡全景（西から）



8区 W-4号溝跡等出土状態（西から）



8区 W-4号溝跡全景（北から）



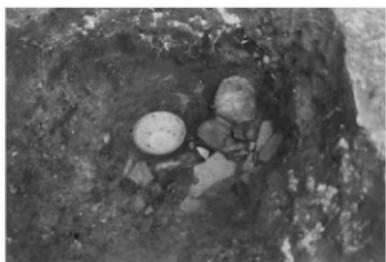
9区 調査区全景（南から）



9区 H-1号住居跡遺物出土状態（西から）



9区 H-1号住居跡全景（西から）



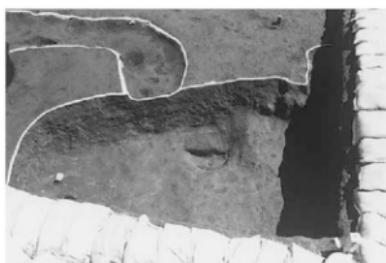
9区 H-2号住居跡遺物出土状態（西から）



9区 H-2号住居跡全景（西から）



9区 H-2号住居跡全貌（西から）



9区 H-3号住居跡全景（西から）



9区 H-3号住居跡甃瓦使用状態（西から）



9区 H-3号住居跡全貌（西から）



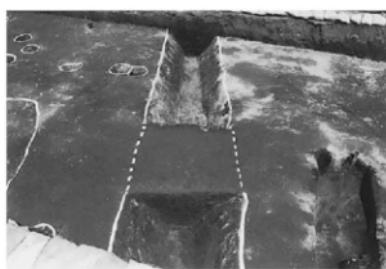
9区 H-4号住居跡全貌（南から）



9区 W-1号溝跡As-B堆積状況（南から）



9区 W-1号溝跡全貌（南から）



9区 W-2号溝跡全貌（南から）



9区 W-3号溝跡全貌（南から）



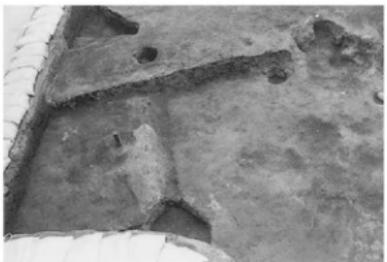
9区 T-1号竪穴状遺構全貌（西から）



9区 D-2号土坑遺物出土状態（南から）



10区 調査区全景（西から）



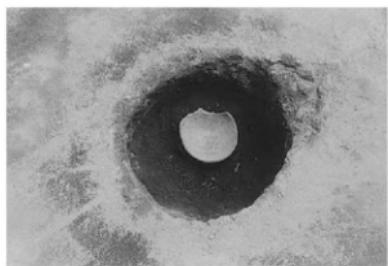
10区 H-1(左)、2(右)号住居跡全景（西から）



10区 H-2号住居跡遺物出土状態



10区 H-3号住居跡、W-2号溝全景（西から）



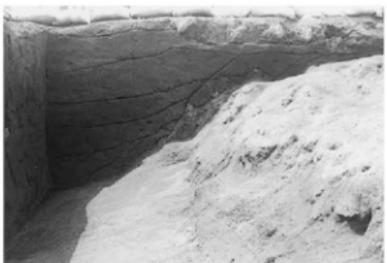
10区 P-2号ピット内遺物出土状態



10区 H-4号住居跡全景（北から）



10区 W-1号溝全景（南から）



10区 W-1号溝南壁土層堆積状況（北から）



II区 調査区全景（南から）



II区 H-1号住居跡遺物出土状態（西から）



II区 H-1号住居跡全景（西から）



II区 H-2号住居跡遺物出土状態（西から）



II区 H-2号住居跡全景（西から）



II区 D-2号土坑全景（西から）



II区 I-1号井戸跡遺物出土状態（北から）



II区 I-1号井戸跡遺物全景（南東から）



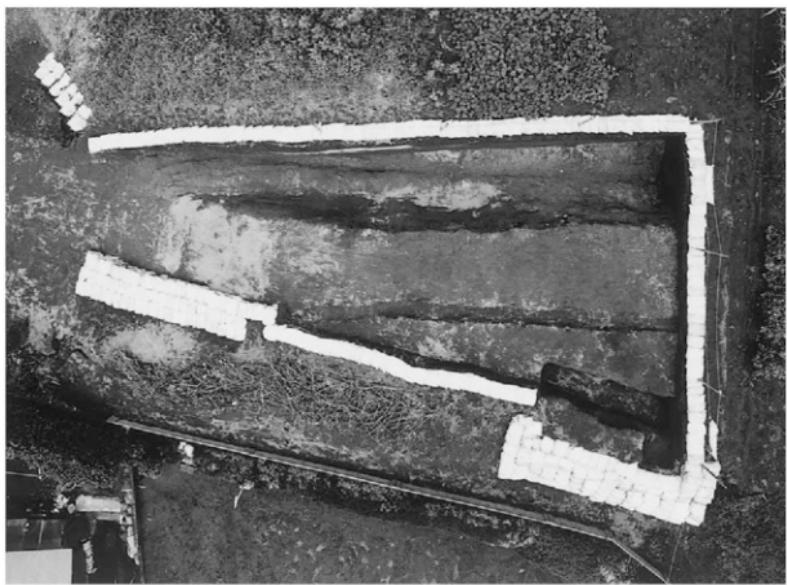
13区 調査区全景（北西から）



13区 H-1号住居跡土層堆積状況（南西から）



13区 W-1号満遺物出土状態（南西から）



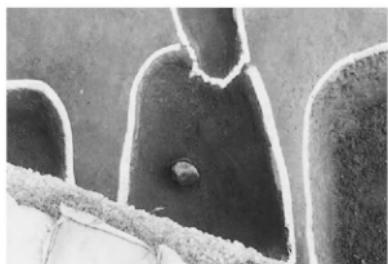
14区 調査区全景（上が北）



15区 H-1号住居跡遺物出土状態 (東から)



15区 H-1号住居跡全景 (西から)



15区 H-1号住居跡竈全景 (西から)



15区 H-2号住居跡全景 (南から)



15区 H-3号住居跡貯藏穴出土状態 (西から)



15区 H-3号住居跡全景 (西から)



15区 H-3号住居跡竈全景 (西から)



15区 H-4号住居跡全景 (西から)



15区北 調査区北半全景（右が北）



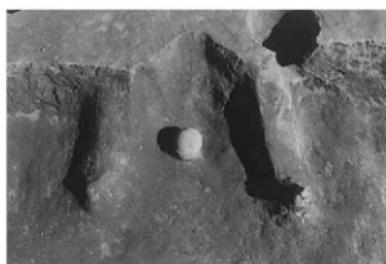
15区南 調査区南半全景（北から）



15区 H-4号住居跡遺物出土状態（西から）



15区 H-4号住居跡遺物セクション（南から）



15区 H-4号住居跡遺物全景（西から）



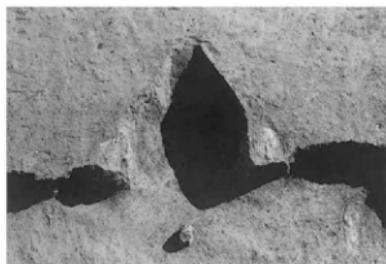
15区 H-5号住居跡全景（西から）



15区 H-5号住居跡全景（西から）



15区 H-6号住居跡全景（西から）



15区 H-6号住居跡全景（西から）



15区 H-7号住居跡全景（南から）



15区 H-8号住居跡全景（西から）



15区 H-8号住居跡遺物全景（東から）



15区 H-9号住居跡遺物出土状態（西から）



15区 H-9号住居跡遺物近景①（西から）



15区 H-9号住居跡遺物近景②（西から）



15区 H-9号住居跡全景（西から）



15区 H-10号住居跡全景（西から）



15区 H-11号住居跡全景（南から）



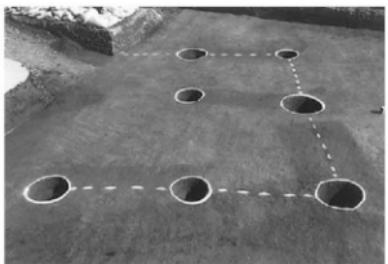
15区 H-12号住居跡竪穴（西から）



15区 H-14号住居跡全景（東から）



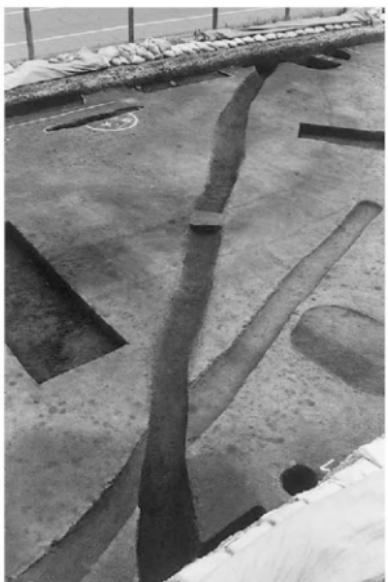
15区 T-1号竪穴状遺構全景（西から）



15区 B-1号掘立柱跡全景（西から）



15区 W-1号溝跡全景（東から）



15区 W-2号溝跡全景（西から）



15区 W-3号溝跡遺物出土状態（西から）



16区 調査区全景（東から）



16区 H-1号住居跡全景（東から）



16区 H-1号住居跡全景（北から）



16区 H-1号住居跡遺物出土状態



16区 水田跡遺物出土状態（西から）

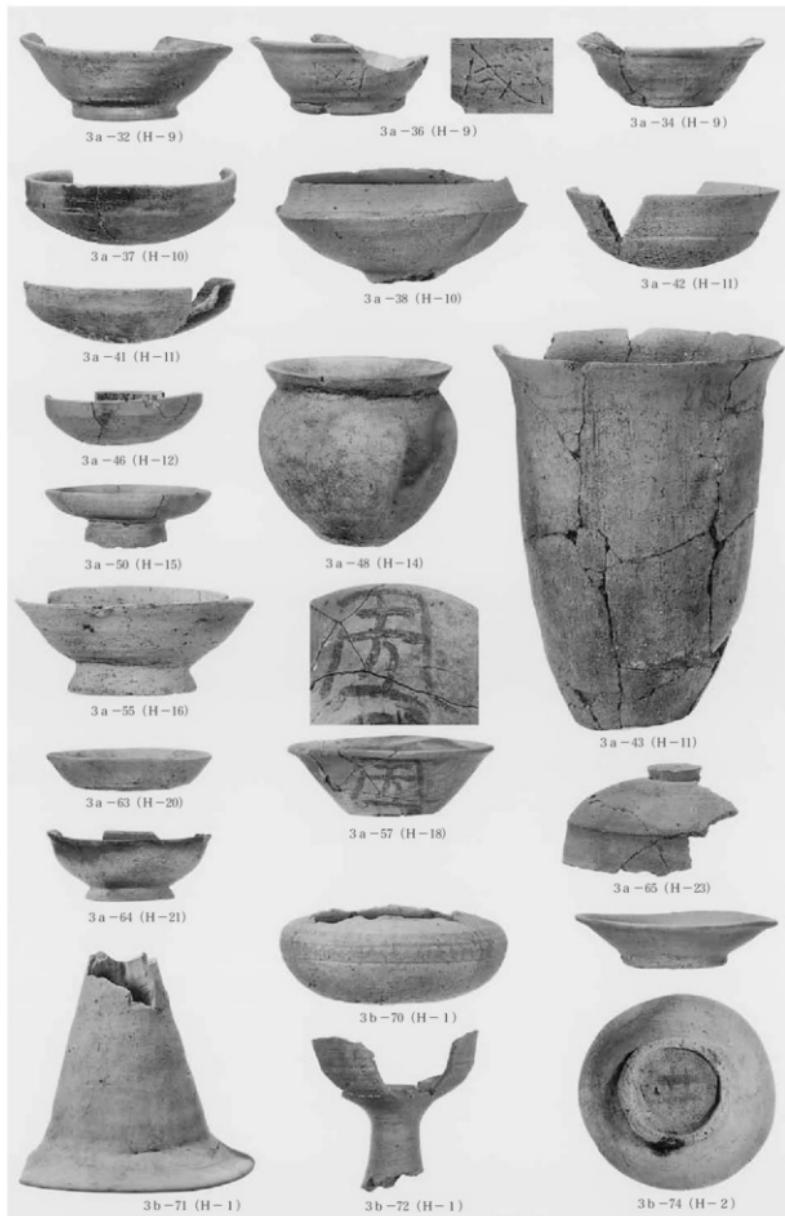


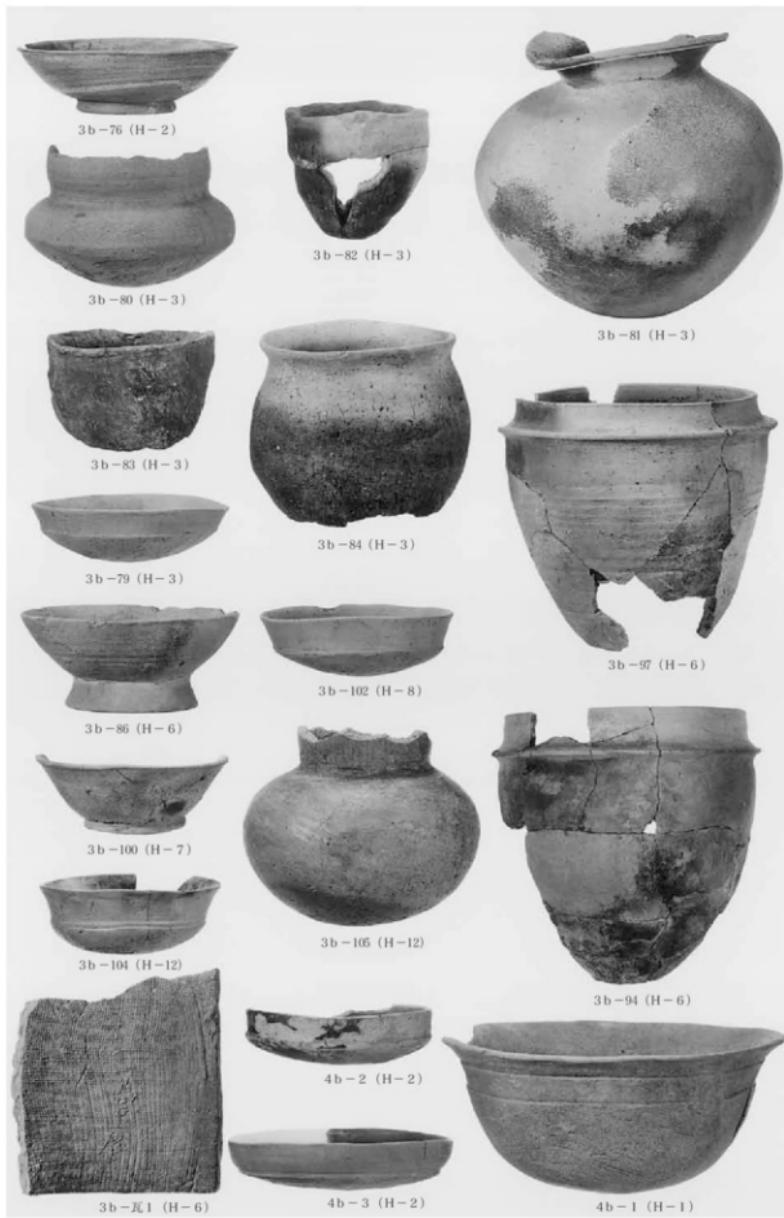
16区 H-1号住跡作業風景

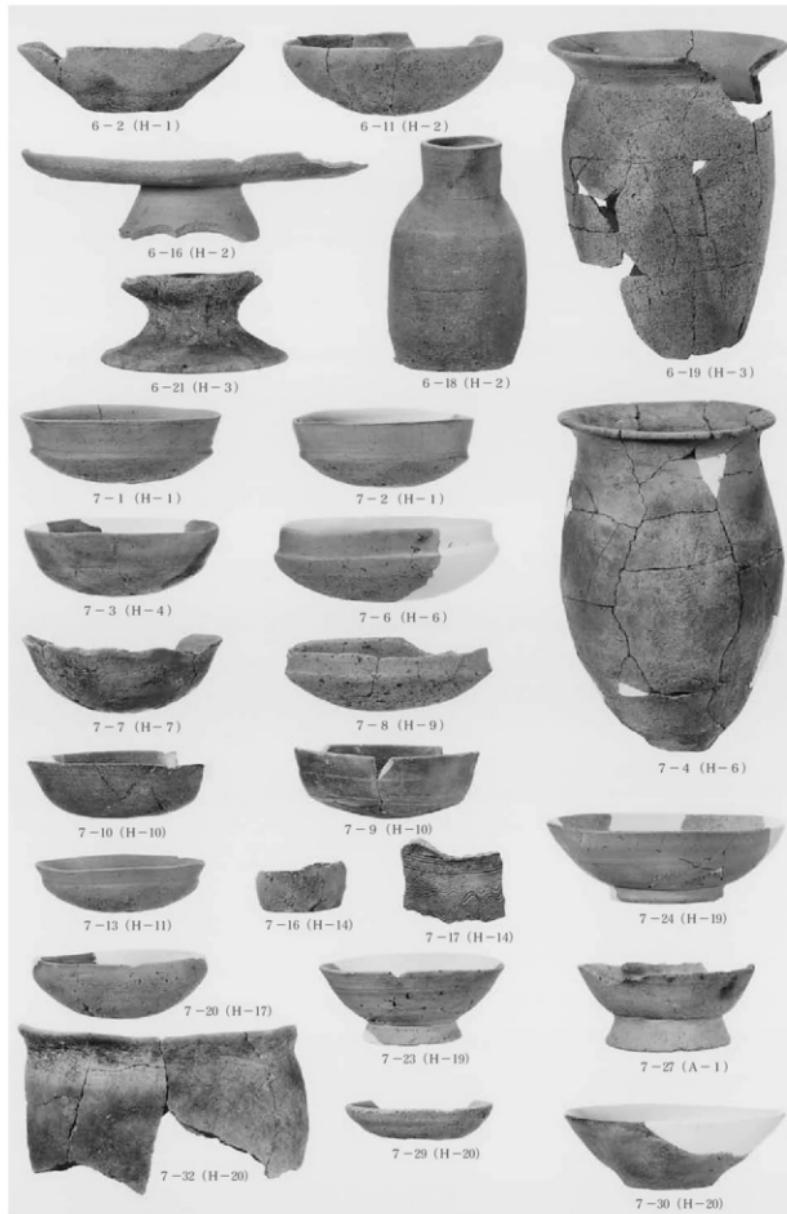


16区 H-1号住跡全景（東から）











8-10 (D-3)



7-28 (A-1)



8-22 (T-3)



8-11 (D-3)



8-13 (D-3)



8-615 (W-1)



8-瓦13 (表様)



9-3 (H-1)



9-9 (H-2)



9-17 (D-2)



9-18 (D-2)



9-15 (D-2)



9-14 (D-2)



9-瓦1 (H-3)



9-瓦1 (H-3)



9-瓦10 (H-3)



9-瓦2 (H-3)



9-瓦2 (H-3)



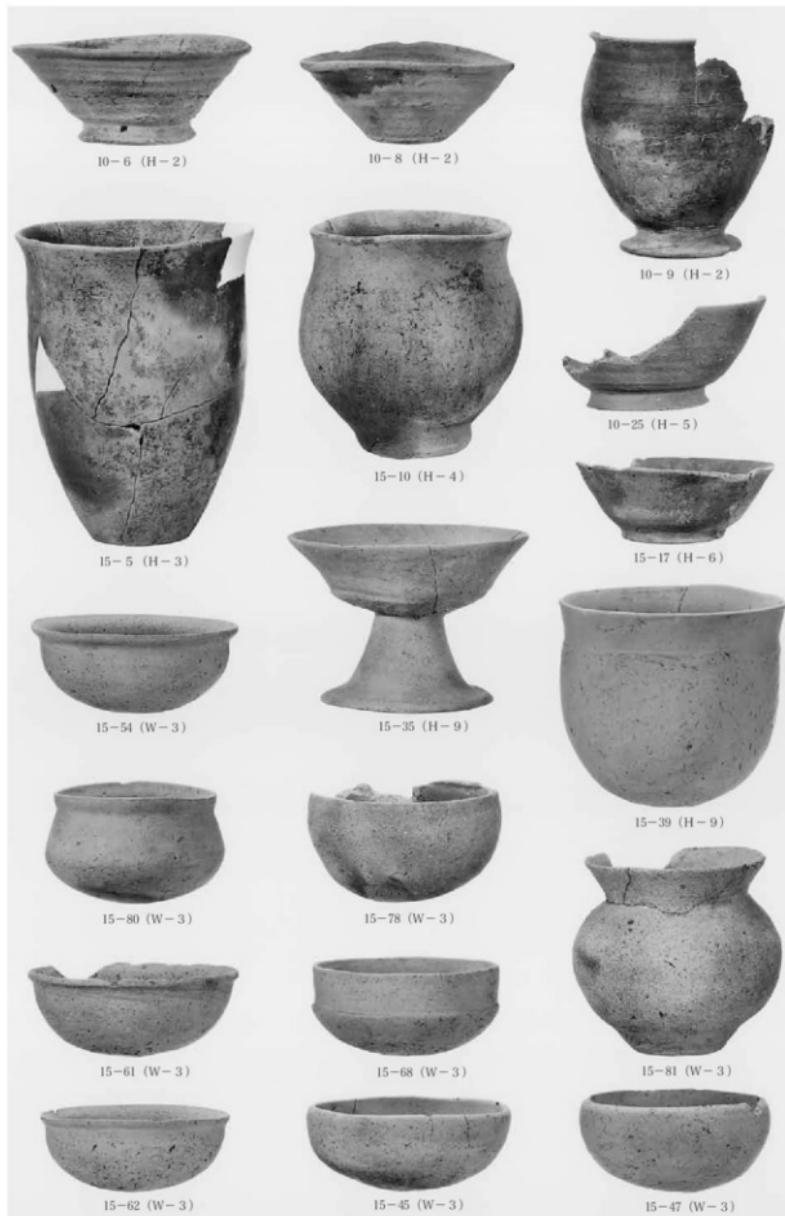
9-瓦9 (H-3)

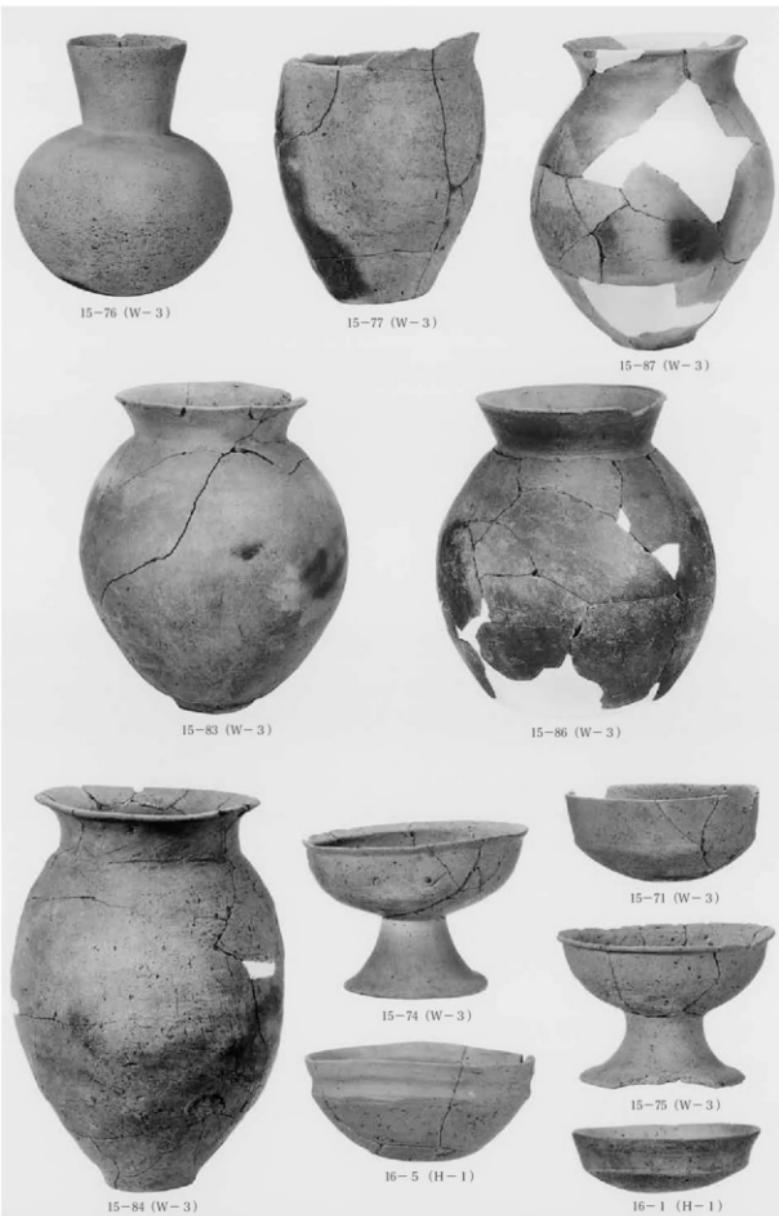


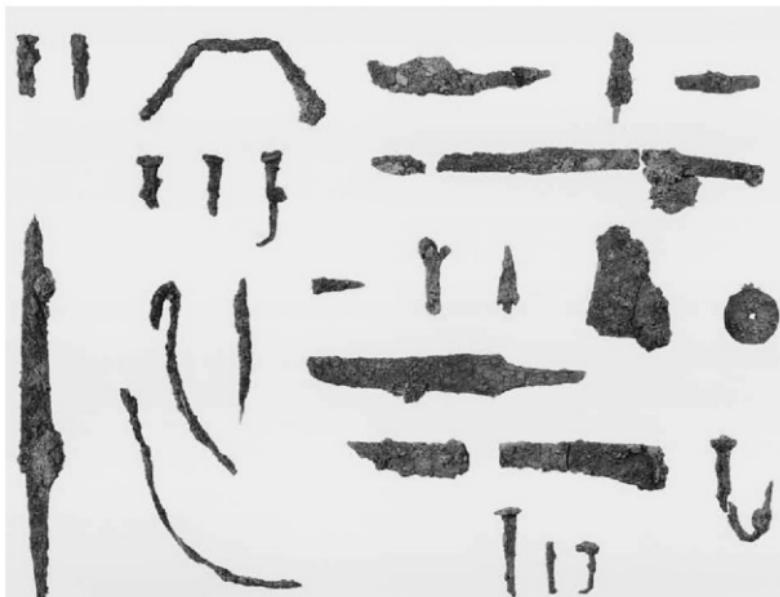
10-18 (H-3)



10-22 (H-4)



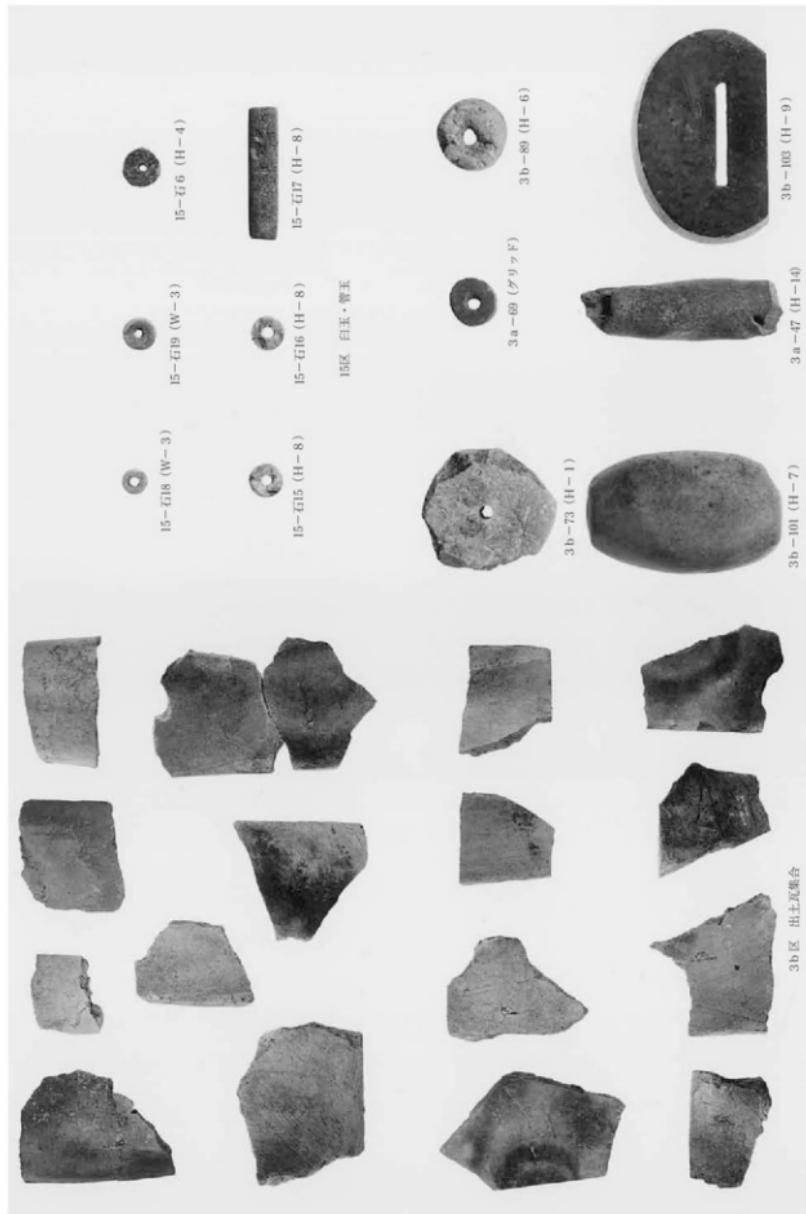




3b 区 出土鉄製品集合



8 区 D-3号土坑石集合



抄 錄

フ リ ガ ナ	モトソウジャオウミイセキグン (38)
書 名	元総社蒼海遺跡群 (38)
副 書 名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	細野泰宏・藤坂和延・瀧澤重雄・並木勝洋・阿久澤智和
編 集 機 関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発 行 年 月 日	西暦2012年3月30日

フ リ ガ ナ 所収遺跡名	フ リ ガ ナ 所 在 地	コ ー ド		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北 緯	東 緯			
元総社蒼海遺跡群 (38)	前橋市元総社町ほか	10201	23A 130-38	36°23'21" N	139°02'07" E	20110509 ～ 20111221	3,000m ²	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な造構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 (38)	集落跡	古墳～奈良・平安時代 中世	堅穴住居跡103軒 堅穴状造構5軒 土坑42基他 溝跡37条他	土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦 鉄製品、石製品	

元総社蒼海遺跡群 (38)

2012年3月12日 印刷

2012年3月19日 発行

発行・編集 前橋市教育委員会

前橋市三俣町二丁目10-2

印 刷 朝日印刷工業株式会社